五代中原Ⅲ遺跡
五代山街道Ⅰ遺跡
五代山街道Ⅱ遺跡

五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

五代中原Ⅲ遺跡全景（南から）

五代中原Ⅲ遺跡　H－１号住居跡出土遺物

五代山街道Ⅰ遺跡　縄文時代出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室４古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き、一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

前橋市の北東部、赤城山南麓に位置する五代町では、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査が平成12年度より実施されてきています。４年目にあたる今年度は、五代中原III遺跡・五代山街道Ｉ遺跡・五代山街道II遺跡の調査を実施し、縄文時代から古墳・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡など多くの遺構と遺物を検出し、貴重な資料を得ることができました。今回の調査結果が地域の歴史を解明するための一助となれば幸いです。

最後に、本発掘調査実施にあたりご理解とご協力を賜りました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成16年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団　長　阿　部　明　雄

例　　言

1．本報告書は、五代南部工業団地造成に伴う五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市五代町地内
発掘調査期間	平成15年5月19日～平成15年12月1日
整理・報告書作成期間	平成15年12月2日～平成16年3月25日
発掘・整理担当者	倉品敦子・髙橋亨・黒岩健一・小林和美（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は、倉品・髙橋・小林が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
青木昭二郎・阿部シゲ子・伊藤修道・井上和久・今井弘子・植木政俊・大澤敏子・大島きく江
神澤とし江・須田隆治・髙橋公代・多田啓子・長澤幸枝・中林美智子・中山昭・奈良啓子・橋本茂
原田要三・細野進太郎・堀込とよ江・弥郡啓吾・渡辺永造
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋、大胡、渋川、鼻毛石）を使用した。
3．遺跡の略称は、以下のとおりである。
五代中原Ⅲ遺跡……15C30
五代山街道Ⅰ遺跡……15C34
五代山街道Ⅱ遺跡……15C35
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の住居跡　　H…古墳・奈良・平安時代の住居跡　　B…掘立柱建物跡
W…溝跡　　D…土坑　　P…柱穴・貯蔵穴（H住居内P_5を貯蔵穴とした）
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　住居跡・掘立柱建物跡…1/60　土坑…1/60　溝跡…1/60　炉・竈断面図…1/30
遺物　土器…1/3・1/4　石器・石製品…2/3・1/3　紡錘車…2/3
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7　セクション注記の記号は締まり、粘性の順である。
◎…非常に締まりがある、非常に粘性がある
○…締まりがある、粘性がある
△…やや締まりがある、やや粘性がある
×…締まりがない、粘性がない
8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　炉・竈焼土…濃点　その他の焼土…薄い濃点
遺構断面図　構築面…斜線
9．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As―B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr―FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr―FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As―C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）
10．周辺遺跡概要一覧表については『五代伊勢宮Ⅴ遺跡　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002』に加筆した。

目　次

序

I　調査に至る経緯 …… 1

II　遺跡の位置と環境
　1　遺跡の立地 …… 1

　2　歴史的環境 …… 1

III　調査の経過
　1　調査方針 …… 5

　2　調査経過 …… 7

IV　基本層序 …… 9

V　五代中原III遺跡
　1　遺構と遺物 …… 11

　2　考察 …… 29

VI　五代山街道I遺跡・五代山街道II遺跡
　1　遺構と遺物 …… 85

　2　考察 …… 94

図　　版

口絵　五代中原Ⅲ遺跡調査区全景（南から）
五代中原Ⅲ遺跡Ｈ－１号住居跡出土遺物
五代山街道Ⅰ遺跡縄文時代出土遺物

【五代中原Ⅲ遺跡】

PL. 1　五代中原Ⅲ遺跡調査区全景
2　Ｈ－１・２号住居跡
3　Ｈ－２～５号住居跡
4　Ｈ－６～９・14号住居跡
5　Ｈ－10・12・13・15～17号住居跡
6　Ｈ－18～20・22～26号住居跡
7　Ｈ－27～31・39号住居跡
8　Ｈ－32～36号住居跡
9　Ｈ－35～38号住居跡
10　Ｈ－40～43号住居跡
11　Ｈ－44・45号住居跡、主な土坑
12　Ｈ－１号住居跡出土遺物
13　Ｈ－１・２号住居跡出土遺物
14　Ｈ－２～６号住居跡出土遺物
15　Ｈ－６～10号住居跡出土遺物
16　Ｈ－12・13・15・16号住居跡出土遺物
17　Ｈ－17～19・22～25号住居跡出土遺物
18　Ｈ－25～34・36・37号住居跡出土遺物
19　Ｈ－34・35・38・40～44号住居跡出土遺物
20　Ｈ－８・33・34・42・43号住居跡出土遺物

【五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡】

PL. 21　五代山街道Ⅰ遺跡調査区全景
22　Ｊ－１・２号・Ｈ－１号住居跡
23　Ｊ－２～５号住居跡
24　Ｊ－６～８号住居跡
25　Ｊ－９・Ｈ－１～３号住居跡、
Ｂ－１号掘立柱建物跡
26　主な土坑
27　五代山街道Ⅱ遺跡調査区全景・Ｄ－１～４号
土坑
28　Ｄ－５～11号土坑・Ｗ－１号溝跡
29　Ｊ－３～７号住居跡出土遺物
30　Ｊ－７・８・Ｈ－１～３号住居跡出土遺物
Ｄ－４・７・８号土坑出土遺物
31　五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡縄文土器
32　五代山街道Ⅰ遺跡出土遺物（石器）

挿　　図

Fig. 1　位置図
2　周辺遺跡図
3　グリッド設定図

【五代中原Ⅲ遺跡】

4　五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡住居跡時期別分布図
5　Ｈ－１号住居跡
6　Ｈ－１号住居跡遺物出土状態
7　Ｈ－２号住居跡
8　Ｈ－３号住居跡
9　Ｈ－４・５号住居跡
10　Ｈ－６・７号住居跡
11　Ｈ－６・７号住居跡
12　Ｈ－８・９号住居跡
13　Ｈ－８・９号住居跡
14　Ｈ－10・11号住居跡
15　Ｈ－10・11号住居跡
16　Ｈ－12・13号住居跡
17　Ｈ－12・13号住居跡
18　Ｈ－15～17号住居跡
19　Ｈ－15～17号住居跡
20　Ｈ－18～20号住居跡
21　Ｈ－18～21号住居跡
22　Ｈ－22・23号住居跡
23　Ｈ－22号住居跡
24　Ｈ－24号住居跡
25　Ｈ－27号住居跡

26　H—25・26号住居跡
27　H—25・26号住居跡
28　H—28号住居跡
29　H—29・39号住居跡
30　H—30・31号住居跡
31　H—32号住居跡
32　H—33号住居跡
33　H—34号住居跡
34　H—35～37号住居跡
35　H—35～37号住居跡
36　H—38号住居跡
37　H—40号住居跡
38　H—41・42号住居跡
39　H—41・42号住居跡
40　H—43号住居跡、D—15号土坑
41　H—44号住居跡
42　H—45号住居跡、D—1～3号土坑
43　D—4～14号土坑
44　H—1号住居跡出土遺物
45　H—1・2号住居跡出土遺物
46　H—3～5号住居跡出土遺物
47　H—5～7号住居跡出土遺物
48　H—8～10・12号住居跡出土遺物
49　H—12・13・15号住居跡出土遺物
50　H—16～19号住居跡出土遺物
51　H—22～25号住居跡出土遺物
52　H—26～36号住居跡出土遺物
53　H—37・38・40～43号住居跡出土遺物
54　H—43・44号住居跡出土遺物
55　H—8・33・34・42号住居跡出土遺物

【五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡】

56　J—1号住居跡
57　J—2号住居跡
58　J—3・4号住居跡
59　J—5号住居跡、D—4・5号土坑
60　J—6号住居跡
61　J—6号住居跡、
　山街道Ⅰ遺跡D—1～3・6～8号土坑
62　J—7・8号住居跡
63　J—9号住居跡
64　H—1・2号住居
65　H—3号住居跡、B—1号掘立柱建物跡
66　山街道Ⅱ遺跡W—1号溝跡
67　山街道Ⅱ遺跡D—1～11号土坑
68　J—1～4号住居跡出土遺物
69　J—5～7号住居跡出土遺物
70　J—7～9号住居跡、D—4～8号土坑出土遺物
71　H—1～3号住居跡出土遺物
72　J—1～3・5・6・8・9号住居跡、
　D—7・8号土坑、表採出土遺物
73　山街道Ⅱ遺跡D—5～9・11号土坑、
　グリッド出土遺物

表

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧
2　五代中原Ⅲ遺跡住居跡一覧表
3　五代中原Ⅲ遺跡土坑計測表
4　五代中原Ⅲ遺跡柱穴計測表
5　五代中原Ⅲ遺跡古墳時代出土遺物観察表
6　五代中原Ⅲ遺跡石製品観察表
7　五代中原Ⅲ遺跡土製品観察表
8　住居跡の時期と件数
9　五代山街道Ⅰ遺跡住居跡一覧表
10　五代山街道Ⅰ遺跡土坑計測表
11　五代山街道Ⅱ遺跡溝跡計測表
12　五代山街道Ⅱ遺跡土坑計測表
13　五代山街道Ⅰ遺跡縄文時代出土遺物観察表
14　五代山街道Ⅰ遺跡石器観察表
15　五代山街道Ⅰ遺跡平安時代出土遺物観察表
16　五代山街道Ⅰ遺跡石製品観察表
17　五代山街道Ⅱ遺跡縄文時代出土遺物観察表

付　　図

付図1　五代中原Ⅲ遺跡全体図（縮尺200分の1）
付図2　五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡全体図（縮尺200分の1）

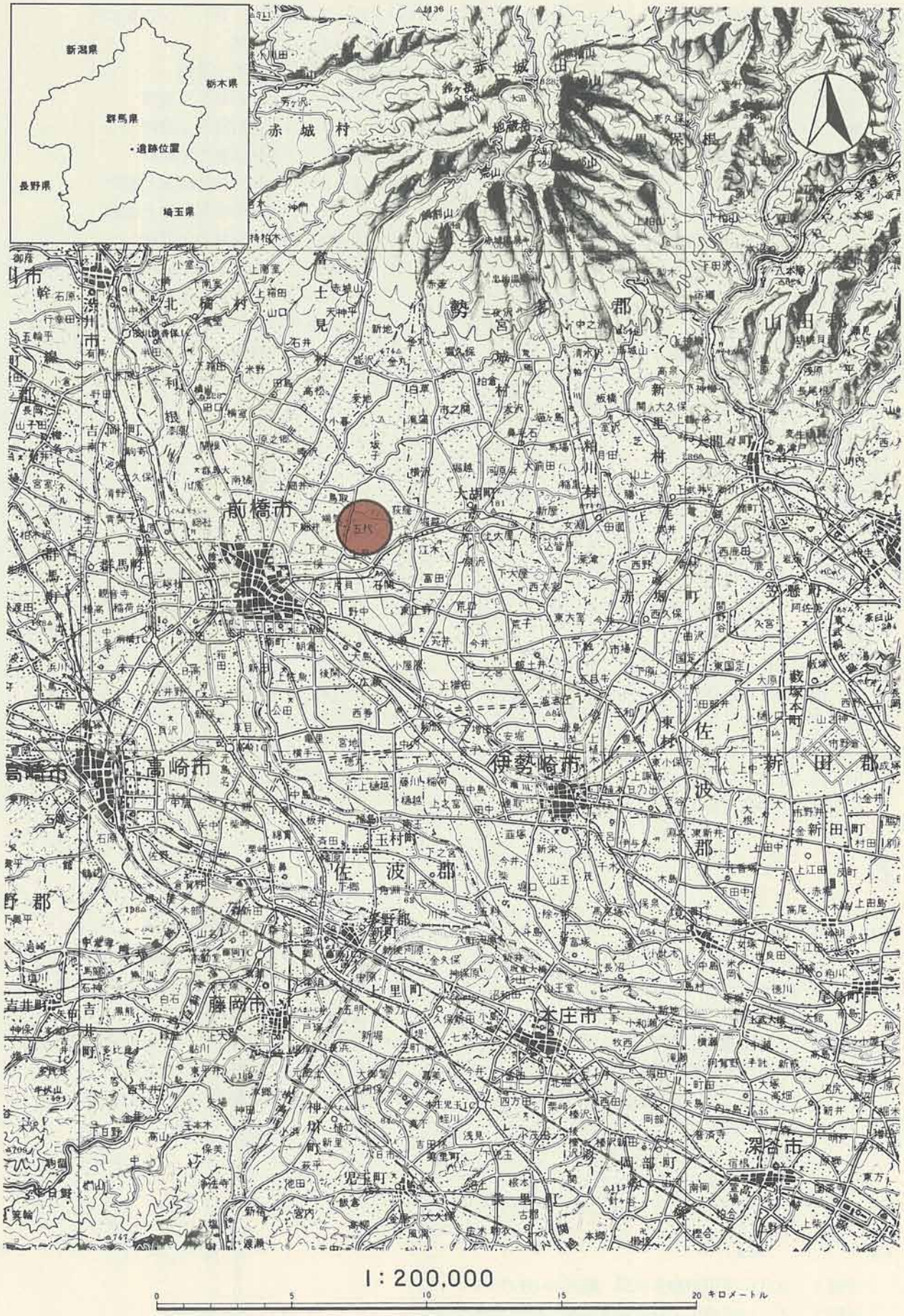

新潟県
栃木県
群馬県
・遺跡位置
長野県
埼玉県
前橋市
高崎市
伊勢崎市
藤岡市
本庄市
深谷市
赤城村
北橘村
富士見村
勢多郡
佐波郡
群馬郡
新田郡
大胡町
宮城村
粕川村
赤堀町
玉村町
五代
1：200,000
0
5
10
15
20 キロメートル

Fig. 1　位置図

I　調査に至る経緯

本発掘調査は、五代南部工業団地造成事業実施に伴い行われた。本調査地は、平成12年度の試掘調査結果により遺跡地であることが確認されている。今年度は、その発掘調査年次計画に基づいて行われた調査の４年目にあたる。

平成15年４月10日、前橋工業団地造成組合（管理者　萩　原　弥惣治）より、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部　明雄に対し調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。その後、調査団と調査依頼者（前橋工業団地造成組合）とで協議・調整を図り、４月30日に両者の間で五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡に関する埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。現地での発掘調査は５月19日から開始した。また、８月21日に変更契約を締結し、五代山街道Ⅱ遺跡の発掘調査も追加して行うこととなった。

なお、遺跡名称「五代中原Ⅲ遺跡」（遺跡コード：15Ｃ30）の「中原」並びに「五代山街道Ⅰ遺跡」（遺跡コード：15Ｃ34）、「五代山街道Ⅱ遺跡」（遺跡コード：15Ｃ35）の「山街道」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字は、当調査団で過去に調査した遺跡と区別するため付したものである。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、地質・地形から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の４つの地域に分けられる。五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡は前橋市役所から北東の方向約５kmの赤城火山斜面にある五代町地内の五代南部工業団地造成予定地にある。五代町は、昭和29年に前橋市に吸収合併された。それまでは、昭和22年に周囲の６ヶ村と赤城山入会地と合併し、芳賀村となり勢多郡芳賀村字五代であった。旧芳賀村の地域は現在も「芳賀地区」と呼称されている。一緒に吸収合併された五代町の北に隣接する鳥取町は、前橋市の芳賀地区団地造成計画により、昭和45年から住宅・工業団地の開発が進められ、住宅や工場が多数建ち並んでいる。しかし、五代町は一部がこの造成計画によって開発されたが、町の大部分に田畑が残っており、酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差があり、高いところは宅地、畑、牧草地であり、低いところは田圃になっている。

2　歴史的環境

五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、旧石器時代後期から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、埋蔵文化財の宝庫として知られている。本遺跡が所在する前橋市の北部「芳賀地区」は、先にも述べた芳賀地区団地造成計画に伴う大規模な発掘調査の他、数多くの発掘調査によってその歴史が明らかにされてきている。

本遺跡のすぐ北に位置する芳賀東部団地遺跡（調査面積約33ha）は、縄文時代から古墳時代、奈良・平安時代まで続く集落跡である。縄文前期の竪穴住居跡60軒、中期末葉と後期前半の敷石住居跡６軒が検出された。また、古墳４基、鍛冶関連遺構５基が検出された。そして、奈良・平安時代の竪穴住居跡約500軒、掘立柱建物跡206軒

橋
市
時沢
時中
時東
小坂子町
勝沢町
高花台
鳥取町
小坂
上泉町
荻窪町
小神明
上沖町
五代町
藤沢川
桃ノ木川
下沖町
上毛電鉄
西片貝町一丁目
西片貝町五丁目
東片貝町
西片貝町三丁目
西片貝町四丁目
石関町
総合市場
寺沢川
亀泉
亀泉町
堤町
東上野町
1:25,000
500m
0
500
1000
1500

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
1	五代中原Ⅲ遺跡	平成15	本遺跡
2	五代山街道Ⅰ遺跡	平成15	本遺跡
3	五代山街道Ⅱ遺跡	平成15	本遺跡
4	芳賀北部団地遺跡	昭和48・49	縄　文：竪穴住居跡34（うち敷石住居4）、配石遺構17
			奈良・平安：竪穴住居跡237、堀立柱建物跡8、製鉄遺構3、溝28、井戸5、ピット20
5	芳賀西部団地遺跡	昭和50	縄　文：竪穴住居跡7、ピット6、配石遺構3
			古　墳：古墳32、埴輪棺1他
6	芳賀東部団地遺跡	昭和51～55	縄　文：竪穴住居跡60（うち敷石住居6）、ピット140、配石遺構4
			古　墳：竪穴住居跡75、古墳4
			奈良・平安：竪穴住居跡411、堀立柱建物跡約206、鍛冶・精錬址5、その他635
7	檜峯遺跡	昭和56	古　墳：竪穴住居跡11
			奈良・平安：竪穴住居跡65
8	小神明遺跡群Ⅰ	昭和57	縄　文：竪穴住居跡7、ピット4、その他1
			奈良・平安：竪穴住居跡3
9	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	昭和57・58	縄　文：竪穴住居跡2、ピット1
			弥　生：方形周溝墓2、ピット1、溝状遺構1
			古　墳：竪穴住居跡16
10	小神明遺跡群Ⅱ 西田遺跡	昭和58	縄　文：竪穴住居跡3
			古　墳：竪穴住居跡4、円墳4、帆立貝式古墳1
11	倉本遺跡	昭和58	弥　生：竪穴住居跡2
12	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	昭和58	古　墳：竪穴住居跡2
13	小神明遺跡群Ⅱ 九料遺跡	昭和58・60	縄　文：敷石住居跡3
			古　墳：竪穴住居跡40、堀立柱建物跡1
			奈良・平安：竪穴住居跡2
14	芳賀北曲輪遺跡	平成2	縄　文：竪穴住居跡23（うち敷石住居4）、配石遺構1
			古　墳：古墳6
15	芳賀北原遺跡	平成3	古　墳：竪穴住居跡3
			奈良・平安：竪穴住居跡6
16	五代檜峯遺跡	平成9	古　墳：竪穴住居跡2
17	鳥取東原遺跡	平成9	古　墳：竪穴住居跡1
			近　世：埋葬施設1
18	鳥取福蔵寺遺跡	平成9	縄　文：竪穴住居跡2、落ち込み2
			古墳～平安：竪穴住居跡41（製鉄遺構1）、土坑83、堀立柱建物跡1、井戸跡2
19	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	平成10	旧石器：細石刃文化石器群
			縄　文：竪穴住居跡6、
			古　墳：竪穴住居跡12、
			奈良・平安：竪穴住居跡29、堀立柱遺構9、　鍛冶工房跡1、
20	五代江戸屋敷遺跡	平成12	縄　文：土坑1
			古　墳：竪穴住居跡44、方形周溝墓2、周溝状遺構1、
			奈良・平安：竪穴住居跡12、堀立柱建物跡1、ピット87、井戸跡1
			中　世：地下式土坑2、溝1
21	五代竹花遺跡	平成12	縄　文：竪穴住居跡2
			古　墳：竪穴住居跡7、土坑1
			奈良・平安：竪穴住居跡9、土坑3、ピット254
			近世・現代：溝2

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
22	五代木福Ⅰ遺跡	平成12	縄　文：竪穴住居跡1、ピット6、配石遺構3
			古　墳：竪穴住居跡31、土坑8
			奈良・平安：堀立柱建物跡23、土坑2、ピット220
			中世・近世：土坑11、溝8
23	五代木福Ⅱ遺跡	平成12	縄　文：配石1
			古　墳：竪穴住居跡64
			奈良・平安：竪穴住居跡111、堀立柱建物跡16
			中　世：溝2、地下式土坑2、井戸6
			近世以降：溝6
24	五代深堀Ⅰ遺跡	平成12	縄　文：竪穴住居跡1
			奈良・平安：竪穴住居跡2、ピット29、堀立柱建物跡3（奈良～中世）
25	五代伊勢宮Ⅰ遺跡	平成12	古　墳：竪穴住居跡2
			奈良・平安：竪穴住居跡4、ピット1
			中世・近世：土坑1、溝1
26	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	平成13	縄　文：竪穴住居跡7
			古　墳：竪穴住居跡12、竪穴状遺構2
			奈良・平安：竪穴住居跡5、掘立柱建物跡3
			近　世：溝跡3
27	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	平成13	縄　文：土坑1
			奈良・平安：竪穴住居跡3
			中世・近世：土坑66、溝3、井戸3、地下式土坑5
28	五代深堀Ⅱ遺跡	平成13	縄　文：竪穴住居跡1、土坑2
			古　墳：竪穴住居跡2
			奈良・平安：竪穴住居跡7
29	五代中原Ⅰ遺跡	平成13	縄文(前期)：竪穴住居跡3
			古　墳：竪穴住居跡5
			奈良・平安：竪穴住居跡19、溝1
			中世・近世：土坑5
30	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	平成13	縄文(中期)：竪穴住居跡3、土坑194
			奈良・平安：竪穴住居跡1
31	荻窪鰯塚遺跡	平成13	奈良・平安：竪穴住居跡10、掘立柱建物跡10
32	荻窪東爪遺跡	平成13	縄文(前期)：竪穴住居跡2
33	荻窪倉兼遺跡	平成13	奈良・平安：竪穴住居跡29、掘立柱建物跡12
34	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	平成14	縄　文：竪穴住居跡12
			古　墳：竪穴住居跡20、小石槨1
			奈良・平安：竪穴住居跡32、掘立柱建物跡6、溝跡2
			中世・近世：竪穴状遺構5、溝跡4
35	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	平成14	縄　文：竪穴住居跡26、土坑753
			古　墳：竪穴住居跡13奈良・平安：竪穴住居跡9、鍛冶工房跡1
36	五代中原Ⅱ遺跡	平成14	縄　文：竪穴住居跡4
			古　墳：竪穴住居跡28
37	荻窪倉兼Ⅱ遺跡	平成14	奈良・平安：竪穴住居跡36、掘立柱建物跡10、溝跡4

◎その他の周辺の遺跡

38　新田塚古墳　　39　檜峯古墳　　40　大日塚古墳　　41　桂正田稲塚古墳
42　東公田古墳　　43　オブ塚古墳　　44　オブ塚西古墳

が検出された。

本遺跡の西に位置する芳賀西部団地遺跡（調査面積約2.5ha）は、縄文時代前期の竪穴住居跡、埴輪棺等の他、古墳綜覧記載漏れの古墳32基が集中して検出され、初期群集墳であることが分かった。また、小神明遺跡群IIの西田遺跡からは円墳４基、帆立貝式古墳１基が検出された。昭和10年、県下一斉に行われた古墳調査において芳賀地区には64基の古墳があるとされ、赤城南麓では旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村についで古墳の多いところとされてきた。しかし、古墳綜覧記載漏れの古墳を併せると、芳賀地区には実に100基もの古墳が集中して存在したことになる。

芳賀北部団地遺跡(調査面積約約6.1ha)は縄文時代前期、後期の竪穴住居跡、中期の敷石住居跡が検出された。また、奈良・平安時代では竪穴住居跡237軒が検出され、中世では勝沢城址の一部が検出された。

鳥取福蔵寺遺跡では、縄文前期の住居跡が２軒、奈良・平安時代の住居跡が39軒・精錬鍛冶炉遺構が１基、中世の竪穴状遺構１基などが検出された。

鳥取福蔵寺II遺跡では、特筆すべきこととして約13,000年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中より旧石器が検出された。細石刃文化石器群と認められるだけでも350点検出された。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、掻器、礫器など多岐に及んだ。縄文時代前・中・後期の竪穴住居跡６軒、古墳時代の竪穴住居跡12軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡29軒・掘立柱遺構９基・鍛冶工房跡１基が検出された。

檜峯遺跡からは、奈良・平安時代の竪穴住居跡65軒とともに、奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。

現在、調査が進行中の五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査では、標高115mから130m付近で縄文時代前・中期の住居跡や土坑、古墳時代中期から奈良・平安時代の住居跡が検出されている。また、標高135m付近で多数の縄文時代中期の土坑が検出された。北西部では古墳時代前期の住居跡も検出されている。

このように芳賀地区の主な遺跡を見てくると、旧石器時代の終わりから縄文、古墳、奈良・平安時代、中近世と、古くから絶えることなく人々が生活をしてきたことが窺える。

III　調査の経過

1　調査方針

委託調査箇所は、五代南部工業団地造成が計画されている地域（約427,600m²）のうち、平成12年度試掘調査の結果、本調査が必要とされた地域（約137,500m²）である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ０、Ｘ１、Ｘ２…と、北から南へＹ０、Ｙ１、Ｙ２…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。五代中原III遺跡は、本調査が必要とされた地域のうち約2,462m²、五代山街道Ｉ遺跡は約5,195.3m²、五代山街道II遺跡は1,000m²である。

各遺跡の公共座標は次のとおりである。

【五代中原III遺跡】（Ｘ84・Ｙ52）

＋45992.000（Ｘ）		－64364.000（Ｙ）	［新座標］
＋45640.941（Ｘ）		－64082.888（Ｙ）	［旧座標］
緯度	36°24′44″．6742	経度	139°06′56″．0491
子午線収差角	25′33″．868	増大率	0.999951

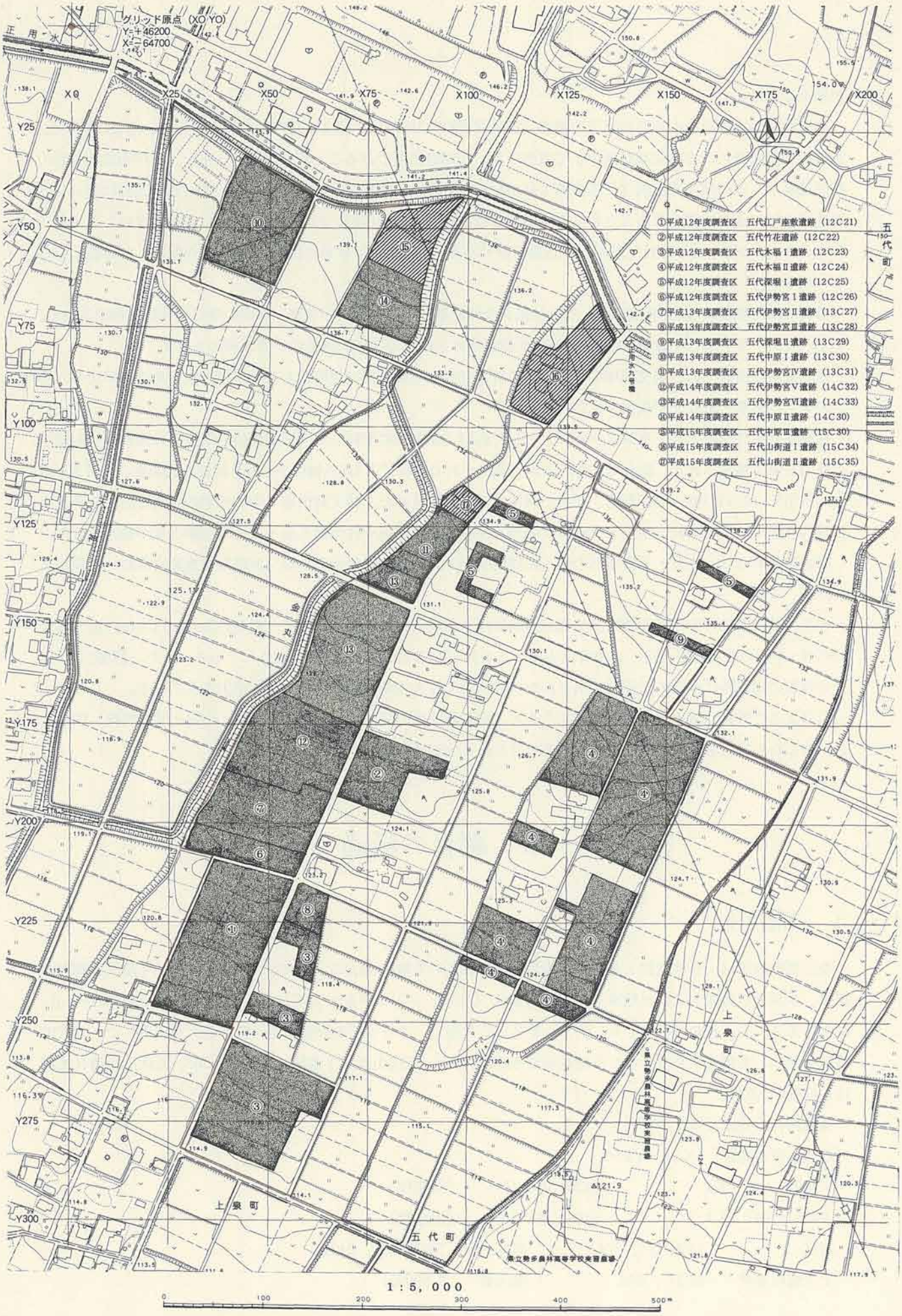


Fig. 3　グリッド設定図

【五代山街道Ⅰ遺跡】（X120・Y88）

＋45848.000（X）		－64220.000（Y）［新座標］	
＋45496.930（X）		－63938.884（Y）［旧座標］	
緯度	36°24′40″．0366	経度	139°07′01″．8726
子午線収差角	25′30″．365	増大率	0.999951

【五代山街道Ⅱ遺跡】（X100・Y118）

＋45782.000（X）		－64300.000（Y）［新座標］	
＋45430.927（X）		－64018.883（Y）［旧座標］	
緯度	36°24′37″．8354	経度	139°06′51″．9371
子午線収差角	25′36″．2	増大率	0.999951

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本調査は、遺跡が複数あることと、民家移転の関係等で調査区を分割したこともあり、遺跡間の調整を図り一部調査を並行するなどして進めた。5月19日から試掘調査を行い、今年度の発掘調査範囲を確定した。

発掘調査は、五代山街道Ⅰ遺跡から着手することとしたが、五代山街道Ⅰ遺跡には、5月の時点で調査区内に民家が建っていた。そのため、民家移転の時期や残土置き場等を考慮し、調査区を南北に2分し、北半分から発掘調査を進めることとした。

五代山街道Ⅰ遺跡調査区北半分は5月26日から発掘調査を開始した。重機(バックフォー0.7m³、バックフォー0.4m³)各1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に3日かかり、それと並行して鋤簾による遺構確認を行った。表土下約30cmからローム面が検出された。28・29日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。この調査区の南西部分には、竹林の根が残り遺構の確認が困難であった。6月19日には前橋市立桂萱中学校の2年生2名が職場体験学習に訪れ、発掘調査の話や出土遺物の説明を受けた後、遺構の掘り下げや土器の注記作業などを体験して、遺物発見の喜びや発掘の苦労を感じて帰校した。遺構精査の結果、調査区北半分では竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1軒、土坑5基が検出された。7月3日に高所作業車による全体写真撮影を行った。埋め戻しは調査区南半分の表土掘削と並行して行った。

五代山街道Ⅰ遺跡調査区北半分の調査終了の見通しがたったので、6月18日から五代中原Ⅲ遺跡の発掘調査を開始した。重機（バックフォー0.4m³）2台と4ｔダンプ1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に5日間かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。表土下約40cmからローム面が検出された。26日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。住居はすべて竈を伴わなず、重複するものも多かった。調査区東壁付近は、遺構の確認が困難であったため、壁に沿ってサブトレンチを入れ、確認・掘り下げを行った。また、過年度の調査で隣接する五代中原Ⅱ遺跡から縄文時代の住居も検出されていたため、縄文時代の遺構を探るサブトレンチも何カ所かに設定したが、縄文時代の明確な遺構は検出されなかった。遺構精査の結果、竪穴住居跡45軒、土坑55基、柱穴57基が検出された。

五代中原III遺跡の調査が順調に進む中、並行して五代山街道II遺跡と五代山街道Ⅰ遺跡南半分の調査を開始した。

五代山街道II遺跡は５月に行った試掘調査で本調査を行うことが決まり、契約変更で追加した調査区である。８月25日から重機（バックフォー0.7㎥）１台を使い１日半かけて表土掘削を行った。それと並行して鋤簾による遺構確認を行ったところ、表土下約30㎝からローム面が検出された。この調査区では、近年まで建っていた建物に伴うと思われる攪乱が随所に見られ、遺構の確認が困難であった。遺構精査の結果、土坑11基、溝１条が検出された。

五代山街道Ⅰ遺跡調査区南半分は、民家移転後試掘調査を行って面積を確定した後、８月26日から発掘調査を開始した。表土掘削は、五代山街道II遺跡の表土掘削に続けて、重機（バックフォー0.7㎥）１台を使って開始したが、調査区の南西部分が予想より遺構面まで深く土量も増えたため、重機（バックフォー0.4㎥）１台と10ｔクローラー１台を追加し、９日かけて行った。それと並行して鋤簾による遺構確認を行った。ローム面までの深さは、調査区北半分と連続するあたりでは30㎝程度だが、南西部は昭和期の排水溝埋設工事により盛土がなされており、遺構面まで１ｍを越える深さとなった。五代山街道II遺跡の精査終了後、五代山街道Ⅰ遺跡調査区南半分の掘下・精査に着手した。民家が建っていた付近では、民家に伴うと思われる攪乱が多く、明確な遺構は確認できなかった。遺構精査の結果、調査区南半分では竪穴住居跡軒４軒、土坑３基が検出され、五代山街道Ⅰ遺跡全体では竪穴住居跡９軒、掘立柱建物跡１軒、土坑８基の検出となった。

11月13日に、高所作業車を使い、五代中原III遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡調査区南半分・五代山街道II遺跡の全体写真撮影を行った。その後、重機（バックフォー0.4㎥）１台、10ｔダンプ２台、重機（ブルドーザー：BD ２）１台で、五代中原III遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡調査区南半分・五代山街道II遺跡の埋め戻しを８日間かけて行った。

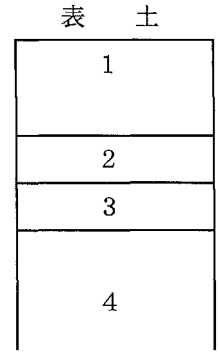
今年の夏は天候不順で雨の日も多く、作業の進捗に多少影響が見られたが、反面気温が低めで作業を行い易かった。変更契約により調査面積が増加したため、９月には作業員を補充して調査を行った。台風等の影響も少なく、11月19日にはすべての遺跡の発掘調査が終了した。20日から現場事務所で土器洗浄や図面整理等を行い、並行して26日・27日に、来年度調査予定地の試掘調査を行った。12月１日をもって現地での調査は終了となった。12月２日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。３月19日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

Ⅳ 基 本 層 序

各遺跡地内の地層の堆積は、下のとおりである。

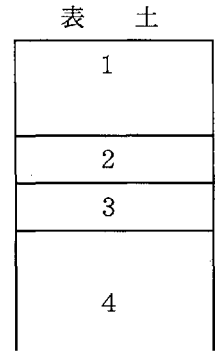
【五代中原Ⅲ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性×　現耕作土 厚さ30cm前後
2	暗褐色細砂層	(10YR3/3)	締まり○　粘性○　Hr-FP 軽石・ As-C軽石含む　厚さ15cm前後
3	にぶい黄褐色細砂層	(10YR5/4)	締まり○　粘性○　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ10cm前後
4	明黄褐色細砂層	(10YR6/6)	締まり○　粘性○　ローム層



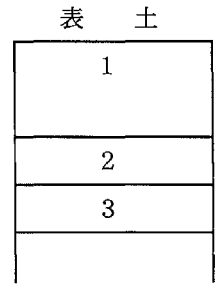
【五代山街道Ⅰ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性×　現耕作土 厚さ35cm前後
2	褐色細砂層	(10YR4/6)	締まり○　粘性○　Hr-FP 軽石・ As-C軽石含む　厚さ15cm前後
3	にぶい黄褐色微砂層	(10YR5/4)	締まり○　粘性○　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ10cm前後
4	明黄褐色細砂層	(10YR6/8)	締まり△　粘性○　ローム層



【五代山街道Ⅱ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性×　現耕作土 厚さ25cm前後
2	にぶい黄褐色微砂層	(10YR5/4)	締まり○　粘性○　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ10cm前後
3	明黄褐色微砂層	(10YR6/6)	締まり△　粘性○　ローム層



五代中原III遺跡

V　五代中原Ⅲ遺跡

1　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.5・6、PL.2）

位置　X81・82、Y46・47グリッド　**主軸方向**　N－20°－E　**形状等**　正方形。東西4.90m、南北4.50m、壁現高30cmを測る。貯蔵穴の他に大型の土坑が西壁寄りに2基検出された。　**面積**　19.65m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。周溝有。床面や壁際から炭化物や焼土が検出された。　**炉**　中央やや北寄りに検出され、主軸方向N－5°－Eであり、長径100cm、短径48cm、深さ10cmを測る。焼土範囲が南北に縦長になっており、火を焚く場所を移動して使用したか。石が抜けた痕跡と思われる窪みが見られる。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。　**出土遺物**　総数880点。そのうち小型土器(ミニチュア土器)1点、小型器台3点、高坏1点、鉢2点、蓋1点、甑1点、小型壺1点、壺1点、小型甕1点、甕2点、台付甕3点を図示した。

H－2号住居跡（Fig.7、PL.2・3）

位置　X83～85、Y45～47グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　**形状等**　正方形。東西6.10m、南北6.92m、壁現高27cmを測る。住居の南の一部分が後世の穴に切られている。　**面積**　[36.36] m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　明確な焼土等は検出されなかった。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数257点。そのうち、鉢1点、壺1点、小型甕1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig.8、PL.3）

位置　X84～86、Y47・48グリッド　**主軸方向**　N－18°－E　**形状等**　正方形。東西5.82m、南北5.10m、壁現高64cmを測る。　**面積**　28.51m²　**床面**　平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。　**炉**　中央東寄りより検出され、主軸方向がN－71°－Wであり、長径112cm、短径50cm、深さ8.5cmを測る。扁平な石を伴う。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数698点。そのうち、小型器台2点、鉢1点、小型壺1点、壺1点、甕2点、台付甕2点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.9、PL.3）

位置　X85・86、Y45・46グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西 [3.13] m、南北3.76m、壁現高17cmを測る。　**面積**　[10.36]m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　南西寄りより検出され、主軸方位N－3°－Eであり、長径55cm、短径38cm、深さ1.5cmを測る。　**重複**　H－5と重複しており、新旧関係は本遺構→H－5の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数156点。そのうち、壺1点、甕1点、台付甕？1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.9、PL.3）

位置　X85・86、Y45・46グリッド　**主軸方向**　N－13°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西 [4.90] m、南北 [4.72] m、壁現高14cmを測る。　**面積**　[20.17] m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　一部に焼土が見られたが、明確に炉と判定できるのものは検出されなかった。。　**重複**　H－4と重複しており、新旧関係はH－4

→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数129点。そのうち、鉢1点、蓋1点、甕1点、台付甕？1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.10・11、PL.4）

位置 X87～89、Y46～48グリッド **主軸方向** N－10°－E **形状等** 正方形と推定される。東西［6.92］m、南北7.30m、壁現高12cmを測る。 **面積** ［47.34］m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。住居北西側にベッド状遺構と思われる高まりが検出された。 **炉** 中央やや北寄りと南西寄りの2箇所から検出された。北寄りのものは主軸方向が［N－16°－E］で、長径［194］cm、短径［85］cm、南西寄りのものは主軸方向が［N－63°－W］で長径［95］cm、短径［74］cmを測る。双方ともあまり窪まず、広範囲によく焼けている。双方とも攪乱に切られている。 **重複** H－7・H－14と重複しており、新旧関係はH－14→本遺構→H－7の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数567点。そのうち、高坏1点、鉢1点、甕2点、台付甕？1点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.10・11、PL.4）

位置 X88・89、Y45・46グリッド **主軸方向** N－33°－E **形状等** 長方形。東西4.36m、南北3.70m、壁現高23cmを測る。 **面積** 14.70m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央やや東寄りより検出され、主軸方向がN－63°－Eであり、長径93cm、短径80cm、深さ9.5cmを測る。 **重複** H－6・H－14と重複しており、新旧関係はH－14→H－6→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数264点。そのうち、壺4点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.12・13、PL.4）

位置 X89～90、Y46～48グリッド **主軸方向** N－8°－E **形状等** 正方形。東西6.64m、南北6.80m、壁現高65cmを測る。 **面積** 43.66m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。間仕切り溝が東壁中央付近・西壁中央付近の2箇所に見られる。 **炉** 中央西寄りより検出され、主軸方向がN－87°－Eであり、長径95cm、短径28cm、深さ3cmを測る。 **重複** H－9・H－14と重複しており、H－9との新旧関係はH－9→本遺構の順である。H－14との新旧関係は、本遺構と重なる部分のH－14のプランが明確に確認できなかったので不明。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数487点。そのうち、鉢1点、壺1点、甕1点、台付甕？1点、石製模造品1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.12・13、PL.4）

位置 X90・91、Y46・47グリッド **主軸方向** N－55°－E **形状等** 正方形。東西［3.60］m、南北3.72m、壁現高25cmを測る。 **面積** ［12.50］m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。 **炉** 中央やや東寄りより検出され、主軸方向N－56°－Eであり、長径90cm、短径52cm、深さ5.5cmを測る。 **重複** H－8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数23点。そのうち、高坏？1点、甕1点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.14・15、PL.5）

位置 X93～95、Y44～46グリッド **主軸方向** N－44°－W **形状等** 長方形と推定される。東西5.30m、南北［6.38］m、壁現高16cmを測る。 **面積** ［30.00］m² **床面** 炉付近に非常に堅緻な床面。 **炉** 中央南寄りより検出され、主軸方向N－45°－Eであり、長径134cm、短径72cm、深さ6.5cmを測る。石を伴う。 **重複** H－11

と重複しているが、H—11の残りが悪いため新旧関係は不明。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数148点。そのうち、高坏1点、鉢1点、小型壺1点、小型甕1点、台付甕1点を図示した。

H—11号住居跡（Fig.14・15）

位置 X92～94、Y45～47グリッド **主軸方向** 〔N—26°—E〕 **形状等** 正方形と推定される。東西［6.58］m、南北［6.50］m、壁現高0cmを測る。 **面積** ［42.99］m² **床面** 炉付近に非常に堅緻な床面。 **炉** 中央北寄りより検出され、主軸方向N—103°—Eであり、長径110cm、短径40cm、深さ3.5cmを測る。 **重複** H—10・H—12と重複しているが、本遺構の残りが悪いため新旧関係は不明。 **時期** 平面形態や出土遺物から古墳時代前期と考えられる。 **出土遺物** 総数11点。

H—12号住居跡（Fig.16・17、PL.5）

位置 X92～94、Y46・47グリッド **主軸方向** N—33°—E **形状等** 正方形。東西5.10m、南北5.24m、壁現高33cmを測る。 **面積** 24.90m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央西寄りより検出され、主軸方向N—35°—Eであり、長径64cm、短径38cmを測る。あまり窪まない。 **重複** H—11・H—13と重複しており、H—13との新旧関係はH—13→本遺構の順である。H—11との新旧関係は、H—11のプランが明確に確認できなかったため不明。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数27点。そのうち、壺3点、甕1点を図示した。

H—13号住居跡（Fig.16・17、PL.5）

位置 X92・93、Y46・47グリッド **主軸方向** N—41°—W **形状等** 長方形。東西［4.58］m、南北3.20m、壁現高26cmを測る。 **面積** ［13.57］m² **床面** 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央西寄りより検出され、主軸方向N—1°—Wであり、長径25cm、短径20cmを測る。あまり窪まない。 **重複** H—12と重複しており、新旧関係は本遺構→H—12の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数66点。そのうち、高坏1点、甑1点、甕1点、台付甕2点を図示した。また、H—12・H—13の重複した部分の埋土から出土し、どちらの遺構に伴うのか判明しなかった遺物が342点出土した。

H—14号住居跡（PL.4）

位置 X89・90、Y46・47グリッド **主軸方向** N—5°—E **形状等** 正方形と推定される。東西［4.80］m、南北［4.54］m、壁現高12cmを測る。 **面積** ［21.93］m² 床面 堅緻な床面。 **炉** 不明。 **重複** H—6・H—8と重複しており、H—6との新旧関係は本遺構→H—6の順である。H—8との新旧関係は、H—8との重複部分における本遺構のプランが明確に確認できなかったため不明。 **時期** 埋土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。 **出土遺物** 明確な遺物の出土はなかった。

H—15号住居跡（Fig.18・19、PL.5）

位置 X89～91、Y49・50グリッド **主軸方向** N—50°—W **形状等** 正方形。東西4.02m、南北4.08m、壁現高32cmを測る。 **面積** 14.89m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。床面や壁際から大量の炭化物が検出され、床面に所々焼けたところが見られた。 **炉** 中央東寄りより検出され、主軸方向N—56°—Eであり、長径100cm、短径30cm、深さ4.5cmを測る。 **重複** H—16と重複しており、新旧関係はH—16→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数94点。そのうち、小型器台1点、高坏1点、

鉢１点、壺１点、台付甕１点を図示した。

Ｈ－16号住居跡（Fig.18・19、PL.５）

位置　X89・90、Y49～51グリッド　**主軸方向**　N－22°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西7.10m、南北［6.50］m、壁現高58cmを測る。　**面積**　(32.96) m²　**床面**　平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。床面から大量の炭化物や焼土が検出された。　**炉**　中央東寄りより検出され、主軸方向がN－９°－Eであり、長径106cm、短径62cm、深さ６cmを測る。　**重複**　H－15・H－17と重複しており、新旧関係はそれぞれ本遺構→H－15、本遺構→H－17の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数222点。そのうち、高坏１点、壺１点、台付甕１点を図示した。

Ｈ－17号住居跡（Fig.18・19、PL.５）

位置　X90、Y50・51グリッド　**主軸方向**　N－39°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西［2.84］m、南北［2.88］m、壁現高16cmを測る。　**面積**　［7.47］m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。炭化物が検出された。　**炉**　中央より検出され、主軸方向N－30°－Wであり、長径110cm、短径80cm、深さ1.5cmを測る。　**重複**　H－16と重複しており、新旧関係はH－16→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から４世紀中頃～後半と考えられる。　**出土遺物**　総数213点。そのうち、壺１点、甕１点を図示した。

Ｈ－18号住居跡（Fig.20・21、PL.６）

位置　X94・95、Y46・47グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西(3.04)m、南北4.06m、壁現高57cmを測る。　**面積**　(8.77)m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。　**炉**　一部に焼土が見られたが明確に炉と判断できるものは検出されなかった。　**重複**　H－19、H－20と重複しており、新旧関係はH－19→本遺構→H－20の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から４世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数392点。そのうち、高坏２点、鉢１点、壺？１点を図示した。

Ｈ－19号住居跡（Fig.20・21、PL.６）

位置　X93・94、Y47・48グリッド　**主軸方向**　N－53°－W　**形状等**　長方形と推定される。東西(5.40)m、南北4.91m、壁現高61cmを測る。　**面積**　(20.46) m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。　**炉**　中央北東寄りより検出されたが、主軸方向N－60°－Eであり、長径（100）cm、短径62cm、深さ2.5cmを測る。　**重複**　H－18、H－20と重複しており、新旧関係は本遺構→H－18→H－20の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から４世紀中頃～後半と考えられる。　**出土遺物**　総数229点。そのうち、鉢３点、甕１点を図示した。

Ｈ－20号住居跡（Fig.20・21、PL.６）

位置　X94、Y47・48グリッド　**主軸方向**　N－155°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西(1.20)m、南北[3.92]m、壁現高８cmを測る。　**面積**　(3.69)m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　明確な焼土等は確認されなかった。　**重複**　H－18、H－19と重複しており、新旧関係はH－19→H－18→本遺構の順である。　**時期**　埋土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。　**出土遺物**　本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

Ｈ－21号住居跡（Fig.21）

位置　X93・94、Y48グリッド　**主軸方向**　［N－57°－W］　**形状等**　正方形と推定される。東西(0.48)m、南北(2.28)m、壁現高39cmを測る。　**面積**　(0.49) m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　明確な焼土等は確認さ

れなかった。 **時期** 埋土や平面形態からと古墳時代前期と考えられる。 **出土遺物** 本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

H－22号住居跡（Fig.22・23、PL.6）

位置 X79・80、Y48～50グリッド **主軸方向** N－26°－E **形状等** 正方形と推定される。東西(5.32)m、南北5.64m、壁現高45cmを測る。 **面積** (28.60) m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央やや北寄りより検出され、主軸方向N－22°－Wであり、長径135cm、短径94cm、深さ18cmを測る。石を抜き取ったと思われる窪みが見られる。 **重複** H－23と重複しており、新旧関係はH－23→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数1,055点。そのうち、壺1点を図示した。

H－23号住居跡（Fig.22、PL.6）

位置 X80・81、Y49グリッド **主軸方向** N－37°－E **形状等** 正方形。東西［2.90］m、南北3.50m、壁現高42cmを測る。 **面積** ［9.36］m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。 **炉** 中央南西寄りより検出され、主軸方向N－50°－Wであり、長径61cm、短径50cm、深さ2cmを測る。石を伴う。 **重複** H－22と重複しており、新旧関係は本遺構→H－22の順である。 **時期** 出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数131点。そのうち、壺1点を図示した。

H－24号住居跡（Fig.24、PL.6）

位置 X80・81、Y50・51グリッド **主軸方向** N－13°－W **形状等** 長方形。東西4.40m、南北5.06m、壁現高59cmを測る。 **面積** 20.09m² **床面** 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。床面から大量の炭化物と焼土が検出された。床面が所々焼けている。 **炉** 中央やや北寄りより検出され、主軸方向N－43°－W。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数323点。そのうち、鉢1点を図示した。

H－25号住居跡（Fig.26・27、PL.6）

位置 X82～84、Y49～51グリッド **主軸方向** N－31°－E **形状等** 正方形。東西6.52m、南北5.72m、壁現高79cmを測る。 **面積** 34.42m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** ほぼ中央より検出され、主軸方向N－13°－Wであり、長径57cm、短径40cm、深さ6cmを測る。 **重複** H－26と重複しており、新旧関係はH－26→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数782点。そのうち、小型器台1点、高坏1点、鉢1点、壺1点、小型甕1点、台付甕2点を図示した。

H－26号住居跡（Fig.26・27、PL.6）

位置 X84・85、Y49～51グリッド **主軸方向** N－8°－E **形状等** 長方形。東西［4.62］m、南北5.72m、壁現高51cmを測る。 **面積** (18.71) m² **床面** 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。南壁西寄りから内側に向かって間仕切りの溝が見られる。 **炉** ほぼ中央より検出され、主軸方向N－30°－Eであり、長径160cm、短径97cm、深さ7cmを測る。 **重複** H－25と重複しており、新旧関係は本遺構→H－25の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数314点。そのうち、甕1点を図示した。

H－27号住居跡（Fig.25、PL.7）

位置 X82～84、Y51・52グリッド **主軸方向** N－21°－E **形状等** 正方形。東西［4.10］m、南北4.70m、壁現高20cmを測る。 **面積** ［17.72］m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 **炉** 中央南寄りより検出され、主軸方向

がN－63°－Wであり、長径82cm、短径62cm、深さ５cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数77点。そのうち、小型甕１点を図示した。

Ｈ－28号住居跡（Fig.28、PL.７）

位置 X87～89、Y51～53グリッド **主軸方向** N－127°－E **形状等** 正方形と推定される。東西(7.98)m、南北7.58m、壁現高76cmを測る。 **面積**(33.98)m² **床面** 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。南壁中央付近から内側に向かって間仕切り溝が見られる。床面から大量の炭化物と焼土が検出された。床面が所々焼けている。 **炉** 中央やや東寄りより検出され、主軸方向がN－94°－Eであり、長径(110)cm、短径90cm、深さ18cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数886点。そのうち、鉢１点を図示した。

Ｈ－29号住居跡（Fig.29、PL.７）

位置 X89・90、Y52～54グリッド **主軸方向** N－35°－E **形状等** 正方形。東西［5.24］m、南北5.20m、壁現高11cmを測る。 **面積** ［25.51］m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 **炉** 明確な焼土等は確認されなかった。 **重複** Ｈ－39と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－39の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数33点。そのうち、壺１点を図示した。

Ｈ－30号住居跡（Fig.30、PL.７）

位置 X88・89、Y53・54グリッド **主軸方向** N－36°－E **形状等** 正方形。東西3.30m、南北3.76m、壁現高27cmを測る。 **面積** 11.21m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。 **炉** 中央やや北寄りに検出され、主軸方向N－38°－Eであり、長径80cm、短径50cm、深さ2.5cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃～後半と考えられる。 **出土遺物** 総数95点。そのうち、小型甕１点を図示した。

Ｈ－31号住居跡（Fig.30、PL.７）

位置 X89・90、Y54・55グリッド **主軸方向** N－25°－E **形状等** 正方形。東西2.74m、南北3.00m、壁現高35cmを測る。 **面積** 7.15m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 **炉** 中央北東寄りより検出され、主軸方向N－27°－Wであり、長径25cm、短径18cm、深さ１cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数92点。そのうち、壺１点を図示した。

Ｈ－32号住居跡（Fig.31、PL.８）

位置 X78～80、Y51・52グリッド **主軸方向** N－27°－E **形状等** 正方形。東西［5.42］m、南北5.22m、壁現高28cmを測る。 **面積** ［25.96］m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央やや南寄りより検出され、主軸方向N－55°－Wであり、長径66cm、短径50cm、深さ４cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数661点。そのうち、鉢１点を図示した。

Ｈ－33号住居跡 （Fig.32、PL.８）

位置 X80・81、Y51～53グリッド **主軸方向** N－27°－E **形状** 正方形。東西6.70m、南北6.56m、壁現高55cmを測る。 **面積** 41.25m² **床面** 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央東寄りより検出され、主軸方向N－26°－Eであり、長径87cm、短径75cm、深さ10cmを測る。石を伴う。 **時期** 埋土や出土遺物から４世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数632点。そのうち、壺？１点、土製紡錘車１点を図示した。

H—34号住居跡（Fig.33、PL.8）

位置　X82～84、Y53～55グリッド　**主軸方向**　N—61°—W　**形状等**　長方形。東西5.74m、南北6.90m、壁現高35cmを測る。　**面積**　37.61m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。　**炉**　中央やや北寄りより検出され、主軸方向N—27°—Eであり、長径147cm、短径130cm、深さ7cmを測る。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。　**出土遺物**　総数501点。そのうち、小型器台1点、台付甕1点、紡錘車1点、土製紡錘車1点を図示した。

H—35号住居跡（Fig.34・35、PL.8・9）

位置　X84～86、Y53～55グリッド　**主軸方向**　N—43°—E　**形状等**　正方形。東西［6.50］m、南北［5.90］m、壁現高20cmを測る。　**面積**　［34.45］m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。　**炉**　中央やや東寄りより検出され、主軸方向N—53°—Wであり、長径193cm、短径68cm、深さ9cmを測る。　**重複**　H—36・H—37と重複しており、新旧関係は本遺構→H—37→H—36の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数246点。そのうち、甕1点を図示した。

H—36号住居跡（Fig.34・35、PL.8・9）

位置　X84・85、Y54・55グリッド　**主軸方向**　N—10°—E　**形状等**　長方形。東西5.14m、南北4.26m、壁現高25cmを測る。　**面積**　22.61m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。　**炉**　中央北寄りより検出され、主軸方向N—45°—Eであり、長径107cm、短径76cm、深さ9cmを測る。　**重複**　H—35・H—37と重複しており、新旧関係はH—35→H—37→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀末と考えられる。　**出土遺物**　総数242点。そのうち、小型甕1点を図示した。

H—37号住居跡（Fig.34・35、PL.9）

位置　X85・86、Y54・55グリッド　**主軸方向**　N—32°—E　**形状等**　正方形。東西5.26m、南北5.12m、壁現高15cmを測る。　**面積**　［24.98］m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。ベッド状遺構有り。　**炉**　中央北寄りより検出され、主軸方向N—70°—Eであり、長径90cm、短径60cm、深さ6cmを測る。　**重複**　H—35・H—36と重複しており、新旧関係はH—35→本遺構→H—36の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数250点。そのうち、甕1点を図示した。また、H—35・H—36・H—37の重複した部分の埋土から出土し、どの遺構に伴うのか判明しなかった遺物が253点出土した。

H—38号住居跡（Fig.36、PL.9）

位置　X87・88、Y55・56グリッド　**主軸方向**　N—32°—E　**形状等**　長方形。東西4.94m、南北6.16m、壁現高20cmを測る。　**面積**　27.79m²　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。　**炉**　ほぼ中央と中央やや南寄りより検出され、中央のものが主軸方向N—20°—Eであり、長径170cm、短径111cm、深さ5.5cmを測る。南寄りのものが主軸方向N—79°—Wであり、長径102cm、短径45cm、を測り、ほとんど窪まない。　**時期**　埋土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。　**出土遺物**　総数334点。そのうち、高坏1点を図示した。

H—39号住居跡（Fig.29、PL.7）

位置　X89・90、Y52～54グリッド　**主軸方向**　N—35°—E　**形状等**　正方形と推定される。東西［4.70］m、南北［4.70］m、壁現高0cmを測る。　**面積**　［24.82］m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　中央やや東寄りより検出され、主軸方向N—55°—Wであり、長径62cm、短径38cm、深さ1.5cmを測る。**重複**　H—29と重複しており、

新旧関係はH—29→本遺構の順である。 **時期** 埋土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。 **出土遺物** 本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

H—40号住居跡 (Fig.37、PL.10)

位置 X79・80、Y53・54グリッド **主軸方向** N—25°—E **形状等** 正方形。東西5.34m、南北4.60m、壁現高55cmを測る。 **面積** [22.59]m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。 **炉** 中央西寄りより検出されたが、攪乱により半分程度失われている。主軸方向[N—67°—W]であり、長径57cm、短径[17]cm、深さ3.5cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数366点。そのうち、高坏2点を図示した。

H—41号住居跡 (Fig.38・39、PL.10)

位置 X80・81、Y54・55グリッド **主軸方向** N—33°—E **形状等** 正方形。東西3.40m、南北3.50m、壁現高26cmを測る。 **面積** [10.91]m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 **炉** ほぼ中央と中央南寄りより検出され、中央のものが主軸方向N—4°—Eであり、長径90cm、短径40cm、深さ3.5cmを測る。南寄りのものが主軸方向N—60°—Wであり、長径60cm、短径50cm、深さ2cmを測る。 **重複** H—42と重複しており、新旧関係は本遺構→H—42の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。 **出土遺物** 総数84点。そのうち、高坏1点を図示した。

H—42号住居跡 (Fig.38・39、PL.10)

位置 X81・82、Y55・56グリッド **主軸方向** N—9°—E **形状等** 正方形。東西5.16m、南北5.62m、壁現高66cmを測る。 **面積** 27.00m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 **炉** 中央北寄りより検出され、主軸方向N—7°—Eであり、長径102cm、短径50cm、深さ6cmを測る。 **重複** H—41と重複しており、新旧関係はH—41→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。 **出土遺物** 総数247点。そのうち、鉢1点、石製品1点を図示した。

H—43号住居跡 (Fig.40、PL.10)

位置 X84・85、Y56・57グリッド **主軸方向** N—25°—E **形状等** 正方形。東西4.82m、南北5.16m、壁現高30cmを測る。 **面積** [22.65]m² **床面** 平坦で堅緻な床面。周溝有。 **炉** ほぼ中央とやや北寄りより検出され、中央のものが主軸方向N—60°—Wであり、長径90cm、短径(53)cm、深さ8cmを測る。北寄りのものが主軸方向N—48°—Wであり、長径83cm、短径(52)cm、深さ5cmを測る。双方とも攪乱で一部切られている。 **重複** D—15と重複しており、新旧関係は本遺構→D—15の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数943点。そのうち、小型器台3点、高坏1点、甑1点、壺1点、甕1点、台付甕1点を図示した。

H—44号住居跡 (Fig.41、PL.11)

位置 X86～88、Y56～58グリッド **主軸方向** N—29°—E **形状等** 正方形。東西6.04m、南北5.78m、壁現高27cmを測る。 **面積** 32.47m² **床面** 平坦で一部非常に堅緻な床面。 **炉** 中央やや西寄りより検出され、主軸方向N—55°—Wであり、長径112cm、短径70cm、深さ10cmを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数640点。そのうち、高坏1点を図示した。

H－45号住居跡（Fig.42、PL.11）

位置　X88・89、Y59グリッド　**主軸方向**　N－89°－W　**形状等**　正方形と推定される。東西(1.94)m、南北3.26m、壁現高38cmを測る。　**面積**　(5.42)㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　明確な焼土等は確認されなかった。　**時期**　埋土や平面形態から古墳時代前期と推測される。　**出土遺物**　本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

(2)　土坑・柱穴（Fig.42・43、PL.11）

Tab.3　土坑計測表、Tab.4柱穴計測表を参照のこと。

(3)　グリッド等出土遺物

小破片を含め総数2,503点の遺物を出土した。

Tab. 2　五代中原Ⅲ遺跡住居跡一覧表

遺構名	規模（m）			面積（m²）	主軸方向	炉	周溝	出土遺物
	東西	南北	壁現高			位置・素材等		
H－1	4.90	4.50	0.30	19.65	N－20°－E	中央北寄り・石の抜けた痕跡	○	小型土器・小型器台・高坏・鉢・蓋・甑・小型壺・壺・小型甕・甕・台付甕
H－2	6.10	6.92	0.27	〔36.36〕	N－10°－W	検出されず	×	鉢・壺・小型甕
H－3	5.82	5.10	0.64	28.51	N－18°－E	中央東寄り・扁平な石	○	小型器台・鉢・小型壺・壺・甕・台付甕
H－4	〔3.13〕	3.76	0.17	〔10.36〕	N－5°－E	中央西寄り	×	壺・甕・台付甕？
H－5	〔4.90〕	〔4.72〕	0.14	〔20.17〕	N－13°－E	検出されず	×	鉢・蓋・甕・台付甕？
H－6	〔6.92〕	7.30	0.12	〔47.34〕	N－10°－E	中央北寄りと中央南西寄りの2ヶ所	○	高坏・鉢・甕・台付甕？
H－7	4.36	3.70	0.23	14.70	N－33°－E	中央東寄り	○	壺
H－8	6.64	6.80	0.65	43.66	N－8°－E	中央西寄り	○	鉢・壺・甕・台付甕？・石製模造品
H－9	〔3.60〕	3.72	0.25	〔12.50〕	N－55°－E	中央東寄り	×	高坏？・甕
H－10	5.30	〔6.38〕	0.16	〔30.00〕	N－44°－W	中央東寄り	×	高坏・鉢・小型壺・小型甕・台付甕
H－11	〔6.58〕	〔6.50〕	0.00	〔42.99〕	〔N－26°－E〕	中央北寄り	×	
H－12	5.10	5.24	0.33	24.90	N－33°－E	中央西寄り	○	壺・甕
H－13	〔4.58〕	3.20	0.26	〔13.57〕	N－41°－W	中央西寄り	○	高坏・甑・甕・台付甕
H－14	〔4.80〕	〔4.54〕	0.12	〔21.93〕	N－5°－E	不明	×	
H－15	4.02	4.08	0.32	14.89	N－50°－W	中央東寄り	×	小型器台・高坏・鉢・壺
H－16	7.10	〔6.50〕	0.58	(32.96)	N－22°－E	中央東寄り	○	高坏・壺・台付甕
H－17	〔2.84〕	〔2.88〕	0.16	〔7.47〕	N－39°－E	中央	×	壺・甕
H－18	(3.04)	4.06	0.57	(8.77)	N－98°－E	検出されず	×	高坏・鉢・壺？
H－19	(5.40)	4.91	0.61	(20.46)	N－53°－W	中央東寄り	○	鉢・甕
H－20	(1.20)	〔3.92〕	0.08	(3.69)	N－155°－E	検出されず	×	
H－21	(0.48)	(2.28)	0.39	(0.49)	〔N－57°－W〕	検出されず	×	
H－22	(5.32)	5.64	0.45	(28.60)	N－26°－E	中央北寄り	○	壺
H－23	〔2.90〕	3.50	0.42	〔9.36〕	N－37°－E	中央南西寄り	×	壺
H－24	4.40	5.06	0.59	20.09	N－13°－W	中央北寄り	○	鉢
H－25	6.52	5.72	0.79	34.42	N－31°－E	中央	○	小型器台・高坏・鉢・壺・小型甕・台付甕
H－26	〔4.62〕	5.72	0.51	(18.71)	N－8°－E	中央	○	甕
H－27	〔4.10〕	4.70	0.02	〔17.72〕	N－21°－E	中央南寄り	○	小型甕
H－28	(7.98)	7.58	0.76	(33.98)	N－127°－E	中央東寄り	○	鉢
H－29	〔5.24〕	5.20	0.11	〔25.51〕	N－35°－E	検出されず	×	壺
H－30	3.30	3.76	0.27	11.21	N－36°－E	中央北寄り	×	小型甕
H－31	2.74	3.00	0.35	7.15	N－25°－E	中央北東寄り	×	壺
H－32	〔5.42〕	5.22	0.28	〔25.96〕	N－27°－E	中央南西寄り	○	鉢
H－33	6.70	6.56	0.55	41.25	N－27°－E	中央東寄り・石	○	壺？・土製紡錘車

遺構名	規模（m）			面積 (m²)	主軸方向	炉	周溝	出　土　遺　物
	東西	南北	壁現高			位　置・素　材　等		
H—34	5.74	6.90	0.35	37.61	N—61°—W	中央北寄り	×	小型器台・台付甕・紡錘車・土製紡錘車
H—35	〔6.50〕	〔5.90〕	0.20	〔34.45〕	N—43°—E	中央東寄り	×	甕
H—36	5.14	4.26	0.25	22.61	N—10°—E	中央北寄り	×	小型甕
H—37	5.26	5.12	0.15	〔24.98〕	N—32°—E	中央北寄り	×	甕
H—38	4.94	6.16	0.20	27.79	N—32°—E	中央と中央南寄りの２ヶ所	×	高坏
H—39	〔4.70〕	〔4.70〕	0.00	〔24.82〕	N—35°—E	中央東寄り	×	
H—40	5.34	4.60	0.55	〔22.59〕	N—25°—E	中央西寄り	×	高坏
H—41	3.40	3.50	0.26	〔10.91〕	N—33°—E	中央と中央南寄りの２ヶ所	×	高坏
H—42	〔5.16〕	5.62	0.66	27.00	N—9°—E	中央北寄り	○	鉢・石製品
H—43	4.82	5.16	0.30	〔22.65〕	N—25°—E	中央と中央北寄りの２ヶ所	×	小型器台・高坏・甑・壺・甕・台付甕
H—44	6.04	5.78	0.27	32.47	N—29°—E	中央西寄り	×	高坏
H—45	(1.94)	3.26	0.38	(5.42)	N—89°—W	検出されず	×	

注）現存値を（　　）、復元値を［　　］で示した。

Tab. 3　五代中原III遺跡土坑計測表

遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物等
D—1	X91・92	Y52	300	(150)	89	楕円形	
D—2	X91	Y53	225	(50)	135	不整形	
D—3	X83	Y45・46	92	87	71	円形	
D—4	X82	Y49	163	92	69	楕円形	
D—5	X86・87	Y46	117	100	39.5	楕円形	
D—6	X86・87	Y47・48	210	120	57	長方形	
D—7	X90・91	Y50	132	60	31	長方形	
D—8	X81・82	Y50	142	74	41	長方形	
D—9	X84	Y51	76	72	32	円形	
D—10	X85	Y51	88	80	27.5	楕円形	
D—11	X85	Y51	96	64	36	楕円形	
D—12	X85	Y52・53	208	150	84.5	楕円形	
D—13	X87	Y54	255	117	76.5	長方形	
D—14	X81・82	Y53・54	266	207	111	楕円形	
D—15	X84・85	Y56	182	130	37.5	楕円形	
D—16	X82	Y45	88	80	39	楕円形	
D—17	X82	Y46	64	60	43	円形	
D—18	X81	Y48	80	70	41.5	楕円形	
D—19	X81	Y48	74	60	21	楕円形	
D—20	X82	Y49	64	53	27	楕円形	

遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物等
D—21	X84	Y49	65	56	24.5	楕円形	
D—22	X87	Y46・47	90	78	39	楕円形	
D—23	X87	Y47	62	62	39	円形	
D—24	X86	Y47	56	54	38	円形	
D—25	X86	Y47	80	76	52	円形	
D—26	X86	Y48	66	64	39	円形	
D—27	X86	Y48	60	54	29	楕円形	
D—28	X88	Y48	69	52	25.5	楕円形	
D—29	X89	Y48	50	49	46.5	円形	
D—30	X89	Y48	62	49	44.5	楕円形	
D—31	X89	Y48	53	50	23.5	円形	
D—32	X90	Y48	67	48	18	楕円形	
D—33	X92	Y50	90	80	52	楕円形	
D—34	X91	Y50	76	72	40	円形	
D—35	X91	Y50・51	74	62	28.5	楕円形	
D—36	X91	Y51	62	60	22.5	円形	
D—37	X91	Y51	88	63	34	楕円形	
D—38	X91	Y52	75	25	19	不整形	
D—39	X90	Y52	53	48	24	円形	
D—40	X80	Y51	66	50	24	楕円形	
D—41	X80	Y51	78	59	25	楕円形	
D—42	X85	Y51	60	58	36.5	円形	
D—43	X84	Y52	100	80	37	楕円形	
D—44	X86	Y53	100	48	16	不整形	
D—45	X86	Y53	62	56	30	楕円形	
D—46	X88	Y53	58	50	22	楕円形	
D—47	X90	Y54	79	75	32.5	円形	
D—48	X82	Y53	70	70	29	円形	
D—49	X83	Y55	87	54	21	楕円形	
D—50	X83	Y55	90	68	36	楕円形	
D—51	X83	Y56	112	60	37.5	楕円形	
D—52	X85	Y56	70	67	30	円形	
D—53	X86	Y56	70	51	31	楕円形	
D—54	X86	Y58	66	50	29	楕円形	
D—55	X84	Y46・47	340	100	22	楕円形	

Tab. 4　五代中原Ⅲ遺跡柱穴計測表

遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X82	Y46	48	44	32	円形	P－30	X79	Y51	56	45	22	楕円形
P－2	X82	Y47	53	46	29	楕円形	P－31	X80	Y51	95	62	62.5	楕円形
P－3	X81	Y47	50	45	23	円形	P－32	X84	Y51	70	56	47	楕円形
P－4	X81	Y47	48	40	30	楕円形	P－33	X86	Y52	49	44	33	円形
P－5	X81	Y47	52	43	36	楕円形	P－34	X87	Y54	32	30	34	円形
P－6	X81	Y48	48	48	26	円形	P－35	X88	Y55	40	38	48.5	円形
P－7	X82	Y48・49	55	48	22.5	楕円形	P－36	X87	Y55	33	30	41	円形
P－8	X86	Y48	52	50	23	円形	P－37	X77・78	Y53	50	52	56	円形
P－9	X90	Y45	54	44	22.5	楕円形	P－38	X77	Y54	34	32	51	円形
P－10	X90	Y45	50	40	27	楕円形	P－39	X78	Y54	39	37	42.5	円形
P－11	X91	Y45	35	31	16	円形	P－40	X81	Y54	36	34	25	円形
P－12	X92	Y45	33	26	26.5	楕円形	P－41	X81	Y54	52	47	20.5	円形
P－13	X92	Y47	46	44	110	円形	P－42	X81	Y55	42	38	33.5	円形
P－14	X89	Y48	54	45	36.5	楕円形	P－43	X82	Y55	35	28	13.5	楕円形
P－15	X89・90	Y49	43	42	25	円形	P－44	X82・83	Y55	45	39	62.5	楕円形
P－16	X90	Y48・49	46	44	24	円形	P－45	X83	Y55	38	35	21.5	円形
P－17	X92	Y49	60	50	94	楕円形	P－46	X83	Y56	48	44	39.5	円形
P－18	X92	Y49	56	52	82.5	円形	P－47	X84	Y56	33	30	23	円形
P－19	X92	Y50	53	46	21	楕円形	P－48	X86	Y56	48	47	41	円形
P－20	X91	Y50	57	47	40	楕円形	P－49	X85	Y57	50	50	57.5	円形
P－21	X91	Y50	44	35	52	楕円形	P－50	X85・86	Y57	54	40	33.5	楕円形
P－22	X91	Y50・51	60	44	49	楕円形	P－51	X87	Y58	33	30	28	円形
P－23	X90・91	Y50	40	38	97	円形	P－52	X87	Y58	40	32	32	楕円形
P－24	X90	Y50	50	44	50	楕円形	P－53	X88	Y58	50	38	39.5	楕円形
P－25	X91	Y51	46	46	20	円形	P－54	X88	Y57・58	46	45	25	円形
P－26	X90	Y52	49	34	23	楕円形	P－55	X94	Y47	66	57	37	楕円形
P－27	X90・91	Y52	50	40	36	楕円形	P－56	X94	Y47	56	52	81.5	円形
P－28	X90	Y52	60	48	51	楕円形	P－57	X87	Y53	42	38	31.5	円形
P－29	X79	Y51	50	43	33	楕円形							

Tab. 5　五代中原Ⅲ遺跡古墳時代出土遺物観察表

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－1－1 床直	小型土器 土師器	①［2.6］ ②（2.6）	①細粒②良好③明黄褐色④ほぼ完形	手捏ね土器。鉢形を意識。指撫で。	
2	H－1－2 床直	小型器台 土師器	①　7.8 ②　7.2	①細粒②良好 ③橙色④完形	器受部：端部横撫で。内外面篦磨き。脚部：接合部から直接裾に向かって八の字状に大きく開く。外面篦磨き。内面ハケ目調整後篦磨き。4孔穿孔。	
3	H－1－3 床直	小型器台 土師器	①　8.3 ②10.6	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	器受部：端部横撫で。内外面篦磨き。脚部：接合部から直接裾へ向かって八の字状に大きく開く。外面篦磨き。内面ハケ目調整後篦磨き。4孔穿孔。	
4	H－1－4 床直	小型器台 土師器	①　— ②（7.0）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④脚部1/2	器受部欠損。脚部：柱状に伸び急激に裾が開く。裾の開きは弱い。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整後撫で。3孔穿孔。	
5	H－1－5 床直	高坏 土師器	①22.1 ②13.7	①細粒②良好③浅黄橙色④脚部一部欠損	坏部：腰部外面に弱い段を有し大きく外に開く。端部に横撫で。外面ハケ目調整。内面ハケ目調整後撫で。脚部：内湾気味に開く。内外面ハケ目調整。3孔穿孔。	
6	H－1－6 床直	鉢 土師器	①　8.5 ②　4.6	①細粒②良好 ③赤色④ほぼ完形	精製土器。全体に塗彩。口縁部：締まりの弱い頸部から内湾気味に外傾。体部：浅め。内外面篦磨き。底部：指押圧底。	
7	H－1－7 床直	鉢 土師器	①［12.4］ ②　5.7	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/3	口縁部：横撫で。体部：やや内湾しながら立ち上がる。内外面ハケ目調整後撫で。底部：平底。	
8	H－1－8 床直	蓋 土師器	①17.7 ②　5.0	①細粒②良好 ③橙色④3/4	つまみ部：広い接合部から環状に立つ。端部横撫で。中央に穿孔。器表：扁平。端部横撫で。内外面ハケ目調整後撫で。	
9	H－1－9 床直	甑 土師器	①15.4 ②　8	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	口縁部：端部に面取り。横撫で。体部：小さな底部から直線的に大きく外へ開く。内外面ハケ目調整後撫で。底部：中央に内面から1孔穿孔。	
10	H－1－10 床直	小型壺 土師器	①　7.3 ②14.7	①細粒②良好 ③明褐色④ほぼ完形	口縁部：短く外反。横撫で。体部：中位に最大径を持つ長胴。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。底部：突出底。	
11	H－1－11 床直	壺 土師器	①　— ②(17.2)	①中粒②良好 ③明赤褐色④2/3	口縁部欠損。残存部分からくの字状の短い口縁が付くと思われる。体部：底部欠損。下膨れ状。外面ハケ目調整後撫で。内面に輪積み痕。	
12	H－1－12 床直	小型甕 土師器	①10.8 ②12.4	①細粒②良好 ③浅黄橙色④完形	口縁部：外傾。端部に面取り。横撫で。頸部内面は強いくの字状。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。体部下半に二次焼成。内面撫で。底部：突出底。	
13	H－1－13 床直	甕 土師器	①　— ②(20.2)	①細粒②良好 ③明黄褐色④2/3	口縁部欠損。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後、篦磨き。内面撫で。底部：突出底。	
14	H－1－14 床直	甕 土師器	①16.4 ②16.8	①中粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：締まりの弱い頸部から緩く外反。横撫で。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。底部：突出底。	
15	H－1－15 床直	台付甕 土師器	①14.8 ②23.9	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	口縁部：受け口気味に短く外に開く。横撫で。体部：肩が張った球形。器形に歪み。外面ハケ目調整。体部上半に煤付着、下半に二次焼成。内面撫で。台部：内湾気味に外へ開く。	
16	H－1－16 床直	台付甕 土師器	①18.5 ②29.3	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	口縁部：くの字状を呈す。端部に刻み目。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。体部上半に煤付着、下半に二次焼成。内面撫で。台部：体部に対しやや大きめ。外へ開く。	
17	H－1－17 床直	台付甕 土師器	①21.0 ②34.0	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	口縁部：くの字状を呈す。端部に面取り。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整、。内面撫で。台部：内湾気味に外へ開く。	
18	H－2－1 床直	鉢 土師器	①15 ②　5.9	①細粒②良好 ③赤色④ほぼ完形	精製土器。全体に塗彩。口縁部：内湾気味に外傾。体部：浅い椀状。内外面篦磨き。底部：指押圧底。	
19	H－2－2 埋土	壺 土師器	①［15.4］ ②（4.6）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁1/4	口縁部：単口縁。外湾して開く。横撫で。下部にハケ目。体部欠損。	
20	H－2－3 埋土	小型甕 土師器	①［8.8］ ②（4.7）	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：横撫で。体部：下半欠損。肩部に最大径。外面ハケ目調整。内面撫で。	
21	H－3－1 床直	小型器台 土師器	①　7.2 ②　7.1	①細粒②良好③橙色④脚部一部欠損	器受部：端部横撫で。外面篦磨き。脚部：接合部から直接裾へ向かって八の字状に大きく開く。外面篦磨き、接合部に撫で。内面撫で。3孔穿孔。	
22	H－3－2 床直	小型器台 土師器	①　— ②（6.7）	①細粒②良好 ③橙色④脚部のみ	器受部欠損。脚部：柱状に伸び急激に裾が開く。裾の開きは弱い。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。3孔穿孔。	
23	H－3－3 埋土	鉢 土師器	①［8.4］ ②　4.1	①細粒②良好 ③浅黄橙色④1/5	小型。口縁部：やや外反。横撫で。体部：外面ハケ目調整後撫で。内面ハケ目調整。底部：平底。	
24	H－3－4 床直	小型壺 土師器	①　— ②（9.7）	①中粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部欠損。体部：球形を呈す。頸部の締まりが強い。外面摩耗。内面撫で。底部：平底。	
25	H－3－5 埋土	壺 土師器	①　— ②（9.9）	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/5	上部欠損。体部：下部に最大径を持つと思われる。外面ハケ目調整後撫で。内面ハケ目調整。底部：突出底。	
26	H－3－6 埋土	甕 土師器	①［14.4］ ②（8.8）	①細粒②良好 ③浅黄色④1/3	口縁部：やや外傾。横撫で。体部：肩部以下欠損。外面ハケ目調整。内面篦磨き。	
27	H－3－7 埋土	甕 土師器	①　— ②（7.8）	①中粒②良好 ③橙色④1/5	上部欠損。体部：内外面撫で。内面に輪積み痕が残る。底部：突出底。	
28	H－3－8 床直	台付甕 土師器	①　— ②（7.0）	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	上部・台部欠損。体部：器壁薄い。外面ハケ目調整。内面撫で。	
29	H－3－9 床直	台付甕 土師器	①　— ②（7.1）	①中粒②良好 ③橙色④台部のみ	上部欠損。台部：内湾気味に外へ開く。外面接合部付近にハケ目調整。内面撫で。	
30	H－4－1 埋土	壺 土師器	①　— ②（3.5）	①細粒②良好 ③橙色④頸部1/4	頸部のみ。頸部：段を持ち、一段目はほぼ垂直に立ち上がり、外反。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
31	H－4－2 床直	甕 土師器	①　－ ②（2.1）	①中粒②良好 ③浅黄橙色④底部1/2	上部欠損。底部：突出底。	
32	H－4－3 床直	台付甕？ 土師器	①　－ ②（8.7）	①細粒②良好③にぶい黄褐色④体部1/5	上部・台部欠損。体部：器壁薄い。外面ハケ目調整。内面撫で。	
33	H－5－1 床直	鉢 土師器	①[13.9] ②（4.0）	①細粒②良好 ③橙色④口縁1/6	底部欠損。口縁部：外反気味に開く。端部横撫で。内外面篦磨き。体部：浅い。	
34	H－5－2 P4埋土	蓋 土師器	①[16.1] ②　4.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	つまみ部：やや外反。端部横撫で。器表：扁平。端部外側に折り返し。端部横撫で。内外面ハケ目調整。	
35	H－5－3 床直	甕 土師器	①[16.0] ②（5.0）	①細粒②良好 ③橙色④口縁1/6	下部欠損。口縁部：やや外傾。横撫で。体部：外面ハケ目調整。内面撫で。	
36	H－5－4 床直	台付甕？ 土師器	①[15.4] ②（3.5）	①細粒②良好 ③明黄褐色④口縁1/5	下部欠損。口縁部：S字状を呈す。一段目が外に開く。横撫で。体部：外面ハケ目調整。内面撫で。	
37	H－6－1 埋土	高坏 土師器	①　－ ②（4.2）	①細粒②良好 ③明黄褐色④脚部1/3	器受部上半・脚部下半欠損。器受部：内面ハケ目調整後撫で。脚部：3孔残存。4単位か。外面ハケ目調整。内面ハケ目調整後撫で。	
38	H－6－2 床直	鉢 土師器	① 16.1 ②　6.1	①細粒②良好③暗赤褐色④ほぼ完形	口縁部：緩い稜を持つ。端部に押さえの沈線を残す。横撫で。体部：内外面撫で。底部：指押圧底。	
39	H－6－3 埋土	甕 土師器	①[21.2] ②（5.2）	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁1/6	下部欠損。口縁部：外反気味に外へ開く。横撫で。頸部から下部へ縦方向のハケ目。	
40	H－6－4 床直	甕 土師器	①[15.7] ②（4.1）	①細粒②良好 ③橙色④口縁1/6	下部欠損。口縁部：外傾。頸部内面は強いくの字状。内外面ハケ目調整。	
41	H－6－5 埋土	台付甕？ 土師器	①　－ ②（2.9）	①細粒②良好 ③黒褐色④口縁1/6	口縁片のみ。口縁部：S字状を呈し、一段目が外に開く。頸部にハケ目調整。	
42	H－7－1 床直	壺 土師器	①[17.2] ②（5.3）	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁1/4	下部欠損。口縁部：大きく外反。端部から約1cm下に2孔穿孔有り。端部横撫で。外面ハケ目調整。内面篦磨き。	
43	H－7－2 床直	壺 土師器	①　－ ②（8.0）	①中粒②良好 ③暗赤褐色④1/6	上部欠損。体部：底部から大きく開く。外面ハケ目調整後篦磨き。底部：突出底。	
44	H－7－3 埋土	壺？ 土師器	①　－ ②（2.5）	①細粒②良好③明赤褐色④底部のみ	底部のみ。底部：突出底。内面ハケ目調整。	
45	H－7－4 床直	壺 土師器	①　－ ②(19.2)	①細粒②良好③にぶい黄褐色④1/5	体部のみ。体部：外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整、一部その上に撫で。	
46	H－8－1 埋土	鉢 土師器	①[12.0] ②　5.4	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁：やや内湾。横撫で。体部：外面撫で。底部：丸底気味。	
47	H－8－2 埋土	壺 土師器	①[14.6] ②（5.7）	①細粒②良好 ③浅黄橙色④口縁1/4	口縁片のみ。口縁部：やや外傾。段状口縁。外面横撫で。内面篦磨き。	
48	H－8－3 埋土	甕 土師器	①[22.2] ②（4.7）	①細粒②良好③にぶい橙色④口縁1/4	口縁片のみ。口縁部：やや外傾。横撫で。頸部：頸部から体部へかけて縦方向のハケ目。	
49	H－8－4 床直	台付甕？ 土師器	①[12.6] ②（5.9）	①細粒②良好 ③浅黄色④1/5	下部欠損。口縁部：S字状を呈す。横撫で。体部：外面ハケ目調整。内面撫で。	
50	H－9－1 埋土	高坏？ 土師器	①[23.0] ②（2.5）	①細粒②良好③にぶい赤褐色④口縁1/9	口縁片のみ。口縁部：端部横撫で。内外面篦磨き。	
51	H－9－2 床直	甕 土師器	①－ ②（3.2）	①細粒②良好 ③橙色④底部のみ	底部のみ。体部は底部から大きく開くと思われる。底部：平底。	
52	H－10－1 床直	高坏 土師器	①[24.2] ②(12.0)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	脚部下半欠損。坏部：腰部に段を有し、大きく外に開く。端部に横撫で。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。脚部：3孔穿孔。外面篦磨き。	
53	H－10－2 床直	鉢 土師器	①[10.1] ②　8.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	口縁部：やや内湾。口辺部内面に輪積み痕を残す。体部：丸みを帯びる。外面ハケ目調整。内面撫で。底部：突出底。	
54	H－10－3 床直	小型壺 土師器	①[11.6] ②(12.1)	①細粒②良好 ③浅黄橙色④2/3	底部欠損。口縁部：強くしまった頸部から大きく外反。横撫で。体部：中位やや下に最大径を持ち、球形を呈す。外面篦磨き。内面撫で。	
55	H－10－4 床直	小型甕 土師器	① 12.0 ② 11.3	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	口縁部：締まりの弱い頸部からやや外傾。横撫で。体部：上位に最大径。外面ハケ目調整。内面撫で。底部：突出底。	
56	H－10－5 床直	台付甕 土師器	①　－ ②（8.2）	①細粒②良好③にぶい橙色④台部のみ	台部のみ。台部：ほぼ直線的に開く。大型の台付甕に付随するものと思われる。内外面ハケ目調整。	
57	H－12－1 埋土	壺 土師器	①[14.8] ②（1.8）	①細粒②良好③にぶい橙色④口縁1/8	口縁片のみ。口縁部：折り返し口縁。大きく外に開く。横撫で。内面に輪積み痕が残る。	
58	H－12－2 埋土	壺？ 土師器	①　－ ②（2.4）	①細粒②良好③にぶい赤褐色④底部1/2	底部のみ。底部：突出底。	
59	H－12－3 埋土	壺 土師器	①　－ ②(18.0)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/8	体部のみ。体部：外面上部に縦方向のハケ目。下部に横方向のハケ目。内面横方向のハケ目、一部撫で。	
60	H－12－4 床直	甕 土師器	①[22.4] ②（3.7）	①中粒②良好 ③浅黄橙色④口縁1/5	口縁片のみ。口縁部：外傾。頸部内面は強いくの字状。外面横撫で。	
61	H－13－1 埋土	高坏 土師器	①　－ ②（7.1）	①細粒②良好③にぶい橙色④脚部のみ	坏部欠損。脚部：柱状に伸び裾に向かって八の字状に大きく開く。3孔残存。4孔単位か。外面篦磨き。内面撫で。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
62	H－13－2 床直	甑 土師器	①　－ ②（2.3）	①中粒②良好 ③橙色④底部のみ	底部のみ。底部：ほぼ中央に内面から1孔穿孔。上げ底。	
63	H－13－3 床直	甕 土師器	①[12.8] ②（7.8）	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/6	下半欠損。口縁部：外傾する。横撫で。内面篦磨き。体部：内外面ハケ目調整。頸部内面に輪積み痕が残る。	
64	H－13－4 床直	台付甕 土師器	①　－ ②（2.6）	①中粒②良好 ③橙色④台貼付部	台貼付部のみ。台部の接合部分はやや広め。体部外面縦方向のハケ目。	
65	H－13－5 床直	台付甕 土師器	①　－ ②(10.0)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部下半のみ。体部：内外面ハケ目調整。	
66	H－15－1 床直	小型器台 土師器	①　6.7 ②　7.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	器受部：端部横撫で。内外面篦磨き。脚部：柱状に伸び急激に裾が開く。3孔穿孔。外面篦磨き。内面ハケ目調整。	
67	H－15－2 床直	高坏 土師器	① 14.4 ②　9.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	坏部：椀型。端部横撫で。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。脚部：内湾気味。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。歪み有り。	
68	H－15－3 床直	鉢 土師器	①　8.0 ②　7.4	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	精製土器。口縁内面から体部外面にかけて塗彩。口縁部：内湾気味に立ち上がる。端部横撫で。内外面篦磨き。体部：外面篦磨き。底部：上げ底気味の平底。	
69	H－15－4 床直	壺 土師器	①　－ ②（6.8）	①細粒②良好 ③にぶい黄褐色④1/4	上部欠損。体部：小さな底部から大きく開く。外面ハケ目調整後撫で。内面ハケ目調整。底部：上げ底気味の小さい平底。	
70	H－15－5 床直	台付甕 土師器	①　－ ②(15.5)	①細粒②良好 ③橙色④1/3	上部欠損。体部：内外面ハケ目調整。台部：体部に対して小さめ。直線的に開く。	
71	H－16－1 床直	高坏 土師器	①　－ ②（7.7）	①細粒②良好 ③橙色④脚部2/3	坏部・脚下部欠損。脚部：柱状に伸び、急激に裾が開く。裾の開きは弱い。3孔穿孔。外面篦磨き。	
72	H－16－2 床直	壺 土師器	①［7.8］ ②（7.9）	①細粒②良好 ③明黄褐色④1/4	下部欠損。口縁部：短く直に立つ。横撫で。体部：外面篦磨き。内面撫で。	
73	H－16－3 床直	台付甕 土師器	①　－ ②（4.4）	①細粒②良好 ③橙色④台部2/3	台部のみ。台部：内湾気味。外面ハケ目調整。内面撫で。	
74	H－17－1 床直	壺 土師器	①　－ ②（9.5）	①細粒②良好 ③明黄褐色④1/3	上部欠損。体部：球形を呈すと思われる。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。底部：突出底。	
75	H－17－2 床直	甕 土師器	① 17.9 ②(15.3)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	下部欠損。口縁部：外傾。横撫で。頸部内面は強いくの字状。体部：内外面ハケ目調整。	
76	H－18－1 床直	高坏 土師器	①　－ ②（8.6）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④脚部2/3	坏部欠損。脚部：接合部から直接裾へ向かって八の字状に大きく開く。3孔穿孔。外面篦磨き。内面撫で。	
77	H－18－2 床直	高坏 土師器	①　－ ②（8.6）	①細粒②良好③にぶい褐色④脚部のみ	坏部欠損。脚部：裾部は急激に外に開く。内外面撫で。端部横撫で。	
78	H－18－3 埋土	鉢 土師器	①[21.4] ②(11.5)	①細粒②良好 ③橙色④3/4	底部欠損。大型。口縁部：端部内湾。浅めの体部から大きく外に開く。外面端部横撫で。内外面ハケ目調整後篦磨き。体部：外面ハケ目調整後篦磨き。内面篦磨き。	
79	H－18－4 床直	壺？ 土師器	①　－ ②（3.5）	①細粒②良好③にぶい褐色④底部のみ	底部のみ。底部：突出底。体部に近い外面に縦方向のハケ目。	
80	H－19－1 床直	鉢 土師器	①　6.5 ②　5.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	手捏ね土器。体部：外面不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。	
81	H－19－2 床直	鉢 土師器	①　6.4 ②　5.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	手捏ね土器。体部：外面不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。	
82	H－19－3 床直	鉢 土師器	①［6.8］ ②　4.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④3/4	手捏ね土器。体部：外面不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。	
83	H－19－4 床直	甕 土師器	① 17.2 ②(15.4)	①細粒②良好 ③黒褐色④2/3	底部欠損。口縁部：やや外反。口唇部に刻み目あり。外面横撫で。内面横方向のハケ目。体部：内外面ハケ目調整。	
84	H－22－1 床直	壺 土師器	① 12.8 ②（9.3）	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	下部欠損。口縁部：折り返し口縁。外反。横撫で。体部：頸部から大きく開く。外面ハケ目調整後撫で。内面ハケ目調整。	
85	H－23－1 床直	壺 土師器	①　－ ②（9.2）	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	上部欠損。体部：底部から大きく開く。内外面ハケ目調整。底部：突出底。	
86	H－24－1 床直	鉢 土師器	①[13.0] ②　4.3	①細粒②良好 ③赤褐色④1/2	精製土器。全体に塗彩。口縁部：端部横撫で。体部：小さい底部から直接大きく開く。内外面縦方向の篦磨き。底部：平底。	
87	H－25－1 床直	小型器台 土師器	①［8.4］ ②　8.7	①細粒②良好 ③赤褐色④4/5	器受部：内外面篦磨き。脚部：柱状に伸び裾が八の字状に開く。4孔穿孔。外面篦磨き。内面撫で。器受部内外面、脚部外面に塗彩。	
88	H－25－2 床直	高坏 土師器	①　－ ②(4.2)	①細粒②良好 ③橙色④脚部のみ	坏部欠損。脚部：低く大きく開く。6孔穿孔。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。	
89	H－25－3 床直	鉢 土師器	① 15.0 ②　5.3	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾。内外面篦磨き。体部：内外面篦磨き。底部：篦削り。	
90	H－25－4 床直	壺 土師器	①　－ ②(25.3)	①細粒②良好 ③明赤褐色④4/5	口縁部：外傾気味。横撫で。体部：球形を呈す。内外面ハケ目調整。内面に2箇所接合痕。底部：突出底。	
91	H－25－5 床直	小型甕 土師器	①［9.4］ ②　10.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④2/3	口縁部：やや外傾する。横撫で。体部：ほぼ中位に最大径。内外面ハケ目調整。底部：突出底。	
92	H－25－6 床直	台付甕 土師器	① 13.1 ② 16.6	①細粒②良好 ③淡黄色④完形	口縁部：横撫で。端部面取り。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。内面撫で。台部：外に開く。内外面ハケ目調整。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
93	H—25—7 床直	台付甕 土師器	① 14.0 ② 19.5	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：くの字状を呈す。横撫で。体部：肩部に最大径を持ついちじく形。外面ハケ目調整後撫で。二次焼成を受ける。内面撫で。台部：小さい。内外面ハケ目調整。	
94	H—26—1 埋土	甕 土師器	①[11.6] ② (2.1)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：口唇部に刻み目。外面横撫で。内面横方向の篦磨き。	
95	H—27—1 床直	小型甕 土師器	①[12.0] ② (6.0)	①細粒②良好 ③黒褐色④2/5	下部欠損。口縁部：やや外傾。横撫で。体部：肩部に最大径を持つと思われる。内外面ハケ目調整。	
96	H—28—1 床直	鉢 土師器	① 11.6 ② 4.1	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：横撫で。体部：大きく外に開く。外面ハケ目調整後撫で。底部：突出気味の平底。	
97	H—29—1 埋土	壺 土師器	① [8.0] ② (3.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：端部面取り。大きく外反。二重口縁。口唇部・中段に刻み目。内面に沈線で横線・波状文。部分的に塗彩が残る。	
98	H—30—1 床直	小型甕 土師器	① 11.2 ② 10.9	①細粒②良好③にぶい赤褐色④ほぼ完形	口縁部：外傾。横撫で。体部：肩位に最大径を持つ。外面ハケ目調整後撫で。内面撫で。底部：突出底。	
99	H—31—1 埋土	壺 土師器	① — ② (3.3)	①細粒②良好 ③赤色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：大きく外傾。二重口縁。内面に沈線で波状文。	
100	H—32—1 床直	鉢 土師器	① 8.4 ② 4.0	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	口縁部：端部に刻み目。横撫で。体部：内外面ハケ目調整後撫で。底部：平底。	
101	H—33—1 埋土	壺？ 土師器	① — ② (3.2)	①細粒②良好 ③褐灰色④体部破片	破片のみ。8条の沈線による波状文。	
102	H—34—1 埋土	小型器台 土師器	① 9.0 ② 8.7	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	器受部：端部横撫で。脚部：接合部から直接裾へ向かって八の字状に開く。2孔残存。3孔単位か。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。	
103	H—34—2 床直	台付甕 土師器	① 21.2 ② 37.2	①細粒②良好 ③灰黄褐色④3/4	口縁部：端部に刻み目。面取り。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。内面中央撫で後ハケ。台部：体部に対し小さい。外に開く。内外面ハケ目調整。	
104	H—35—1 床直	甕 土師器	①[22.2] ② (4.4)	①細粒②良好 ③橙色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：やや外反。端部に刻み目。外面ハケ目調整。内面ハケ目調整後篦磨き。	
105	H—36—1 床直	小型甕 土師器	① 11.5 ② 11.5	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：締まりの弱い頸部から外傾気味に立ち上がる。横撫で。体部：肩位に最大径。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。底部：突出底。	
106	H—37—1 床直	甕 土師器	① 18.3 ② 26.8	①細粒②良好 ③灰褐色④ほぼ完形	口縁部：外傾。横撫で。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。内面中央撫で、上部、下部ハケ目調整。底部：突出底。	
107	H—38—1 床直	高坏 土師器	①[23.0] ② (7)	①細粒②良好 ③浅黄橙色④1/3	脚部欠損。坏部：腰部に段を有し大きく開く。端部横撫で。外面ハケ目調整後篦磨き。内面篦磨き。	
108	H—40—1 埋土	高坏 土師器	①[17.7] ② (8.8)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	坏部：下部に段を有し、そこから大きく外反。4孔穿孔。脚部：下半欠損。柱状に伸び、裾が開くと思われる。4孔穿孔。	
109	H—40—2 床直	高坏 土師器	① — ② (3.1)	①細粒②良好 ③橙色④1/3	坏部欠損。脚部：低く大きく開く。4孔残存。6孔単位か。外面篦磨き、撫で。	
110	H—41—1 床直	高坏 土師器	① 13.0 ② (4.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	脚部欠損。全面に塗彩。坏部：腰部に段を持ち外へ開く。内外面篦磨き。脚接合部小さい。	
111	H—42—1 床直	鉢 土師器	① 11.5 ② 3.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④4/5	口縁部：横撫で。体部：小さな底部から大きく開く。外面ハケ目調整。内面撫で。底部：上げ底気味の平底。	
112	H—43—1 床直	小型器台 土師器	① 9.6 ② 8.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④完形	器受部：端部横撫で。外面ハケ目調整後篦磨き。内面篦磨き。脚部：接合部から直接裾に向かって内湾気味に開く。4孔穿孔。内外面ハケ目調整後篦磨き。	
113	H—43—2 床直	小型器台 土師器	① 8.0 ② 8.5	①細粒②良好 ③明黄褐色④完形	器受部：端部横撫で。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。脚部：接合部から直接裾に向かって内湾気味に開く。4孔穿孔。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。	
114	H—43—3 床直	小型器台 土師器	① 8.9 ② 8.8	①細粒②良好 ③浅黄橙色④完形	器受部：端部横撫で。内外面ハケ目調整後篦磨き。脚部：接合部から直接裾に向かって内湾気味に開く。4孔穿孔。外面ハケ目調整後下半に篦磨き。内面ハケ目調整、下端に撫で。	
115	H—43—4 床直	高坏 土師器	① 18.4 ② 12.0	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	坏部：椀型。端部横撫で。内外面ハケ目調整後篦磨き。脚部：接合部から直接裾に向かって八の字状に開く。3孔穿孔。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。	
116	H—43—5 床直	甑 土師器	①[16.4] ② 5.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	口縁部：折り返し口縁。外面指頭押圧後弱い横撫で。体部：底部から直線的に大きく開く。内外面ハケ目調整後篦磨き。底部：中央に内面から1孔穿孔。	
117	H—43—6 床直	壺 土師器	① — ②(23.0)	①細粒②良好 ③赤色④口縁部欠損	口縁部欠損。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後篦磨き。内面ハケ目調整。底部：突出底。中央部欠損。焼成後に穿孔の可能性もあり。	
118	H—43—7 床直	甕 土師器	① 11.6 ② 15.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	口縁部：外傾する。注口が片側に付く。横撫で。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後篦磨き。内面撫で。底部：突出底。	
119	H—43—8 床直	台付甕 土師器	① 15.6 ② 24.5	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	口縁部：くの字状を呈す。端部横撫で。体部：肩位に最大径を持ち、やや胴長。外面ハケ目調整。内面篦削り後撫で。台部：外へ開く。内外面ハケ目調整。	
120	H—44—1 床直	高坏 土師器	① — ② (5.5)	①細粒②良好 ③橙色④坏部欠損	坏部欠損。脚部：裾に向かって八の字状に大きく開く。外面篦磨き。内面ハケ目調整後撫で。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。
②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 6　五代中原III遺跡石製品観察表

No.	出土位置	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備　考
1	H－8	石製模造品（勾玉）	2.4	1.3	0.5	2.2	滑石	一部欠損
2	H－34	紡錘車	(2.5)	(2.5)	1.2	10.8	滑石	3／4残存
3	H－42	耳環	(4.3)	(1.8)	0.8	5.6	滑石	1／2残存

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

Tab. 7　五代中原III遺跡土製品観察表

No.	出土位置	器　種	長さ	幅	厚さ	備　考
1	H－33	紡錘車	6.2	6.1	1.7	完形
2	H－34	紡錘車	5.6	5.4	1.1	完形

注）長さ・幅・厚さの単位はcmである。現存値を（　　）で示した。

2 考　　察

今回の調査の結果、五代中原III遺跡では、竪穴住居跡45軒、土坑55基、柱穴57基を検出した。検出された住居跡は、すべて竈を伴わず、住居形態や出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。ここでは、まず本遺跡の遺構・遺物について概観し、次に、本遺跡と連続する五代中原II遺跡（平成14年度調査）とあわせて両遺跡の時期等について考えたい。そして、最後に当遺跡を含む赤城南麓地域の古墳時代前期の様相について考察していきたい。

(1) 五代中原III遺跡の遺構と遺物について

検出された住居跡は45軒であるが、そのうち重複が見られたのは27軒で、半数以上が重なり合っていたことになる。これらの重複の内、一番多く重なりが見られたのはH—11・12・13号住居跡、H—35・36・37住居跡の3軒重複であった。3軒が同時期に存在することは考えにくい。したがって本遺跡には少なくとも3時期以上に渡って住居が営まれていたことが推測される。そこで、本遺跡の住居跡を大まかに分類してみると、やはり3時期から4時期に分けることができるようである。

まず、古い段階（1段階）では、住居の施設として間仕切りやベッド状遺構が伴い、大型土坑を持つものも見られる。主軸方向はややまちまちである。土器では、小型器台で脚部が器受部より大きく内湾気味に開くもの(H—43—1、2、3）や椀型高坏（H—43—4）が見られる。北陸系の影響を受けた高坏（H—40—1）も見られる。甕は口唇部に刻み目を残すものがある。樽系の破片が少量混ざる。中段階（2段階）では住居の主軸方向がまとまる傾向を見せる。小型器台は脚が接合部から直接大きく開くものが出てくる。坏部の深い有段高坏(H—1—5、H—10—1）や、小型精製土器が見られる。台付甕は「く」の字甕で、台部の接合面が小さめで、口唇部の押さえがしっかり施され、丁寧なつくりである（H—1—17、H—34—2)。新しい段階（3段階）になると住居の主軸方向はほぼ一定となる。台付甕の台部接合部が広くなり、壺や甕の底部が小さめになる。新しい段階以降（4段階）になると、住居の施設に間仕切りやベッド状遺構は見られなくなり、柱状の脚部が付くと思われる高坏が出現してくる。軒数はぐっと減る。このように4時期に区分できそうであるが、全体を通じ時間幅はあまり広くないものと思われる。

今回の調査で特筆されるのはH—1号住居跡である。この住居跡からはほぼ完形の土器を含め多数の土器が一括して出土した（Fig. 5)。主なものは、小型土器（ミニチュア土器)・小型器台・鉢・甑・壺・甕・台付甕で、当該期の土器の主な器種を網羅する形となっている。台付甕は3個体がほぼ完形で出土し、大きさが3個体とも異なる。この住居跡からは炭化材や焼土が検出されており、その検出されたレベルが床面より少し高い位置にあるので、住居廃絶後少し時間をおいてから焼失したものと思われる。炭の直上の覆土にはAs—C軽石（供給火山・浅間山、4世紀前半〜中葉）に混ざって多量の砂が見られた。As—C軽石は比較的細かく、周辺の地表に堆積した軽石混ざりの土が流れ込んだ状況がうかがえる。床面上にAs—C軽石粒子がほとんど見られないことから、H—1号住居跡はAs—C軽石降下後の住居の可能性が高い。このH—1号住居跡は、上記の時期の分類では2段階に属するものと考えられる。そのことから、2段階の住居跡はAs—C軽石降下後のものである可能性が高いと思われる。

出土土器全体の傾向として、台付甕にS字口縁のものは少なく「く」の字甕が主流であること、在地の樽式土器の他に南関東の吉ヶ谷式系の土器と思われる破片も見られることなどがあげられる。樽式系、赤井戸式・吉ヶ谷式系の系譜に属する、在地系を主体としながら外来系の土器を受容していく様相を見てとることができる。これらの土器の中には、荒砥上ノ坊遺跡I・荒砥前原遺跡・中屋敷I遺跡や、粕川村西迎遺跡などとの関連が認め

られる土器も多いことから、利根川以東の平地部を中心に分布を持つ系譜に属するものと推察される。県内において、本遺跡と近い時期の土器が出土している高崎市の下佐野遺跡や新保遺跡など、井野川流域のＳ字甕を多く持つ遺跡とは多少様相が異なるようである。南関東系の影響を示す土器や、北陸系の影響を受けたと思われる土器も出土しており、様々な地域から土器文化が流入してきた様子が読みとれる。

また、本遺跡では住居ごとの遺物量に偏りが見られ、Ｈ－１・25・43号住居跡などでは良好な資料が大量に検出されたが、逆に住居の規模の割に遺物数が少ないところも見られた。こうした住居跡の中には、覆土中に多量のロームブロックを含み、一気に埋まった様相を示すものもある。Ｈ－25・26号住居跡は重複しており、Ｈ－25住居跡がＨ－26号住居跡を切って造られている。Ｈ－26号住居跡は覆土にロームブロックを多量に含み、遺物は破片資料ばかりなのに対し、Ｈ－25号住居跡は完形に近いものを含めた土器が多量に出土し、覆土もレンズ状に堆積していた。このことから、Ｈ－25号住居跡はＨ－26号住居跡を意図的に埋め戻して造られた可能性もある。また、本遺跡では焼失住居と思われるものが６軒検出された。Ｈ－16号住居跡では住居中央の炭化材の上に焼土が乗った状態で検出され、土乗せ屋根を持つ上屋構造が想定される。埋土にロームブロックを多く含む住居跡や焼失住居は１段階と２段階に集中している。古い時期の住居は意図的に廃棄された可能性もあり、厳しい社会情勢や自然環境の中で変化をとげる集落の様子が推察される。

(2) 五代中原Ⅱ遺跡・五代中原Ⅲ遺跡

五代中原Ⅱ遺跡・五代中原Ⅲ遺跡は調査年度は異なるが同じ台地上に連続しており、遺構の時期も近いことからひとつの遺跡と考えてもよいだろう。五代中原Ⅱ遺跡が6,000㎡、その北側に五代中原Ⅲ遺跡が約2,500㎡、あわせて約8,500㎡で、南北に長い調査区となる。この２遺跡の位置する台地は南に向かって緩やかに下がっており、一番高いところ（中原Ⅲ遺跡の北辺）と一番低いところ（中原Ⅱ遺跡の南辺）の比高差は５ｍほどである。

五代中原Ⅱ遺跡で検出された土師器を伴う住居跡は39軒で、うち竈を伴うものは１軒であった。中原Ⅱ遺跡の住居跡は北側、すなわち中原Ⅲ遺跡と接するあたりほど密度が濃く、南へ下るとまばらになる。竈の付いた住居跡は最も南側に位置している。中原Ⅱ遺跡の住居跡の内、重複しているのは６軒である。中原Ⅱ遺跡に比べ、中原Ⅲ遺跡は住居跡の密度が非常に濃く、この台地上では北に集落の中枢があったと見られる。

ここで２遺跡の遺構と遺物の傾向を比較してみたい。まず、中原Ⅱ遺跡の住居跡も、土器や遺構の形態から大きく４時期に分類できそうである。上記の中原Ⅲ遺跡の分類とほぼ重なるが、住居の軒数は中原Ⅲ遺跡と比べ後半に多くなる傾向が見られる。

Tab. 8　住居跡の時期と軒数

	五代中原Ⅱ遺跡		五代中原Ⅲ遺跡	
１段階（古い段階）	Ｈ－２、15、16、23、33	５軒	Ｈ－４、６、16、24、26、28、29、31、32、33、35、40、43	13軒
２段階（中段階）	Ｈ－１、５、７、21、27、28、29	７軒	Ｈ－１、５、７、９、10、15、17、19、23、30、34	11軒
３段階（新しい段階）	Ｈ－９、12、14、18、19、24、25	７軒	Ｈ－２、３、８、12、13、18、22、25、27、37、44	11軒
４段階（３段階以降）	Ｈ－３、13、22、26、30、(11、39)	５軒 (７軒)	Ｈ－36、38、41、42	４軒

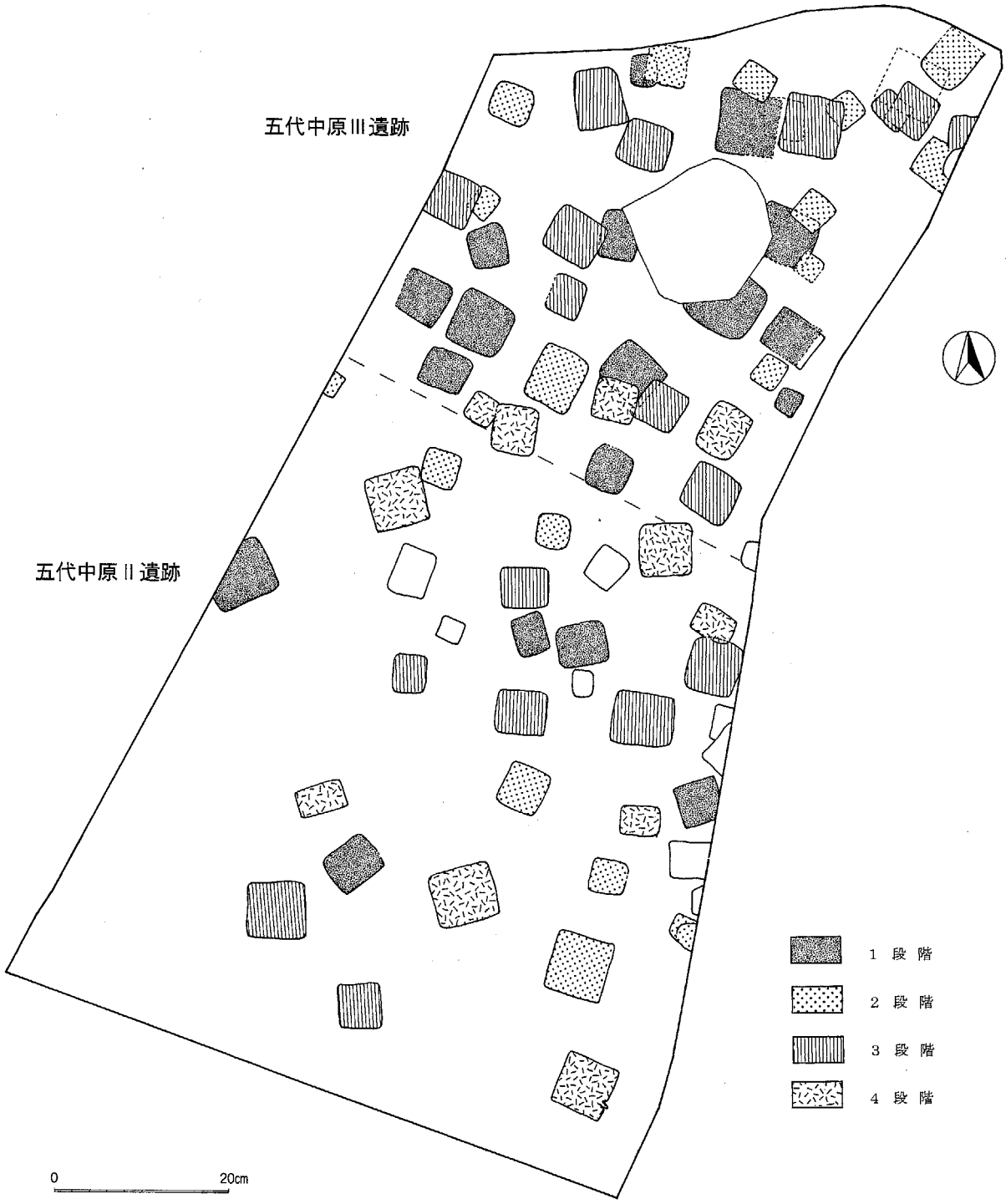


Fig. 4　五代中原II・III遺跡住居跡時期別分布図

中原II遺跡の4段階にはさらにもう一段階新しくなる可能性のあるH—11、39住居跡がある。H—39住居跡は中原II・III遺跡を通じて唯一竈が付く住居跡である。

中原II・III遺跡の住居跡の時期ごとの分布を見てみたい（Fig. 4）。1段階は住居跡が北に集中する傾向がうかがえる。2段階になると分布の広がりが南に下がってきて、3段階になるとさらに全体に拡散する。4段階になると住居数が減り、分布が南寄りになる。中原II・III遺跡の住居の変遷は、中原III遺跡から始まってだんだん周囲へと拡散していく様子がうかがえよう。住居の営まれた時期の中心は1～3段階と思われる。

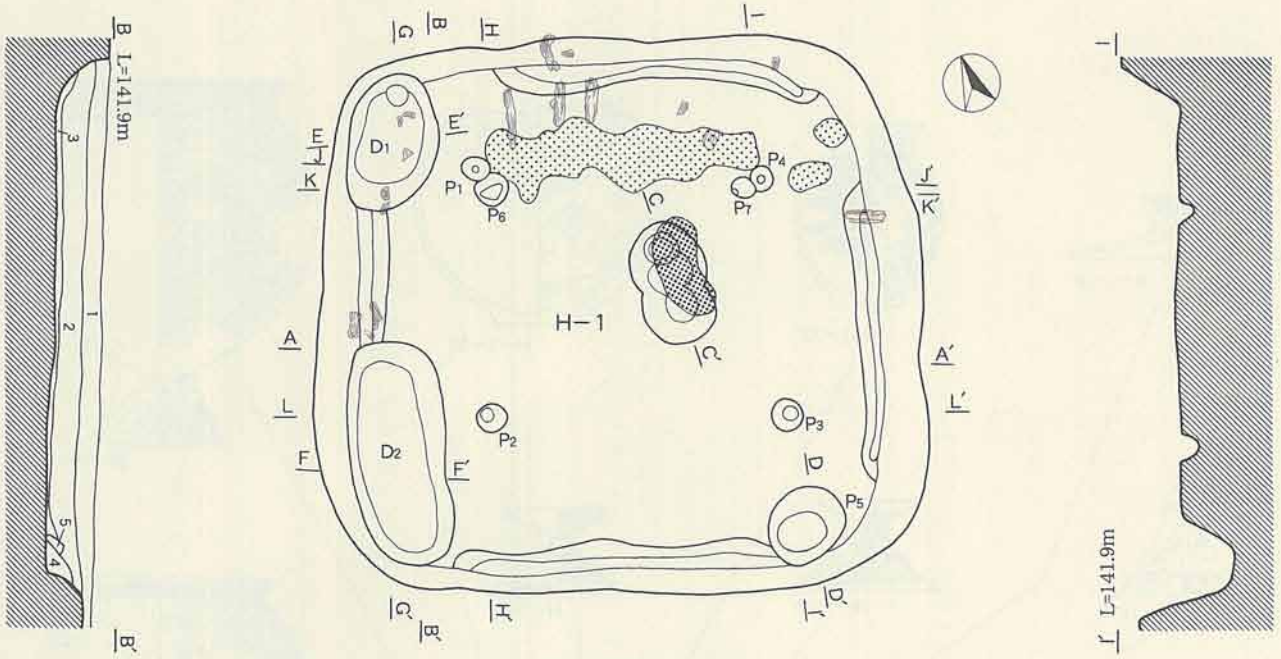
1・2段階の一群には弥生系の樽式系の土器の破片が含まれるが、ごく少量で、3段階になると見られなくなってくる。4段階の終わりになると竈が出現する。（1）で述べたように2段階に属すると考えられる中原III遺跡のH—1号住居跡は、As—C軽石降下後の住居跡と考えられる。したがって中原II・III遺跡の住居群の営まれた時期は、樽式土器の減少する頃・As—C軽石降下後・竈出現前、すなわち4世紀中頃から5世紀初頭にかけてと考えられるのではないか。

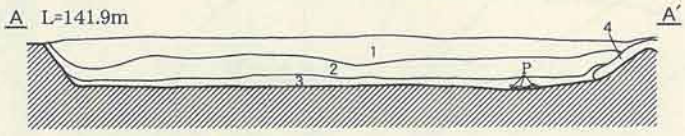
(3) 当該地における古墳時代前期の様相

本遺跡の北側には、昭和51～55年度にかけて調査が行われた芳賀東部団地遺跡が位置している。芳賀東部団地遺跡では縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺構が多数検出されているが、本遺跡と大正用水を挟んで接している調査区（芳賀東部団地遺跡の南端部分）では、古墳時代前期の住居跡が71軒検出されている。それらの住居跡に重複はあまり見られず、重複しているのは4軒のみである。土器の様子も近似しており、大正用水が建設される前、すなわち古墳時代前期には、芳賀東部団地遺跡のこれらの住居群と五代中原II遺跡・III遺跡の住居群は一連のものであったと考えられる。調査区が上武道路建設予定地で分断されているためはっきりとしないが、芳賀東部団地遺跡の古墳時代前期の住居群は、分布状況から大きく北と南に分けられるようであり、南側の一群が五代中原II・III遺跡と連続している。南側の一群と五代中原II・III遺跡をあわせた部分は、赤城南面特有の開析谷に挟まれた小舌状台地上に展開される集落であったと考えられ、範囲は南北約250m、東西約60m、住居数は合計104軒である。北側の一群はそれとは異なる台地上に所在し、南北約100m、東西約200mの範囲内に51軒の住居跡が検出されている。

ここで五代中原II・III遺跡・芳賀東部団地遺跡の住居跡の分布状況を見てみると、五代中原III遺跡で住居跡の重複の割合が最も高く、時期は上記の分類の1段階から3段階にかけてのものが中心である。五代中原III遺跡と同じ台地上に乗る芳賀東部団地遺跡の南側の住居群や五代中原II遺跡では、住居の重なりは少なく、時期は2段階から3・4段階にかけてのものが多い。さらに、芳賀東部団地遺跡の北側の住居群は比較的広い範囲内に住居がやや拡散した状態で営まれており、時期は3～4段階を中心としていて、支群的な要素が強い。このことから、当該地の集落は五代中原III遺跡を中心にして営まれ始め、時間を経るに従って周辺へと集落が拡散し、次第に中心は周辺部へ推移していったことが推測される。また、この3遺跡の住居群は台地上に立地しており、すぐ脇には開析谷の低地が広がる。具体的な遺構等は検出されていないが、この低地が集落の生産域であった可能性を指摘できよう。

これらの3遺跡の当該期の住居群の共通した特徴として、それ以降の時代の住居跡の重複が見られず、集落が終焉してしまうことがあげられる。その原因として、地形の変化が背景としてあったものと考えられる。特に東側の谷の開析の進度が速く、居住域との比高が拡大する中で、より南部の比高差の少ない地点に集落を移動したことも考えられる。



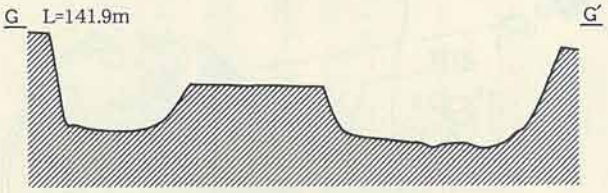


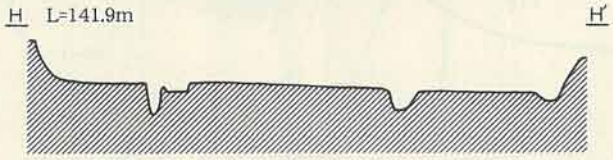
H−1号住居跡　ベルトセクション

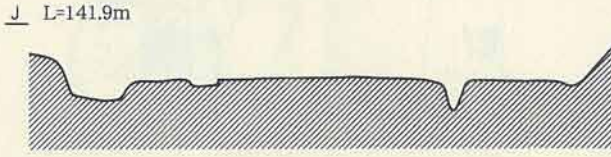
1	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。
2	暗褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。炭化物、ロームブロック。
3	暗褐色細砂層	○○ ローム粒、ロームブロック、焼土粒。As-C軽石少量。
4	褐色細砂層	○○ ロームブロック多量。
5	黒色細砂層	△○ 炭化物ブロック。

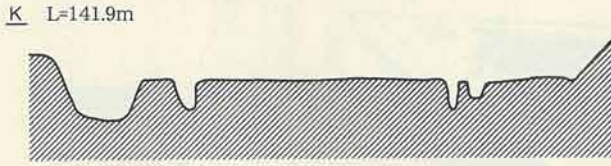
H−1号住居跡柱穴計測表

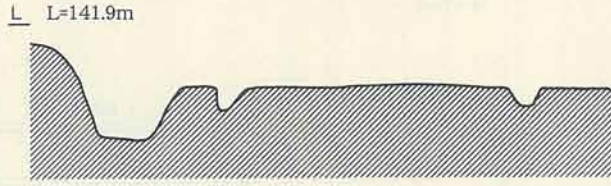
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	20	19	26.5	
P_2	円　形	22	22	17	
P_3	円　形	24	26	14	
P_4	円　形	19	18	15	
P_5	楕円形	65	53	41.5	貯蔵穴
P_6	円　形	24	23	8.5	
P_7	円　形	19	17	25.5	
D_1	楕円形	110	72	37	
D_2	楕円形	175	73	41.5	

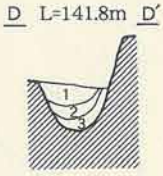






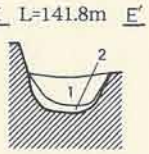






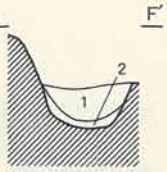
H−1号住居跡　D_1号土坑セクション

1	暗褐色細砂層	×○ ロームブロック多量。炭化物。
2	褐色細砂層	×○ ローム粒多量。ロームブロック。



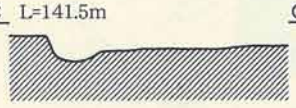
H−1号住居跡　D_2号土坑セクション

1	暗褐色細砂層	×○ ロームブロック多量。炭化物。軽石少量。
2	褐色細砂層	×○ ローム粒多量。ロームブロック。



H−1号住居跡　P_5号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	×○ 炭化物、ローム粒。As-C軽石少量。
2	黒褐色細砂層	×○ 炭化物多量。焼土粒、ローム粒。As-C軽石極少。
3	暗褐色細砂層	×○ ローム粒多量。



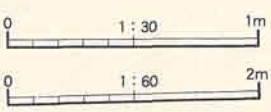


Fig. 5　H−1号住居跡

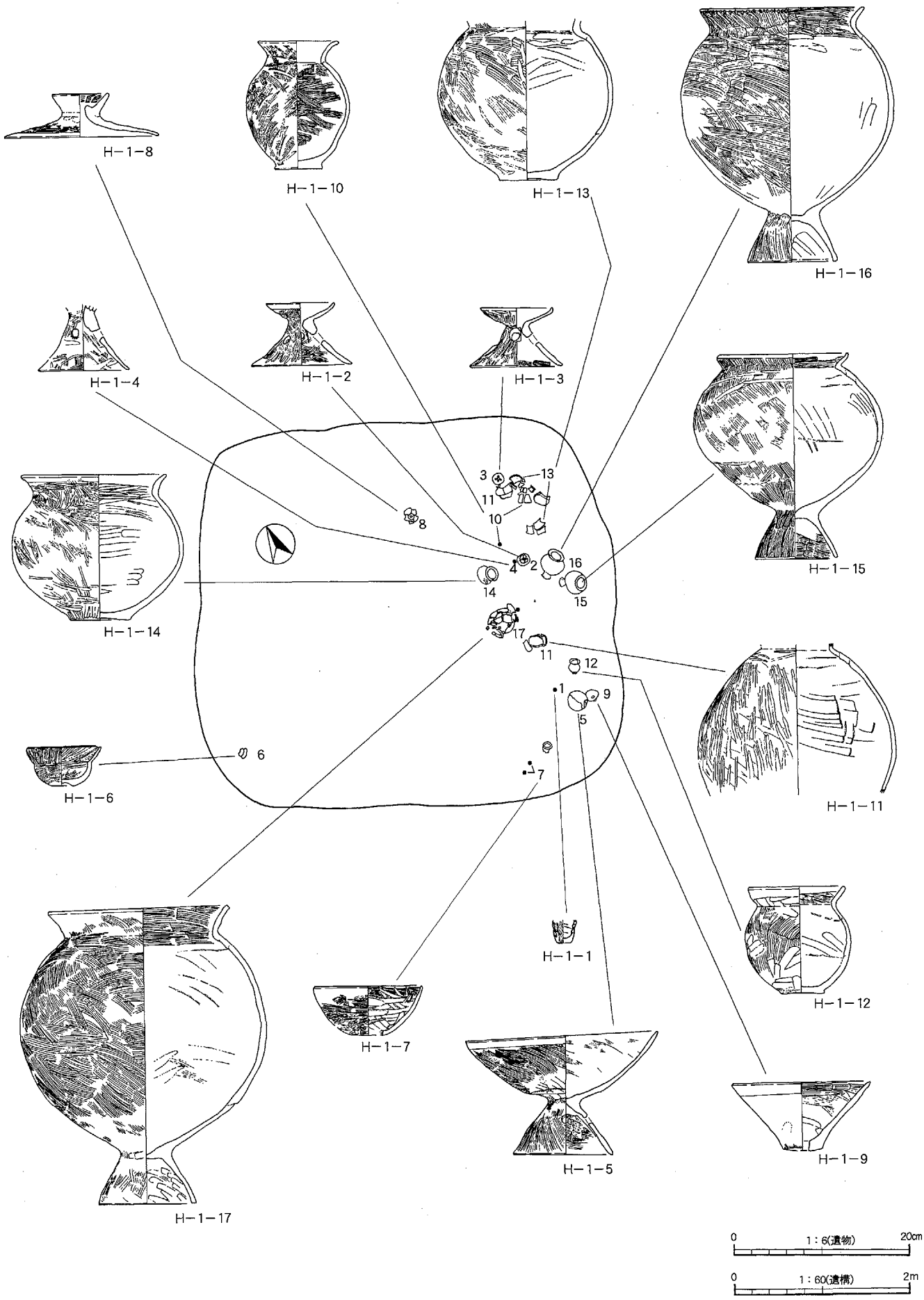
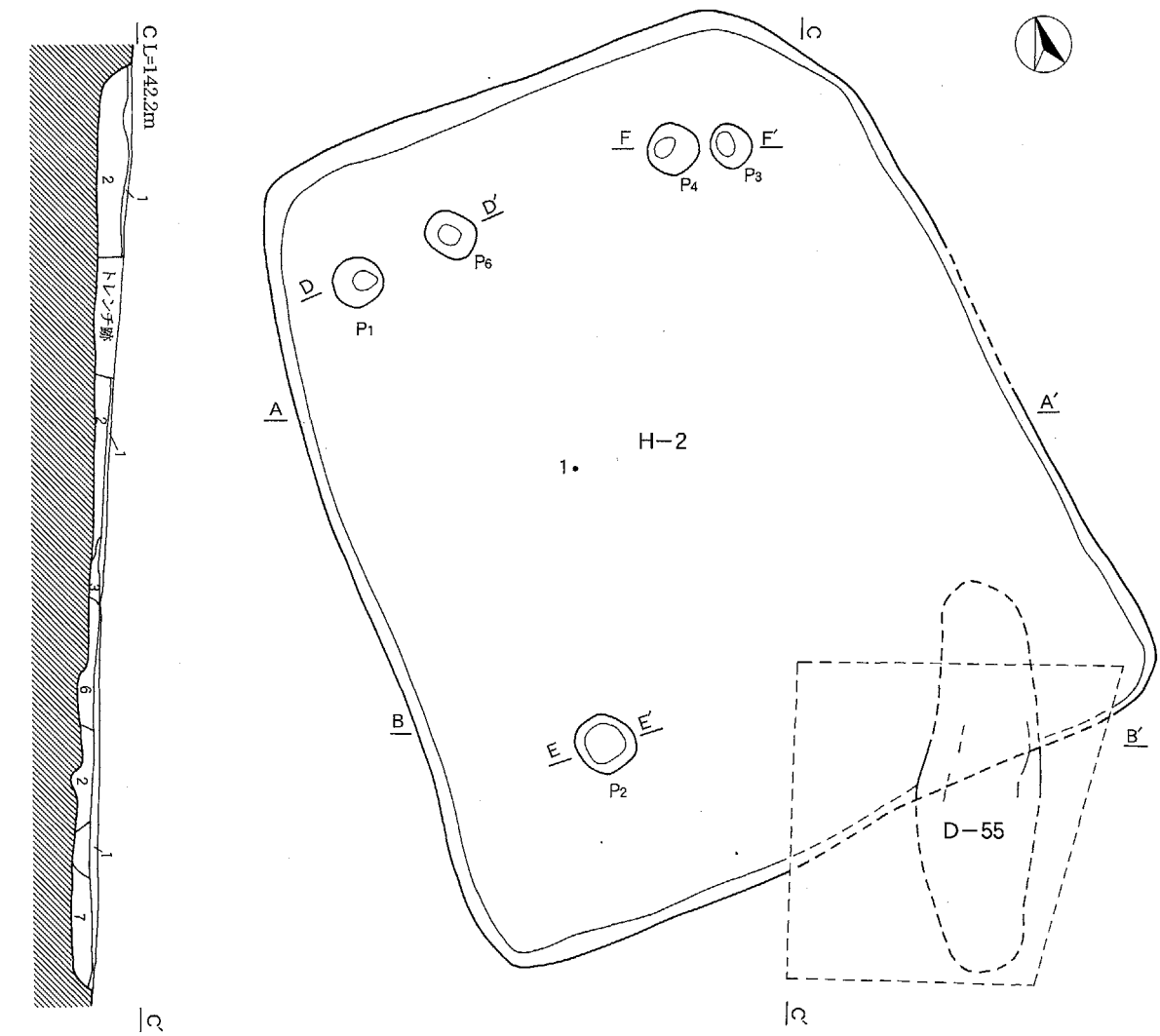
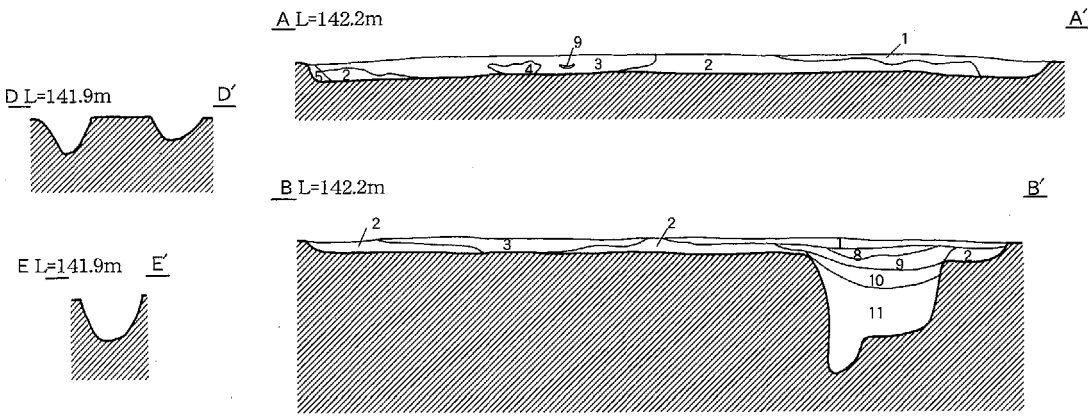
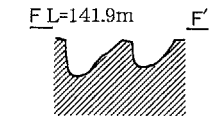


Fig. 6　H－1号住居跡遺物出土状態







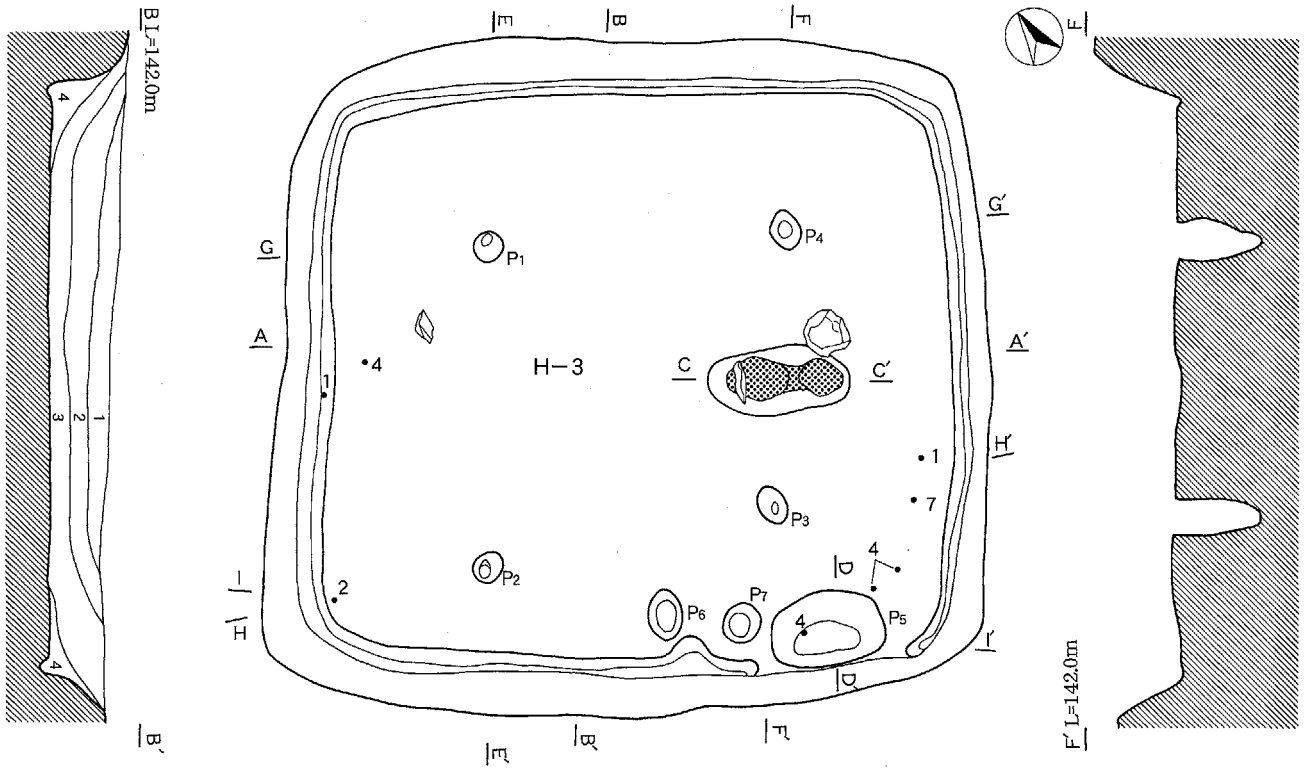
H−2号住居跡柱穴計測表

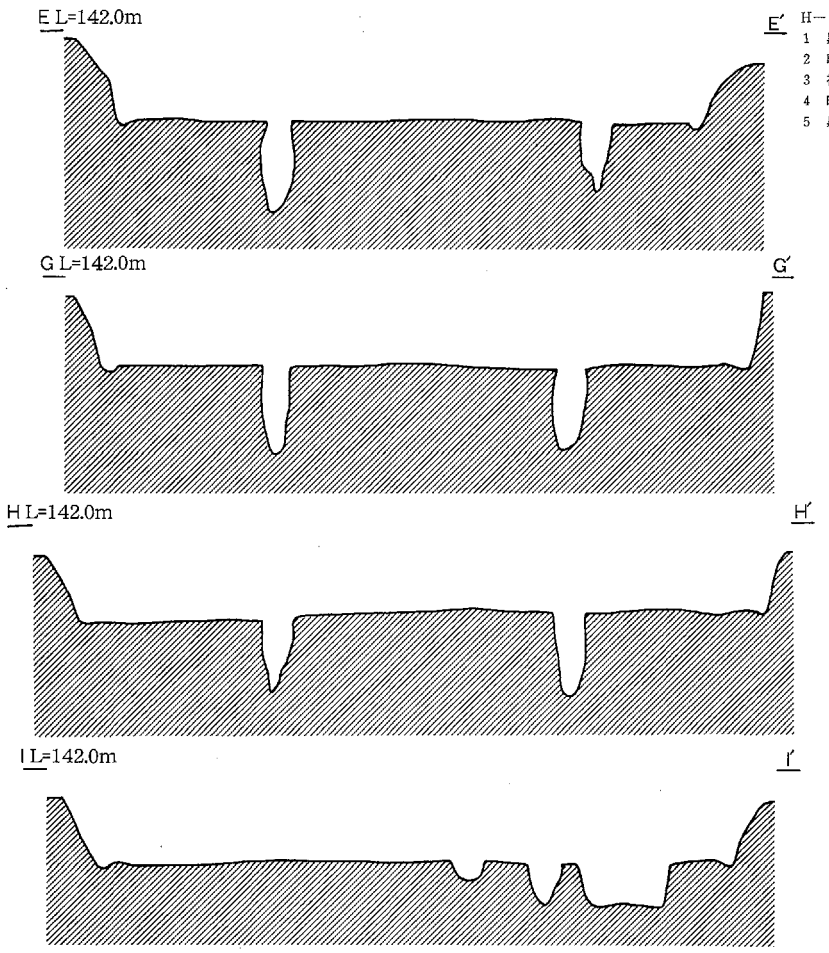
No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
P_1	円形	45	41	28	
P_2	円形	50	49	32.5	
P_3	円形	36	36	19.5	
P_4	円形	43	42	29	
P_6	円形	44	40	17	

H−2号住居跡		ベルトセクション
1	黒褐色細砂層	◎△ As-C軽石、ローム粒多量。
2	暗褐色細砂層	○○ As-C軽石少量。焼土粒極少。
3	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。
4	褐色細砂層	△○ 焼土ブロック多量。As-C軽石。
5	暗褐色細砂層	○○
6	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石、焼土粒少量。
7	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石、炭化物、焼土、ローム粒少量。
8	黒色細砂層	◎○ Hr−FP軽石、ロームブロック。
9	暗褐色細砂層	◎○ ロームブロック多量。Hr−FP軽石。
10	暗褐色細砂層	△○ ローム粒多量。ロームブロック、炭化物。Hr−FP軽石極少。
11	褐色細砂層	△○ ロームブロック、ローム粒多量。炭化物。

0 1:60 2m

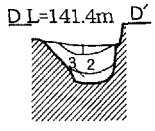
Fig. 7　H−2号住居跡





H−3号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○　As-C軽石多量。
2	暗褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物。
3	褐色細砂層	△○　ロームブロック多量。炭化物、焼土粒。As-C軽石少量。
4	暗褐色細砂層	△○　ローム粒。As-C軽石少量。
5	黒色細砂層	○○　ローム粒、As-C軽石、焼土粒。



H−3号住居跡　P_5号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	○◎　ローム粒少量。
2	黒褐色細砂層	○◎　ロームブロック、白色軽石少量。
3	黒褐色細砂層	◎◎　ロームブロック極少。

H−3号住居跡柱穴計測表

№	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	円　形	25	24	70	
P_2	円　形	25	22	41	
P_3	楕円形	31	24	67.5	
P_4	楕円形	33	25	66.5	
P_5	楕円形	91	62	35	貯蔵穴
P_6	円　形	32	30	25	
P_7	楕円形	41	28	15	

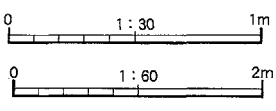
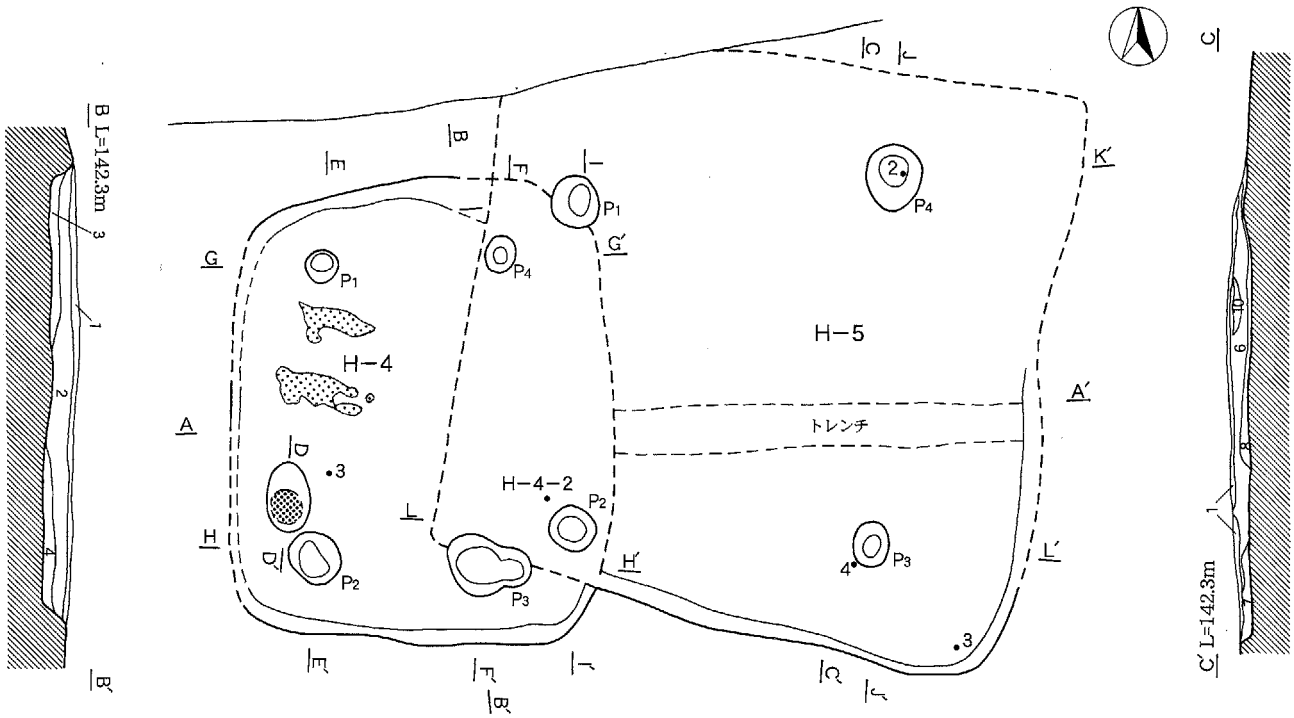
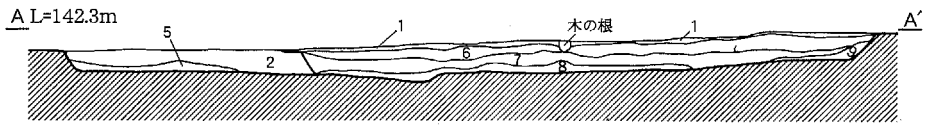
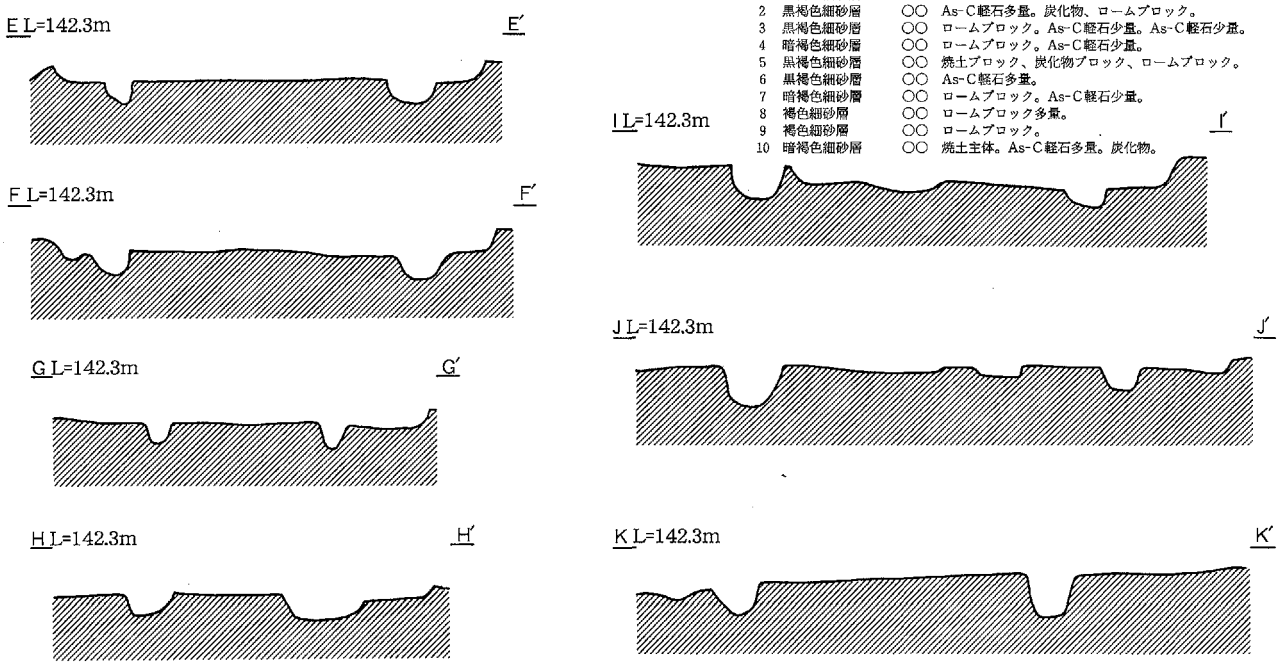


Fig. 8　H−3号住居跡





H−4・5号住居跡		ベルトセクション
1	黒褐色細砂層	◎× 客土。
2	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。炭化物、ロームブロック。
3	黒褐色細砂層	○○ ロームブロック。As-C軽石少量。As-C軽石少量。
4	暗褐色細砂層	○○ ロームブロック。As-C軽石少量。
5	黒褐色細砂層	○○ 焼土ブロック、炭化物ブロック、ロームブロック。
6	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。
7	暗褐色細砂層	○○ ロームブロック。As-C軽石少量。
8	褐色細砂層	○○ ロームブロック多量。
9	褐色細砂層	○○ ロームブロック。
10	暗褐色細砂層	○○ 焼土主体。As-C軽石多量。炭化物。



H−4号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	円形	30	28	16	
P_2	円形	44	40	23	
P_3	不整形	70	30	21	
P_4	円形	30	25	19.5	

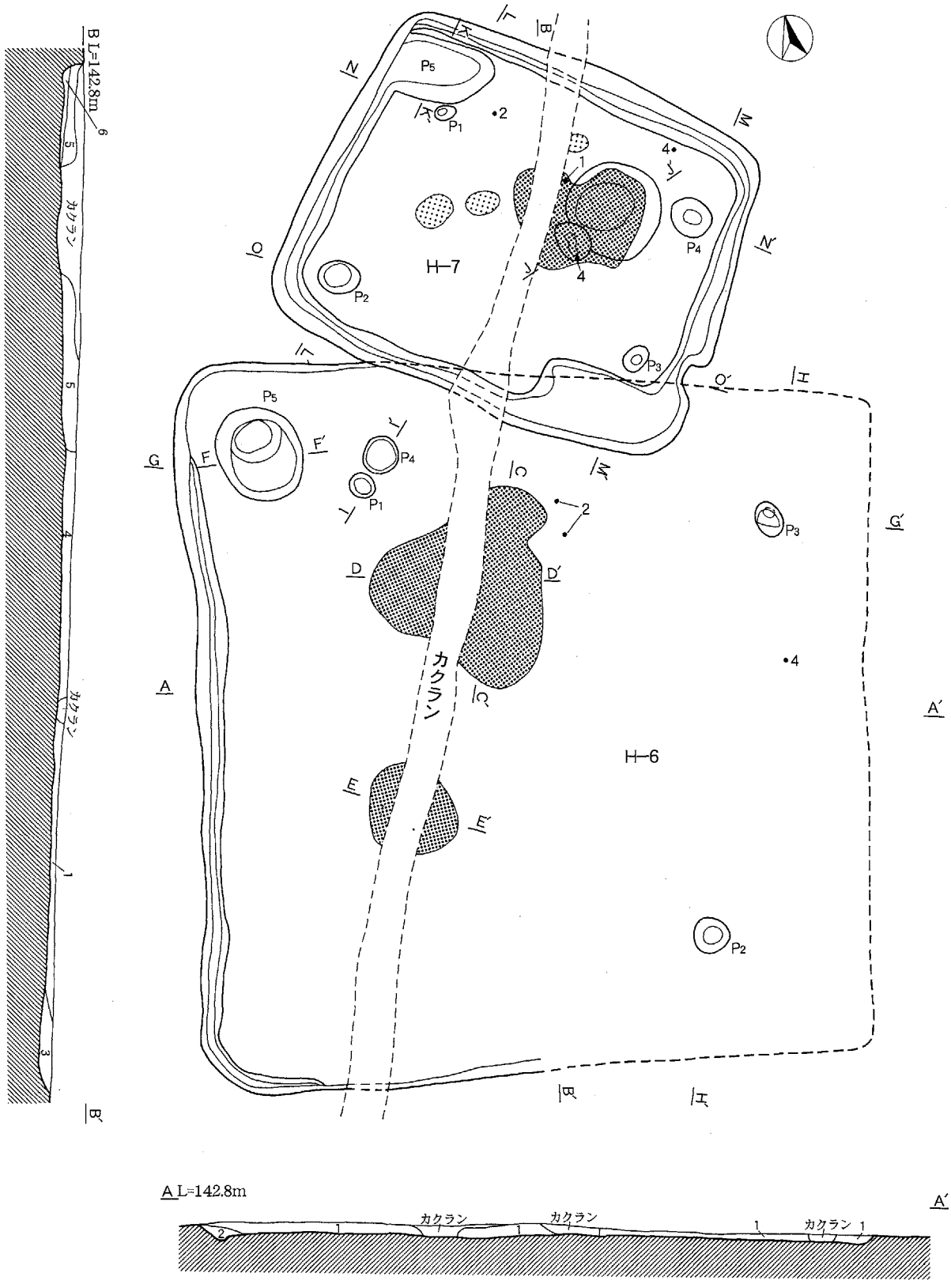
H−5号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	円形	42	40	26.5	
P_2	円形	38	38	16	
P_3	楕円形	38	28	19	
P_4	楕円形	52	42	33	

0 1:30 1m

0 1:60 2m

Fig. 9 H−4・5号住居跡

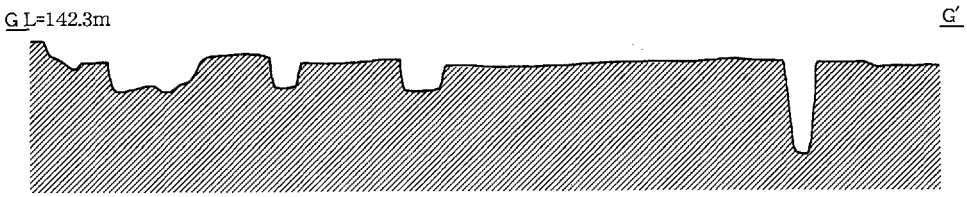


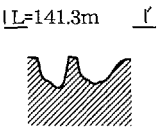
H—6・7号住居跡　ベルトセクション

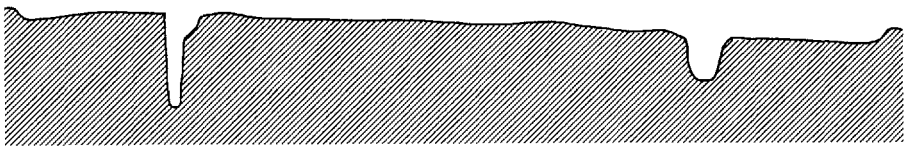
1	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック。
2	黒褐色細砂層	○○	軽石、ロームブロック。
3	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック。
4	黒褐色細砂層	○○	軽石多量。ロームブロック、焼土粒少量。
5	暗褐色細砂層	△○	軽石、ロームブロック。
6	褐色細砂層	△○	ロームブロック多量。

0　1:60　2m

Fig.10　H—6・7号住居跡

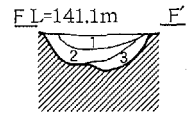


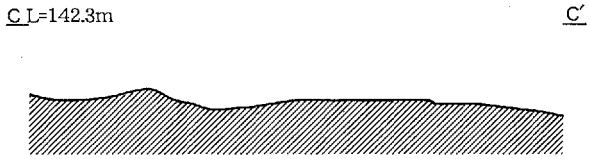




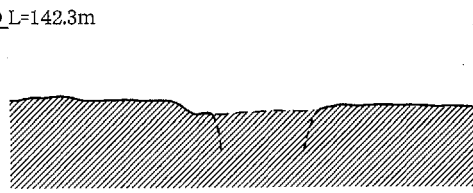
H－6号住居跡柱穴計測表

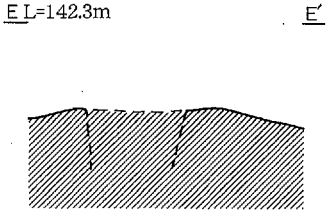
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	28	25	28.5	
P_2	円　形	35	35	37	
P_3	楕円形	48	27	73	
P_4	円　形	38	37	19	
P_5	楕円形	100	85	38.5	貯蔵穴

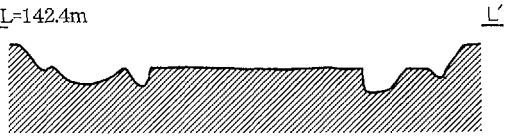


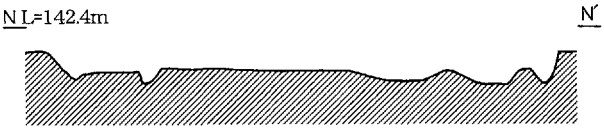


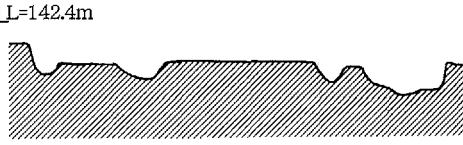
H－6号住居跡　　P_5号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△○　ローム粒。炭化物少量。軽石極少。
2　暗褐色細砂層　○○　ロームブロック、軽石。
3　暗褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。

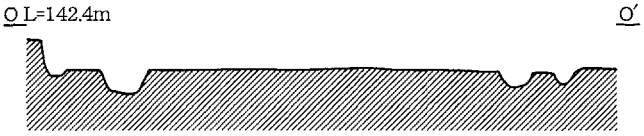






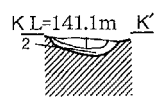






H－7号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	22	16	14	
P_2	楕円形	41	33	16	
P_3	楕円形	29	20	14.5	
P_4	楕円形	41	37	12.5	
P_5	楕円形	100	60	17.5	貯蔵穴



H－7号住居跡　　P_5号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。軽石少量。
2　褐色細砂層　△○　ローム主体。

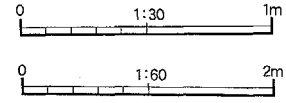
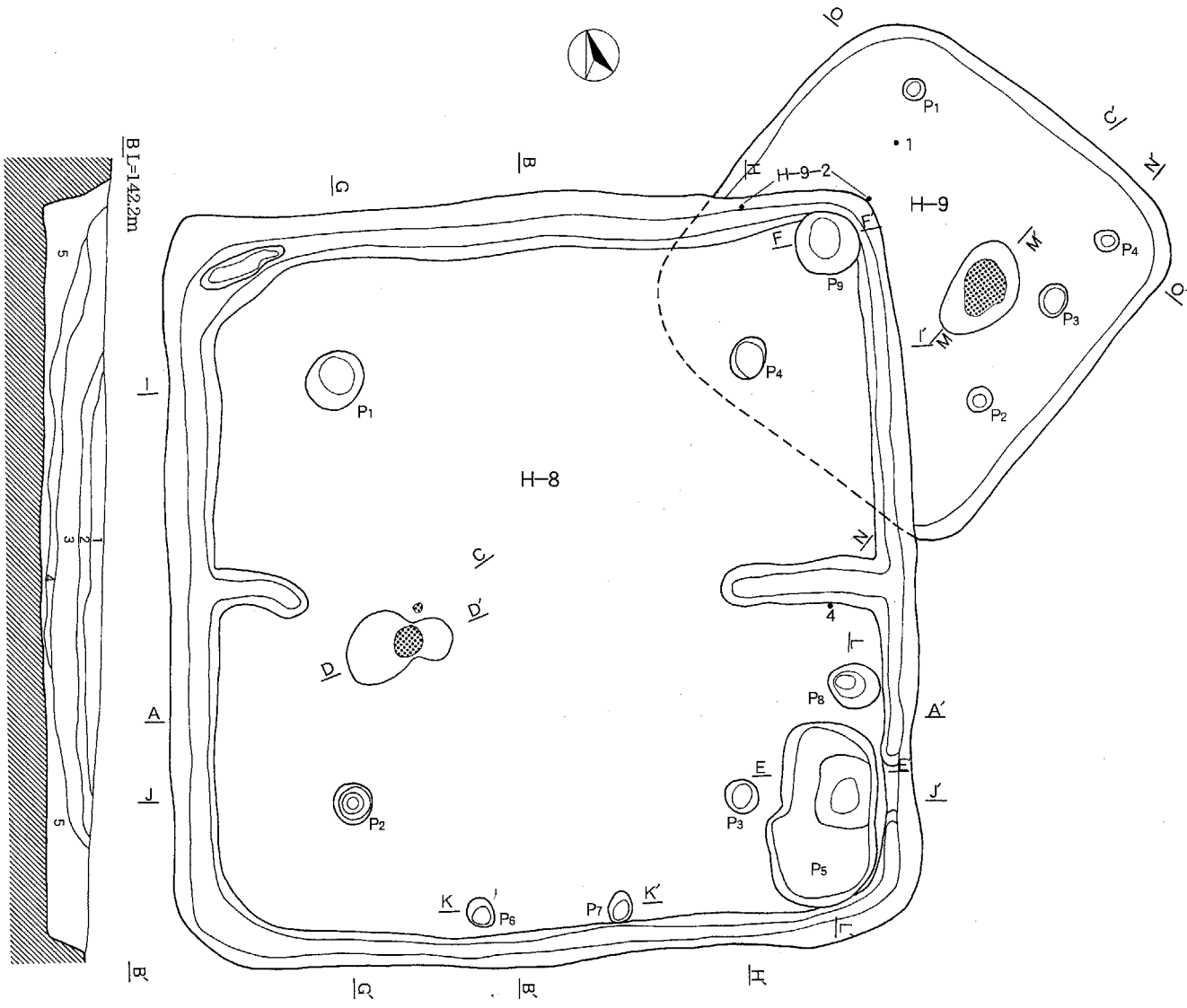


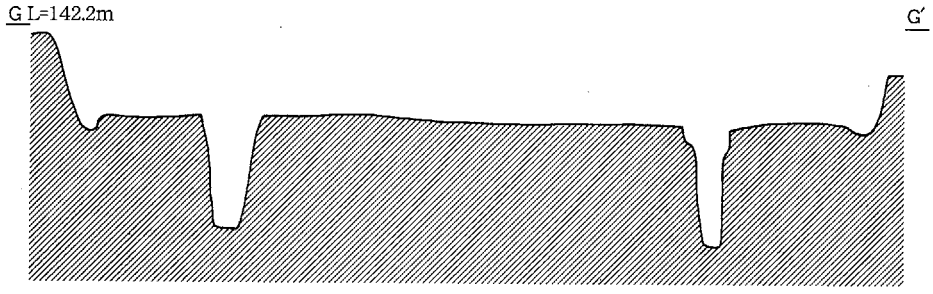
Fig.11　H－6・7号住居跡

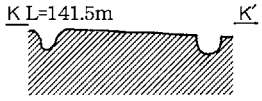


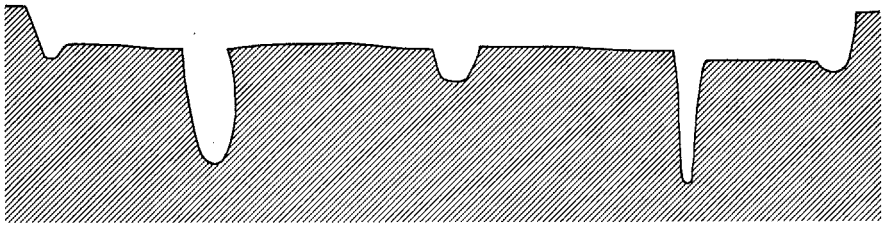
H—8・9号住居跡	ベルトセクション	
1	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP軽石多量。
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP軽石多量。ロームブロック多量。
3	暗褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP軽石多量。
4	黒色細砂層	△○ 焼土粒多量。As-C・Hr-FP軽石、ローム粒。
5	褐色細砂層	△○ ロームブロック・炭化物多量。焼土粒、As-C・Hr-FP軽石少量。
6	暗褐色細砂層	△○ ロームブロック多量。
7	暗褐色細砂層	○○ As-C軽石、ロームブロック多量。炭化物、焼土粒少量。
8	黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。ロームブロック。炭化物少量。
9	暗褐色細砂層	○○ As-C軽石・ロームブロック多量。炭化物少量。
10	黒褐色細砂層	△○ As-C軽石・ロームブロック多量。

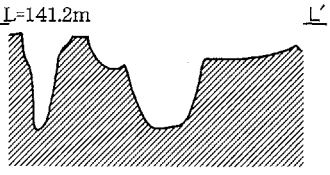
0 1:60 2m

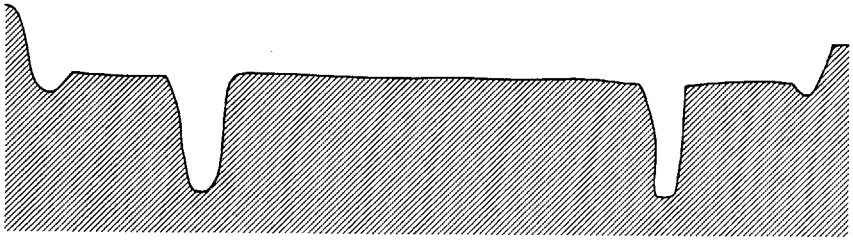
Fig.12 H—8・9号住居跡





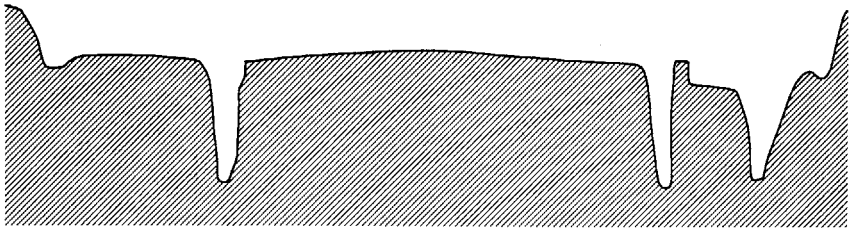


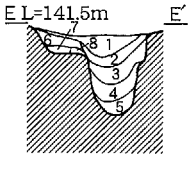




H－8号住居跡柱穴計測表

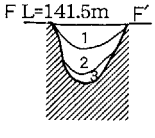
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	52	50	90	
P_2	円　形	27	25	93.5	
P_3	円　形	30	30	102.5	
P_4	楕円形	37	30	89	
P_5	楕円形	163	81	75.5	貯蔵穴
P_6	楕円形	29	23	16.5	
P_7	楕円形	27	20	14.5	
P_8	楕円形	47	39	76	
P_9	円　形	58	57	47	





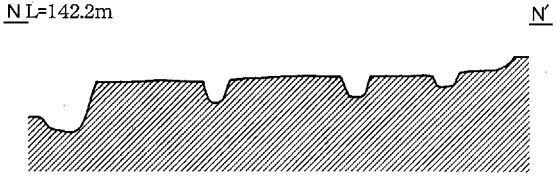
H－8号住居跡　　P_5号柱穴セクション

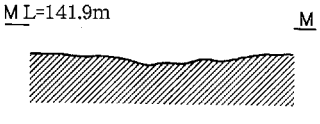
1	黒褐色細砂層	×○	ローム粒多量。As-C軽石極少。
2	暗褐色細砂層	×○	ローム粒多量。As-C軽石極少。
3	褐色細砂層	×○	ローム粒多量。
4	にぶい黄褐色細砂層	◎◎	粘土主体。ロームブロック。
5	灰黄褐色細砂層	◎◎	粘土主体。
6	褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。
7	黒褐色細砂層	△○	ロームブロック。
8	黄褐色細砂層	◎○	ローム主体。



H－8号住居跡　　P_6号柱穴セクション

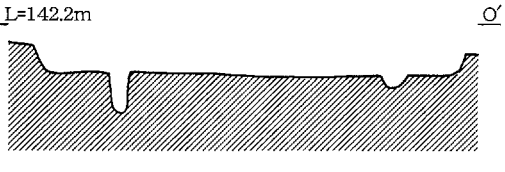
1	黒褐色細砂層	×○	ローム粒多量。ロームブロック。As-C軽石、炭化物少量。
2	暗褐色細砂層	×○	ローム粒多量。As-C軽石少量。
3	褐色細砂層	△○	As-C軽石少量。





H－9号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	20	19	33	
P_2	円　形	25	22	10	
P_3	楕円形	30	23	16	
P_4	円　形	22	20	9.5	



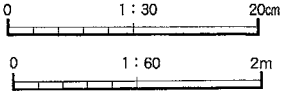
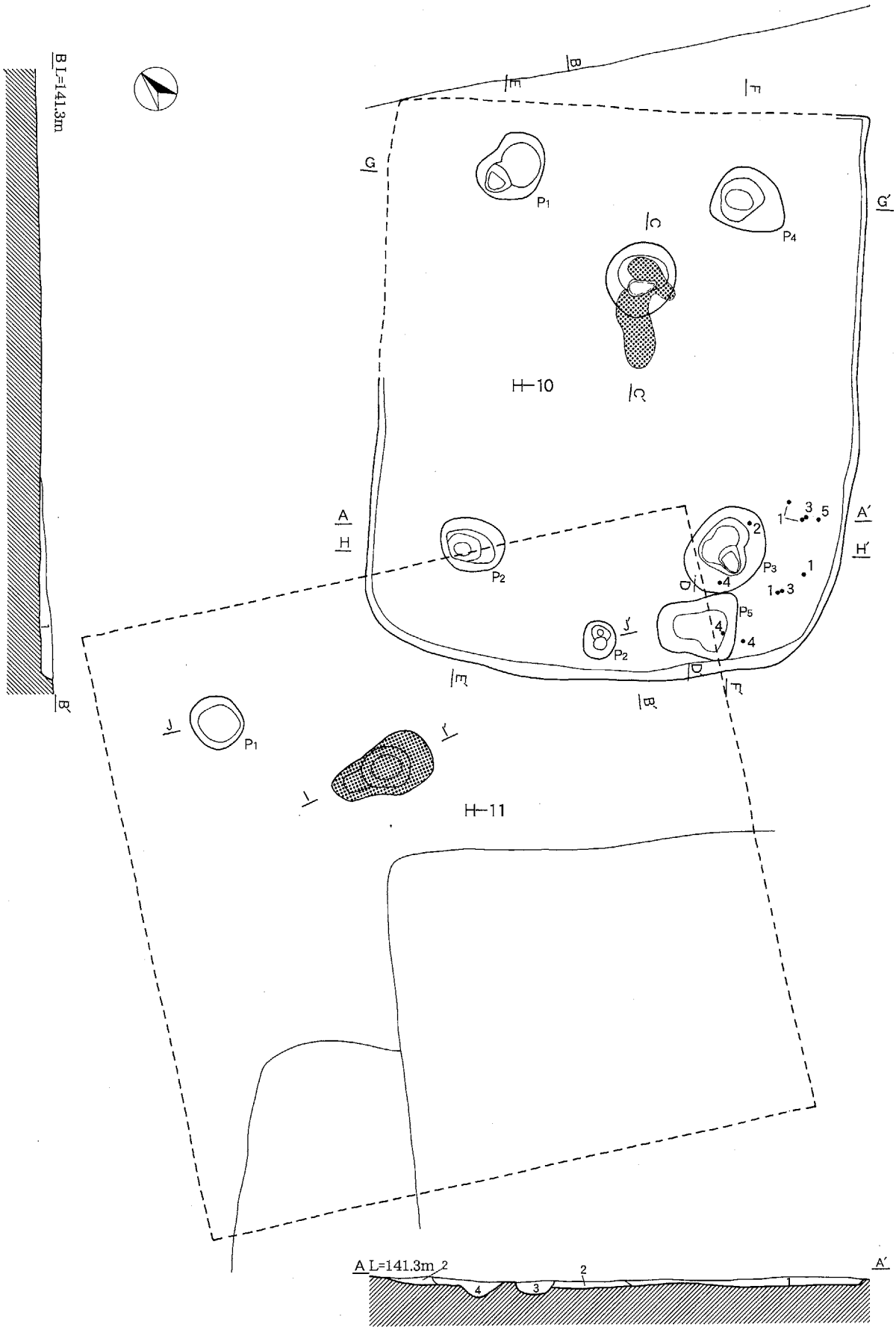


Fig.13　H－8・9号住居跡



H—10号住居跡　　ベルトセクション

1　黒褐色細砂層　　△○　軽石、ロームブロック、炭化物少量。

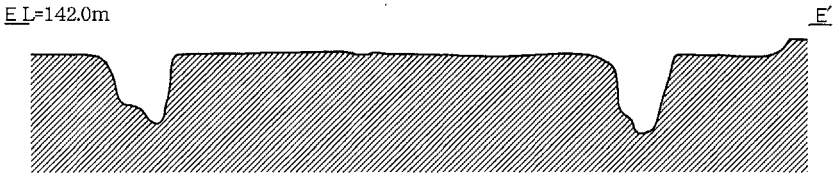
2　褐色細砂層　　○○　ロームブロック多量。軽石、炭化物少量。

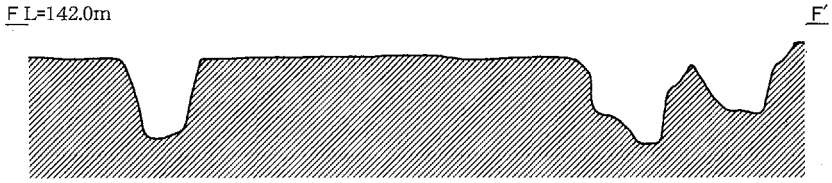
3　黒褐色細砂層　　△○　ロームブロック多量。軽石。

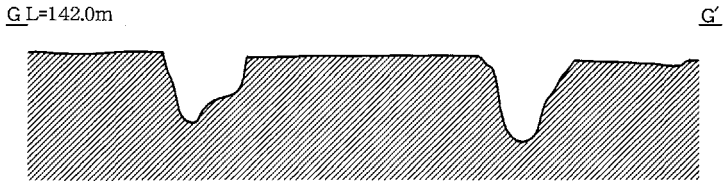
4　にぶい黄褐色細砂層　　○○　ロームブロック多量。軽石。

0　1:60　2m

Fig.14　H—10・11号住居跡

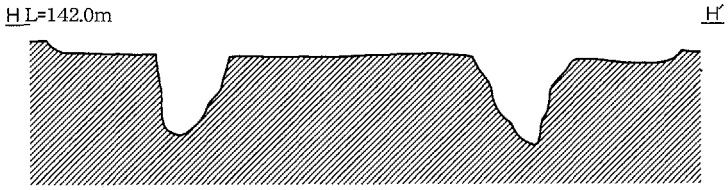


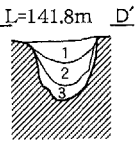


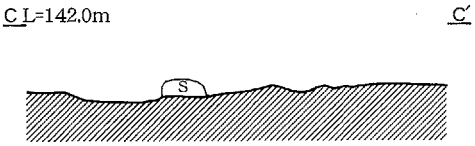


H—10号住居跡柱穴計測表

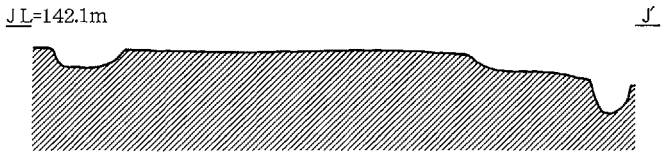
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	不整形	76	57	56	
P_2	楕円形	68	55	64	
P_3	楕円形	100	76	68.5	
P_4	不整形	80	64	28.5	
P_5	不整形	75	60	48	貯蔵穴

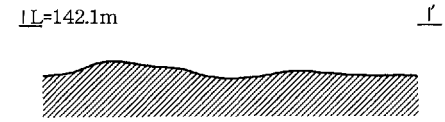






H—10号住居跡　　P_5号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　　△○　炭化物。ロームブロック少量。As-C軽石極少。
2　暗褐色細砂層　　△○　ロームブロック。As-C軽石極少。
3　褐色細砂層　　○◎　粘土質。ロームブロック。





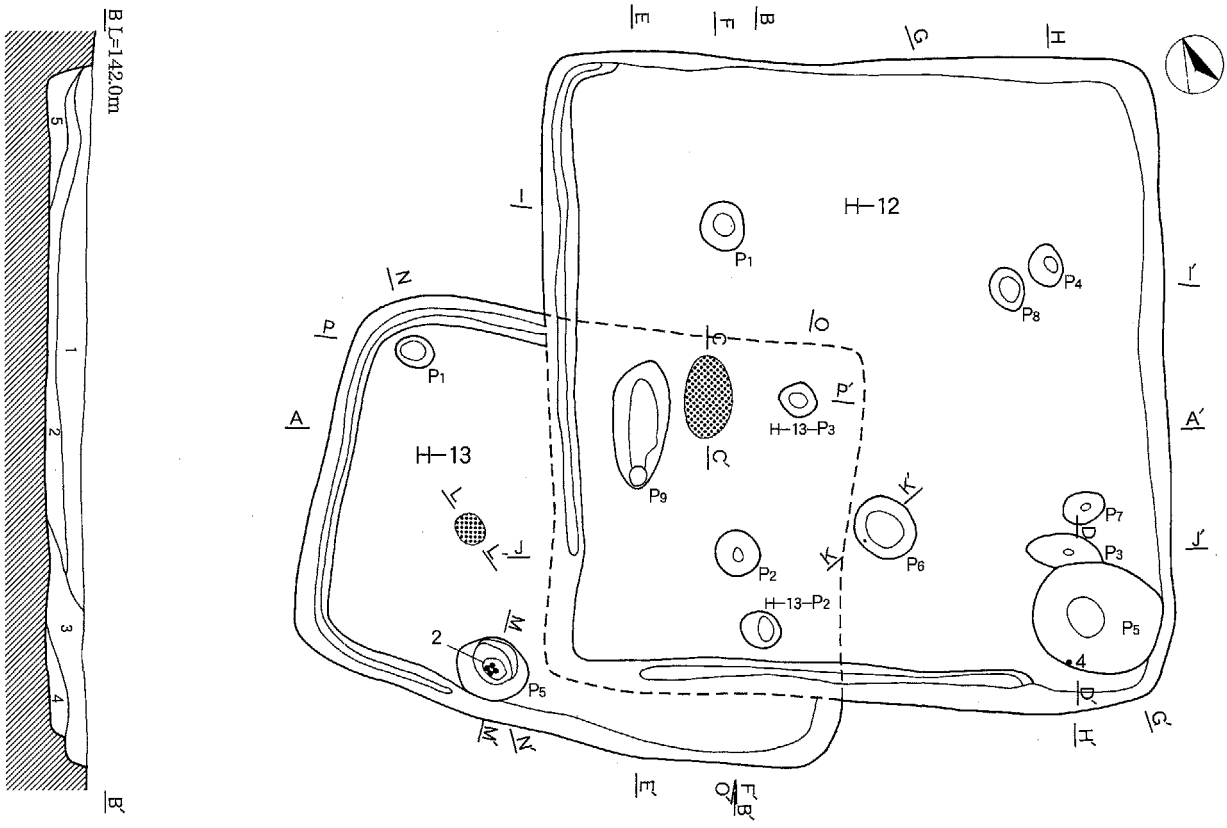
H—11号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	58	53	15	
P_2	円　形	38	33	44.5	

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.15　H—10・11号住居跡



H—12・13号住居跡　ベルトセクション

1	黒色細砂層	○○	As-C軽石多量。ローム粒。焼土粒極少。
2	黒色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒、ロームブロック、焼土粒。
3	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック、As-C軽石、焼土粒、炭化物。
4	褐色細砂層	○○	ローム粒多量。As-C軽石。
5	暗褐色細砂層	△○	ロームブロック多量。焼土ブロック。
6	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。炭化物。焼土粒、ロームブロック少量。
7	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。炭化物。
8	黒褐色細砂層	△○	ローム粒多量。炭化物少量。

H—12号住居跡　P_5号柱穴セクション

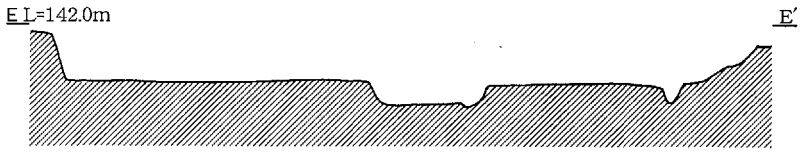
1	暗褐色細砂層	○○	軽石、炭化物。
2	黒褐色細砂層	△○	軽石、ロームブロック。
3	褐色細砂層	△○	ローム粒多量。

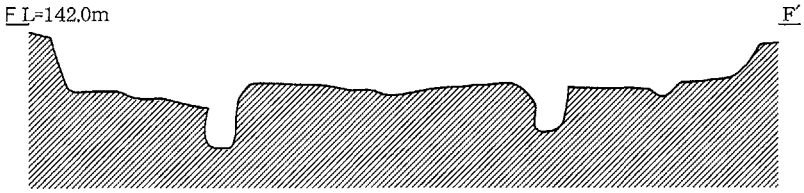
H—13号住居跡　P_6号柱穴セクション

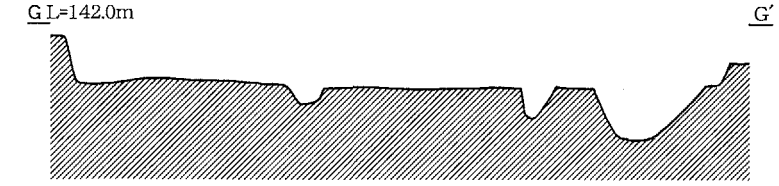
1	黒褐色細砂層	×○	軽石。
2	暗褐色細砂層	×○	軽石、ロームブロック。
3	褐色細砂層	×○	ロームブロック多量。

0　1：60　2m

Fig.16　H—12・13号住居跡

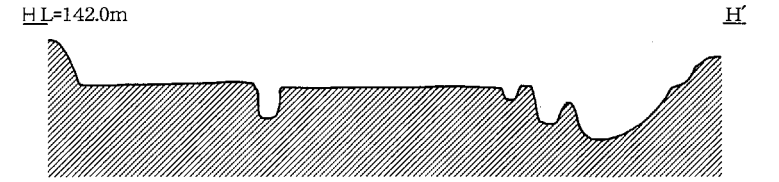


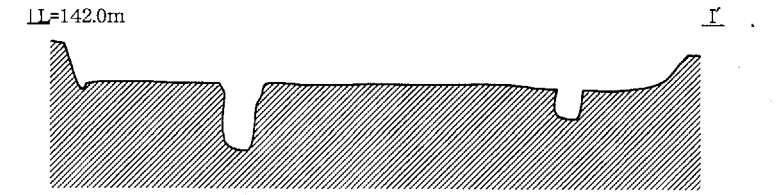


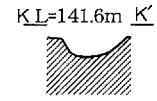


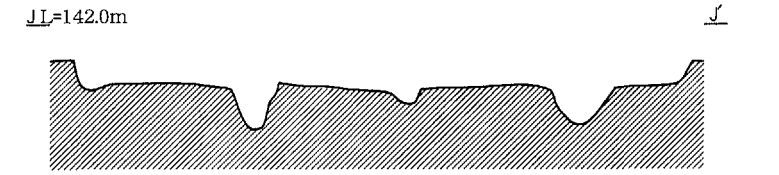
H—12号住居跡柱穴計測表

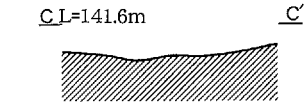
No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	38	30	53	
P_2	円　形	37	35	36	
P_3	楕円形	58	28	31.5	
P_4	楕円形	32	25	28	
P_5	楕円形	103	85	43.5	貯蔵穴
P_6	円　形	50	45	17	
P_7	楕円形	32	23	18	
P_8	楕円形	35	28	18	
P_9	楕円形	102	45	18	

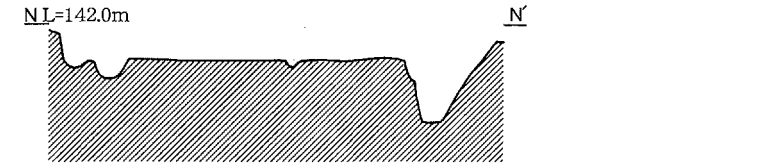






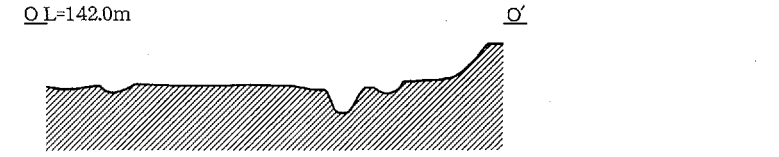


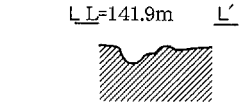


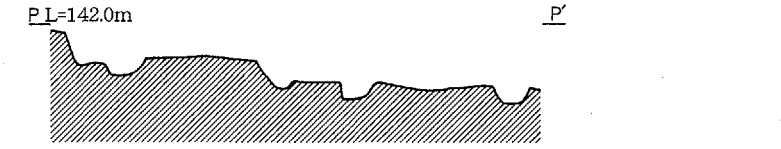


H—13号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	円　形	30	26	15	
P_2	円　形	32	30	20.5	
P_3	円　形	30	28	16.5	
P_5	楕円形	60	50	51	貯蔵穴







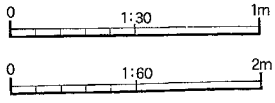
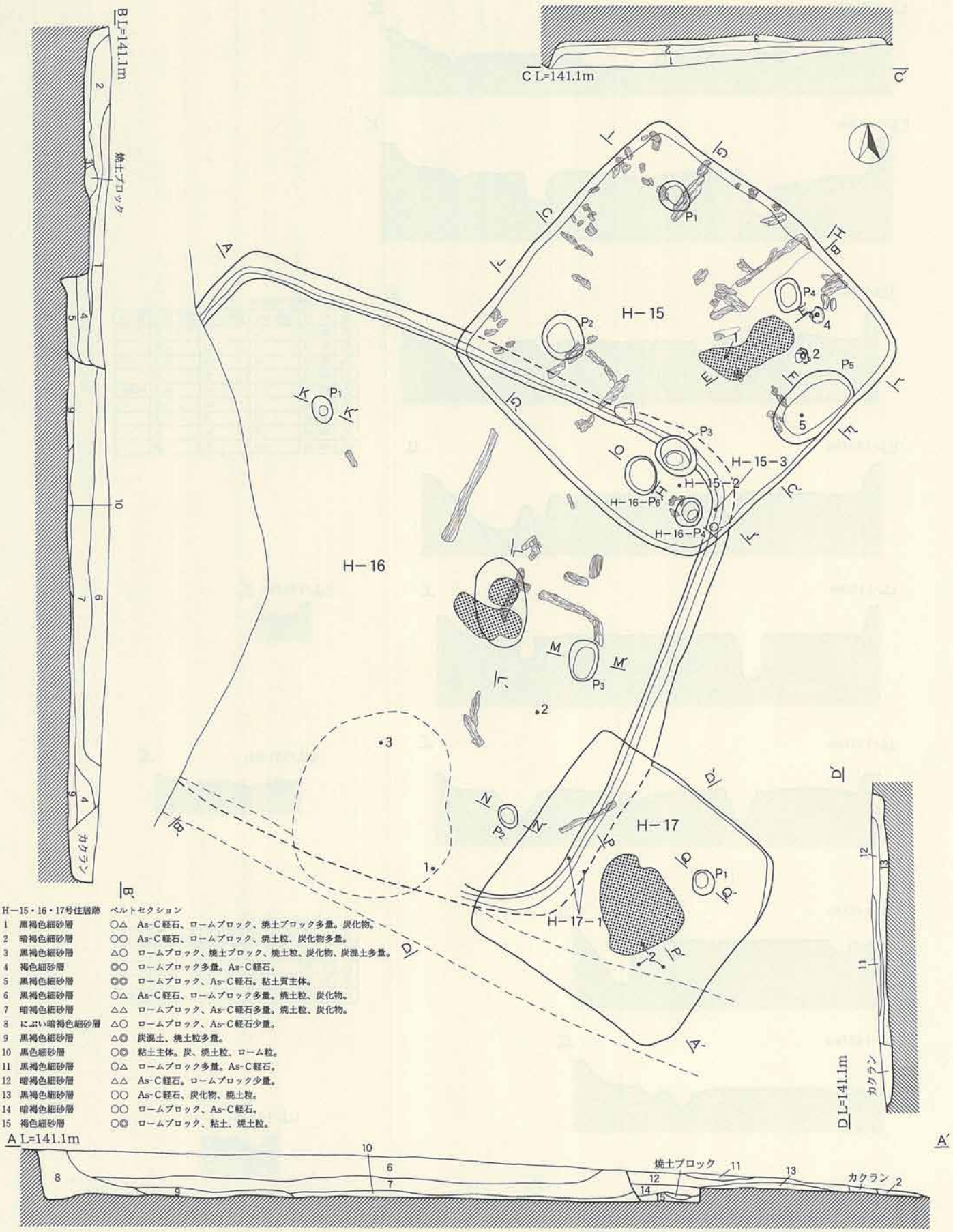


Fig.17　H—12・13号住居跡

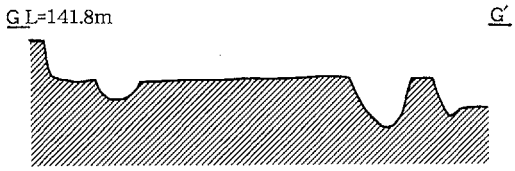


H−15・16・17号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C軽石、ロームブロック、焼土ブロック多量。炭化物。
2	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、焼土粒、炭化物多量。
3	黒褐色細砂層	△○	ロームブロック、焼土ブロック、焼土粒、炭化物、炭混土多量。
4	褐色細砂層	◎○	ロームブロック多量。As-C軽石。
5	黒褐色細砂層	◎◎	ロームブロック、As-C軽石。粘土質主体。
6	黒褐色細砂層	○△	As-C軽石、ロームブロック多量。焼土粒、炭化物。
7	暗褐色細砂層	△△	ロームブロック、As-C軽石多量。焼土粒、炭化物。
8	にぶい暗褐色細砂層	△○	ロームブロック、As-C軽石少量。
9	黒褐色細砂層	△◎	炭混土、焼土粒多量。
10	黒色細砂層	○◎	粘土主体。炭、焼土粒、ローム粒。
11	黒褐色細砂層	○△	ロームブロック多量。As-C軽石。
12	暗褐色細砂層	△△	As-C軽石。ロームブロック少量。
13	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石、炭化物、焼土粒。
14	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック、As-C軽石。
15	褐色細砂層	○◎	ロームブロック、粘土、焼土粒。

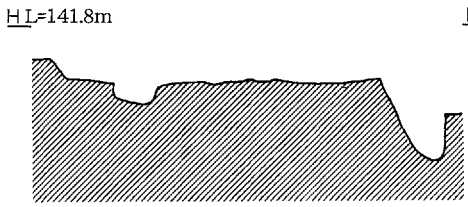
Fig.18　H−15〜17号住居跡

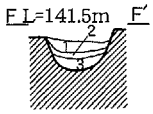
0　1:60　2m

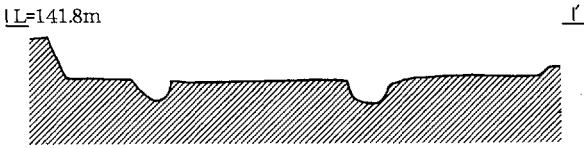


H－15号住居跡柱穴計測表

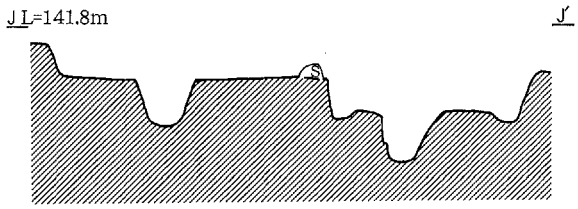
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	42	35	15.5	
P_2	円　形	50	47	39	
P_3	楕円形	48	42	38.5	
P_4	楕円形	38	29	17.5	
P_5	楕円形	103	59	25.5	貯蔵穴

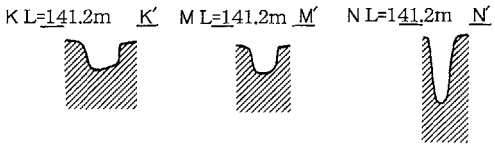


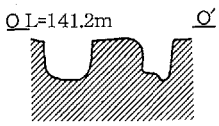




H－15号住居跡　　P_5号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　　○○　白色軽石粒、ローム粒。
2　黒褐色細砂層　　△○　ロームブロック多量。白色軽石粒少量。
3　褐色細砂層　　○○　ローム主体。

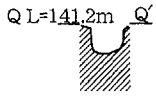






H－16号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	32	23	54	
P_2	楕円形	27	22	81	
P_3	楕円形	47	34	23	
P_4	円　形	32	31	32	
P_6	楕円形	50	36	32.5	



H－17号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	29	24	21	

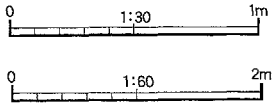
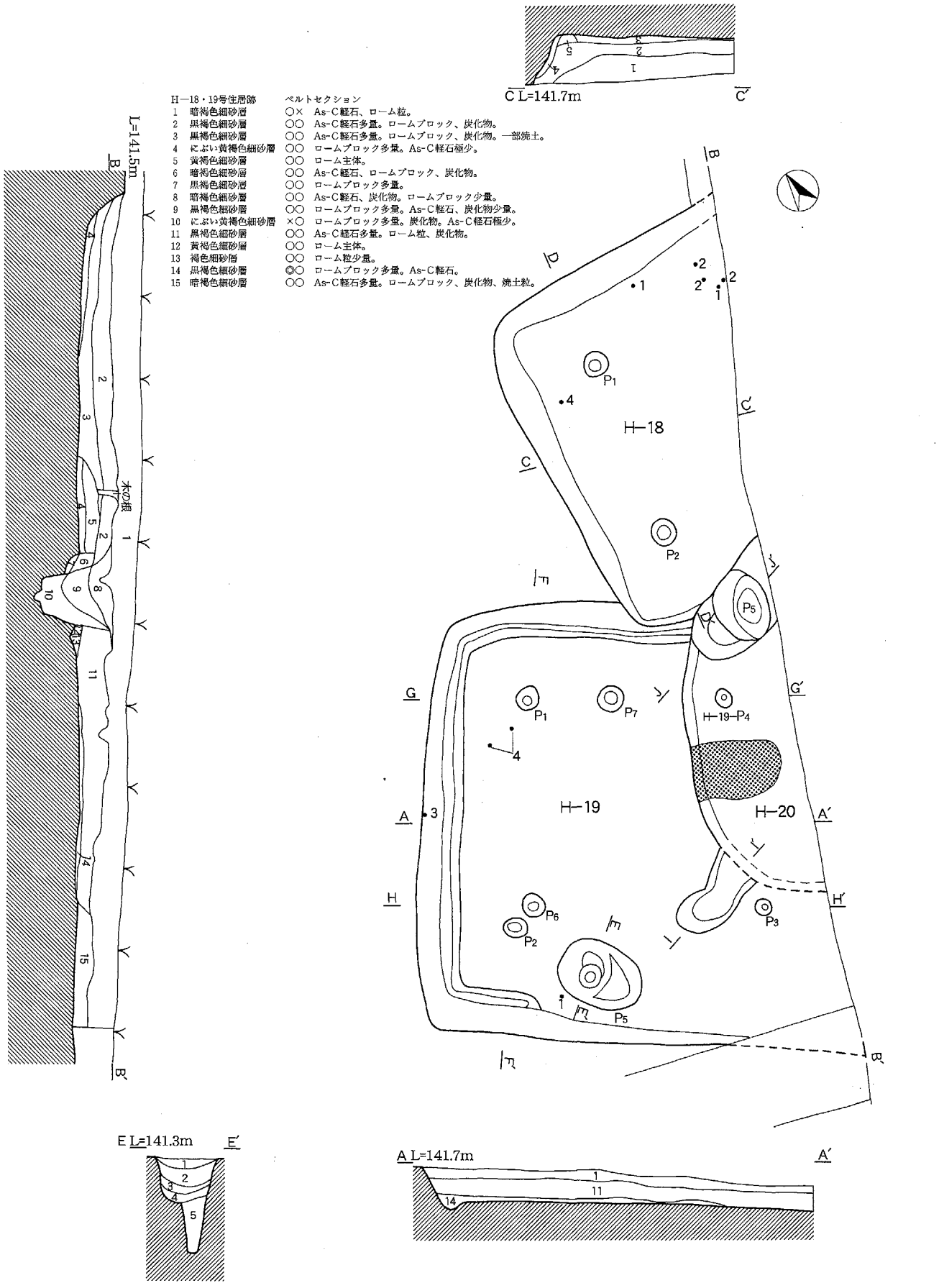


Fig.19　H－15～17号住居跡



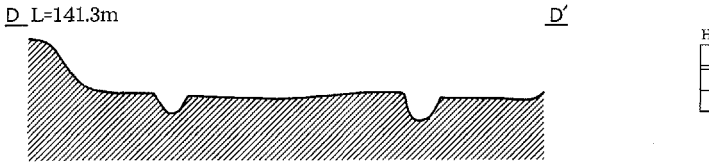
H—18・19号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-C軽石、ローム粒。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物。
3	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物。一部焼土。
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。As-C軽石極少。
5	黄褐色細砂層	○○	ローム主体。
6	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、炭化物。
7	黒褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。
8	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、炭化物。ロームブロック少量。
9	黒褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物少量。
10	にぶい黄褐色細砂層	×○	ロームブロック多量。炭化物。As-C軽石極少。
11	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ローム粒、炭化物。
12	黄褐色細砂層	○○	ローム主体。
13	褐色細砂層	○○	ローム粒少量。
14	黒褐色細砂層	◎○	ロームブロック多量。As-C軽石。
15	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物、焼土粒。

H—19号住居跡　P_5号柱穴セクション

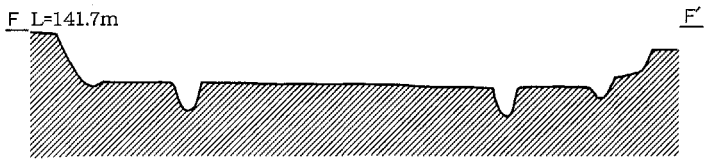
1	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒、炭化物少量。
2	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物少量。
3	黒褐色細砂層	○○	ロームブロック。As-C軽石少量。
4	褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。
5	にぶい黄褐色細砂層	△○	ローム粒多量。As-C軽石極少。

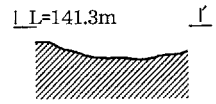
Fig.20　H—18～20号住居跡

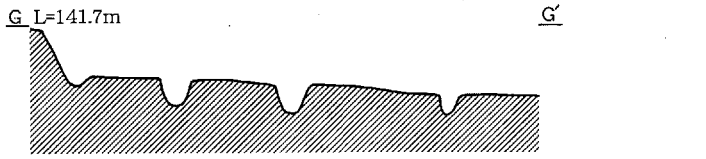


H−18号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	28	27	14	
P_2	円　形	26	26	22	

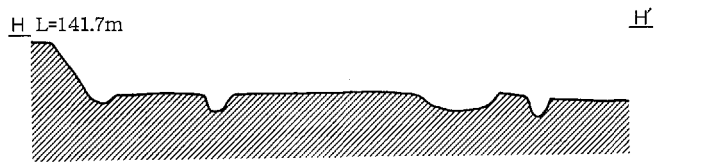


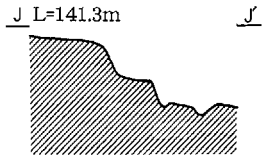




H−19号住居跡柱穴計測表

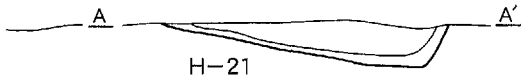
No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	28	25	21.5	
P_2	楕円形	29	20	22.5	
P_3	円　形	18	18	17	
P_4	円　形	20	18	17.5	
P_5	楕円形	98	70	109	貯蔵穴
P_6	円　形	25	24	14	
P_7	円　形	30	28	25	

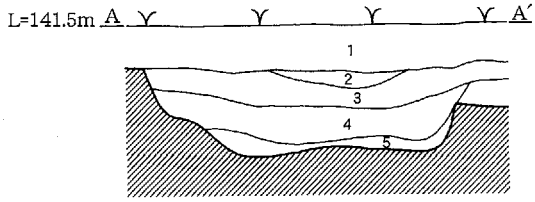




H−20号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_8	不整形	(105)	71	63	貯蔵穴



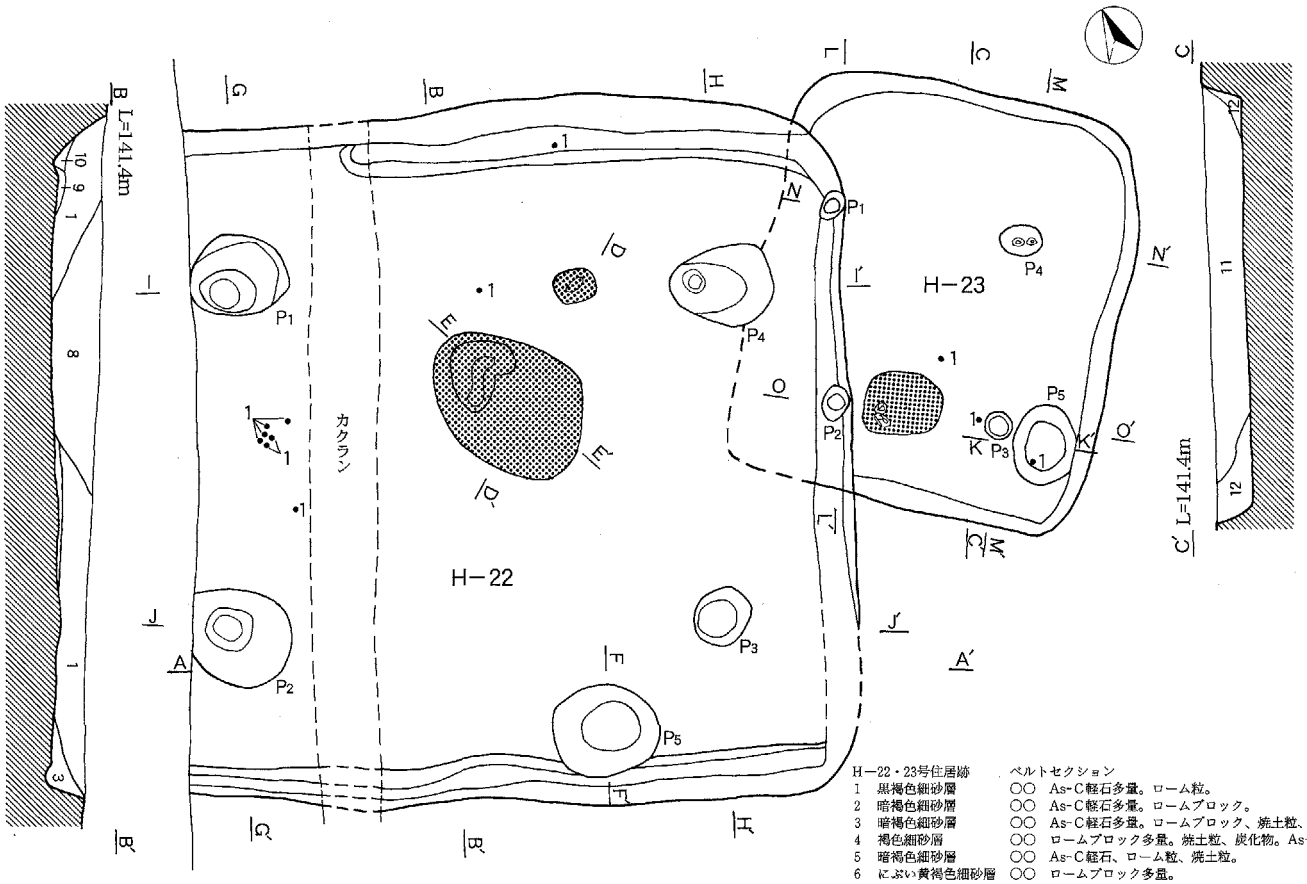


H−21号住居跡　　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-C軽石、ローム粒。
2	にぶい黄褐色細砂層	◎○	As-C軽石多量。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C軽石多量。
4	黒褐色細砂層	△△	As-C軽石多量。ロームブロック。
5	褐色細砂層	○○	ロームブロック。As-C軽石極少。

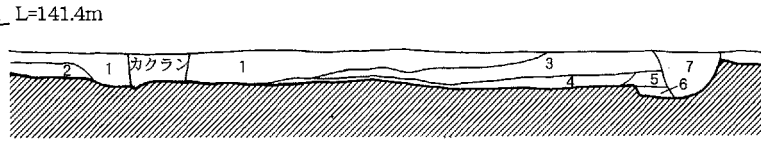
0　1：60　2m

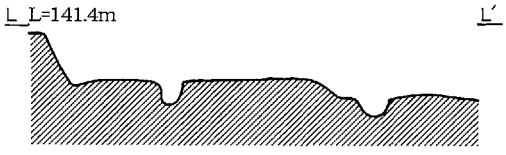
Fig.21　H−18〜21号住居跡

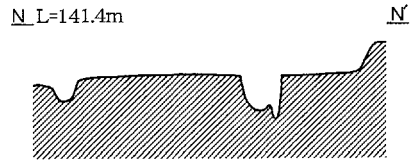


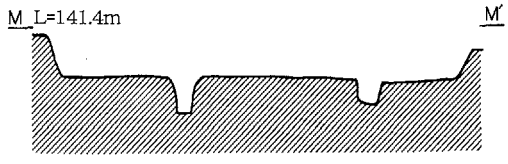
H−22・23号住居跡　ベルトセクション

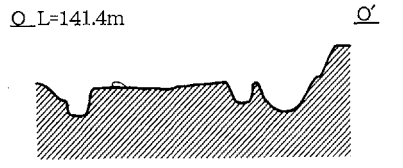
1	黒褐色細砂層	○○　As-C軽石多量。ローム粒。
2	暗褐色細砂層	○○　As-C軽石多量。ロームブロック。
3	暗褐色細砂層	○○　As-C軽石多量。ロームブロック、焼土粒、炭化物少量。
4	褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。焼土粒、炭化物。As-C軽石極少。
5	暗褐色細砂層	○○　As-C軽石、ローム粒、焼土粒。
6	にぶい黄褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。
7	暗褐色細砂層	○○　白色粒、ローム粒。ロームブロック少量。As-C軽石極少。
8	黒色細砂層	○○　As-C軽石多量。ロームブロック、焼土粒。
9	褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。
10	黒褐色細砂層	×○　ロームブロック。As-C軽石極少。
11	暗褐色細砂層	○○　ロームブロック、As-C軽石多量。炭化物、焼土粒。
12	黒褐色細砂層	○○　As-C軽石、ローム粒。ロームブロック、炭化物少量。

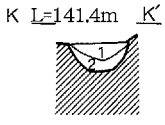












H−23号住居跡柱穴計測表

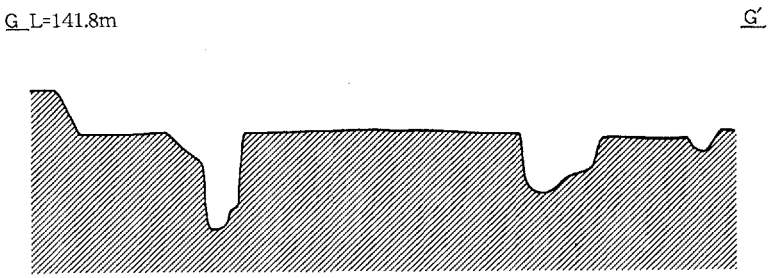
No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	25	17	17.5	
P_2	楕円形	30	19	23.5	
P_3	円　形	23	20	20	
P_4	楕円形	35	25	37	
P_5	楕円形	63	49	27	貯蔵穴

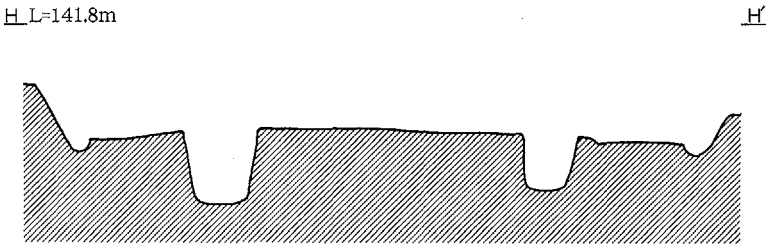
H−23号住居跡　P_5号柱穴セクション

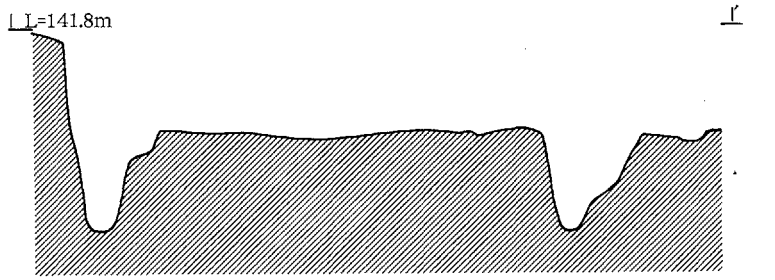
1	暗褐色細砂層	○○　ローム粒多量。ロームブロック。焼土粒、炭化物極少。
2	黒色細砂層	×○　ロームブロック、ローム粒多量。炭化物。

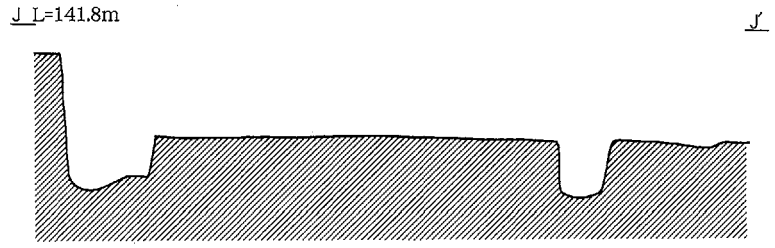
0　1：60　2m

Fig.22　H−22・23号住居跡



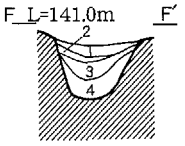






H—22号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	77	60	81	
P_2	楕円形	(81)	76	46	
P_3	楕円形	48	41	45.5	
P_4	楕円形	81	56	79.5	
P_5	円　形	75	73	48.5	貯蔵穴



H—22号住居跡　　P_5号柱穴セクション

1　暗褐色細砂層　　△○　As-C軽石、ローム粒。焼土粒少量。

2　黒色細砂層　　×○　炭化物、焼土粒。

3　暗褐色細砂層　　△○　ロームブロック、As-C軽石、炭化物。

4　褐色細砂層　　○○　ローム粒多量。炭化物、焼土粒少量。As-C軽石極少。

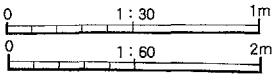
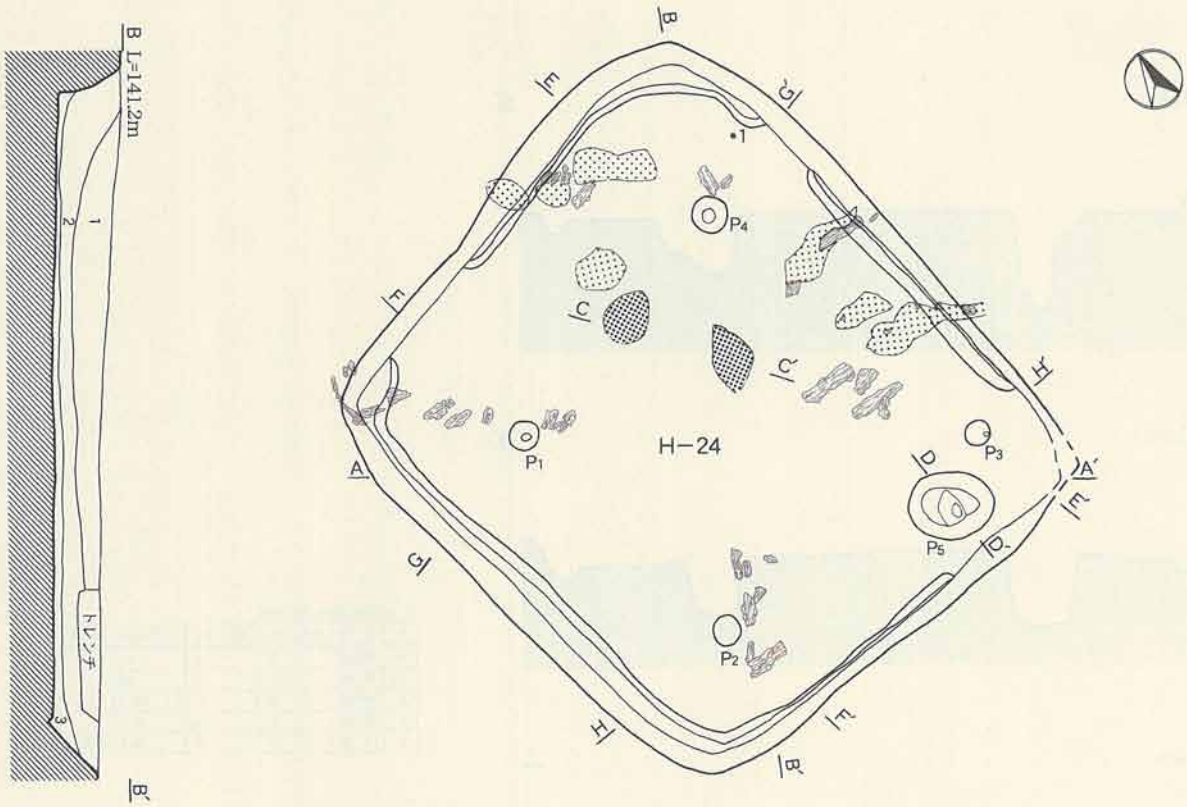
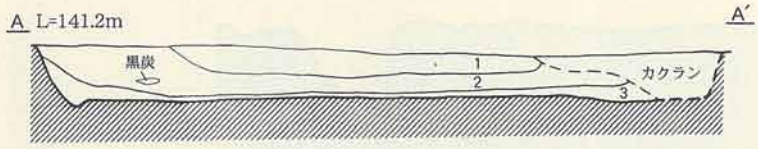


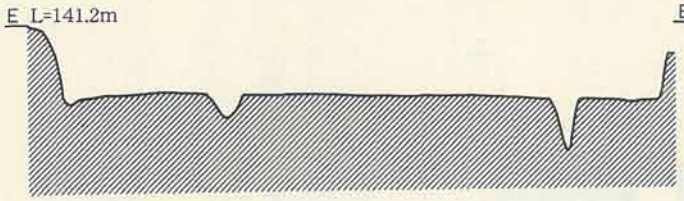
Fig.23　H—22号住居跡





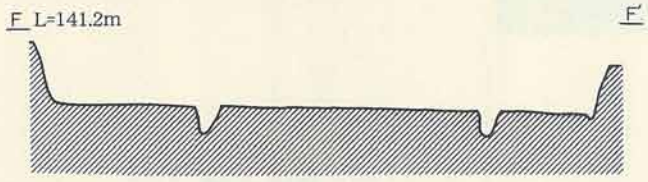
H−24号住居跡　ベルトセクション

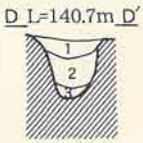
1	黒褐色細砂層	○△	As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物。
2	にぶい黄褐色細砂層	△○	ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物、焼土。
3	暗褐色細砂層	△○	炭化物ブロック、焼土ブロック、ロームブロック。As-C軽石少量。



H−24号住居跡柱穴計測表

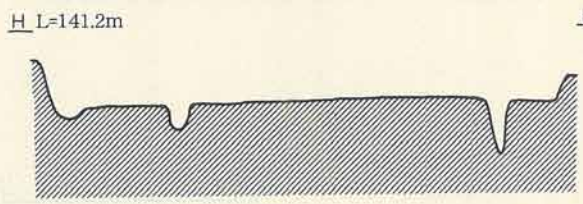
№	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	25	21	20.5	
P_2	円　形	23	22	17	
P_3	円　形	20	19	44	
P_4	円　形	28	28	18	
P_5	楕円形	66	52	52	貯蔵穴

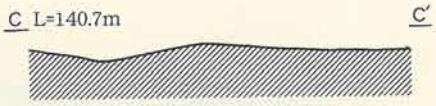




H−24号住居跡　P_5号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△○	ローム粒、ロームブロック、焼土粒。軽石極少。
2	暗褐色細砂層	△○	ロームブロック、ローム粒、炭化物。
3	黄褐色細砂層	○○	ローム主体。





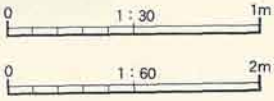
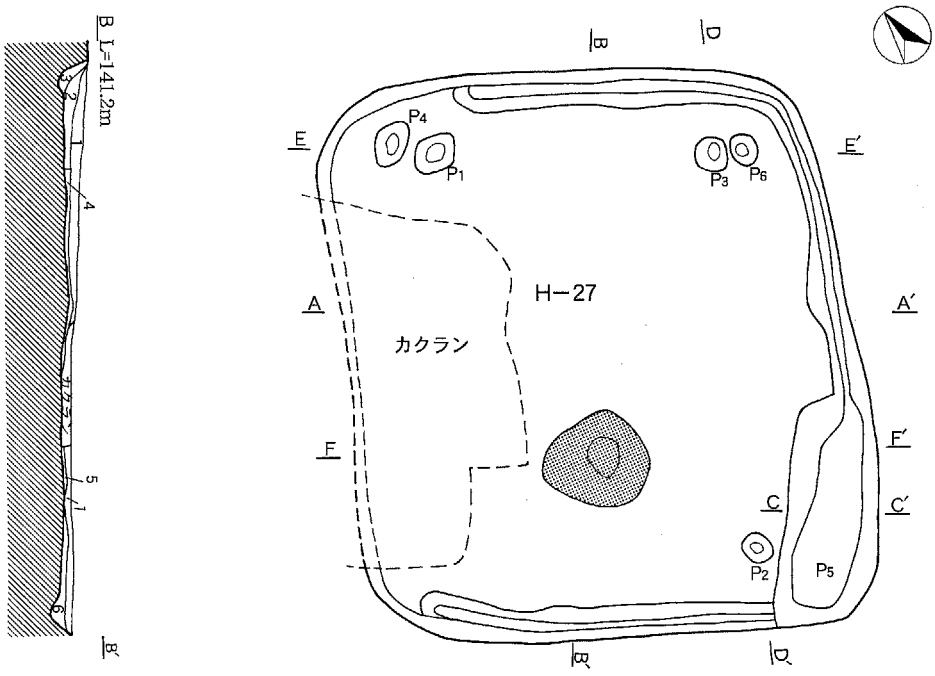
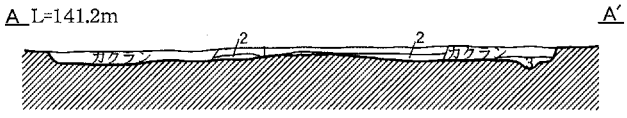


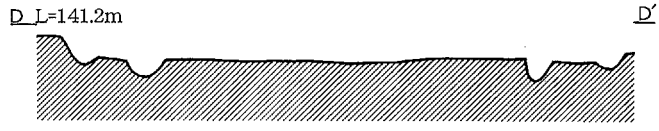
Fig.24　H−24号住居跡

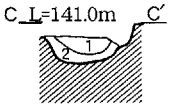




H−27号住居跡　　ベルトセクション

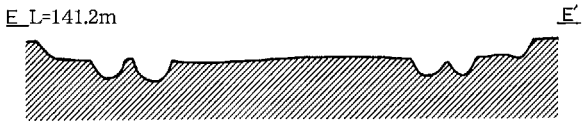
1	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ロームブロック。焼土粒少量。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ローム粒。焼土粒、炭化物少量。
3	暗褐色細砂層	△○	ロームブロック。As-C軽石、炭化物少量。
5	暗褐色細砂層	◎○	ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物。
6	暗褐色細砂層	○○	焼土粒多量。As-C軽石。
	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。As-C軽石、炭化物。





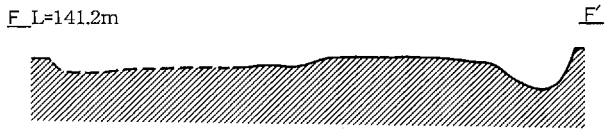
H−27号住居跡　　P_5号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石。ローム粒、炭化物、焼土粒少量。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック。



H−27号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	39	30	17.5	
P_2	円　形	25	20	18	
P_3	円　形	30	26	13	
P_4	楕円形	38	24	17	
P_5	楕円形	183	72	22.5	貯蔵穴
P_6	円　形	26	22	13	



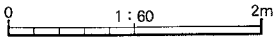
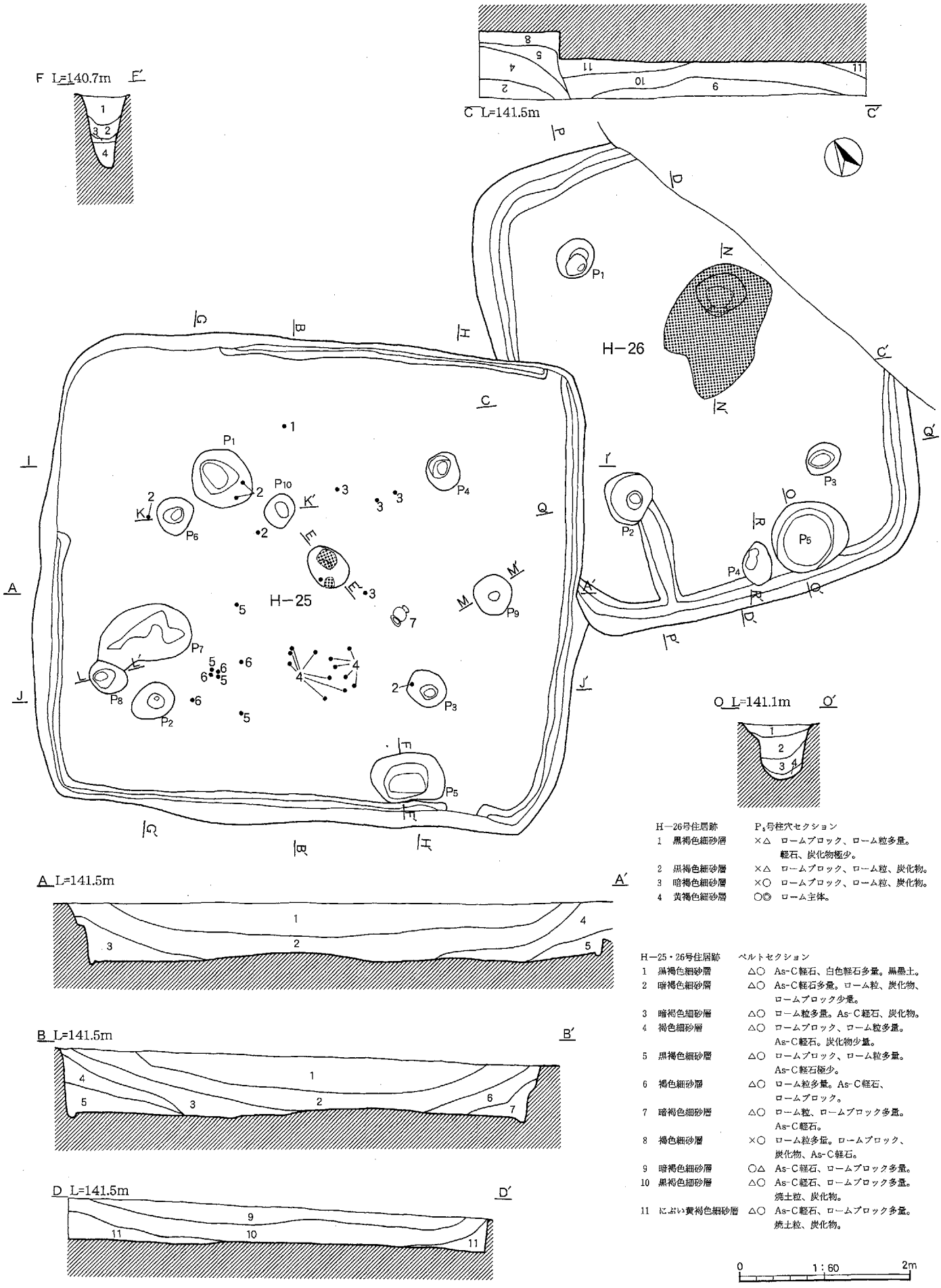


Fig.25　H−27号住居跡



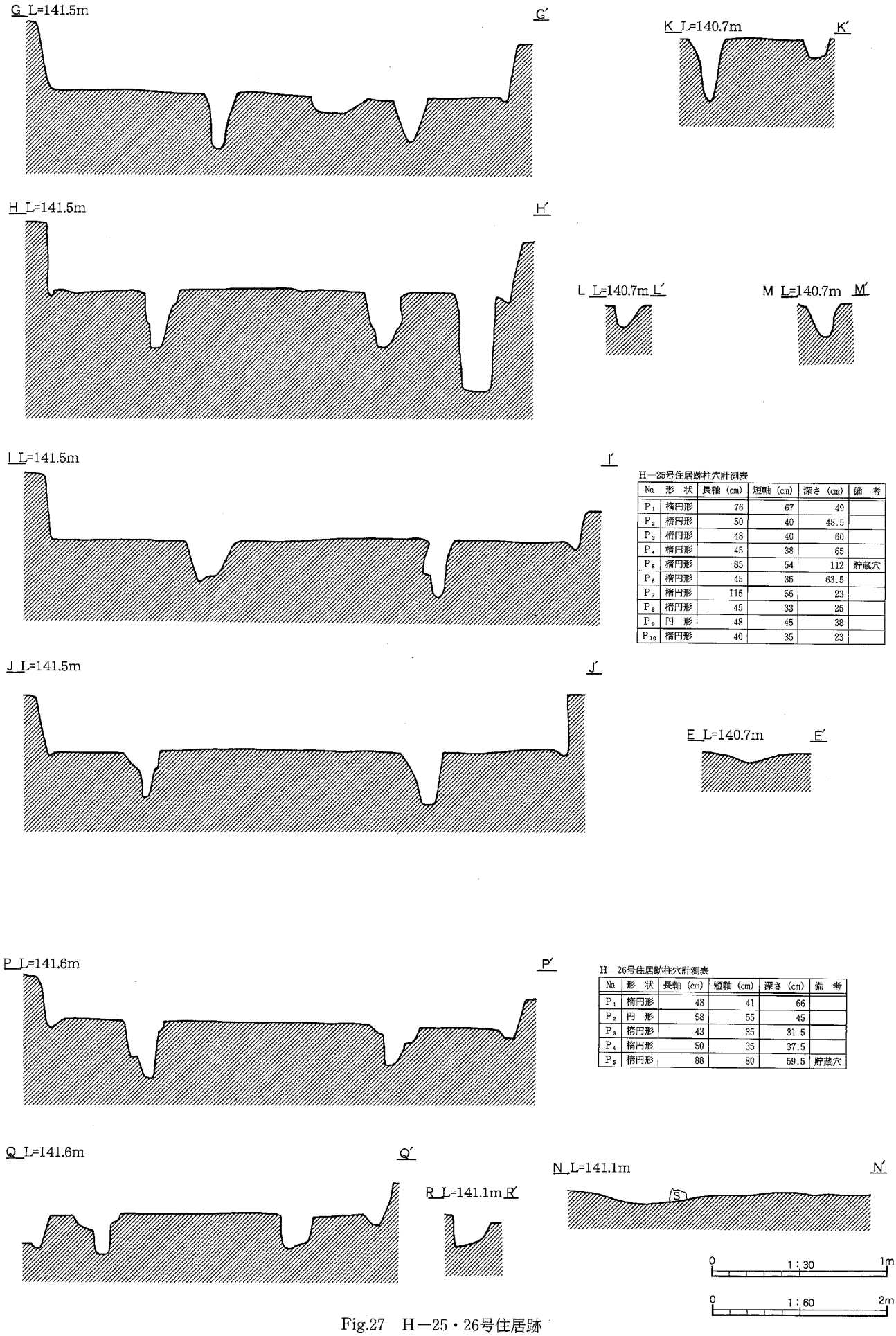
H−26号住居跡　P5号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	×△	ロームブロック、ローム粒多量。軽石、炭化物極少。
2	黒褐色細砂層	×△	ロームブロック、ローム粒、炭化物。
3	暗褐色細砂層	×○	ロームブロック、ローム粒、炭化物。
4	黄褐色細砂層	○◎	ローム主体。

H−25・26号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C軽石、白色軽石多量。黒墨土。
2	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石多量。ローム粒、炭化物、ロームブロック少量。
3	暗褐色細砂層	△○	ローム粒多量。As-C軽石、炭化物。
4	褐色細砂層	△○	ロームブロック、ローム粒多量。As-C軽石。炭化物少量。
5	黒褐色細砂層	△○	ロームブロック、ローム粒多量。As-C軽石極少。
6	褐色細砂層	△○	ローム粒多量。As-C軽石、ロームブロック。
7	暗褐色細砂層	△○	ローム粒、ロームブロック多量。As-C軽石。
8	褐色細砂層	×○	ローム粒多量。ロームブロック、炭化物、As-C軽石。
9	暗褐色細砂層	○△	As-C軽石、ロームブロック多量。
10	黒褐色細砂層	△○	As-C軽石、ロームブロック多量。焼土粒、炭化物。
11	にぶい黄褐色細砂層	△○	As-C軽石、ロームブロック多量。焼土粒、炭化物。

Fig.26　H−25・26号住居跡



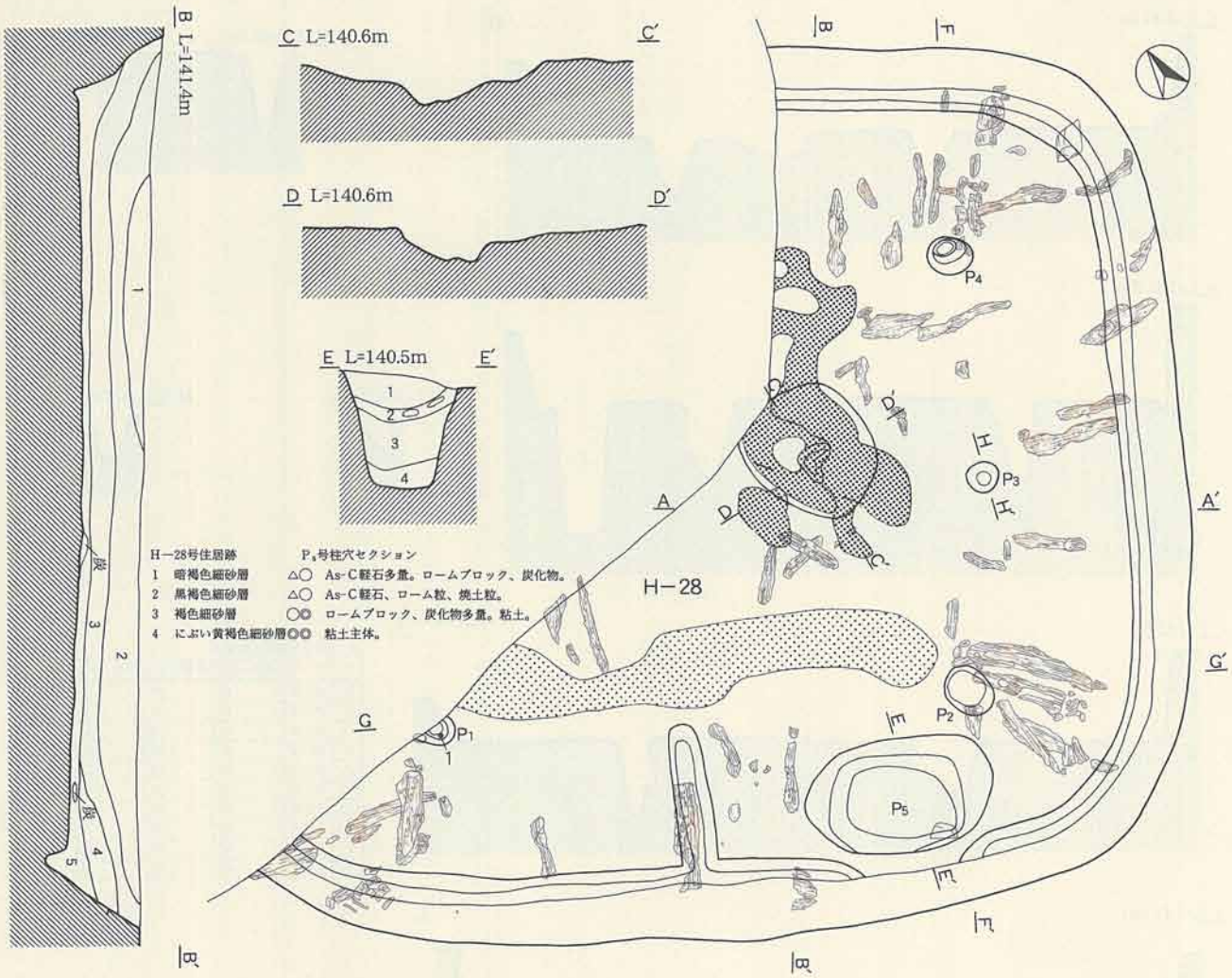
H—25号住居跡柱穴計測表

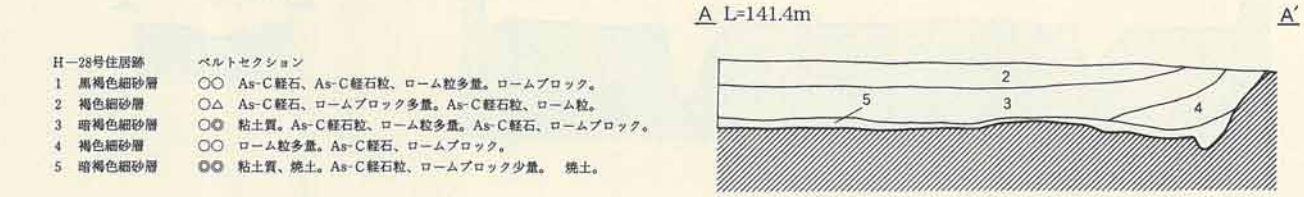
No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	76	67	49	
P_2	楕円形	50	40	48.5	
P_3	楕円形	48	40	60	
P_4	楕円形	45	38	65	
P_5	楕円形	85	54	112	貯蔵穴
P_6	楕円形	45	35	63.5	
P_7	楕円形	115	56	23	
P_8	楕円形	45	33	25	
P_9	円　形	48	45	38	
P_{10}	楕円形	40	35	23	

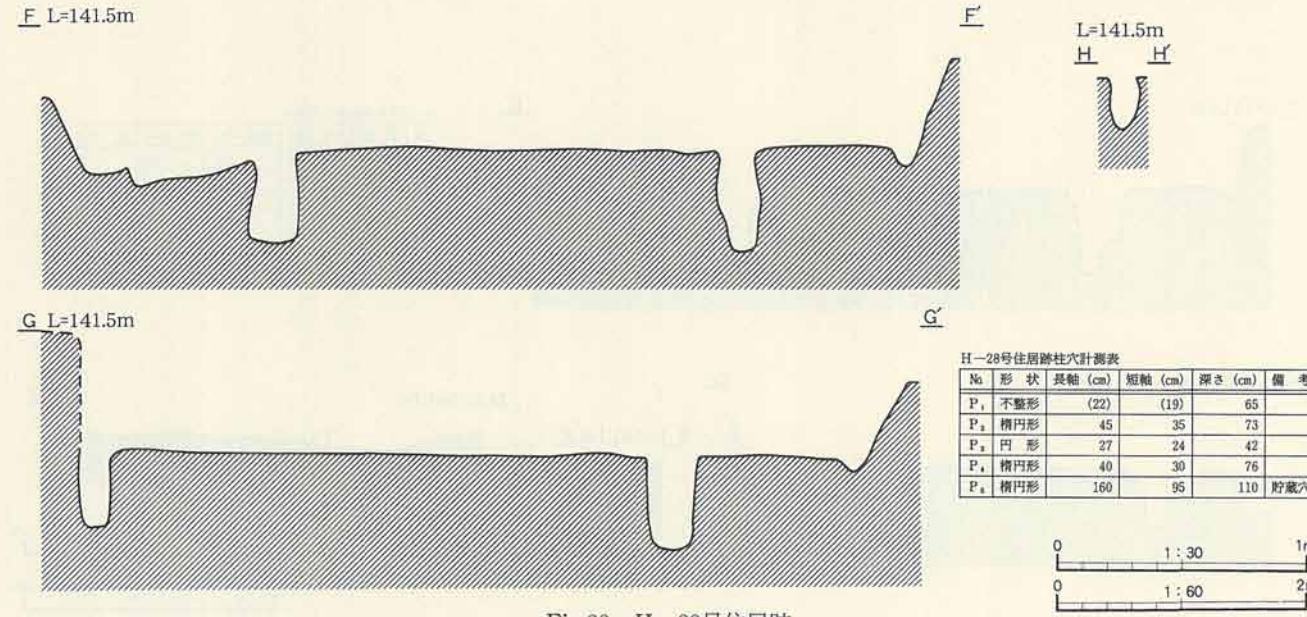
H—26号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	48	41	66	
P_2	円　形	58	55	45	
P_3	楕円形	43	35	31.5	
P_4	楕円形	50	35	37.5	
P_5	楕円形	88	80	59.5	貯蔵穴

Fig.27　H—25・26号住居跡



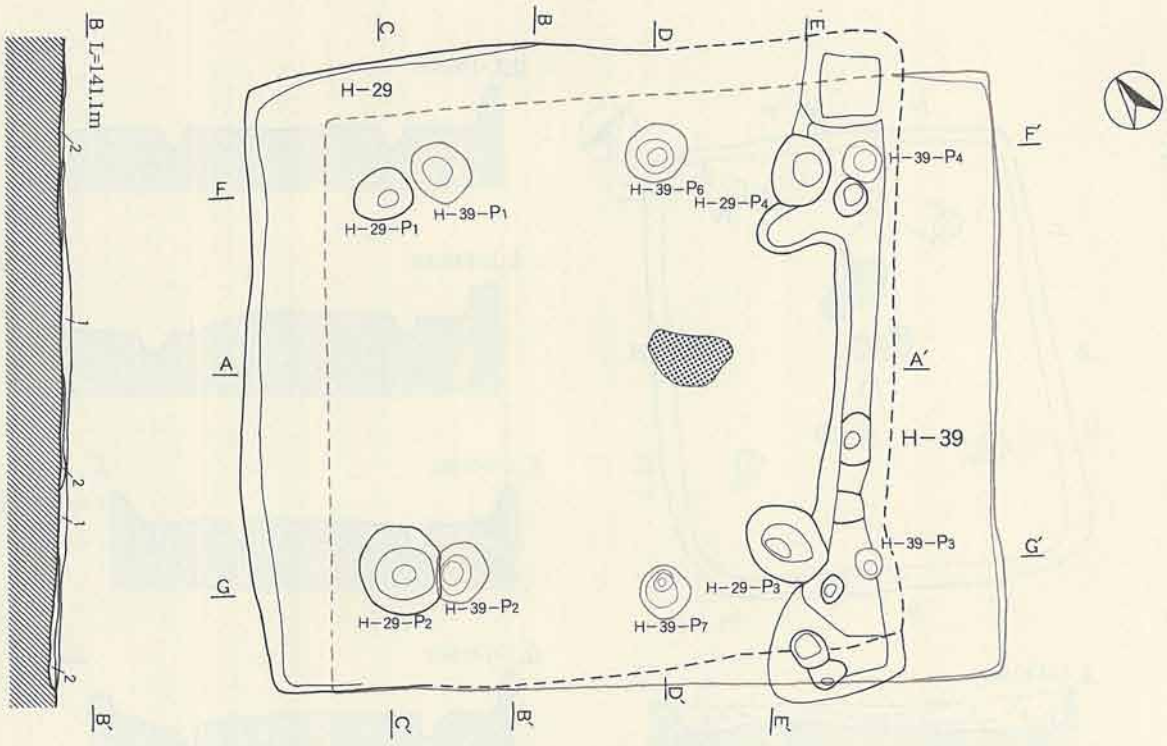


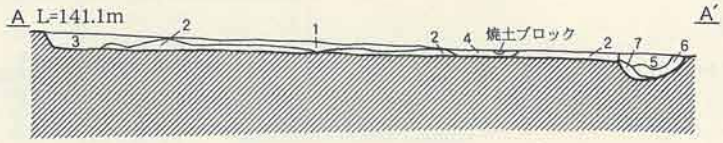


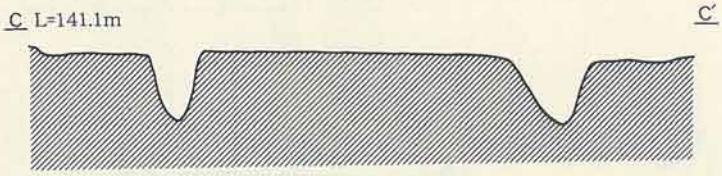
H−28号住居跡柱穴計測表

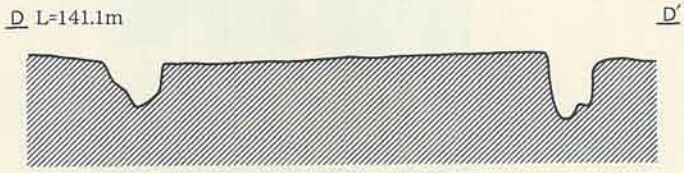
No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
P_1	不整形	(22)	(19)	65	
P_2	楕円形	45	35	73	
P_3	円形	27	24	42	
P_4	楕円形	40	30	76	
P_5	楕円形	160	95	110	貯蔵穴

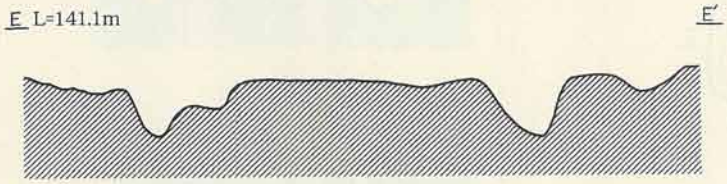
Fig.28 H−28号住居跡

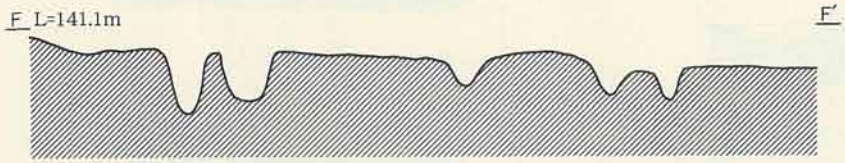


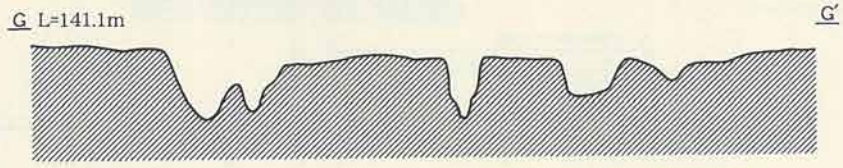












H−29号住居跡　　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	△○	ローム粒、炭化物少量。As-C軽石極少。
2	褐色細砂層	△○	ローム粒多量。炭化物少量。
3	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック。焼土粒、炭化物少量。
4	褐色細砂層	△○	焼土粒多量。焼土ブロック。
5	黒色細砂層	△○	As-C軽石多量。ロームブロック少量。
6	暗褐色細砂層	△○	ロームブロック多量。ローム粒。
7	褐色細砂層	△○	As-C軽石極少。

H−29号住居跡柱穴計測表

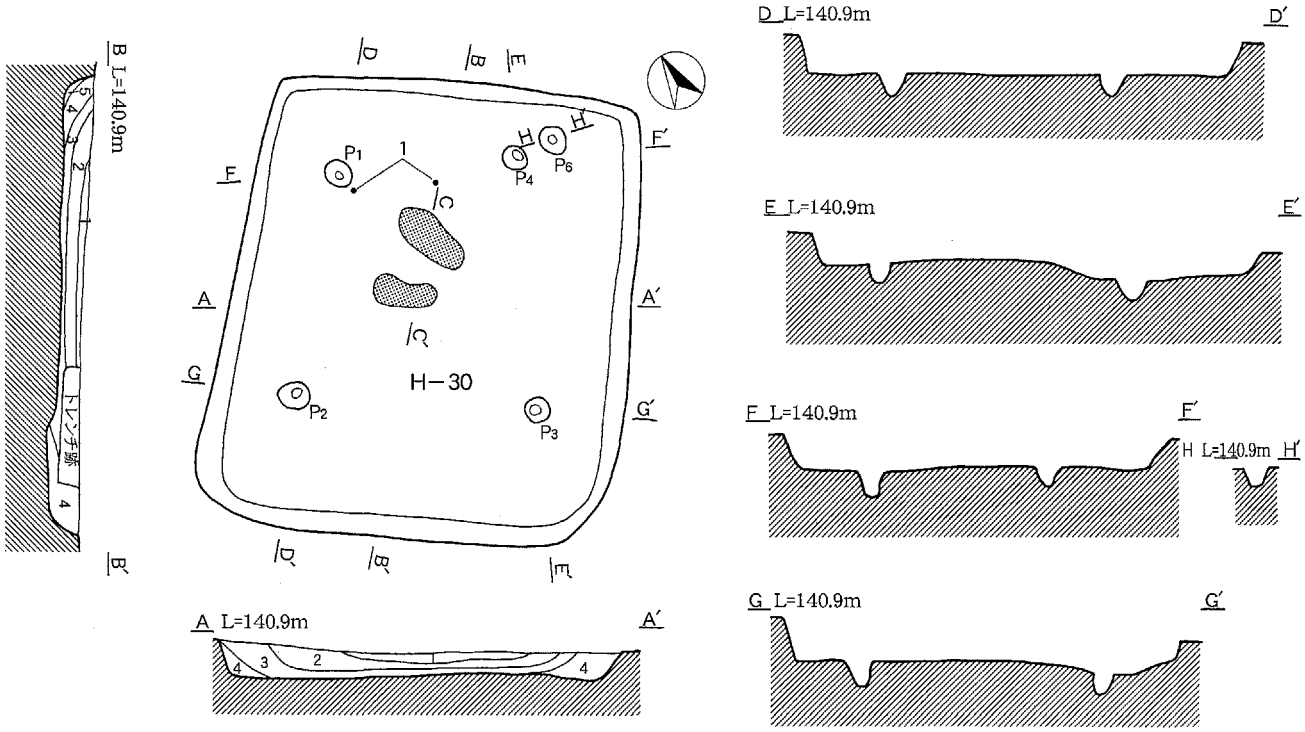
No	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	50	40	55	
P_2	楕円形	72	68	48.5	
P_3	楕円形	70	57	65.5	
P_4	楕円形	58	46	42.5	

H−39号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	円　形	50	45	43	
P_2	円　形	48	44	38	
P_3	円　形	24	22	17	
P_4	円　形	32	30	26	
P_5	楕円形	50	43	35.5	
P_7	円　形	42	41	53	

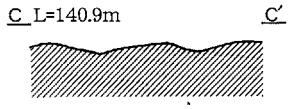
0　1:60　2m

Fig.29　H−29・39号住居跡



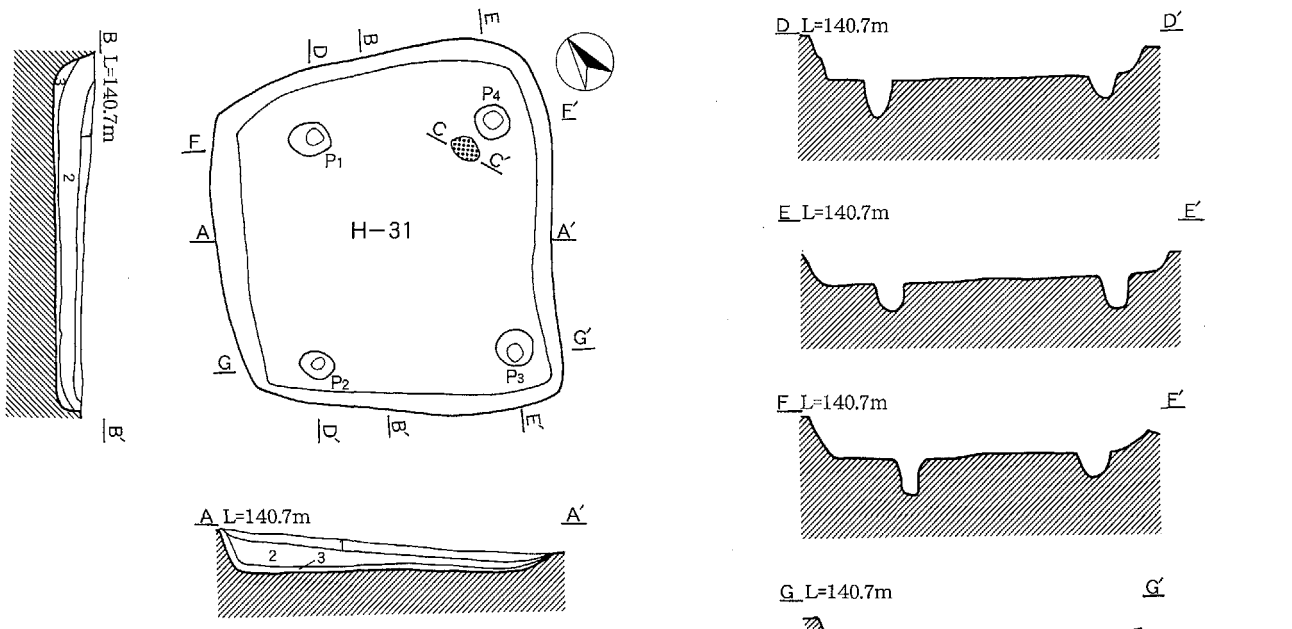
H−30号住居跡　　ベルトセクション

1　暗褐色細砂層　　△△　ローム粒。
2　暗褐色細砂層　　○○　ロームブロック多量。ローム粒、As-C軽石。
3　褐色細砂層　　○○　ロームブロック。As-C軽石少量。
4　暗褐色細砂層　　○○　ローム粒、ロームブロック。As-C軽石極少。
5　黒褐色細砂層　　○△　ロームブロック少量。



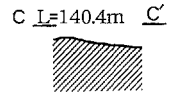
H−30号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	23	20	19.5	
P_2	楕円形	26	21	19.5	
P_3	円　形	20	20	17.5	
P_4	円　形	20	18	16	
P_6	円　形	24	20	14.5	



H−31号住居跡　　ベルトセクション

1　暗褐色細砂層　　△×　As-C軽石粒。ロームブロック、ローム粒少量。
2　黒褐色細砂層　　△×　As-C軽石、As-C軽石粒、ローム粒。ロームブロック極少。
3　褐色細砂層　　○△　ロームブロック多量。As-C軽石、As-C軽石粒少量。



H−31号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	楕円形	33	25	28	
P_2	楕円形	28	21	20	
P_3	円　形	28	28	25	
P_4	円　形	27	27	19.5	

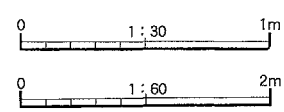
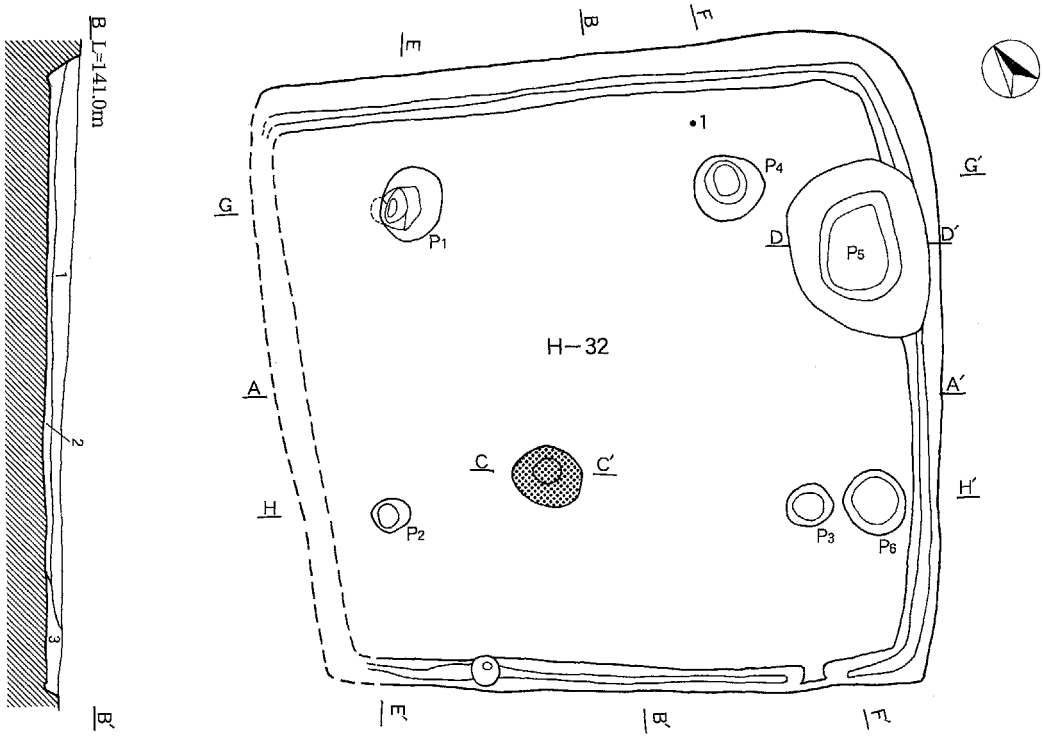
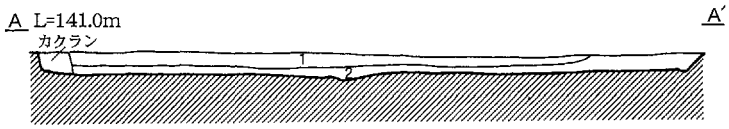


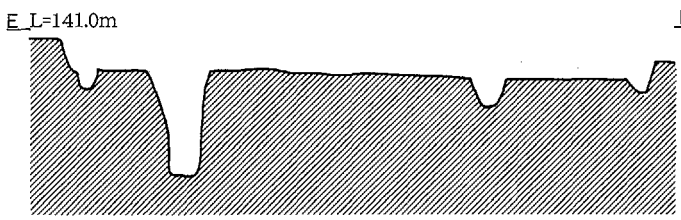
Fig.30　H−30・31号住居跡

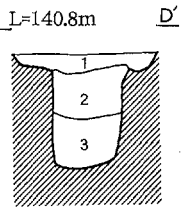


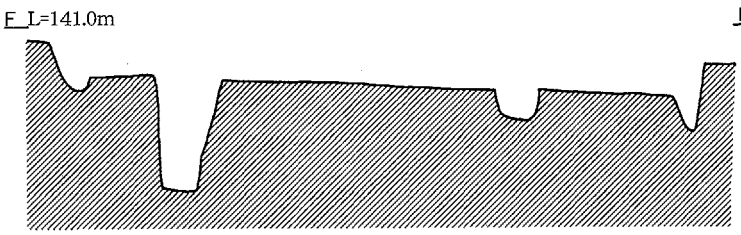


H−32号住居跡　　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○△	As-C軽石多量。ローム粒、ロームブロック。焼土粒少量。
2	黒褐色細砂層	○△	As-C軽石多量。ローム粒、炭化物。
3	褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック。

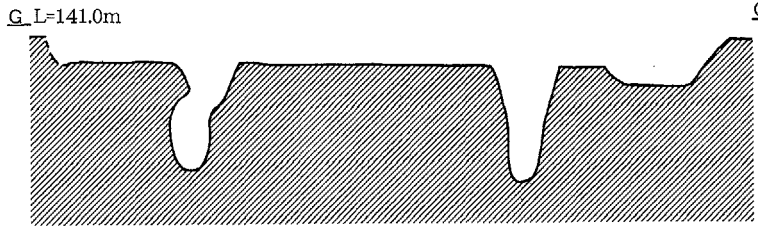






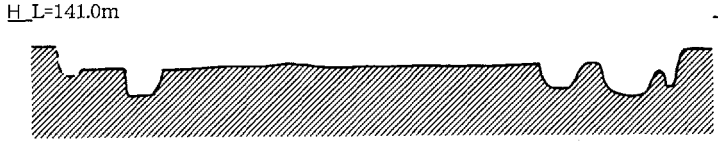
H−32号住居跡　　P_5号柱穴セクション

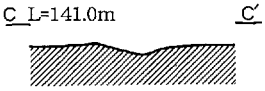
1	暗褐色細砂層	○△	白色軽石、ロームブロック。ローム粒少量。
2	暗褐色細砂層	○○	白色軽石多量。ローム粒、ロームブロック少量。
3	にぶい黄褐色細砂層	△○	粘土主体。ローム粒多量。



H−32号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	60	48	84	
P_2	楕円形	33	27	23	
P_3	円　形	36	34	22	
P_4	円　形	55	54	91	
P_5	楕円形	145	113	89	貯蔵穴
P_6	円　形	53	49	23	





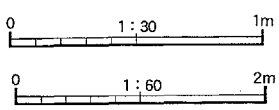
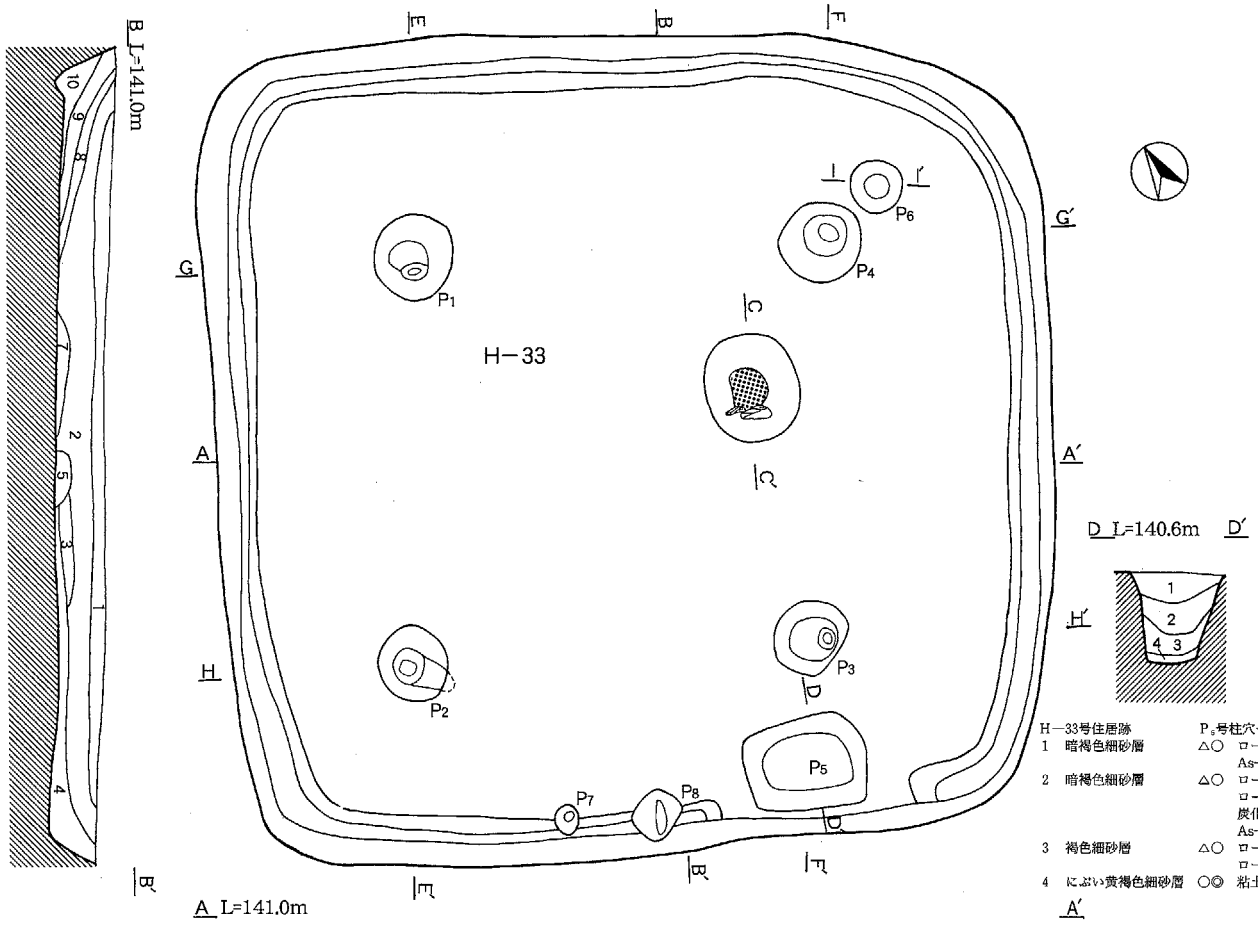
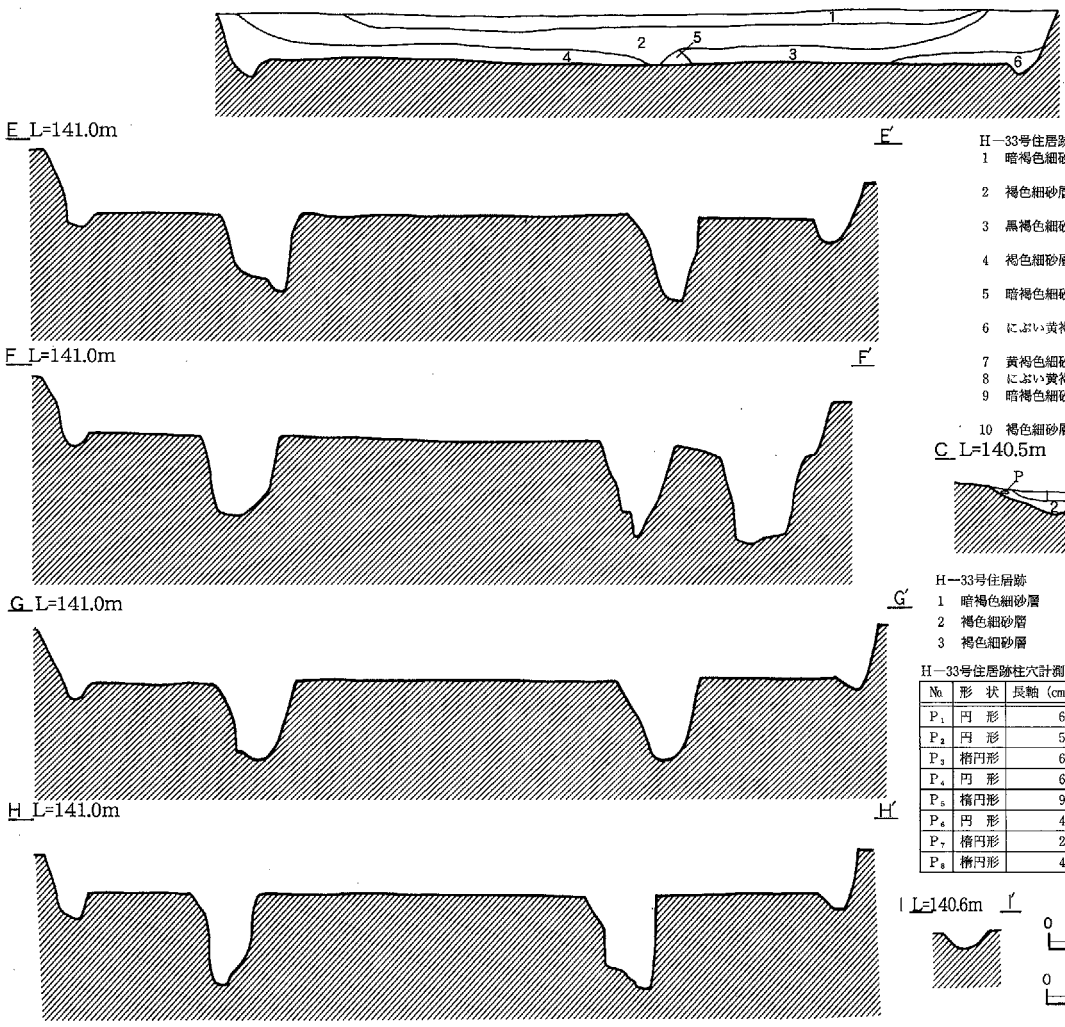


Fig.31　H−32号住居跡

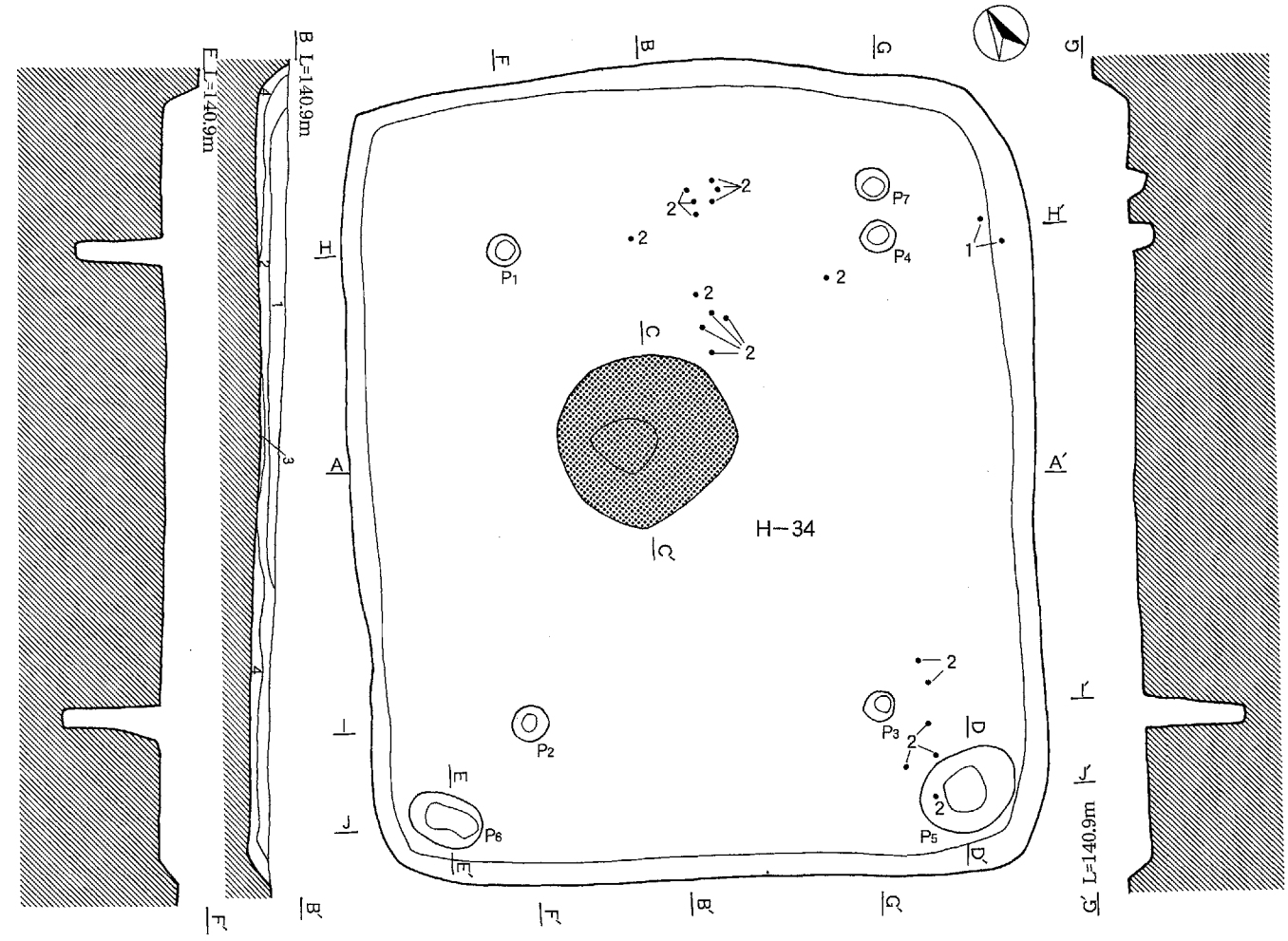




H−33号住居跡柱穴計測表

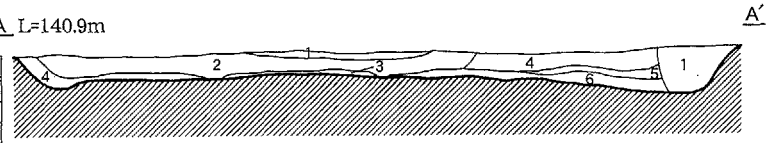
No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
P_1	円 形	66	65	62.5	
P_2	円 形	56	56	74	
P_3	楕円形	65	52	76	
P_4	円 形	65	64	64	
P_5	楕円形	95	74	68.5	貯蔵穴
P_6	円 形	42	41	13.5	
P_7	楕円形	25	19	19	
P_8	楕円形	42	33	21.5	

Fig.32 H−33号住居跡



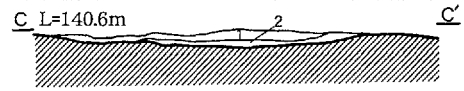
H−34号住居跡柱穴計測表

No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
P_1	円 形	26	26	73.5	
P_2	円 形	30	30	81.5	
P_3	円 形	26	25	77.5	
P_4	円 形	28	26	19	
P_5	楕円形	85	68	19.5	貯蔵穴
P_6	楕円形	65	43	20.5	
P_7	円 形	28	28	15.5	



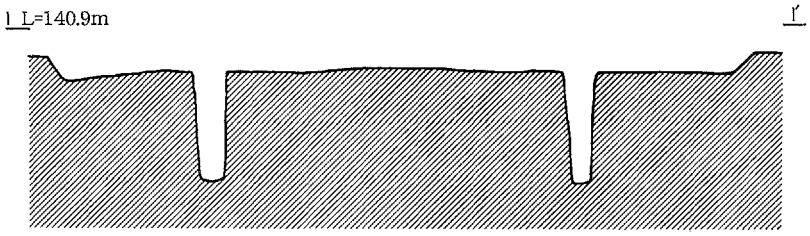
H−34号住居跡　ベルトセクション

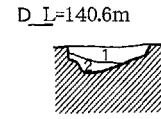
1 黒褐色細砂層　◎△ As-C軽石多量。砂質土。
2 暗褐色細砂層　○○ As-C軽石多量。ロームブロック少量。
3 黒褐色細砂層　○△ 焼土ブロック多量。As-C軽石。ロームブロック少量。
4 黒褐色細砂層　○△ ロームブロック多量。As-C軽石。
5 暗褐色細砂層　○○ ロームブロック、As-C軽石。
6 褐色細砂層　△○ ロームブロック多量。As-C軽石極少。
7 暗褐色細砂層　×○ ロームブロック。As-C軽石、炭化物少量。



H−34号住居跡　炉セクション

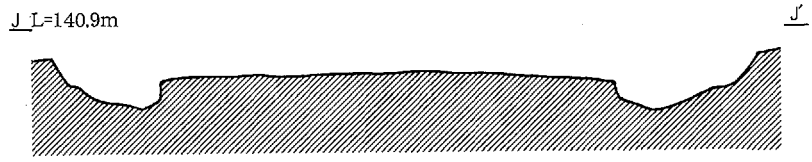
1 暗褐色細砂層　○○ 軽石、焼土ブロック。
2 褐色細砂層　○○ 焼土ブロック多量。

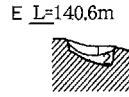




H−34号住居跡　P_5号柱穴セクション

1 黒褐色細砂層　○○ ロームブロック。軽石極少。
2 褐色細砂層　○○ ローム主体。





H−34号住居跡　P_6号柱穴セクション

1 黒褐色細砂層　○○ ロームブロック多量。
2 褐色細砂層　○○ ローム主体。

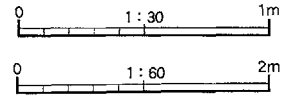


Fig.33　H−34号住居跡

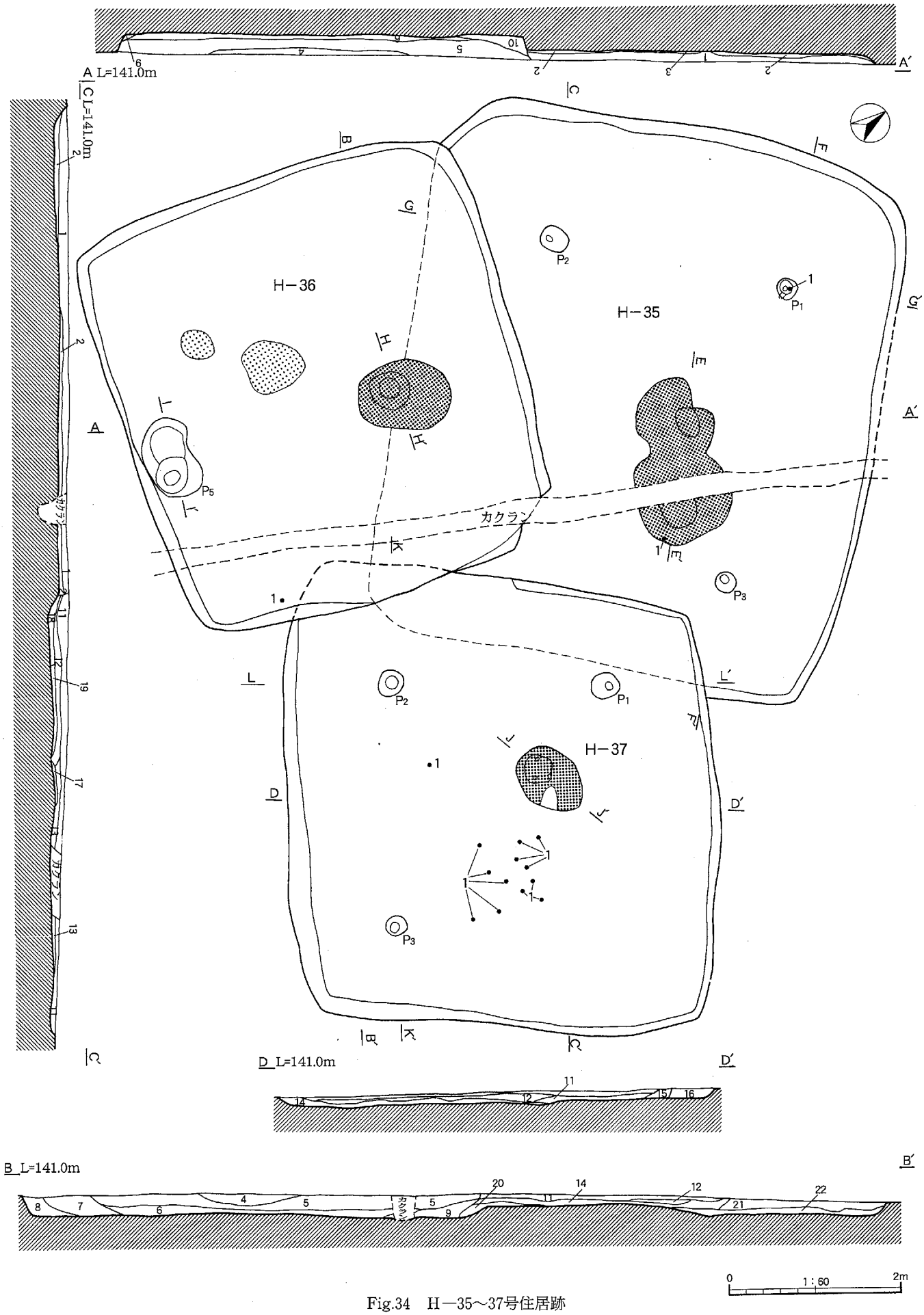
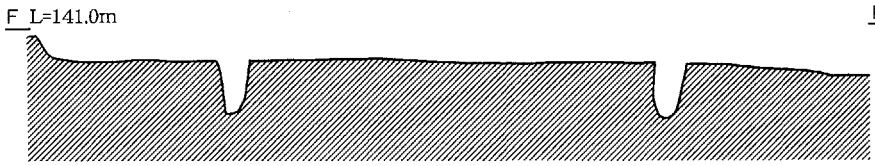


Fig.34　H−35～37号住居跡

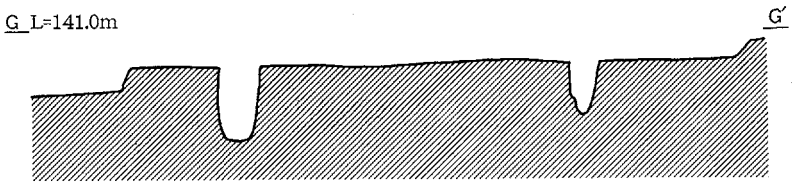
H—35・36・37号住居跡　ベルトセクション

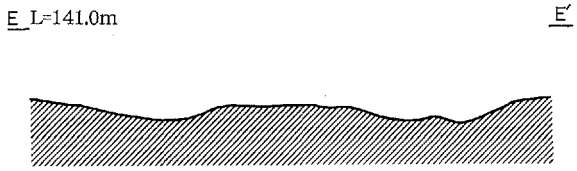
1	暗褐色細砂層	○△	As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物、焼土粒。
2	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、炭化物、焼土粒。
3	黒褐色細砂層	○○	焼土多量。As-C軽石、ロームブロック少量。
4	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石、白色軽石多量。ローム粒。
5	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、白色軽石多量。ローム粒、炭化物。
6	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、白色軽石、炭化物、焼土粒。
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、ローム粒多量。
8	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、ローム粒。
9	暗褐色細砂層	○△	As-C軽石、白色軽石多量。ローム粒少量。
10	黒褐色細砂層	△○	As-C軽石、白色軽石多量。ロームブロック。
11	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、炭化物、焼土粒。
12	黒色細砂層	○○	As-C軽石、黒墨土。ロームブロック少量。
13	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、炭化物。
14	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒、ロームブロック、炭化物。
15	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒、炭化物。
16	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C軽石、ローム粒、ロームブロック。
17	暗褐色細砂層	○○	炉直上。焼土多量。As-C軽石少量。
18	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C軽石、ロームブロック、ローム粒多量。
19	褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。
20	褐色細砂層	○○	ローム主体。
21	暗褐色細砂層	○○	As-C軽石、ローム粒。
22	にぶい黄褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。As-C軽石、ローム粒。

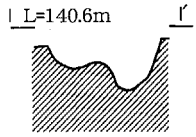


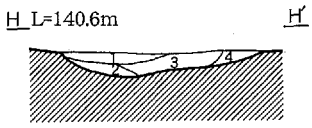
H—35号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	円　形	28	27	43	
P_2	楕円形	33	27	58	
P_3	円　形	26	23	47	







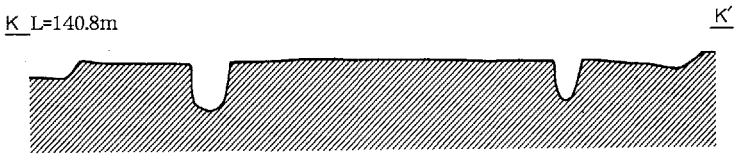


H—36号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_5	楕円形	98	55	38.5	貯蔵穴

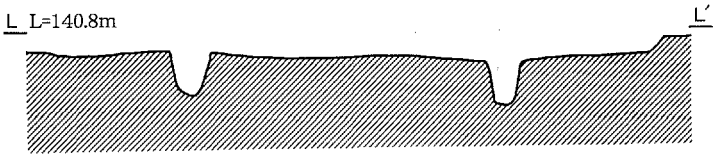
H—36号住居跡　炉セクション

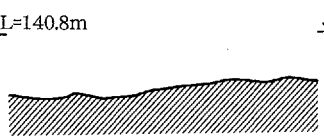
1	褐色細砂層	○○	焼土ブロック、炭化物。軽石少量。
2	明褐色細砂層	△○	焼土ブロック。
3	褐色細砂層	○○	焼土、焼土ブロック多量。
4	暗褐色細砂層	○○	焼土ブロック。軽石少量。



H—37号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P_1	円　形	35	30	45	
P_2	楕円形	37	25	38	
P_3	円　形	23	23	38	





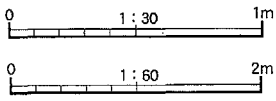
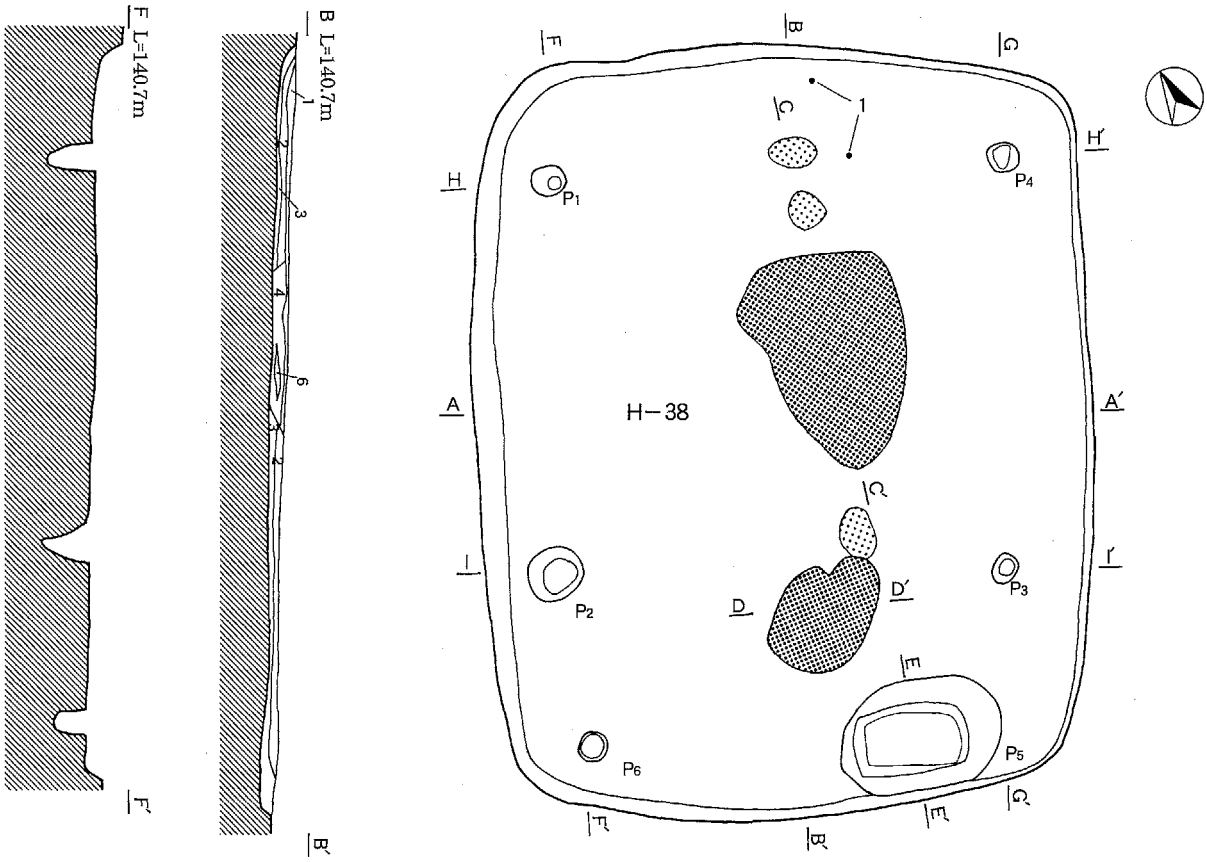
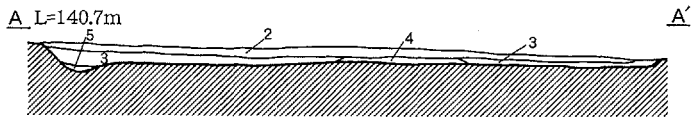


Fig.35　H—35～37号住居跡



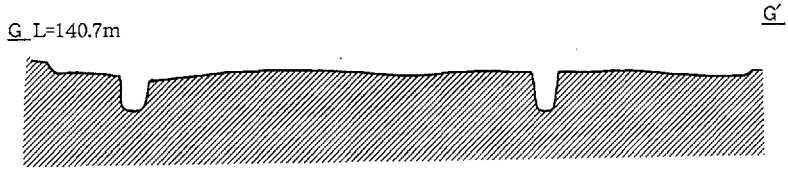
H−38号住居跡柱穴計測表

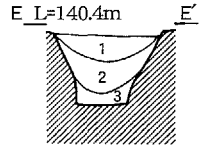
No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
P_1	円 形	26	25	36.5	
P_2	楕円形	46	40	41.5	
P_3	円 形	24	19	32	
P_4	円 形	26	24	28	
P_5	楕円形	132	87	61	貯蔵穴
P_6	円 形	24	24	25.5	

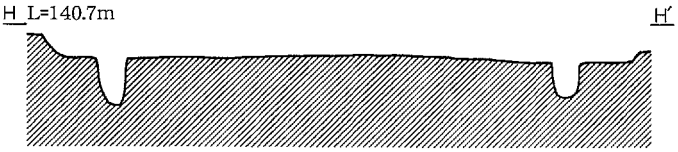


H−38号住居跡　ベルトセクション

1 暗褐色細砂層　○○ As-C軽石。
2 黒褐色細砂層　○○ As-C軽石多量。ロームブロック少量。
3 暗褐色細砂層　○○ ロームブロック多量。As-C軽石。炭化物少量。
4 暗褐色細砂層　○○ 焼土多量。As-C軽石。
5 極暗褐色細砂層　○○ 焼土、As-C軽石。
6 暗褐色細砂層　△○ ローム粒。ロームブロック少量。

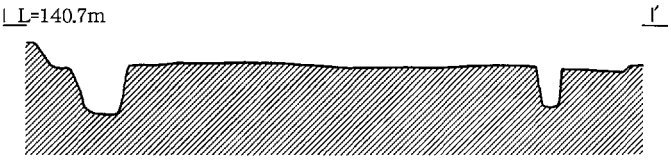






H−38号住居跡　P_5号柱穴セクション

1 黒褐色細砂層　○○ As-C軽石。ロームブロック少量。炭化物極少。
2 黒褐色細砂層　△○ As-C軽石少量。ローム粒。
3 暗褐色細砂層　○○ ロームブロック。As-C軽石極少。



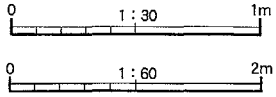
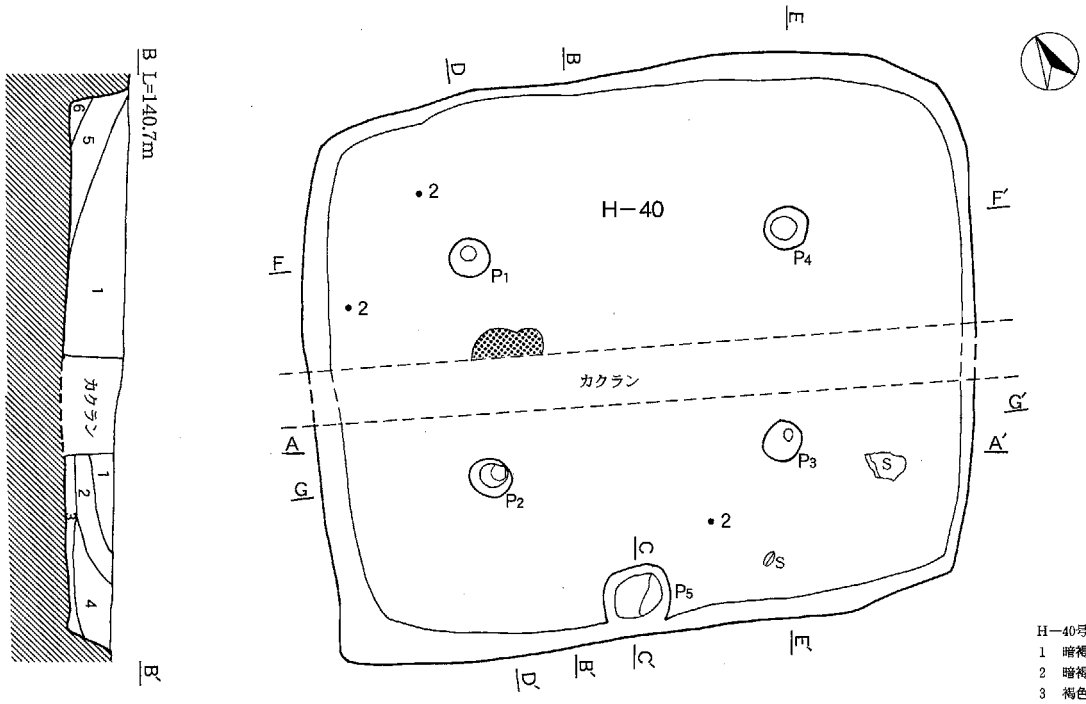
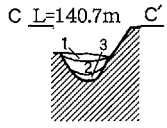


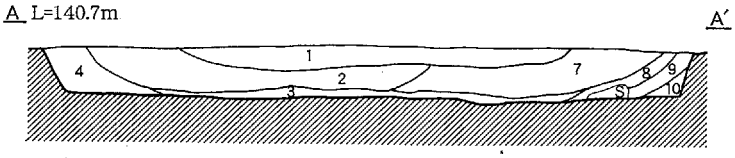
Fig.36　H−38号住居跡

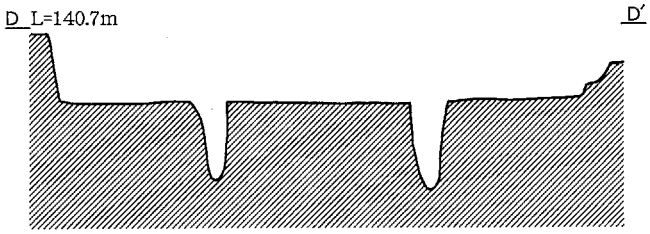




H−40号住居跡　　P_5号柱穴セクション

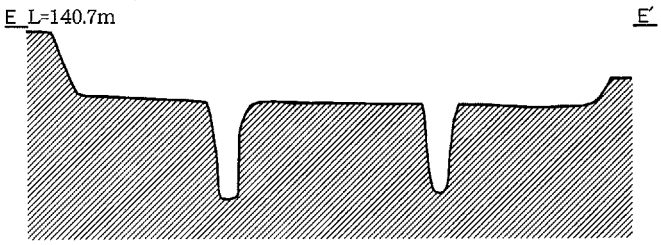
1	暗褐色細砂層	○○	ローム粒。
2	暗褐色細砂層	○◎	ロームブロック少量。
3	褐色細砂層	○◎	ロームブロック多量。

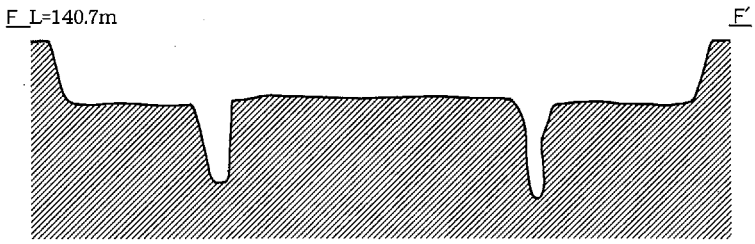




H−40号住居跡　　ベルトセクション

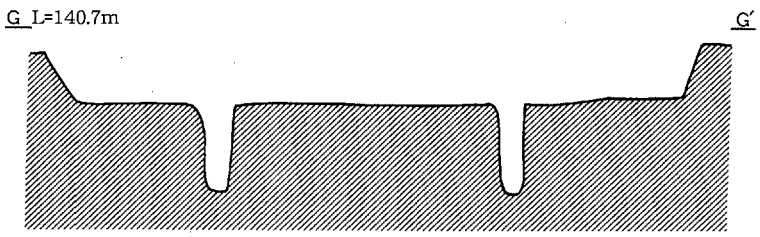
1	黒色細砂層	△△	As-C軽石多量。
2	黒褐色細砂層	△△	As-C軽石多量。ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
3	暗褐色細砂層	△◎	ロームブロック多量。As-C軽石。炭化物少量。
4	にぶい黄褐色細砂層	△○	ローム粒多量。ロームブロック、As-C軽石。
5	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
6	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ロームブロック少量。
7	黒褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒。炭化物少量。
8	褐色細砂層	△○	炭化物極少。
9	褐色細砂層	△△	ロームブロック多量。As-C軽石、ローム粒。
10	黒褐色細砂層	△△	ロームブロック多量。As-C軽石。





H−40号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	31	30	64.5	
P_2	円　形	32	31	70.5	
P_3	円　形	32	30	75	
P_4	円　形	36	34	76	
P_5	円　形	60	56	42	貯蔵穴



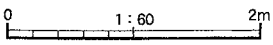
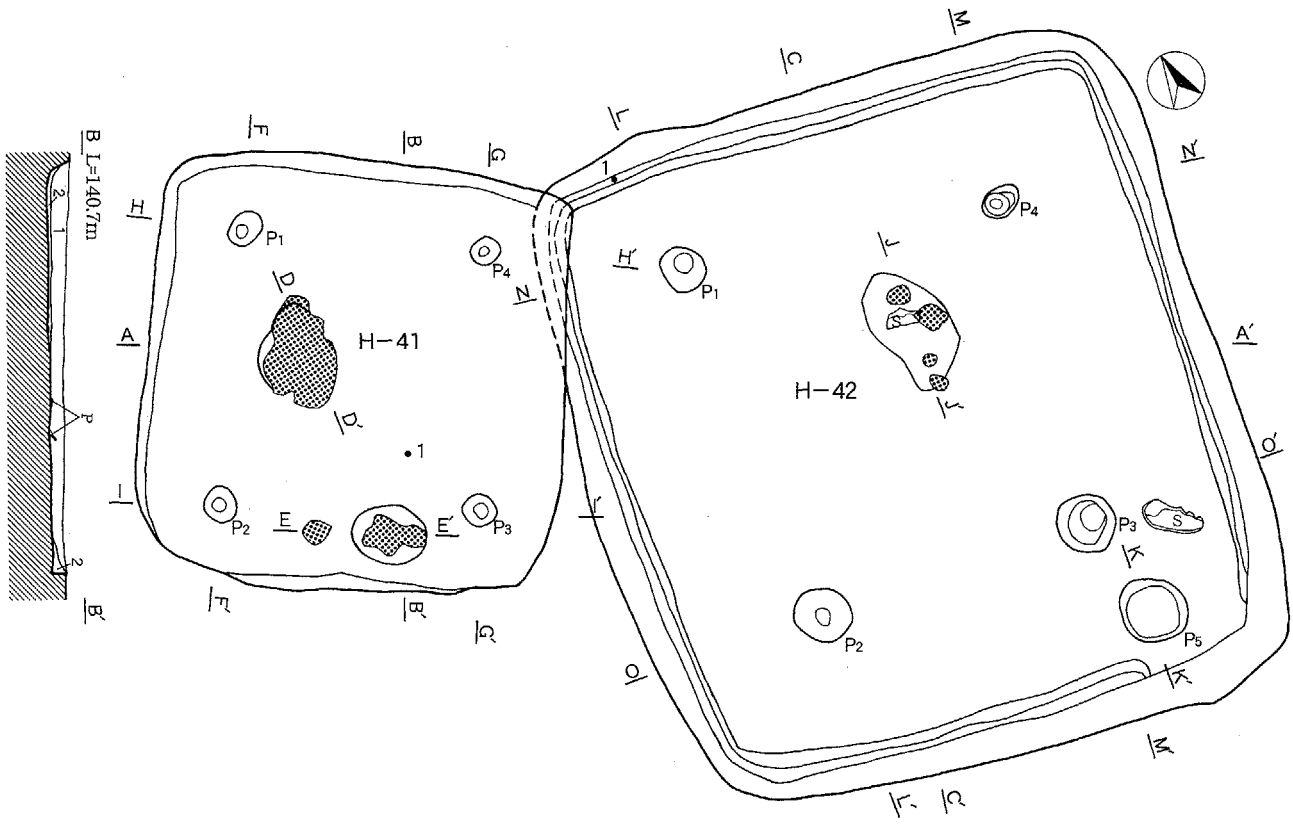
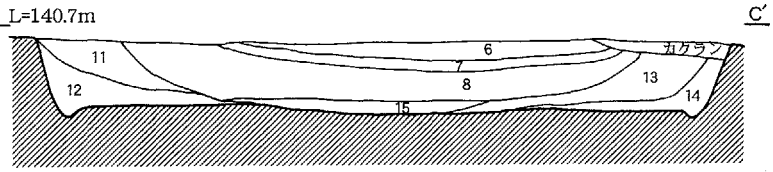


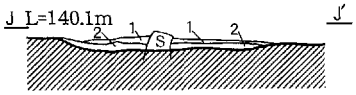
Fig.37　H−40号住居跡



H—41・42住居跡　　ベルトセクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C軽石多量。ロームブロック。
2　暗褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。As-C軽石少量。
3　褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。As-C軽石。
4　暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック多量。ロームブロック、As-C軽石、炭化物。
5　黒褐色細砂層　○○　As-C軽石多量。ローム粒少量。
6　黒褐色細砂層　○○　As-C軽石、白色軽石多量。
7　灰黄褐色細砂層　○△　黄色粒の混入した粘土ブロック多量。As-C軽石。
8　黒色細砂層　○○　As-C軽石多量。ローム粒。白色軽石少量。
9　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C軽石多量。白色軽石、ロームブロック少量。
10　褐色細砂層　△○　ローム粒多量。ロームブロック。As-C軽石少量。
11　暗褐色細砂層　○○　As-C軽石、ローム粒。白色軽石少量。
12　にぶい黄褐色細砂層　△○　ローム粒多量。ロームブロック。As-C軽石少量。
13　黒褐色細砂層　△○　As-C軽石多量。
14　にぶい黄褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。
15　暗褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。焼土、炭化物。As-C軽石少量。





H—42号住居跡　　炉セクション

1　暗褐色細砂層　×○　焼土粒、ローム粒。
2　褐色細砂層　△○　焼土ブロック多量。

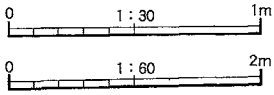
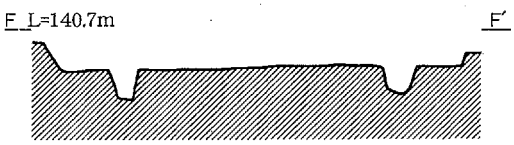
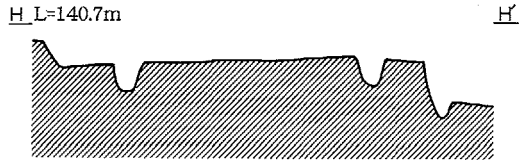
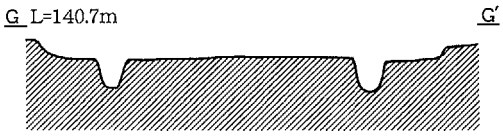
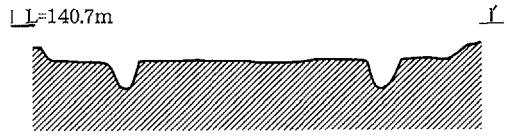


Fig.38　H—41・42号住居跡



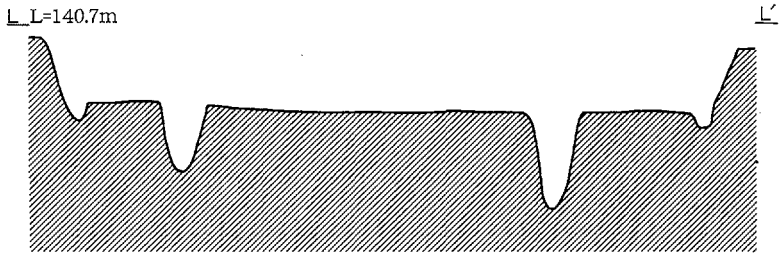






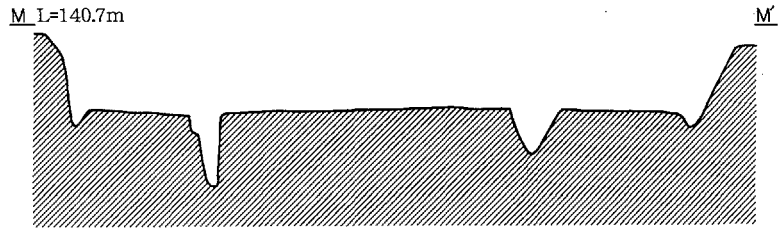
H－41号住居跡柱穴計測表

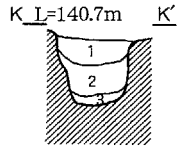
No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	30	25	24.5	
P_2	円　形	29	26	21.5	
P_3	円　形	27	26	31.5	
P_4	円　形	27	22	22.5	



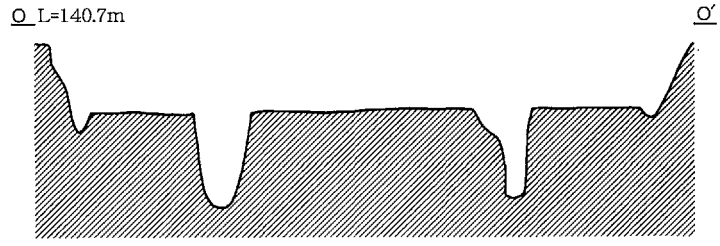
H－42号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	37	35	52	
P_2	円　形	46	46	77.5	
P_3	円　形	49	49	71	
P_4	楕円形	33	23	48.5	
P_5	円　形	54	50	32	貯蔵穴





H－42号住居跡　　P_5号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　　△○　ローム粒。As-C軽石極少。
2　暗褐色細砂層　　△○　ローム ブロック多量。
3　褐色細砂層　　○○　ローム ブロック多量。



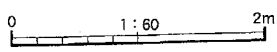
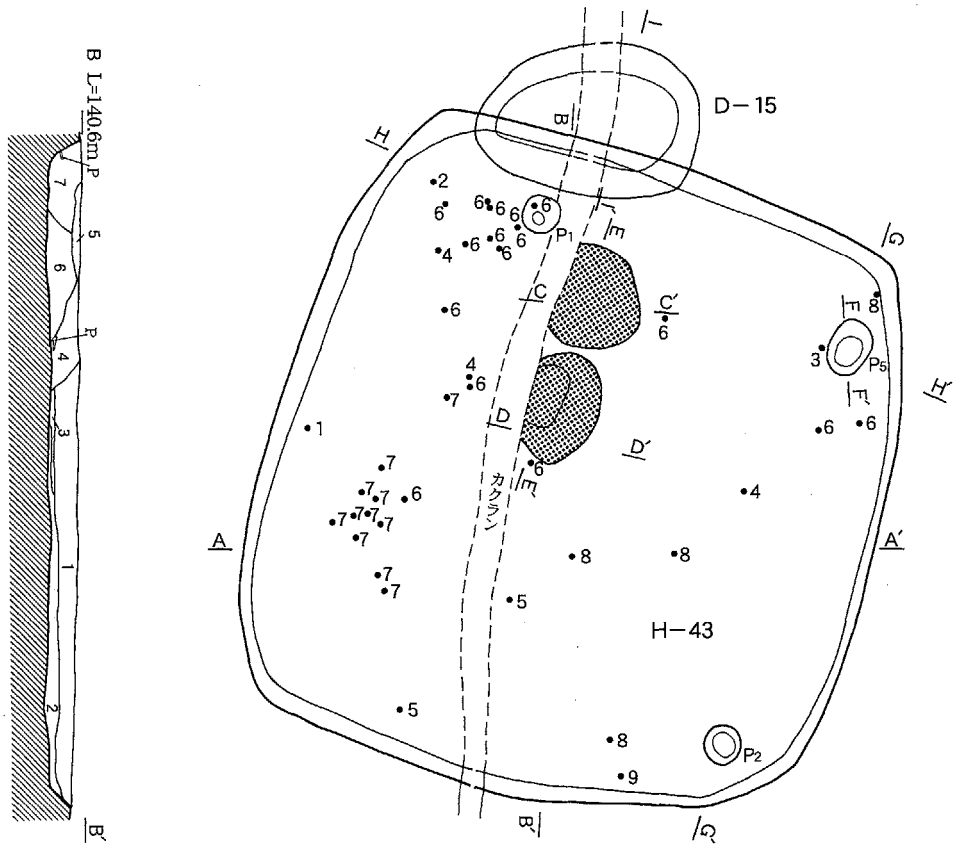
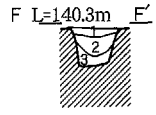
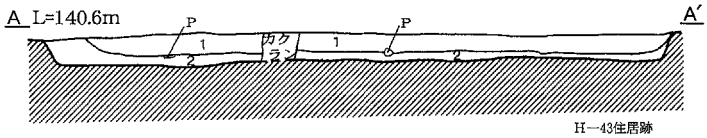


Fig.39　H－41・42号住居跡

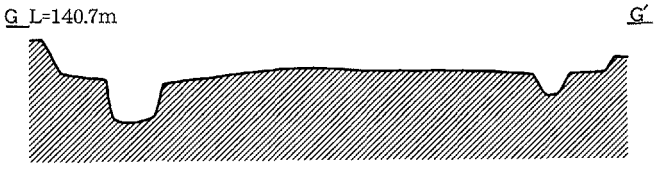


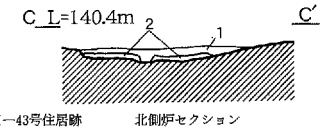


H−43号住居跡	P_5号柱穴セクション
1 暗褐色細砂層	△○ ロームブロック。As-C軽石少量。
2 暗褐色細砂層	△○ ローム粒。As-C軽石少量。
3 にぶい黄褐色細砂層	△○ ロームブロック多量。炭化物。

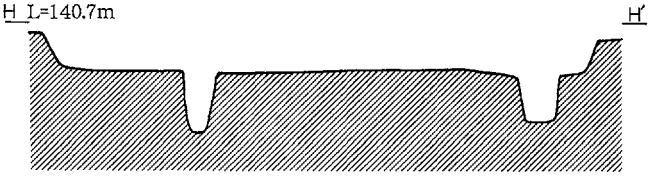


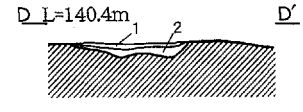
H−43住居跡	ベルトセクション
1 黒褐色細砂層	○○ As-C軽石多量。ロームブロック少量。
2 暗褐色細砂層	○○ ロームブロック多量。As-C軽石。炭化物、焼土粒極少。
3 暗褐色細砂層	○○ 焼土、焼土ブロック多量。As-C軽石。炉直上。
4 にぶい黄褐色細砂層	○○ As-C軽石。ロームブロック少量。
5 黒褐色細砂層	○× 砂質土。
6 暗褐色細砂層	○○ As-C軽石、ローム粒。ロームブロック少量。
7 黒褐色細砂層	△△ As-C軽石多量。ロームブロック、炭化物。





H−43号住居跡	北側炉セクション
1 暗褐色細砂層	○○ 焼土ブロック。白色軽石少量。
2 明褐色細砂層	◎◎ 焼土主体。

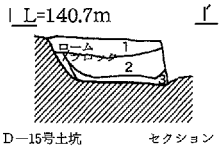


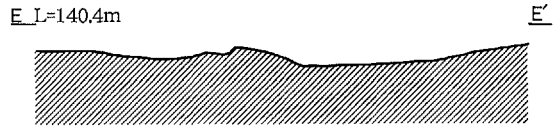


H−43号住居跡	南側炉セクション
1 暗褐色細砂層	○○ 焼土ブロック。白色軽石少量。
2 明褐色細砂層	◎◎ 焼土主体。

H−43号住居跡柱穴計測表

No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
P_1	円 形	31	30	48	
P_2	円 形	30	30	19	
P_5	楕円形	44	32	35.5	貯蔵穴





D−15号土坑	セクション
1 黒褐色細砂層	○△ As-C軽石多量。ローム粒。
2 黒褐色細砂層	○○ ローム粒多量。As-C軽石。
3 黒色細砂層	○○ ロームブロック多量。As-C軽石。

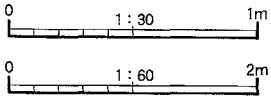
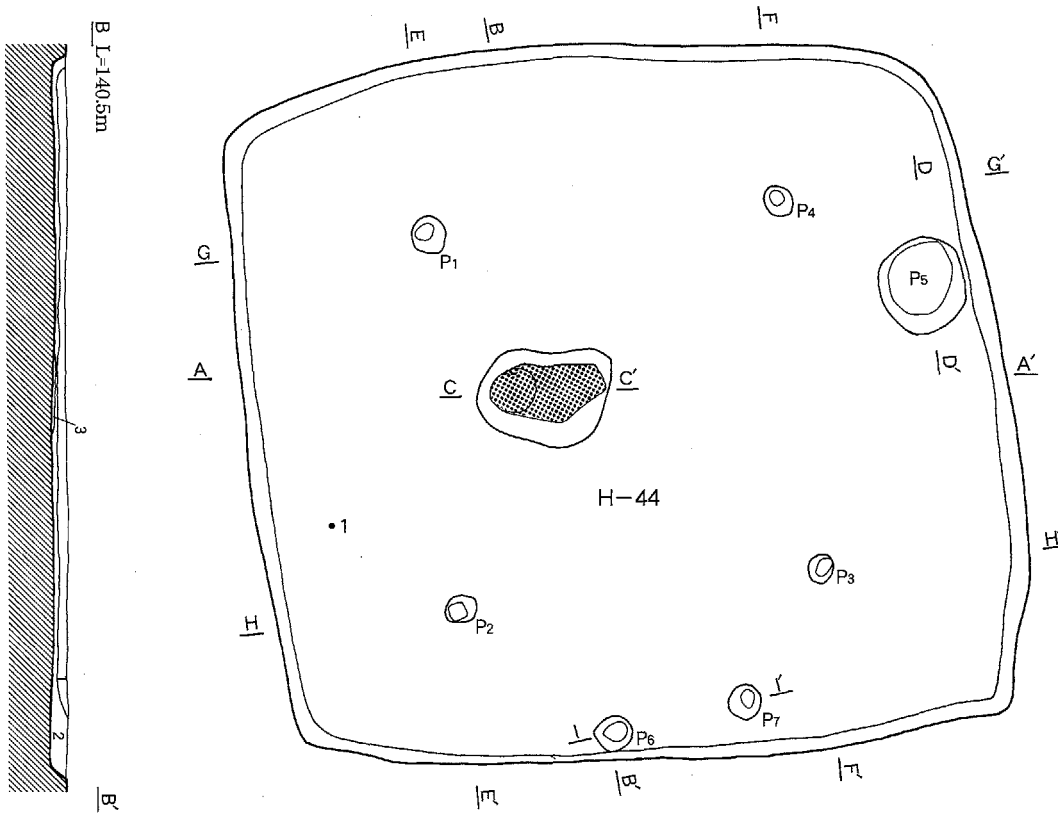


Fig.40 H−43号住居跡、D−15号土坑

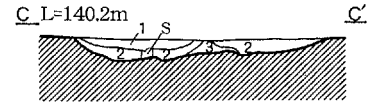


H−44住居跡　P5号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△○	As-C軽石、ローム粒。
2	黒褐色細砂層	△○	ローム粒多量。As-C軽石、ロームブロック。炭化物極少。
3	褐色細砂層	△○	ロームブロック多量。ローム粒。
4	暗褐色細砂層	×○	ロームブロック。

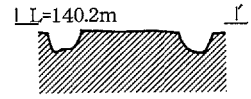
H−44住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C軽石多量。ロームブロック、ローム粒。
2	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック。As-C軽石、炭化物少量。
3	黒褐色細砂層	○○	焼土ブロック。As-C軽石少量。炉直上。
4	黒色細砂層	○○	As-C軽石、ローム粒多量。
5	暗褐色細砂層	○×	As-C軽石極少。
6	黒褐色細砂層	◎○	ロームブロック、As-C軽石。焼土粒極少。
7	黒色細砂層	△○	As-C軽石多量。
8	暗褐色細砂層	△○	ロームブロック。炭化物、焼土粒少量。



H−44号住居跡　炉セクション

1	黒褐色細砂層	△○	ロームブロック少量。焼土極少。
2	暗褐色細砂層	○○	ロームブロック多量。白色軽石極少。
3	明褐色細砂層	◎×	焼土ブロック多量。



H−44号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
P_1	円形	29	27	72.5	
P_2	円形	27	24	64.5	
P_3	円形	25	21	71	
P_4	円形	26	23	73.5	
P_5	円形	75	74	63	貯蔵穴
P_6	円形	30	28	16.5	
P_7	円形	26	26	18	

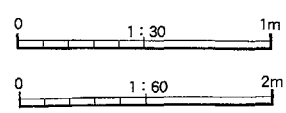
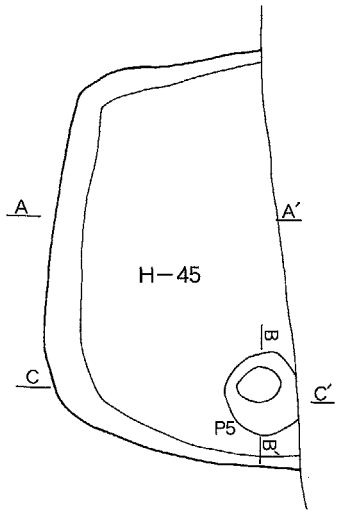
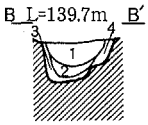


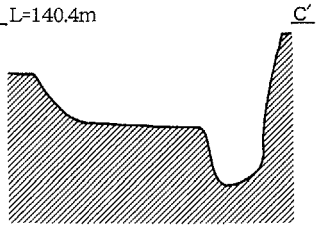
Fig.41　H−44号住居跡





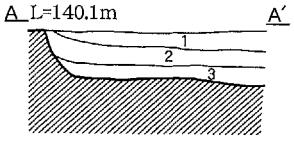
H−45住居跡　ベルトセクション

1	黒色細砂層	○○　白色軽石、ローム粒多量。
2	黒褐色細砂層	○○　ローム粒。白色軽石少量。
3	暗褐色細砂層	○△　ロームブロック。



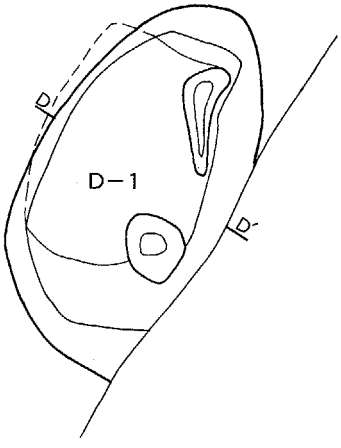
H−45号住居跡柱穴計測表

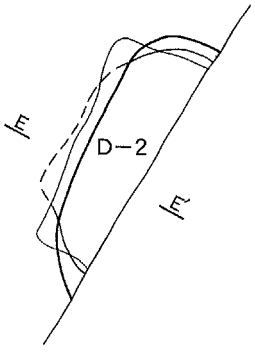
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_5	円　形	64	63	43	貯蔵穴

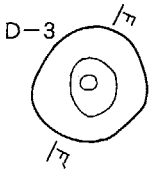


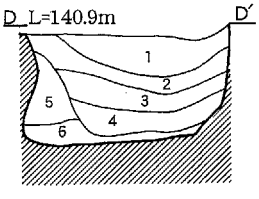
H−45号住居跡　P_5号柱穴セクション

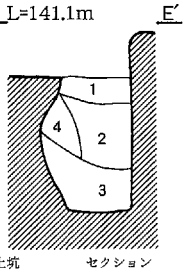
1	黒褐色細砂層	○○　ロームブロック少量。
2	褐色細砂層	○○　ロームブロック。焼土粒極少。
3	暗褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。
4	褐色細砂層	○○　ローム主体。

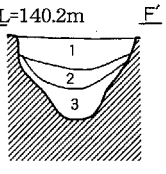












D−3号土坑　セクション

1	暗褐色細砂層	○○　ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
2	暗褐色細砂層	△○　ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
3	にぶい黄褐色細砂層	○○　ローム粒。ロームブロック少量。炭化物極少。

D−1号土坑　セクション

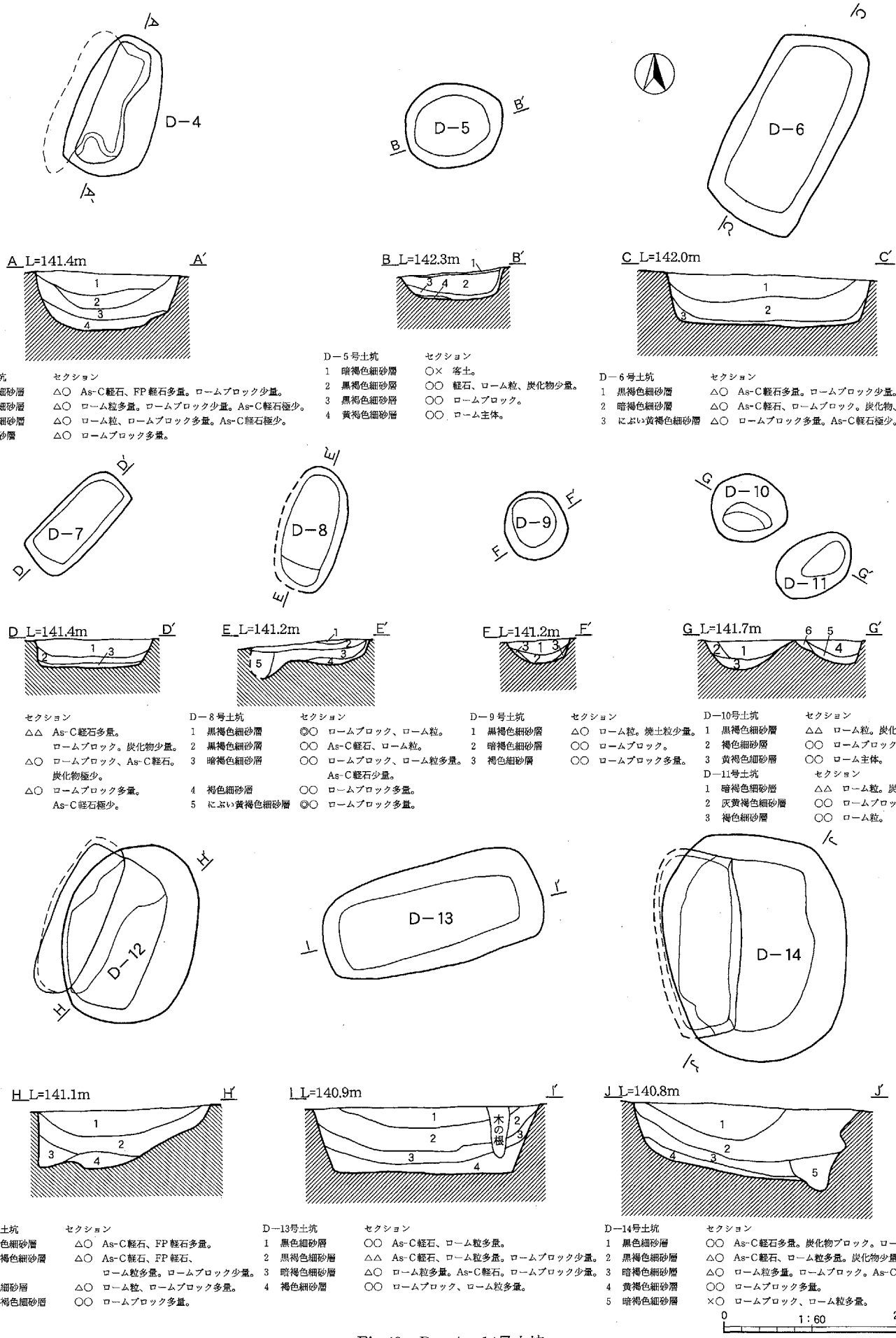
1	黒色細砂層	○○　As-C軽石、ローム粒。FP軽石、焼土粒少量。
2	黒褐色細砂層	△○　As-C軽石多量。ローム粒。
3	黒褐色細砂層	△○　As-C軽石多量。ローム粒。
4	暗褐色細砂層	△○　ロームブロック、ローム粒。As-C軽石極少。
5	にぶい黄褐色細砂層	△○　ローム粒多量。
6	黒褐色細砂層	○○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。

D−2号土坑　セクション

1	黒褐色細砂層	△○　As-C軽石多量。ローム粒。焼土粒極少。
2	黒色細砂層	△○　As-C軽石多量。ローム粒。
3	黒褐色細砂層	×○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。
4	暗褐色細砂層	△○　As-C軽石極少。

0　1：60　2m

Fig.42　H−45号住居跡、D−1〜3号土坑



D−4号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△○　As-C軽石、FP軽石多量。ロームブロック少量。
2　黒褐色細砂層　△○　ローム粒多量。ロームブロック少量。As-C軽石極少。
3　暗褐色細砂層　△○　ローム粒、ロームブロック多量。As-C軽石極少。
4　褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。

D−5号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　客土。
2　黒褐色細砂層　○○　軽石、ローム粒、炭化物少量。
3　黒褐色細砂層　○○　ロームブロック。
4　黄褐色細砂層　○○　ローム主体。

D−6号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△○　As-C軽石多量。ロームブロック少量。焼土粒極少。
2　暗褐色細砂層　△○　As-C軽石、ロームブロック。炭化物、焼土粒少量。
3　にぶい黄褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。

D−7号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C軽石多量。ロームブロック。炭化物少量。
2　黒褐色細砂層　△○　ロームブロック、As-C軽石。炭化物極少。
3　暗褐色細砂層　△○　ロームブロック多量。As-C軽石極少。

D−8号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　◎○　ロームブロック、ローム粒。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C軽石、ローム粒。
3　暗褐色細砂層　○○　ロームブロック、ローム粒多量。As-C軽石少量。
4　褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。
5　にぶい黄褐色細砂層　◎○　ロームブロック多量。

D−9号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△○　ローム粒。焼土粒少量。
2　暗褐色細砂層　○○　ロームブロック。
3　褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。

D−10号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△△　ローム粒。炭化物極少。
2　褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。
3　黄褐色細砂層　○○　ローム主体。

D−11号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
2　灰黄褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。炭化物。
3　褐色細砂層　○○　ローム粒。

D−12号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△○　As-C軽石、FP軽石多量。
2　灰黄褐色細砂層　△○　As-C軽石、FP軽石、ローム粒多量。ロームブロック少量。
3　褐色細砂層　△○　ローム粒、ロームブロック多量。
4　灰黄褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。

D−13号土坑　セクション
1　黒色細砂層　○○　As-C軽石、ローム粒多量。
2　黒褐色細砂層　△△　As-C軽石、ローム粒多量。ロームブロック少量。
3　暗褐色細砂層　△○　ローム粒多量。As-C軽石。ロームブロック少量。
4　褐色細砂層　○○　ロームブロック、ローム粒多量。

D−14号土坑　セクション
1　黒色細砂層　○○　As-C軽石多量。炭化物ブロック。ロームブロック少量。
2　黒褐色細砂層　△○　As-C軽石、ローム粒多量。炭化物少量。
3　暗褐色細砂層　△○　ローム粒多量。ロームブロック。As-C軽石少量。
4　黄褐色細砂層　○○　ロームブロック多量。
5　暗褐色細砂層　×○　ロームブロック、ローム粒多量。

Fig.43　D−4〜14号土坑

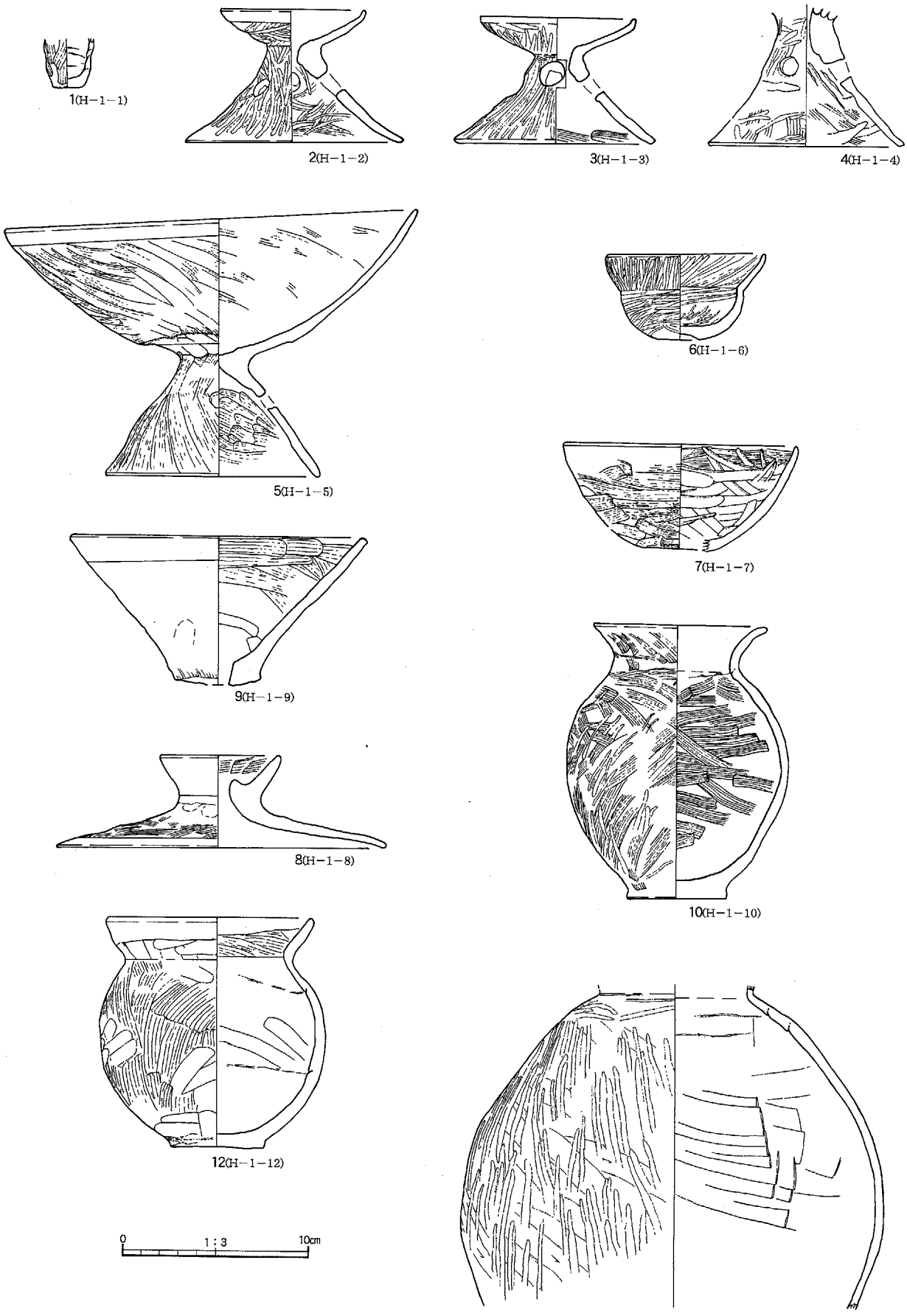


Fig.44　H－1号住居跡出土遺物

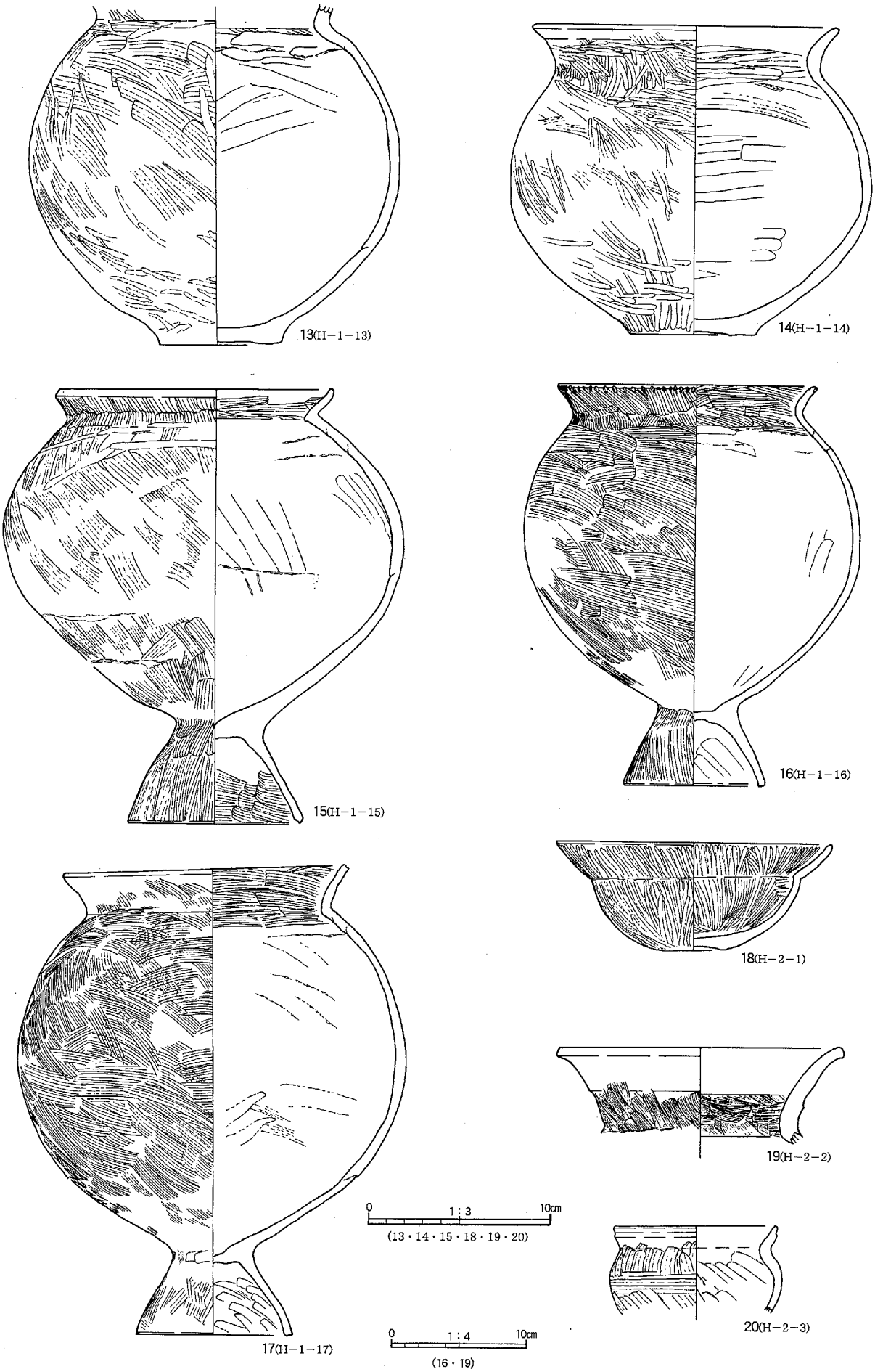


Fig.45　H−1・2号住居跡出土遺物

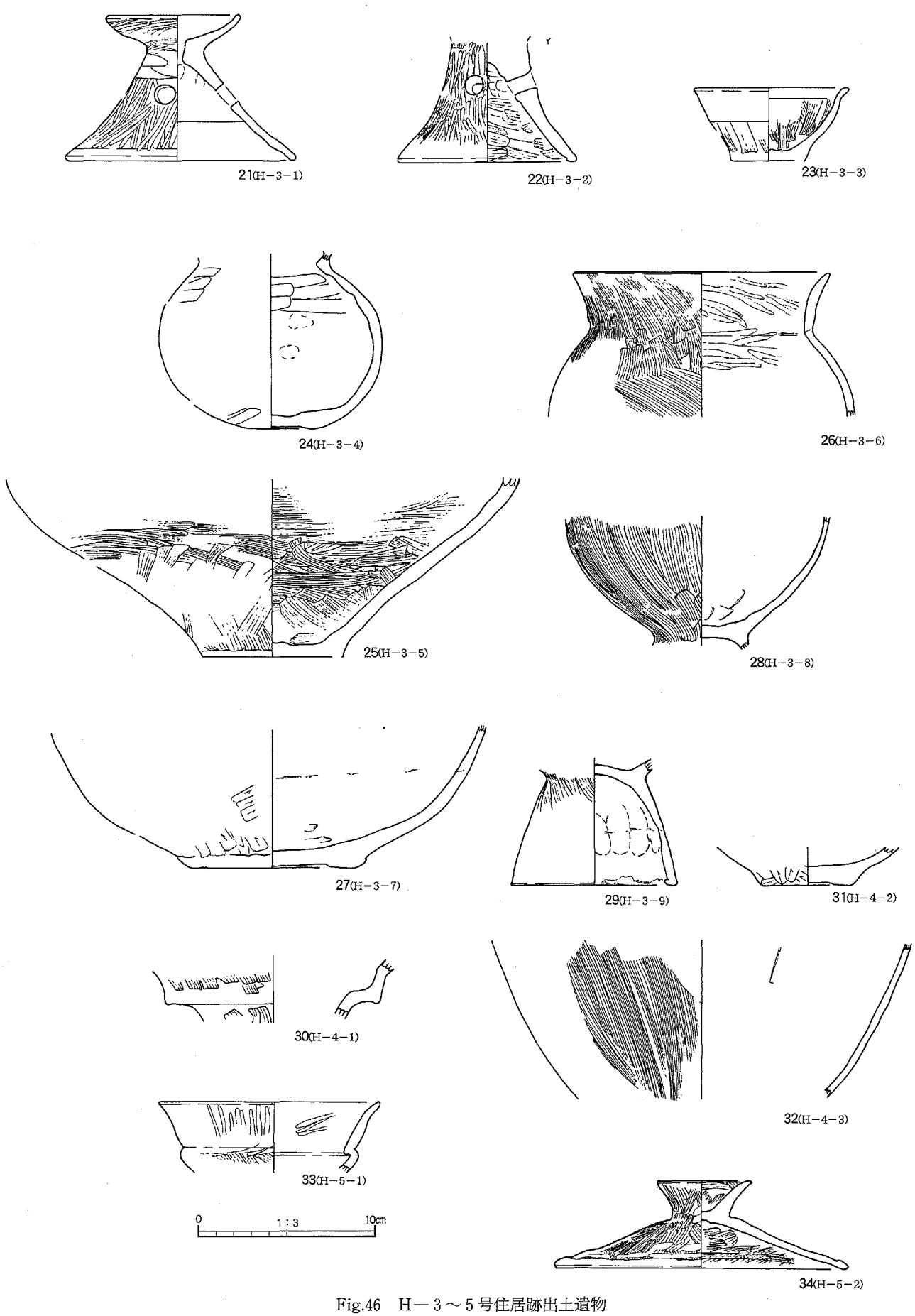


Fig.46　H－3～5号住居跡出土遺物

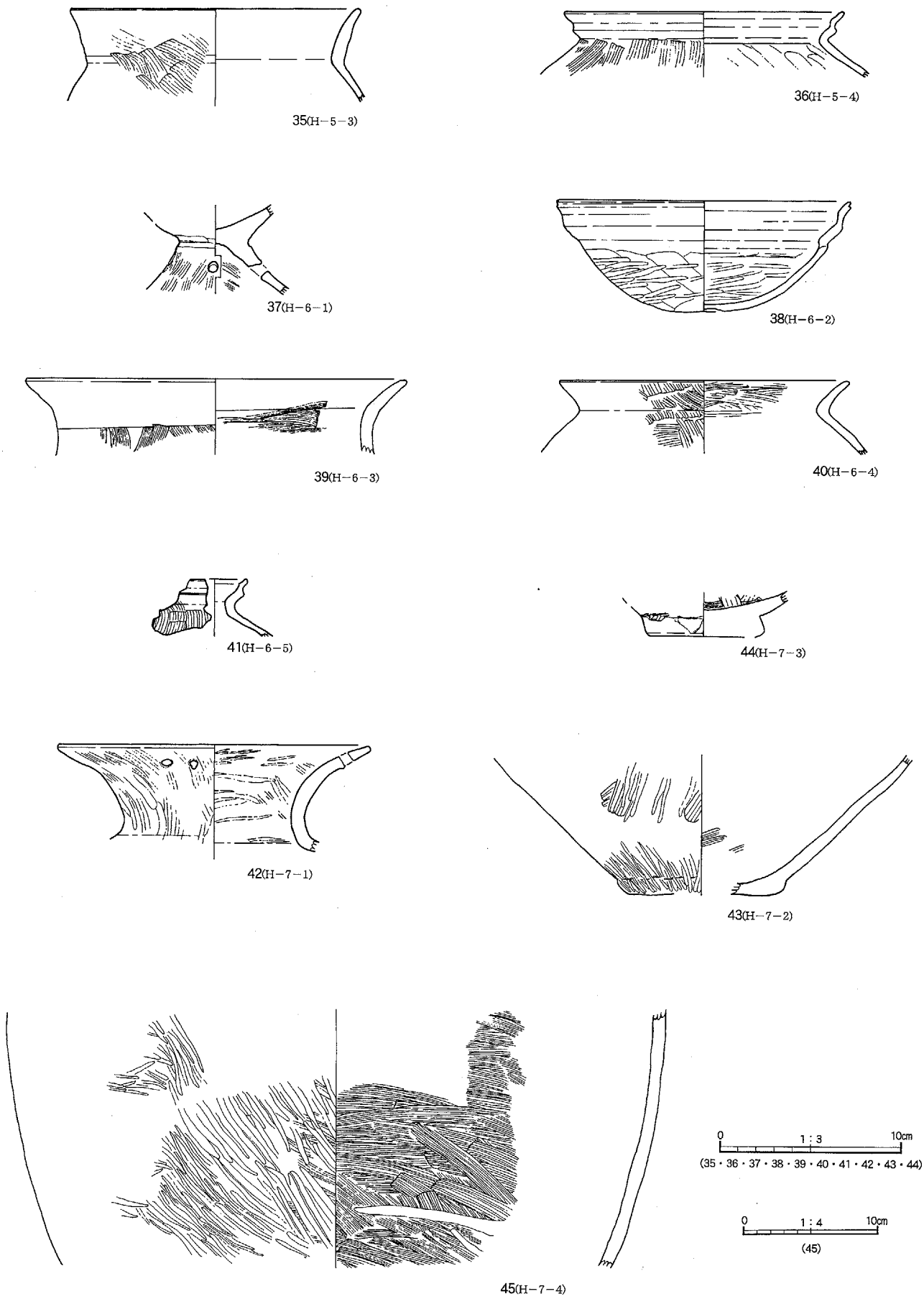


Fig.47　H−5〜7号住居跡出土遺物

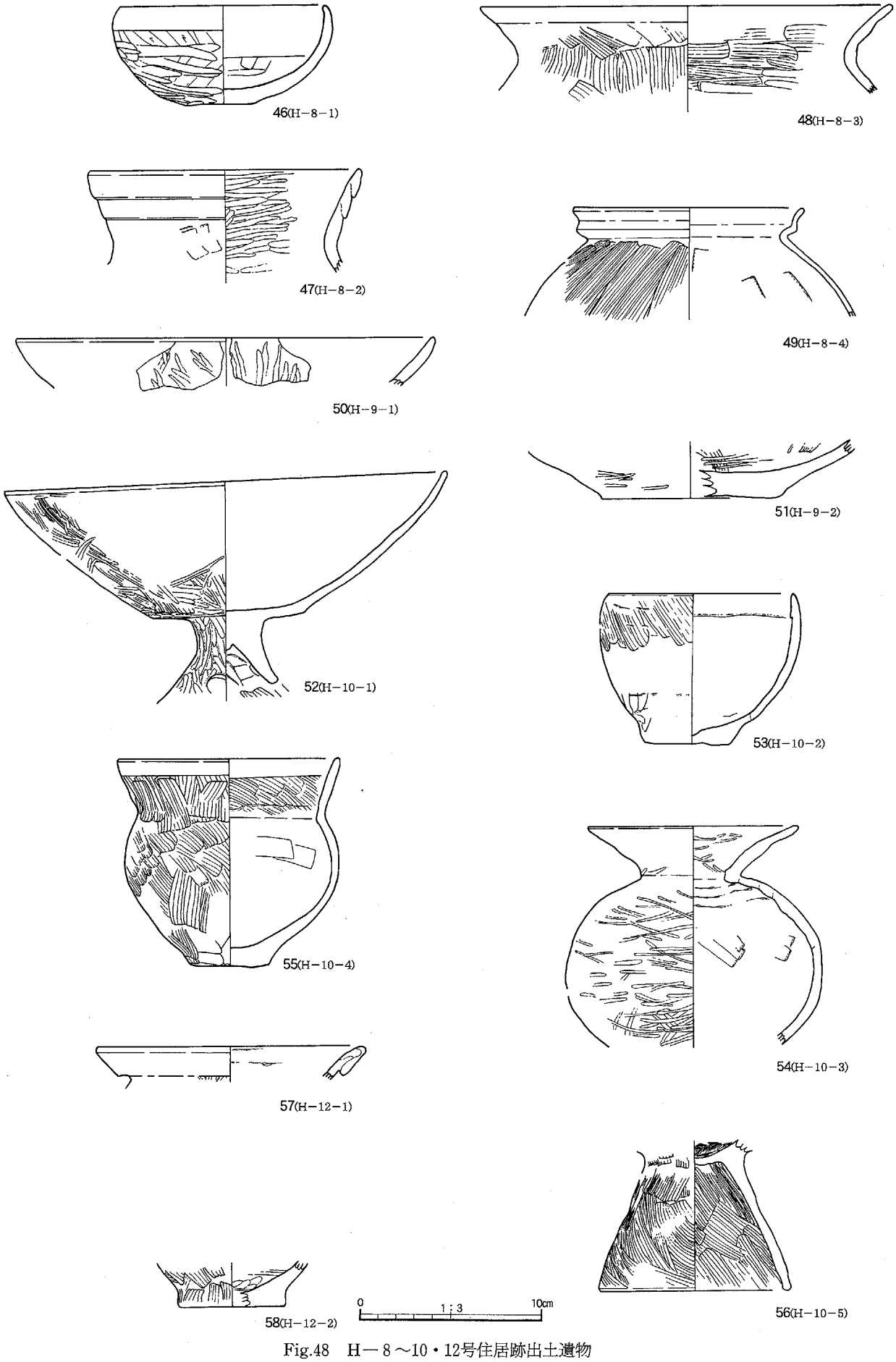
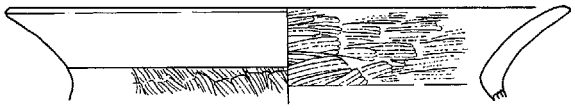
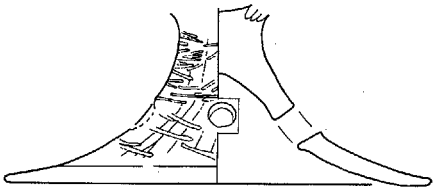


Fig.48　H−8～10・12号住居跡出土遺物

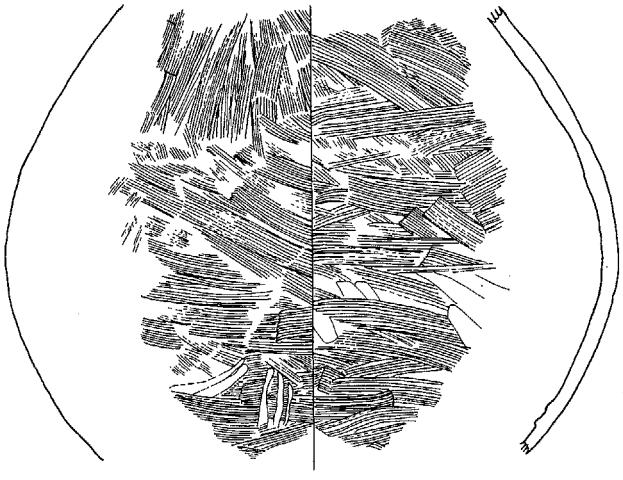


60(H−12−4)

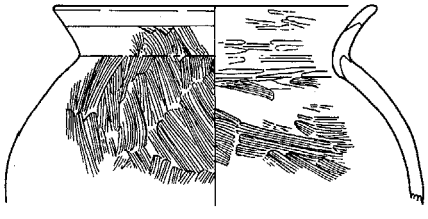


61(H−13−1)

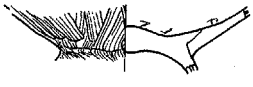
62(H−13−2)



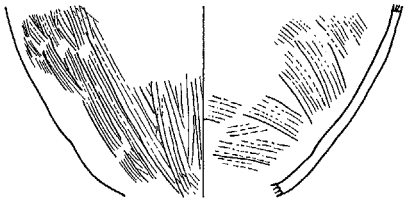
59(H−12−3)



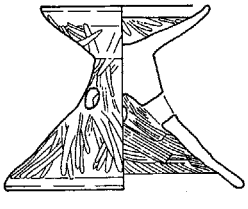
63(H−13−3)



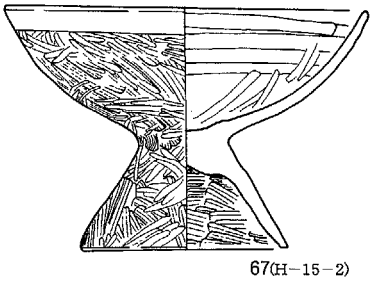
64(H−13−4)



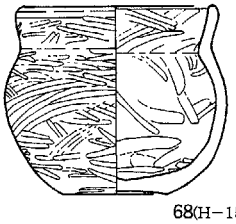
65(H−13−5)



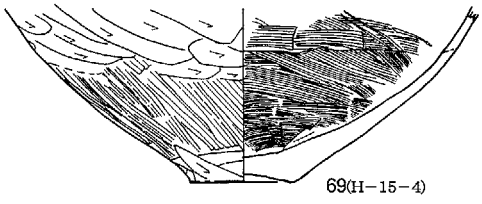
66(H−15−1)



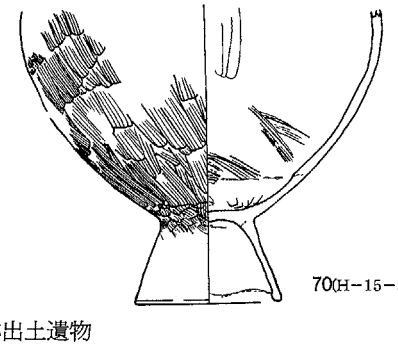
67(H−15−2)



68(H−15−3)



69(H−15−4)



70(H−15−5)

0 1:3 10cm
(59・60・61・62・63・64・66・67・68・69)

0 1:4 10cm
(65・70)

Fig.49　H—12・13・15号住居跡出土遺物

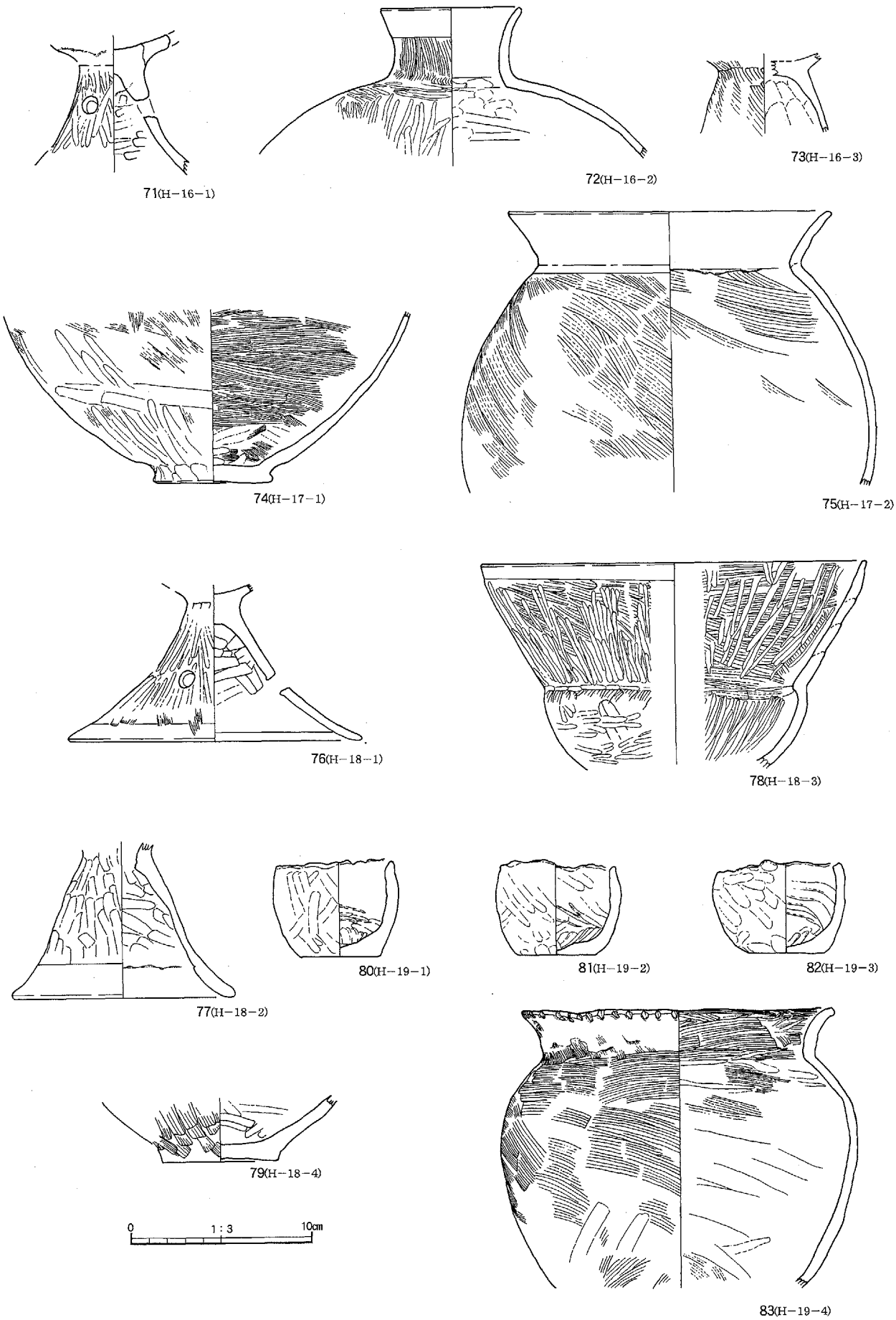


Fig.50　H—16～19号住居跡出土遺物

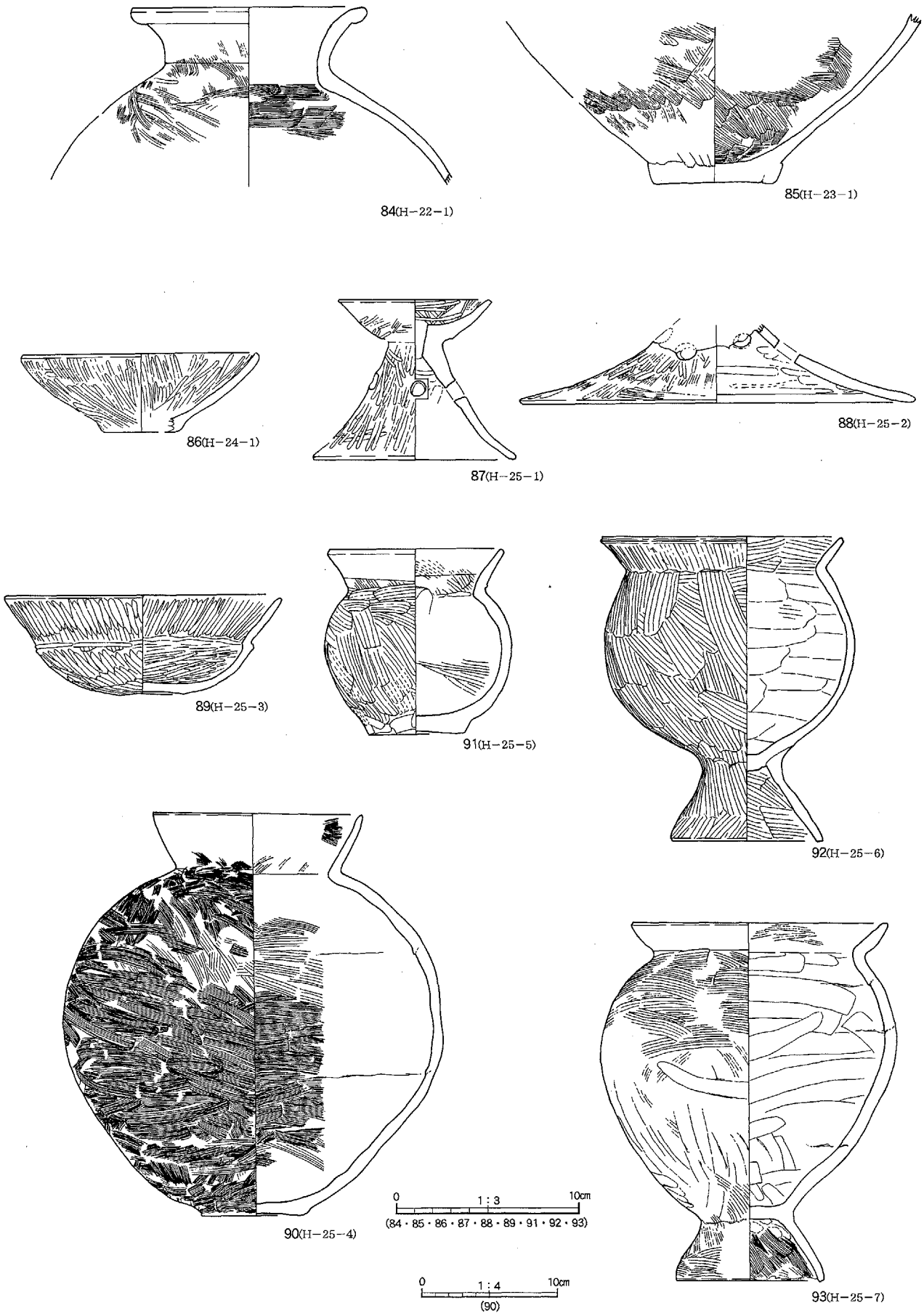


Fig.51　H−22〜25号住居跡出土遺物

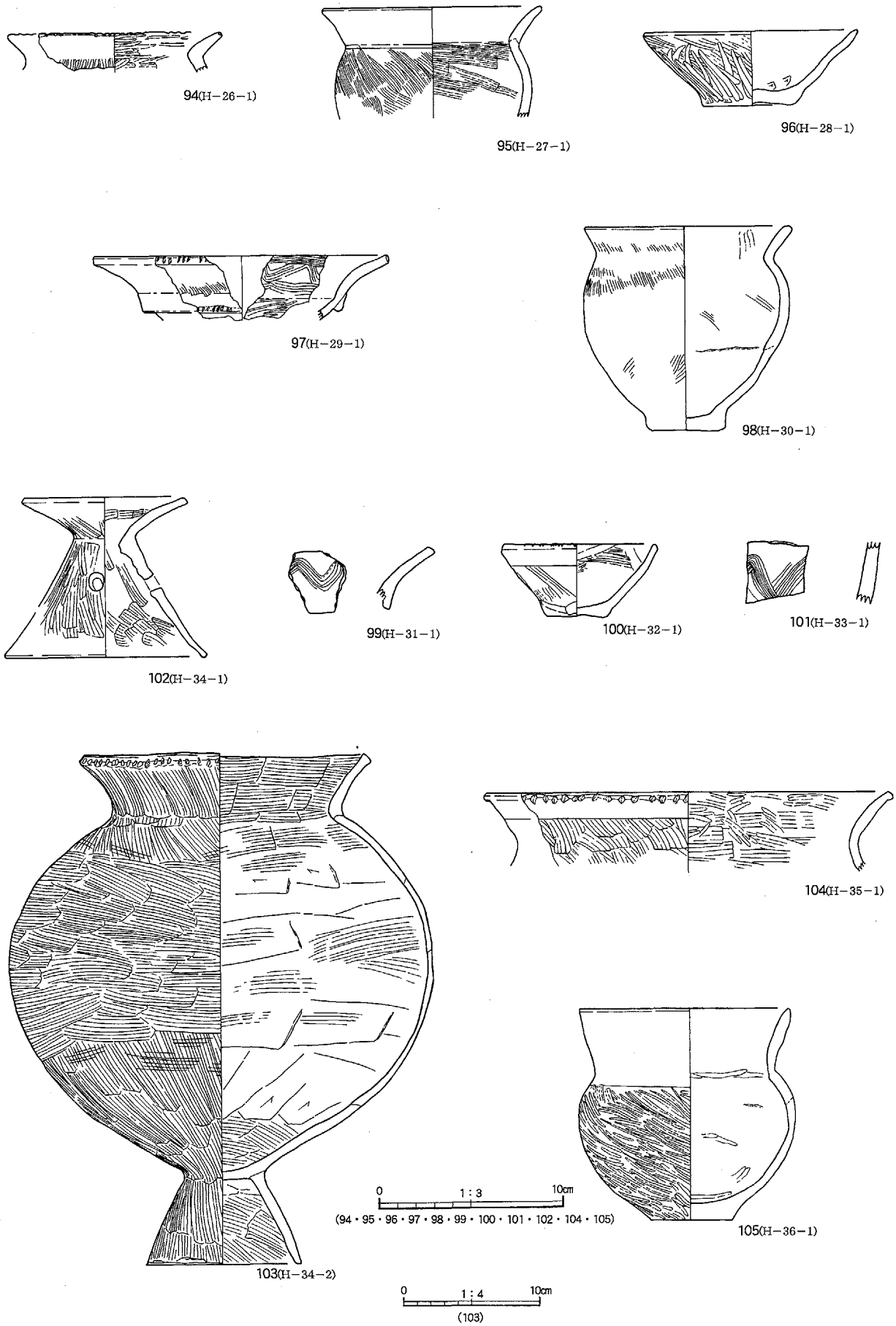


Fig.52　H—26～36号住居跡出土遺物

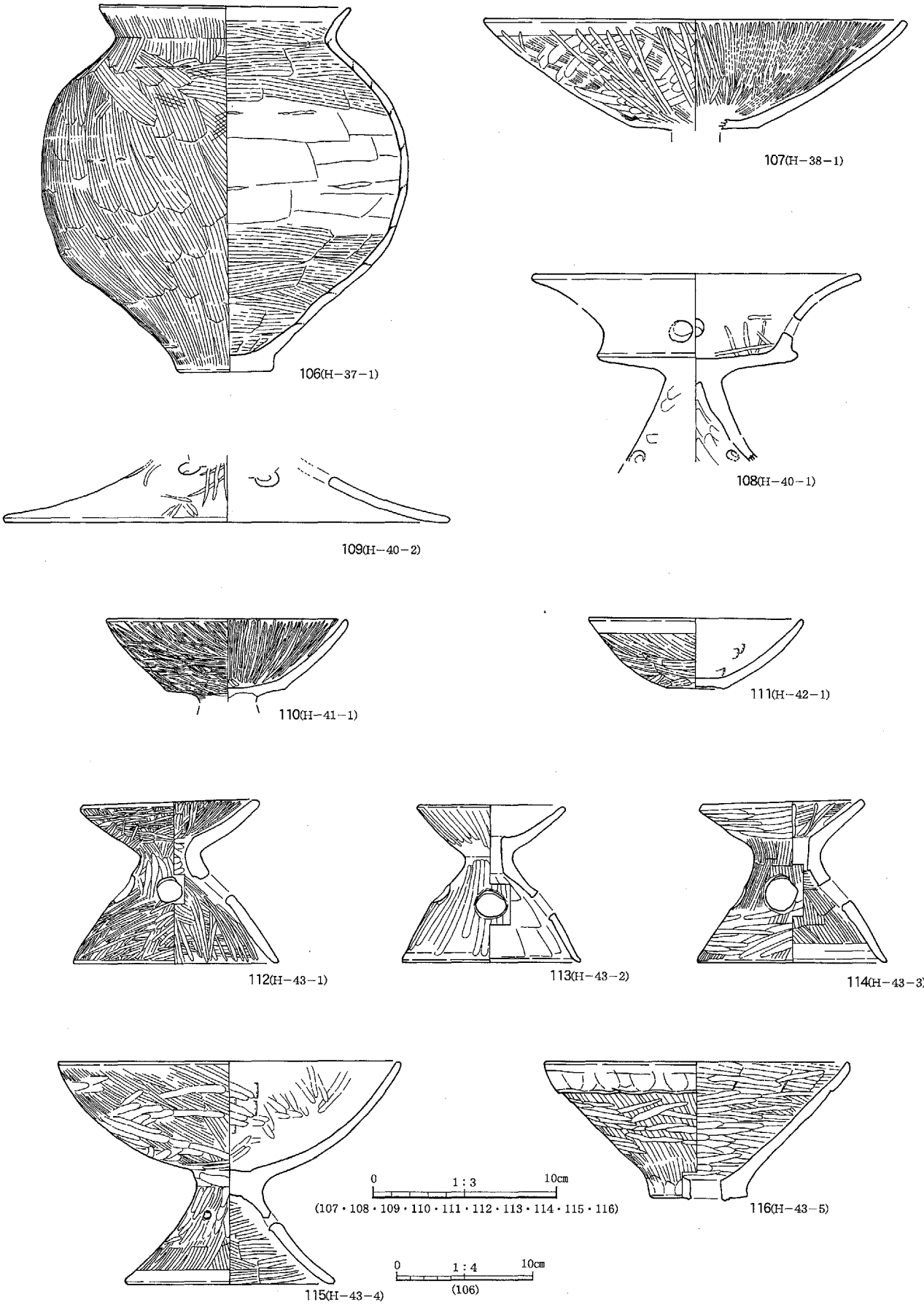


Fig.53　H—37・38・40～43号住居跡出土遺物

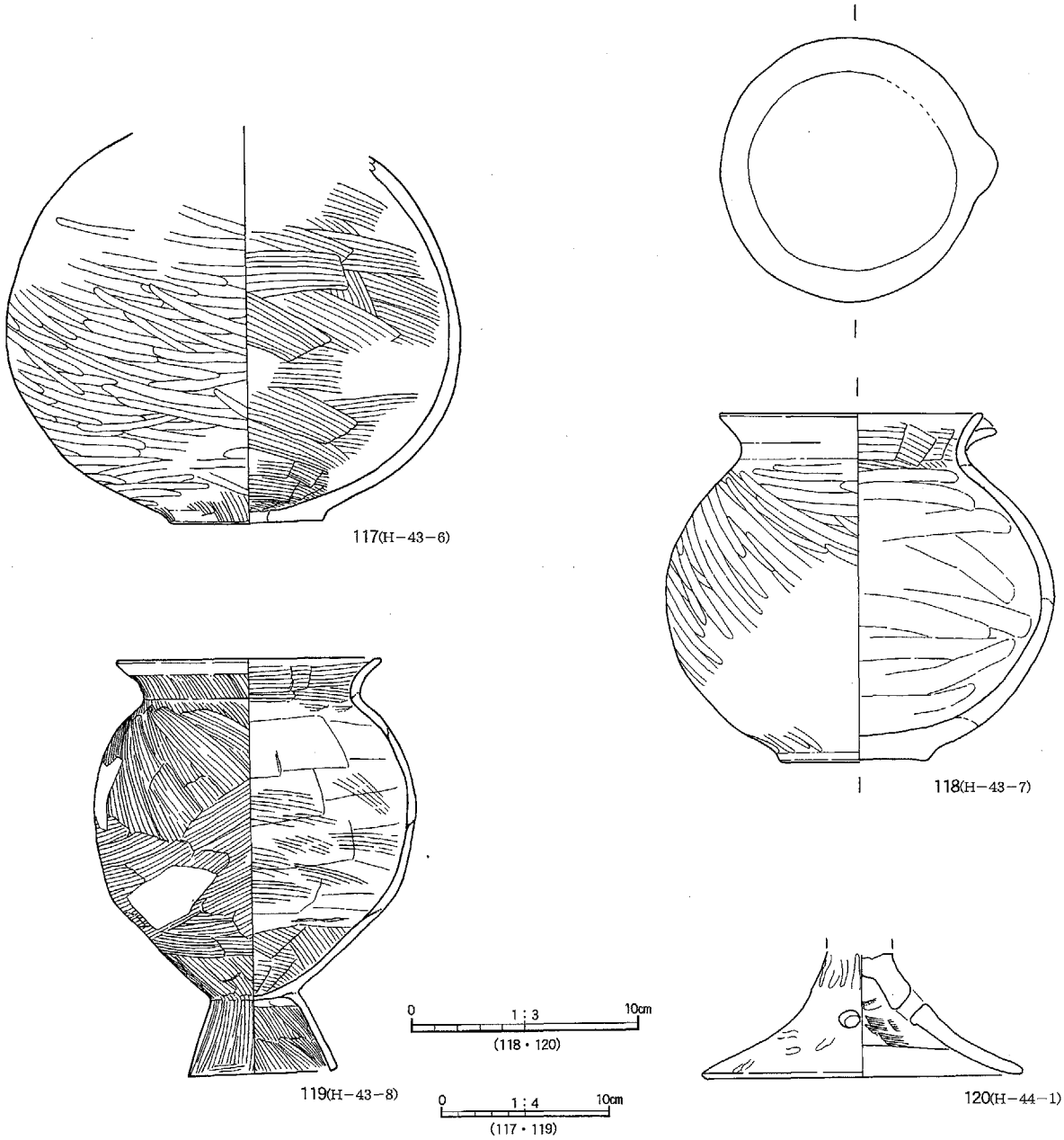


Fig.54　H—43・44号住居跡出土遺物

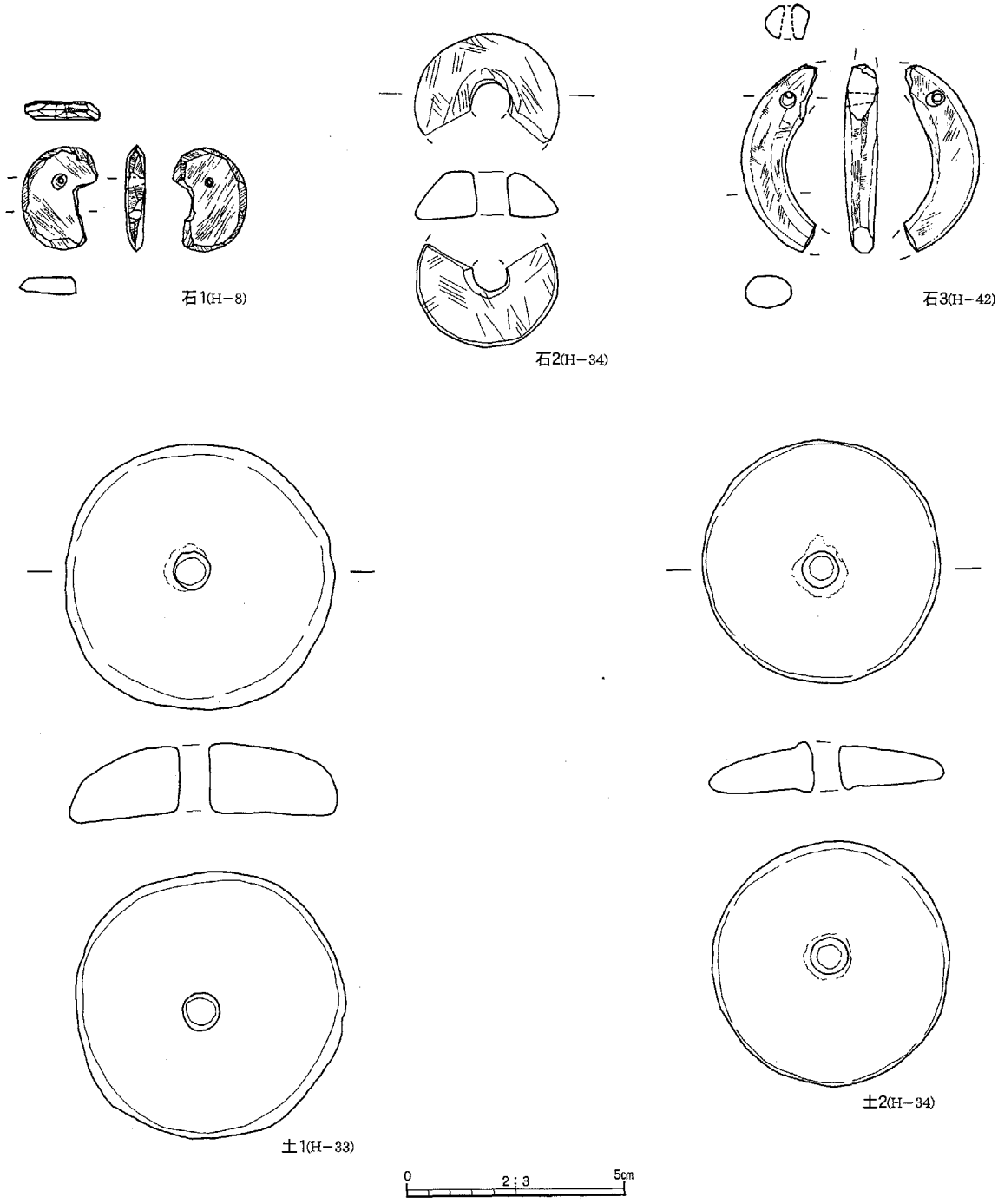
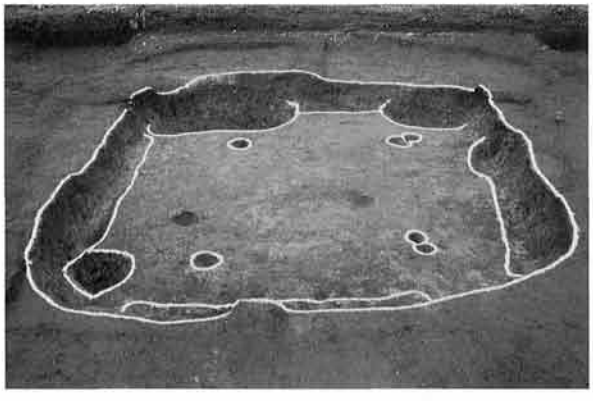


Fig.55　H−8・33・34・42号住居跡出土遺物

五代中原Ⅲ遺跡　調査区　西側（南から）

五代中原Ⅲ遺跡　調査区　東側（南から）

H－１号住居跡遺物出土状態全景（東から）

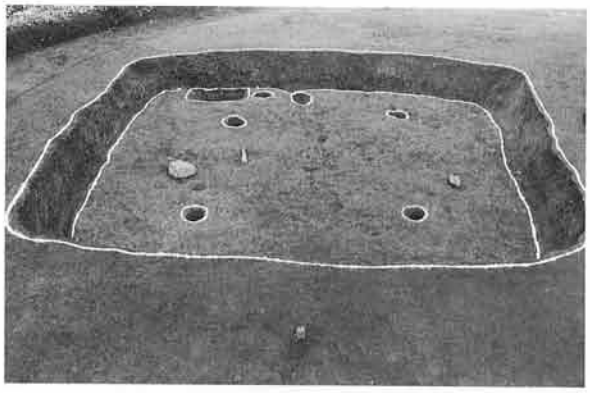


H－１号住居跡全景（東から）

H－１号住居跡炭化物出土状態（東から）

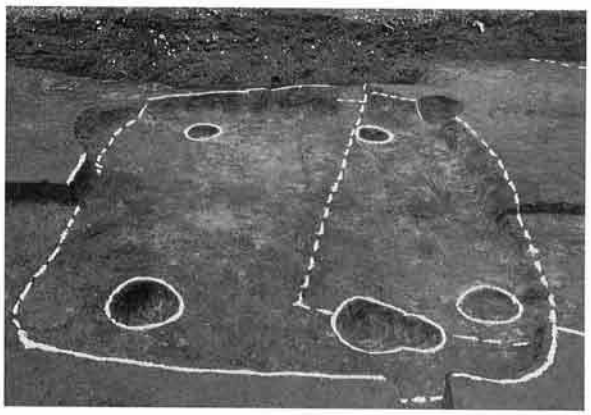
H－２号住居跡全景（南から）

H－２号住居跡遺物出土状態（南から）

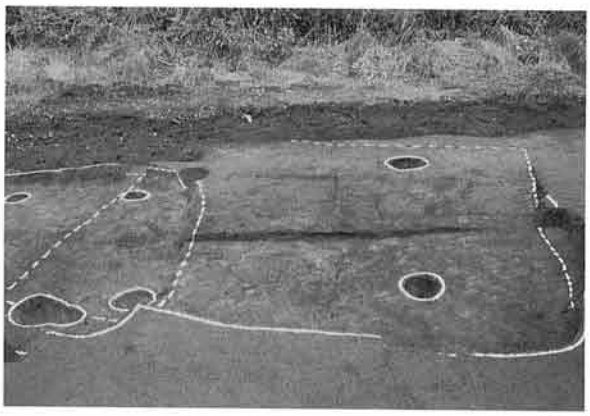


H－３号住居跡全景（北から）

H－３号住居跡遺物出土状態（西から）



H－４号住居跡全景（南から）



H－５号住居跡全景（南から）

H－２・３・４・５号住居跡全景（北から）

H－6・7・8・9・14号住居跡全景（北から）

H－6・7号住居跡全景（西から）

H－8号住居跡全景（北から）

H－8号住居跡遺物出土状態（南から）
（石製模造品）

H－9号住居跡全景（北から）

H－10号住居跡全景（東から）

H－10号住居跡遺物出土状態（南から）

H－12·13号住居跡全景（南から）

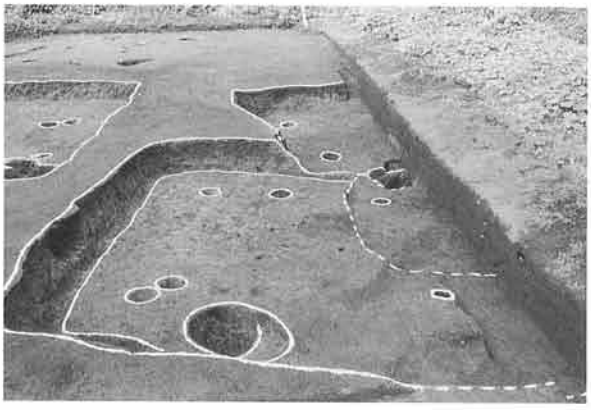
H－13号住居跡遺物出土状態（北から）

H－15·16·17号住居跡全景（東から）

H－15号住居跡遺物出土状態（東から）

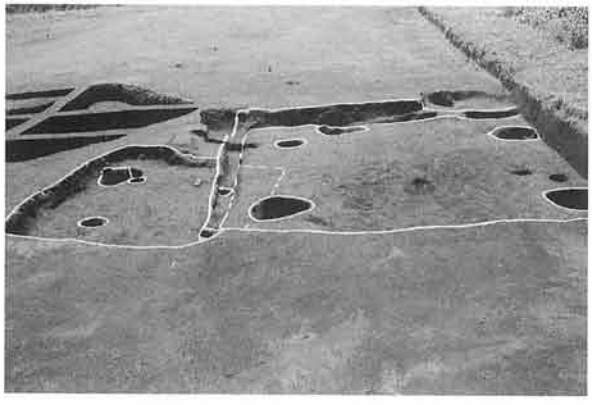
H－16号住居跡炭化物出土状態（西から）

H－17号住居跡遺物出土状態（西から）



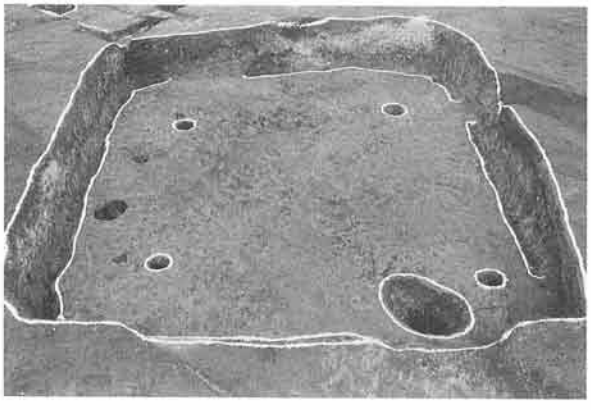
H－18･19･20号住居跡全景（南から）

H－19号住居跡遺物出土状態（北から）

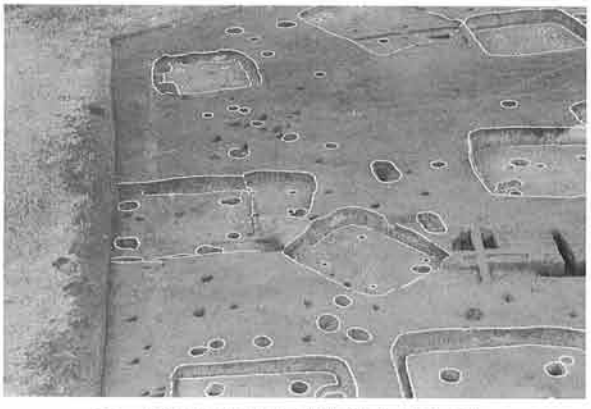


H－22･23号住居跡全景（北から）

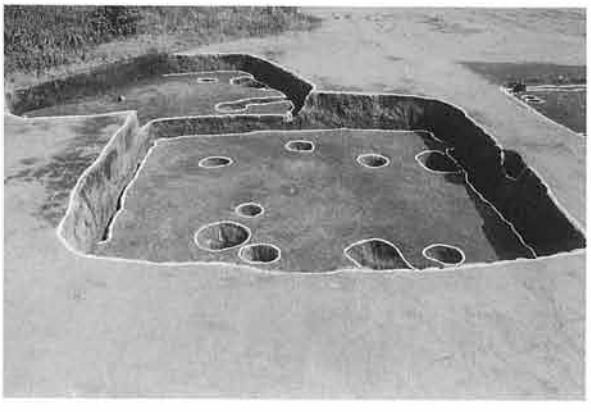
H－22号住居跡遺物出土状態（東から）



H－24号住居跡全景（南から）

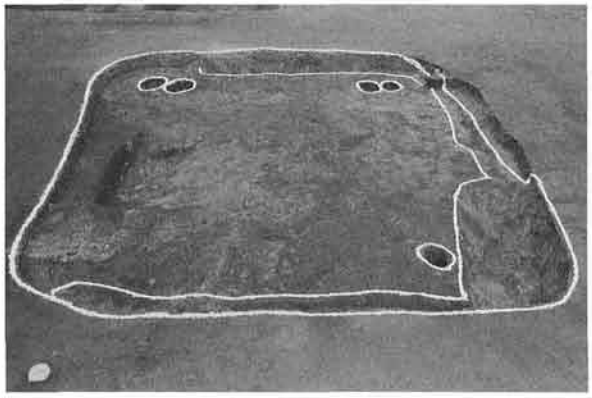


H－22･23･24号住居跡全景（南から）



H－25･26号住居跡全景（西から）

H－25号住居跡遺物出土状態（南から）

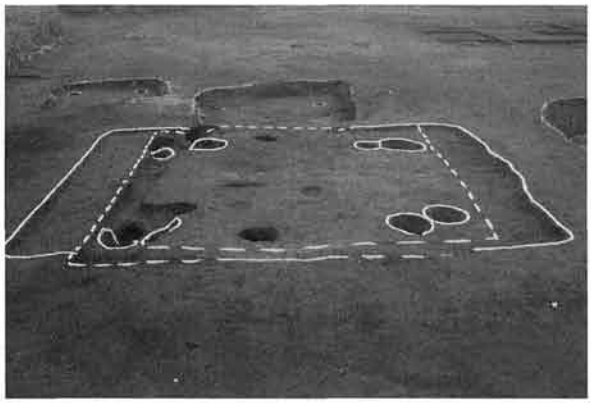


H－27号住居跡全景（南から）

H－28号住居跡全景（東から）

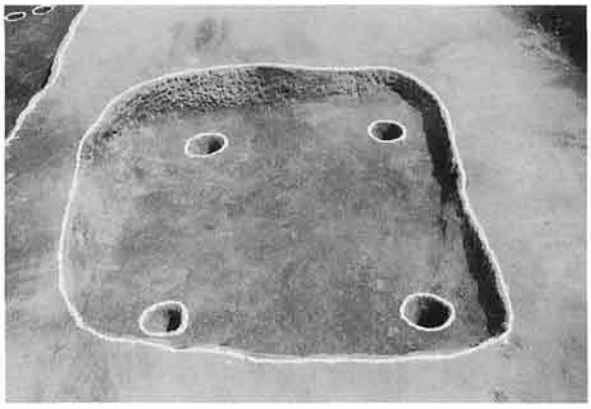
H－28号住居跡炭化物出土状態（東から）

H－28号住居跡遺物出土状態（南から）



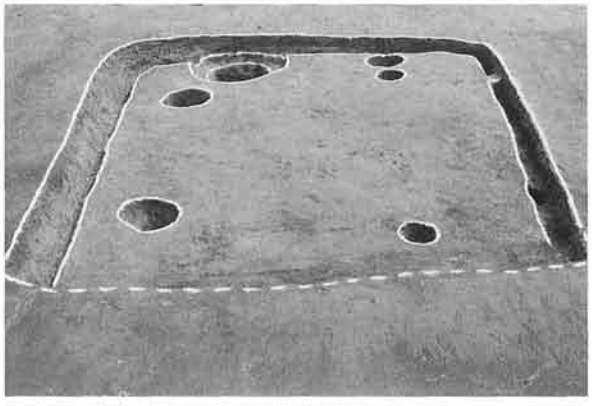
H－29·39号住居跡全景（北から）

H－30号住居跡全景（南から）



H－31号住居跡全景（南から）

H－28·29·30·31号住居跡全景（南から）



H－32号住居跡全景（西から）

H－33号住居跡全景（南から）

H－33号住居跡遺物出土状態（南から）

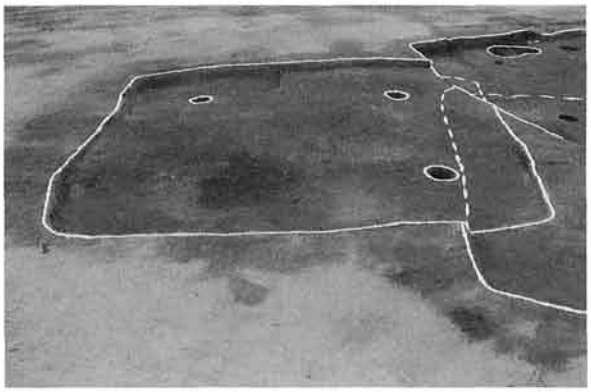
H－34号住居跡全景（北から）

H－34号住居跡遺物出土状態（西から）

H－35号住居跡全景（北から）

H－36号住居跡全景（北から）

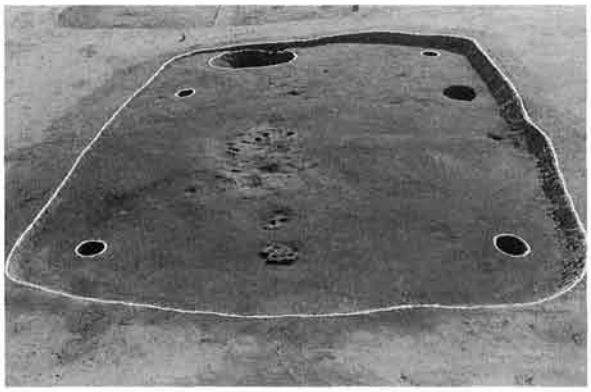
H－36号住居跡遺物出土状態（南から）



H－37号住居跡全景（北から）

H－37号住居跡遺物出土状態（東から）

H－35･36･37号住居跡全景（北から）



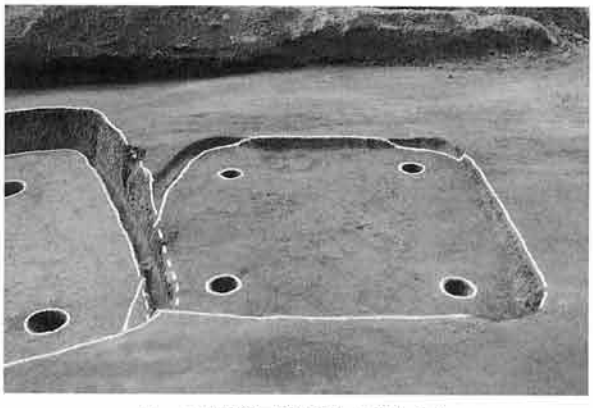
H－38号住居跡全景（北から）

H－38号住居跡遺物出土状態（西から）

H－40号住居跡全景（東から）

H－40号住居跡遺物出土状態（北から）

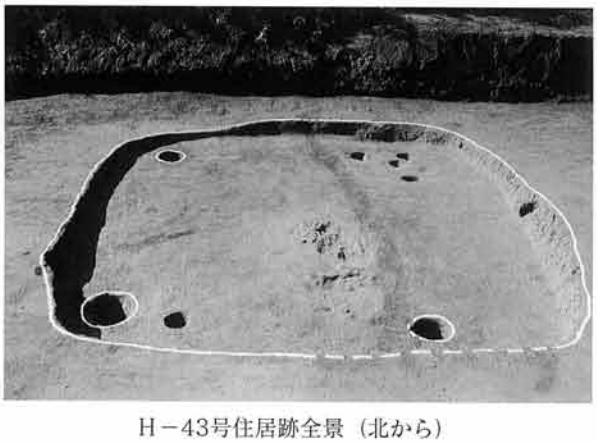
H－41･42号住居跡全景（北から）



H－41号住居跡全景（北から）

H－42号住居跡全景（北から）

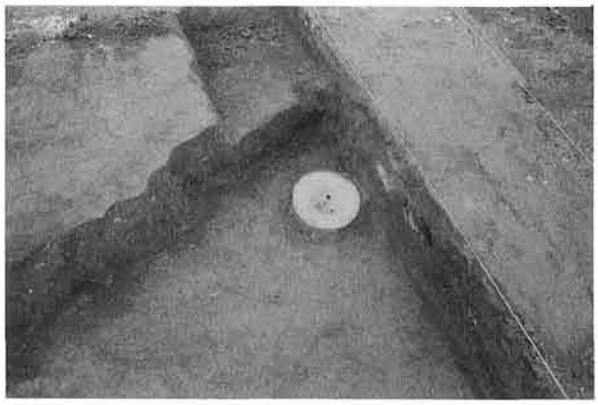
H－42号住居跡遺物出土状態（東から）



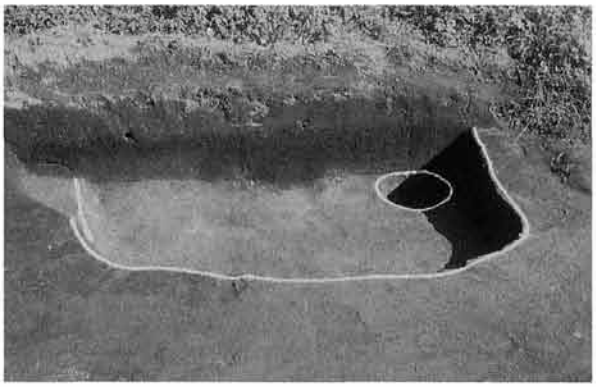
H－43号住居跡全景（北から）

H－43号住居跡遺物出土状態（北から）

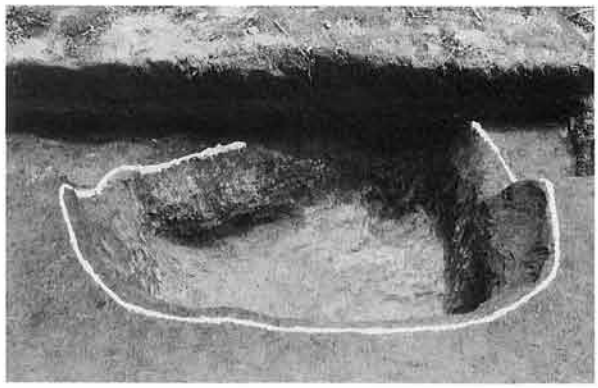
H－44号住居跡全景（北から）



H－44号住居跡遺物出土状態（南から）

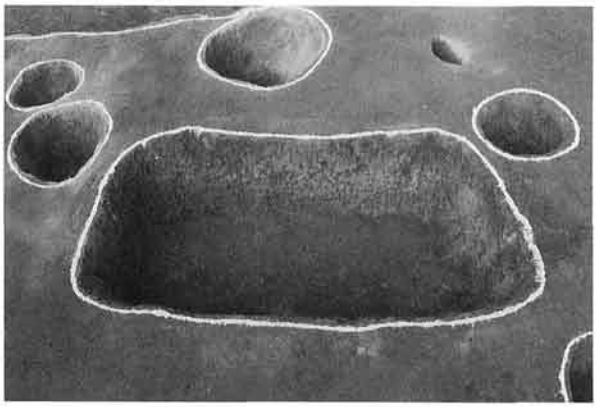


H－45号住居跡全景（西から）



D－1土坑全景（東から）

D－2土坑全景（南から）



D－6土坑全景（東から）

D－14土坑全景（東から）

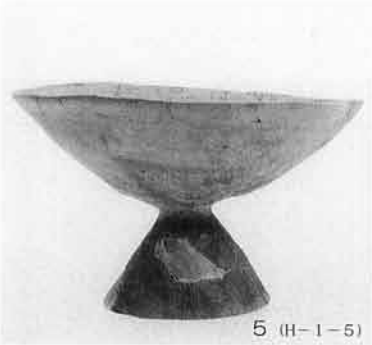
発掘を終えて

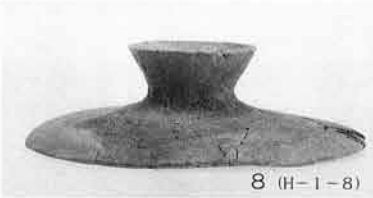
1 (H-1-1)

2 (H-1-2)

3 (H-1-3)

4 (H-1-4)

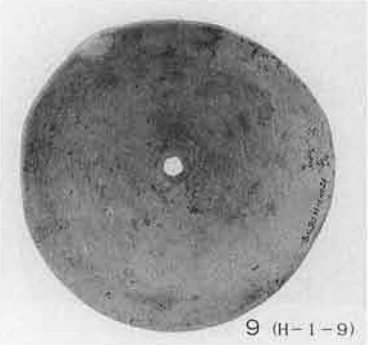

5 (H-1-5)


8 (H-1-8)

9 (H-1-9)

6 (H-1-6)

8 (H-1-8)


9 (H-1-9)

10 (H-1-10)

15 (H-1-15)

11 (H-1-11)

12 (H-1-12)

16 (H-1-16)

17 (H-1-17)

7 (H-1-7)

13 (H-1-13)

18 (H-2-1)

19 (H-2-2)

14 (H-1-14)

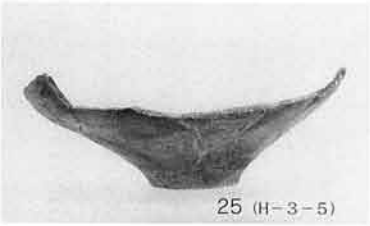
20 (H-2-3)

21 (H-3-1)

22 (H-3-2)

23 (H-3-3)

24 (H-3-4)

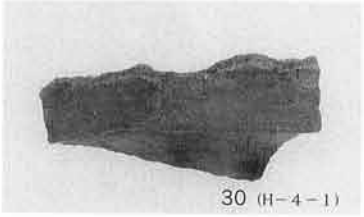

25 (H-3-5)

26 (H-3-6)

27 (H-3-7)

28 (H-3-8)

29 (H-3-9)

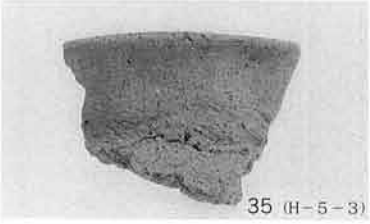

30 (H-4-1)

31 (H-4-2)

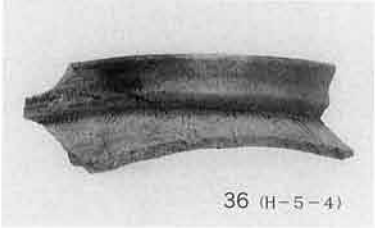
32 (H-4-3)

34 (H-5-2)

33 (H-5-1)

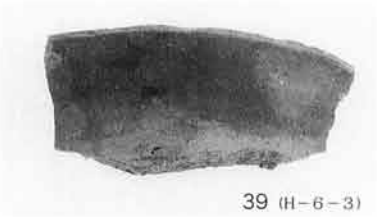

35 (H-5-3)

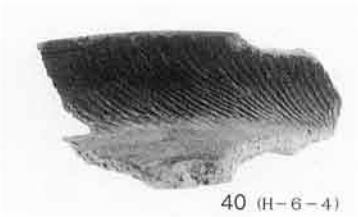
34 (H-5-2)


36 (H-5-4)

37 (H-6-1)

38 (H-6-2)


39 (H-6-3)


40 (H-6-4)

41 (H-6-5)

42 (H-7-1)

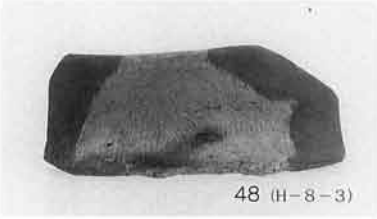
43 (H-7-2)

44 (H-7-3)

45 (H-7-4)

46 (H-8-1)

47 (H-8-2)


48 (H-8-3)

49 (H-8-4)

50 (H-9-1)

52 (H-10-1)

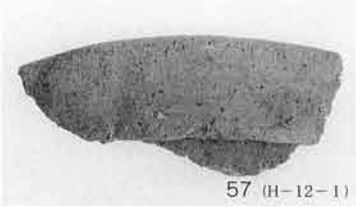
53 (H-10-2)

51 (H-9-2)

56 (H-10-5)

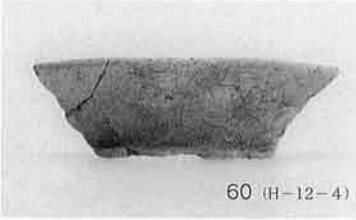
54 (H-10-3)

55 (H-10-4)


57 (H-12-1)

58 (H-12-2)

59 (H-12-3)


60 (H-12-4)

61 (H-13-1)

64 (H-13-4)

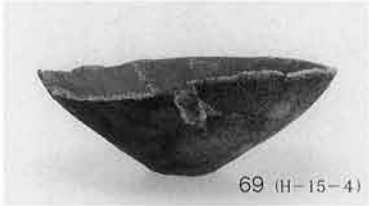
62 (H-13-2)

63 (H-13-3)

65 (H-13-5)

62 (H-13-2)

66 (H-15-1)


69 (H-15-4)

67 (H-15-2)

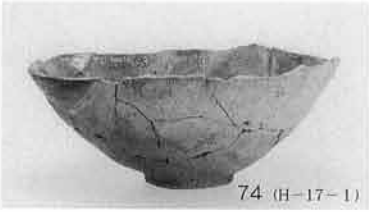
68 (H-15-3)

71 (H-16-1)

70 (H-15-5)

72 (H-16-2)

73 (H-16-3)

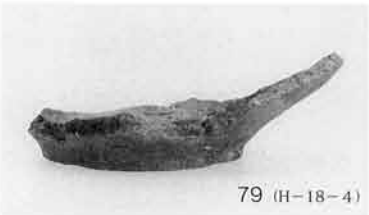

74 (H-17-1)

75 (H-17-2)

76 (H-18-1)

77 (H-18-2)

78 (H-18-3)


79 (H-18-4)

80 (H-19-1)

81 (H-19-2)

82 (H-19-3)

83 (H-19-4)

84 (H-22-1)

85 (H-23-1)

88 (H-25-2)

86 (H-24-1)

87 (H-25-1)

88 (H-25-2)

89 (H-25-3)

90 (H-25-4)

91 (H-25-5)

92 (H-25-6)

93 (H-25-7)

94 (H-26-1)

95 (H-27-1)

96 (H-28-1)

97 (H-29-1)

98 (H-30-1)

99 (H-31-1)

101 (H-33-1)

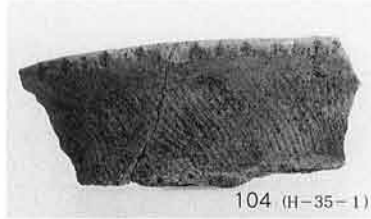
100 (H-32-1)

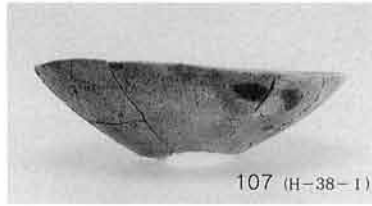
102 (H-34-1)

105 (H-36-1)

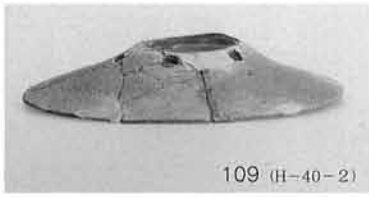
106 (H-37-1)

103 (H-34-2)


104 (H-35-1)

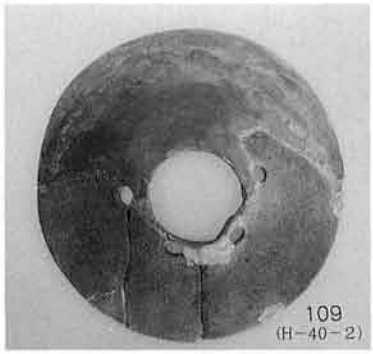

107 (H-38-1)

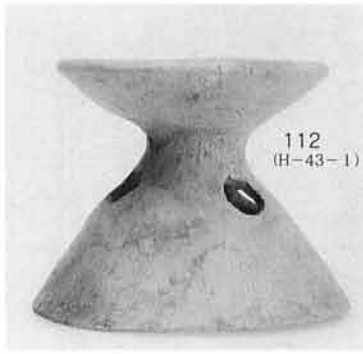
108 (H-40-1)


109 (H-40-2)

110 (H-41-1)

111
(H-42-1)


109
(H-40-2)


112
(H-43-1)

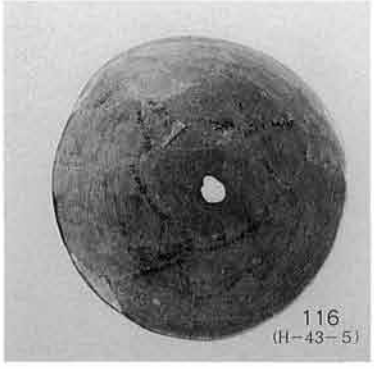
115 (H-43-4)

113 (H-43-2)

114 (H-43-3)

120
(H-44-1)

116 (H-43-5)


116 (H-43-5)

119 (H-43-8)

117 (H-43-6)

118 (H-43-7)

石1 (H-8)

石3 (H-42)

石2 (H-34)

土1 (H-33)

土2 (H-34)

石2 (H-34)

土1 (H-33)

土2 (H-34)

五代山街道Ⅰ遺跡
五代山街道Ⅱ遺跡

Ⅵ　五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡

1　遺構と遺物

【五代山街道Ⅰ遺跡】

(1)　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（Fig.56、PL.22）

位置　X132～134、Y74・75グリッド　**長軸方向**　N－5°－E　**形状等**　円形と推測される。長径5.36m、短径4.80m、壁現高13cmを測る。　**面積**　[19.94] m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　ほぼ中央に石組炉が検出されたが、石組はだいぶ崩れていた。長軸方向［N－3°－E］で、長軸90cm、短軸48cmを測り、掘り込みはほとんど確認されなかった。　**重複**　H－１と重複しており、新旧関係は本遺構→H－１の順である。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（諸磯期）と考えられる。　**出土遺物**　総数25点。そのうち、深鉢２点、石鏃１点を図示した。

Ｊ－２号住居跡（Fig.57、PL.23）

位置　X128～129、Y78・79グリッド　**長軸方向**　N－51°－E　**形状等**　楕円形。長径［5.10］m、南北4.58m、壁現高10cmを測る。　**面積**　[19.19] m²　床面　平坦な床面。　**炉**　中央南寄りに石組炉が検出され、長軸方向N－47°－E、長軸46cm、短軸46cm、深さ14cmを測る。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ４期）と考えられる。　**出土遺物**　総数10点。そのうち、深鉢２点、石鏃１点を図示した。

Ｊ－３号住居跡（Fig.58、PL.23）

位置　X125～127、Y77・78グリッド　**長軸方向**　N－100°－E　**形状等**　隅丸長方形。東西4.96m、南北3.90m、壁現高47cmを測る。　**面積**　16.76m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　検出されず。埋設土器が２体検出された。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（花積下層式期）と考えられる。　**出土遺物**　総数206点。そのうち深鉢２点（埋設土器）、石鏃？１点、石錐１点を図示した。

Ｊ－４号住居跡（Fig.58、PL.23）

位置　X124～125、Y85・86グリッド　**長軸方向**　N－27°－E　**形状等**　円形。長径3.26m、短径2.82m、壁現高19cmを測る。　**面積**　7.43m²　**床面**　平坦な床面。　**炉**　検出されず。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ４期）と考えられる。　**出土遺物**　総数62点。そのうち深鉢７点を図示した。

Ｊ－５号住居跡（Fig.59、PL.23）

位置　X124・125、Y86・87グリッド　**長軸方向**　N－20°－W　**形状等**　円形。長径4.12m、短径4.06m、壁現高８cmを測る。　**面積**　12.16m²　**床面**　平坦な床面。　**炉**　ほぼ中央に地床炉が検出され、長軸方向N－17°－W、長軸78cm、短軸75cm、深さ14cmを測る。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ４期）と考えられる。　**出土遺物**　総数124点。そのうち、深鉢５点、石匙１点を図示した。

Ｊ－６号住居跡（Fig.60・61、PL.24）

位置　X121～123、Y87～89グリッド　**長軸方向**　［N－２°－W］　**形状等**　円形。柄鏡型になるか。長径［7.48］m、短径［7.12］m、壁現高０cmを測る。　**面積**　［42.39］m²　**床面**　平坦な床面。炉の周りを中心に敷石が施されている。敷石の範囲はもう少し広かった可能性もあるが、遺構面までが浅かったこともあり詳細は不明。入り口と思われる付近から埋甕を検出。　**炉**　敷石の中心付近に石組炉が検出され、長軸方向N－23°－E、長軸76cm、短軸60cm、深さ17cmを測る。炉の北寄りに仕切のような石があり、それを取り除くと下から扁平な川原石が検出された。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ４期）と考えられる。　**出土遺物**　総数123点。そのうち、深鉢２点を図示した。

Ｊ－７号住居跡（Fig.62、PL.24）

位置　X114・115、Y89・90グリッド　長軸方向［N－43°－E］　形状等　円形と推定される。長径［4.78］m、短径［4.12］m、壁現高（34）cmを測る。　面積［15.29］m²　床面　西に向かって床面が下がっている。原地形の影響か。　炉　中央北寄りに焼土と炉の石組に使用されたと思われる石が検出されたが、残存状況悪。長軸方向［N－120°－E］、長軸［45］cm、短軸［30］cm、深さ8.5cmを測る。　時期　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ４期）と考えられる。　出土遺物　総数682点。そのうち、深鉢６点、石錐１点を図示した。

Ｊ－８号住居跡　（Fig.62、PL.24）

位置　X116・117、Y92・93グリッド　**長軸方向**　［N－２°－E］　**形状等**　円形と推定される。長径［5.48］m、短径［5.02］m、壁現高（３）cmを測る。入り口に近いと思われる付近から埋甕を検出した。　**面積**　［21.07］m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　中央西寄りより検出されたが、残存状況悪。長軸方向［N－３°－E］、長軸［80］cm、短軸［70］cm、深さ０cmを測る。炉を構成していたと思われる石を１点検出。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代中期と考えられる。　**出土遺物**　総数160点。そのうち、深鉢１点、石錐１点、打製石斧１点を図示した。

Ｊ－９号住居跡（Fig.63、PL.25）

位置　X113・114、Y92・93グリッド　**長軸方向**　N－16°－E　**形状等**　隅丸長方形。長径4.90m、短径3.50m、壁現高51cmを測る。　**面積**　15.61m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。南壁付近がやや高くなり、入り口と推測される。　**炉**　中央北寄りより石囲い炉が検出され、長軸方向N－３°－E、長軸43cm、短軸36cm、深さ４cmを測る。　**時期**　住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（関山期）と考えられる。　**出土遺物**　総数６点。そのうち、深鉢５点、砥石１点を図示した。

Ｈ－１号住居跡（Fig.64、PL.22・25）

位置　X132・133、Y75・76グリッド　**主軸方向**　N－８°－W　**形状等**　長方形。東西3.90m、南北3.00m、壁現高68cmを測る。　**面積**　11.17m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　北壁中央より検出され、主軸方向がN－８°－Wであり、全長98cm、最大幅120cm、焚口部幅36cmを測る。粘土を構築材として使用している。　**時期**　埋土や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。　**出土遺物**　総数27点。そのうち砥石１点、紡錘車１点を図示した。出土遺物のほとんどは、土師器の小破片や流れ込んだ縄文の土器片で、遺物が極端に少ないことが特筆される。

Ｈ－２号住居跡（Fig.64、PL.25）

位置　X129・130、Y71・72グリッド　**主軸方向**　N－63°－E　**形状等**　方形。東西3.28m、南北3.00m、壁現

高28cmを測る。 **面積** 9.34m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－65°－Eであり、全長62cm、最大幅50cm、焚口部幅22cmを測る。粘土を構築材として使用している。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀と考えられる。 **出土遺物** 総数64点。そのうち、坏1点、甕1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig.65、PL.25）

位置 X118・119、Y94・95グリッド **主軸方向** N－65°－W **形状等** 長方形と推定される。東西（2.72）m、南北2.98m、壁現高52cmを測る。 **面積** （6.26）m² **床面** 平坦で堅緻な床面。周溝有。 **竈** 住居の半分が調査区外であったため検出されず。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀と考えられる。 **出土遺物** 総数61点。そのうち、甕1点を図示した。

(2) 掘立柱建物跡

B－1号掘立柱建物跡（Fig.65、PL.25）

位置 X71・72、Y174～176グリッド **形状** 東西2間（3.64m）×南北2間（4.56m）の長方形で、長軸方向はN－7°－W、推定面積16.6m²である。柱間寸法は東西1.73＋1.91m、南北2.32＋2.24mである。 **柱穴** 平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は36～58cm、深さ18～47cmである。 **時期** 柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから9～10世紀と考えられる。 **遺物** 本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

(3) 土　　坑（Fig.59・61、PL.26）

Tab.3 土坑計測表を参照のこと。

なお、D－4の深鉢2点、D－5の深鉢2点、D－6の深鉢3点、D－7の深鉢3点と敲石1点、D－8の深鉢2点と石鏃1点を図示した。

(4) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数1,145点の遺物を出土した。そのうち、尖頭器1点、石匙1点を図示した。

【五代山街道II遺跡】

(1) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.66、PL.28）

位置　X101～103、Y116～119グリッド　**方位**　調査区北壁よりN－35°－Eの方向で南へ75m進み、攪乱でいったん切られ、同方向で再び南へ65m進み、攪乱にぶつかり途切れる。　**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅64～130cm、長さ（140）mを測る。　**時期**　埋土や出土遺物から近世と考えられる。　**出土遺物**　総数3点。

(2) 土　　坑（Fig.67、PL.27・28）

Tab.3　土坑計測表を参照のこと。

なお、D－5で3点、D－6で3点、D－7で8点、D－8で2点、D－9で3点、D－11で5点の深鉢の破片を図示した。

(3) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数29点の遺物が出土した。そのうち、深鉢2点を図示した。

Tab. 9　五代山街道Ⅰ遺跡住居跡一覧表

遺構名	規模（m）			面積（m²）	主軸方向	炉・竈	周溝	出土遺物
	東西（長径）	南北（短径）	壁現高			位置・素材等		
J－1	5.36	4.80	0.13	[19.94]	N－5°－E	炉跡：中央・石組炉跡	／	深鉢・石鏃
J－2	[5.10]	4.58	0.10	[19.19]	N－51°－E	炉跡：中央南寄り・石組炉跡	／	深鉢・石鏃
J－3	4.96	3.90	0.47	16.76	N－100°－E	検出されず	／	深鉢・石鏃？・石錐
J－4	3.26	2.82	0.19	7.43	N－27°－E	検出されず	／	深鉢
J－5	4.12	4.06	0.08	12.16	N－20°－W	炉跡：中央・地床炉跡	／	深鉢・石匙
J－6	〔7.48〕	〔7.12〕	0.00	〔42.39〕	〔N－2°－W〕	炉跡：中央・石組炉跡　炉跡の北寄りに仕切石	／	深鉢
J－7	[4.78]	[4.12]	(0.34)	〔15.29〕	〔N－43°－E〕	炉跡：中央北寄り　残存状況悪	／	深鉢・石錐
J－8	[5.48]	[5.02]	(0.03)	〔21.07〕	〔N－2°－E〕	炉跡：中央西寄り　残存状況悪	／	深鉢・石錐・打製石斧
J－9	4.90	3.50	0.51	15.61	N－16°－E	炉跡：中央北寄り・石囲い炉跡	／	深鉢・砥石
H－1	3.90	3.00	0.68	11.17	N－8°－W	竈跡：北壁中央・粘土	×	砥石・紡錘車
H－2	3.28	3.00	0.28	9.34	N－63°－E	竈跡：東壁中央南寄り・粘土	×	坏・甕
H－3	(2.72)	2.98	0.52	(6.26)	N－65°－W	検出されず	○	甕

Tab.10　五代山街道Ⅰ遺跡土坑計測表

遺構名	位　置		長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形状	出土遺物等
D－1	X133	Y74	126	113	30	楕円形	
D－2	X132	Y77・78	182	150	24	楕円形	
D－3	X129・130	Y78	142	139	52	円形	
D－4	X124	Y86・87	148	114	70	楕円形	深鉢
D－5	X124・125	Y87	103	94	55	楕円形	深鉢
D－6	X119	Y84	137	132	32	楕円形	深鉢
D－7	X119	Y85・86	153	140	103	楕円形	深鉢・敲石
D－8	X116	Y94・95	184	168	90	楕円形	深鉢・石鏃

Tab.11　五代山街道II遺跡溝跡計測表

遺構名	位　　置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)		方　位	形状
				最大	最小		
W－1	X101～103　Y116～119	16.3	39	130	64	N－35°－E	楕円形

Tab.12　五代山街道II遺跡土坑計測表

遺構名	位　　置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物等
D－1	X100・101　Y117・118	300	170	66	楕円形	
D－2	X100・102　Y117・118	126	112	28	楕円形	
D－3	X99　Y117	120	112	48	不整形	
D－4	X99・100　Y118	103	93	35	楕円形	
D－5	X100　Y120・121	215	116	42	楕円形	深鉢
D－6	X98　Y119・120	162	90	21	不整形	深鉢
D－7	X99　Y122	140	96	65	楕円形	深鉢
D－8	X99　Y122	110	87	40	楕円形	深鉢
D－9	X97・98　Y120・121	263	228	45	楕円形	深鉢
D－10	X96　Y118	149	127	44	楕円形	
D－11	X101・102　Y119	187	126	25	楕円形	深鉢

Tab.13 五代山街道Ⅰ遺跡縄文時代出土遺物観察表

番号	出土位置	器形	①胎土　②焼成　③色調　④残存　⑤大きさ	文様・成型方法	備　考
1	J－1－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④胴部	半裁竹管による爪形文。	諸磯a
2	J－1－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④胴部	条線文。	諸磯b
3	J－2－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④頸部	隆帯による区画。縄文LR。	加曽利E4
4	J－2－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴部	胎土に繊維を含む。縄文。	黒浜？
5	J－3－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい黄褐色　④胴部 ⑤高さ(25.0)	胎土に繊維を含む。胴部下半がやや膨らみを持つ。0段多縄による羽状縄文。埋設土器。	花積下層
6	J－3－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④口縁～胴部 ⑤口径［27.8］、高さ(29.7)	胎土に繊維を含む。口縁は平縁で折り返し口縁となる。折り返し部にRL縄文、胴部にLR・RLによる羽状縄文。埋設土器。	花積下層
7	J－4－1	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④口縁～胴部	口縁は内湾する。山形突起を持つ。口縁部に無文帯が区画される。胴部は沈線（U字形？）で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
8	J－4－2	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④口縁～胴部 ⑤口径［27.7］	口縁は内湾する。波状口縁？口縁部に無文帯が区画される。胴部はU字形に沈線を描き文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
9	J－4－3	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色④口縁～胴部	口縁は内湾する。山形突起？口縁部に無文帯が区画される。胴部は隆線で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
10	J－4－4	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色④口縁～胴部 ⑤口径［31.4］	口縁は内湾する。山形突起を持つ。口縁部に無文帯が区画される。胴部は沈線（U字形？）で文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E4
11	J－4－5	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④口縁部	口縁は平縁で無文帯が区画される。胴部は縦位の隆線で文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E4
12	J－4－6	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④胴部	沈線（U字形？）で文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E4
13	J－4－7	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④胴部	横位の条線文。下部に縄文。	諸磯a？
14	J－5－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④口縁部	口縁部に無文帯が区画される。縄文LR。	加曽利E4
15	J－5－2	深鉢	①細粒　②良好　③明黄褐色　④胴部	沈線で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
16	J－5－3	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴部	縦位の隆帯で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
17	J－5－4	深鉢	①細粒　②良好　③明黄褐色　④胴部	横位の条線文。	諸磯a？
18	J－5－5	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④胴部	胎土に繊維を含む。羽状縄文。	黒浜？
19	J－6－1	深鉢	①細粒　②良好　③黄橙色　④口縁～底部 ⑤口径25.6、高さ(32.4)	口縁は内湾し、胴部半ばで括れ、底部はすぼまる。口縁部に無文帯が区画される。胴部はW字形に沈線を描き文様帯を区画。縄文LR。埋設土器。	加曽利E4
20	J－6－2	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④口縁～胴部	胴がやや膨らむ。口縁部に隆帯で文様帯を区画。	加曽利E4
21	J－7－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色④口縁～胴部 ⑤口径［19.1］	口縁は平縁で内湾し、無文帯を持つ。把手が2箇所に付く(全体で4箇所か)。胴部に隆帯でU字状に文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E4
22	J－7－2	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④口縁～胴部　⑤口径［20.9］	口縁は平縁で内湾し、無文帯を持つ。把手が付くと思われる。胴部に隆帯でU字状に文様帯を区画。縄文LR。J－7－1と同一個体か。	加曽利E4
23	J－7－3	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄褐色　④胴部	把手が付くと思われる。縄文LR。	
24	J－7－4	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④胴～底部 ⑤高さ(15.5)	隆帯による区画？	
25	J－7－5	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい橙色　④胴～底部 ⑤高さ(21.5)	隆帯による文様帯区画。縄文LR。	
26	J－7－6	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴～底部 ⑤高さ(10.5)	縦方向の条線。	
27	J－8－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④頸部～底部　⑤高さ(44.0)	把手が2箇所に付くと思われる。埋設土器。	
28	J－9－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい橙色　④口縁部	胎土に結晶片岩を含む。口唇部・口縁部に絡条帯圧痕。	茅山上層
29	J－9－2	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④口縁部	胎土に繊維を含む。コンパス文。	関山
30	J－9－3	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④口縁部	胎土に繊維を含む。撚糸文。	稲荷原

番号	出土位置	器形	①胎土　②焼成　③色調　④残存　⑤大きさ	文様・成型方法	備　考
31	J－9－4	深鉢	①中粒　②良好　③暗褐色　④胴部	胎土に繊維を含む。羽状縄文。	関山？
32	J－9－5	深鉢	①中粒　②不良　③にぶい黄橙色　④胴部	胎土に繊維を含む。羽状縄文。	関山？
33	D－4－1	深鉢	①細粒　②良好　③明黄褐色　④口縁部	口縁は平縁で内湾し、無文帯を持つ。縄文RL。	加曽利E 4
34	D－4－2	深鉢	①細粒　②良好　③黒褐色　④胴部	隆帯で文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E 4
35	D－5－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	縄文RL。	
36	D－5－2	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴部	縄文RL。D－5－1と同一個体か。	
37	D－6－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	隆帯で文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E 4
38	D－6－2	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	縄文RL。	
39	D－6－3	深鉢	①細粒　②良好　③橙色　④胴部	縄文RL。	
40	D－7－1	浅鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④口縁～胴部	口縁は内湾し、口縁部に刻み目。把手が付くと思われる。胴部はU字状の沈線で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E 4
41	D－7－2	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴部	U字状・J字状の沈線で文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E 4
42	D－7－3	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④頸部～胴部	沈線でU字状に文様帯を区画。縄文LR。	加曽利E 4
43	D－8－1	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④口縁～胴部	波状口縁で内湾し、口縁部に無文帯が区画される。胴部は沈線でU字状に文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E 4
44	D－8－2	深鉢	①細粒　②良好　③にぶい黄橙色　④胴部	口縁が内湾すると思われる。沈線でU字状に文様帯を区画。縄文RL。	加曽利E 4

注）①口径・胴径・底径・高さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
②胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な混入物がある場合それを記載した。
③焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
④色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.14　五代山街道Ⅰ遺跡石器観察表

No.	出土位置	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	備　　考
1	J－1	石鏃	(1.7)	(1.6)	0.4	0.7	黒曜石	凹基無茎鏃　基部・先端部一部欠損　基部わずかに抉れる
2	J－2	石鏃	(1.8)	(1.6)	0.4	0.8	黒曜石	凹基無茎鏃　基部一部欠損　基部わずかに抉れる
3	J－3	石鏃？	4.0	1.1	0.5	1.9	黒色頁岩	石鏃と同様な加工が施される
4	J－3	石錐	(3.6)	(1.4)	(0.7)	3.3	黒色頁岩	つまみ部欠損
5	J－5	石匙	(3.5)	(3.8)	(0.8)	7.2	黒色頁岩	横形　刃部一部欠損
6	J－7	石錐	(4.2)	(3.4)	0.6	6.2	黒色安山岩	つまみ部欠損
7	J－8	石錐	(2.8)	(0.8)	(0.5)	1.0	黒色頁岩	つまみ部欠損
8	J－8	打製石斧	10.6	6.3	1.9	137	黒曜石	完形　分銅形
9	J－9	砥石	(6.6)	(4.7)	2.4	65.5	砂岩	長楕円形　1／2残存　　勾玉づくり等に使用か
10	D－7	敲石	10.1	8.4	5.0	603	粗粒安山岩	円形　両面及び側面に敲打痕有
11	D－8	石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	黒色安山岩	凹基無茎鏃　基部わずかに抉れる
12	表採	尖頭器	5.9	2.3	0.9	10.8	硬質頁岩	草創期か？
13	表採	石匙	4.3	(5.2)	0.6	8.9	黒色頁岩	先端部わずかに欠損　斜めにつまみ

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

Tab.15　平安時代出土遺物観察表

番号	遺構番号/層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－2－1 床直	坏 土師器	①[12.0] ②　3.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	体部：緩やかに外傾。口縁部弱い横撫で、指押さえ。底部：平底。篦削り。	
2	H－2－2 床直	甕 土師器	① 19.5 ② 26.3	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：「コ」の字状。横撫で。体部：外面篦削り。内面篦撫で。底部：篦削り。	
3	H－3－1 床直	甕 土師器	① 21.4 ②(13.5)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	下半欠損。口縁部：「コ」の字状。横撫で。体部：外面篦削り。内面篦撫で。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.16　五代山街道Ⅰ石製品観察表

No.	出土位置	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	備　　考
1	H－1	砥石	14.1	5.6	4.4	604	凝灰岩	完形
2	H－1	紡錘車	4.6	4.6	2.3	61.5	滑石	完形

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

Tab.17　五代山街道Ⅱ遺跡縄文時代出土遺物観察表

番号	出土位置	器形	①胎土　②焼成　③色調　④残存	文様・成型方法	備　考
1	D－5－1	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④口縁部	内側に張り出しを持つ。	焼町？
2	D－5－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	縦位沈線文。	
3	D－5－3	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④胴部	沈線文。	
4	D－6－1	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④口縁部	口縁に山形の突起を持つ。突起に沿って隆帯貼付。	勝坂？
5	D－6－2	深鉢	①中粒　②良好　③赤褐色　④口縁部	無文。	
6	D－6－3	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④胴部	胎土に雲母片を含む。結節沈線。	阿玉台
7	D－7－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④口縁部	胎土に雲母片を含む。隆帯による区画。結節沈線。	阿玉台
8	D－7－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④口縁部	沈線による区画。縄文RL。	勝坂
9	D－7－3	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	縦位に5本単位の条線文。	
10	D－7－4	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④頸部	交互刺突。横位の沈線。縄文LR。	勝坂3
11	D－7－5	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④胴部	沈線文。	焼町？
12	D－7－6	深鉢	①中粒　②良好　③明赤褐色　④胴部	沈線文。	焼町？
13	D－7－7	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	沈線文。	
14	D－7－8	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④胴部	浮線文（弧状？）。	諸磯b
15	D－8－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④胴部	隆帯による区画。縦方向、円形、斜め方向に沈線。	焼町？
16	D－8－2	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④飾り？	飾りの一部。	
17	D－9－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④底部	胎土に雲母片を含む。	阿玉台？
18	D－9－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい橙色　④胴部	浮線文。	諸磯b
19	D－9－3	深鉢	①中粒　②良好　③暗赤褐色　④胴部	胎土に雲母片を含む。結節沈線。	阿玉台
20	D－11－1	深鉢	①中粒　②良好　③赤褐色　④胴部	横位の沈線。縄文LR。	
21	D－11－2	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④飾り？	隆帯を円形に貼付して刻み目を施す。	勝坂？
22	D－11－3	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④口縁部	口縁に刺突。2本の横位の沈線。	
23	D－11－4	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④口縁部	2本の横位の沈線。	
24	D－11－5	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい褐色　④胴部	横位の沈線。隆帯。縄文RL。	
25	X100Y120－1	深鉢	①中粒　②良好　③にぶい赤褐色　④口辺部	隆帯で区画。区画内に4本の横位の沈線。	勝坂？
26	X100Y120－2	深鉢	①中粒　②良好　③橙色　④口辺部	隆帯貼付。刻み目。胴部に縦位の条線。	焼町？

注）①胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な混入物がある場合それを記載した。
②焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
③色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

2 考　　察

今回の調査の結果、五代山街道Ⅰ遺跡では、竪穴住居跡９軒、掘立柱建物跡１軒、土坑８基を検出し、五代山街道Ⅱ遺跡では、土坑11基を検出した。ここでは、縄文時代と奈良・平安時代の２つの時代に分け、特に縄文時代を中心に考察を述べることとしたい。

(1) 縄文時代

検出された遺構は、五代山街道Ⅰ遺跡で縄文時代前期竪穴住居跡３軒、縄文時代中期竪穴住居跡６軒、同じく中期土坑８基、五代山街道Ⅱ遺跡で縄文時代中期土坑11基である。

前期竪穴住居跡はＪ－１、３、９号住居跡の３軒である。Ｊ－１号住居跡からは、諸磯ａ式・ｂ式土器の深鉢の破片が出土した。石組炉を持つが、石組は少し乱れており、焼土の検出も少な目であった。Ｊ－３号住居跡からは、炉は検出されなかったが、住居中央に２つの埋設土器が検出された。２つの土器は80cm程離れて並んで埋設されており、双方とも底部は欠損していた。双方とも花積下層式の深鉢と考えられる。埋土からは黒曜石の細かい破片が多数検出された。Ｊ－９号住居跡では、しっかりとした石組炉が住居中央やや北寄りから検出された。関山式の土器片の他、茅山上層式、稲荷原式の土器片も見られ、早期に近い時期とも考えられる。Ｊ－３号住居跡とＪ－９号住居跡は隅丸長方形のプランを持ち、住居跡の形状からも前期的要素が窺える。ただし、これら３軒の住居跡は前期に属すると思われるものの同じ形式の土器は出土しておらず、同時期に存在したとは考えにくい。土器形式から考えると、Ｊ－９号住居跡、Ｊ－３号住居跡、Ｊ－１号住居跡の順に新しくなっていく可能性が高いと思われる。

中期の遺構は、五代山街道Ⅰ遺跡のＪ－２、４、５、６、７、８号住居跡とＤ－１～８号土坑、五代山街道Ⅱ遺跡のＤ－１～11号土坑である。Ｊ－２号住居跡からはしっかりとした石組炉が住居の中央やや南寄りから検出された。４つの川原石を用い、ほぼ正方形に組まれている。加曽利Ｅ４式の土器片が出土している。Ｊ－４号住居跡からは加曽利Ｅ４式の深鉢の破片が多数出土した。Ｊ－４号住居跡のすぐ南に位置するＪ－５号住居跡からも同じく加曽利Ｅ４式の土器片が出土している。Ｊ－４・５号住居とも床面まで浅く、明確な炉等は検出されなかった。

Ｊ－５号住居跡から７ｍ程南西に位置するＪ－６号住居跡は敷石住居である。遺構面まで浅かったことと、付近に住宅が建っていたことによる攪乱が随所に入っていたため、敷石の残りは決してよくなかったが、長方形に組まれた炉が比較的よい状態で検出された。炉は割石で組まれており、炉の中央北寄りを石で仕切られていた。仕切りの石を取り除くと、下から扁平な川原石が検出された。この住居跡からは埋設土器も検出されており、炉と埋設土器を結んだ一直線上の南側にやや高まった部分が見られ、その部分が入り口になると思われる。埋設土器は加曽利Ｅ４式の深鉢で、口縁部が欠損していたが、胴部から底部まではほぼ完形で検出された。

Ｊ－７号住居跡は、台地の縁辺部に位置し、地形自体が西に傾いているためか、遺構の床面も西にやや傾いた状態で検出された。炉の痕跡と思われる焼土も検出されたが残りが悪く、明確な炉の形は判明しなかった。加曽利Ｅ４式の土器片が多数出土している。Ｊ－８号住居跡は遺構面まで浅く、残りが大変悪かったが、炉跡と思われる焼土がかろうじて検出された。壁の立ち上がりは住居北側のごく一部しか確認できなかった。川原石が多く検出されたことから、敷石のような施設を持っていた可能性もあるが、現在の検出状況からは判明しなかった。住居南側から、深鉢の下部約３分の１が埋没した状態で埋設土器が検出された。

本遺跡の縄文時代中期の住居から出土した土器は、ほとんどが加曽利Ｅ４式土器で、時期的に大きな差がないと考えられる。五代山街道Ⅰ遺跡の土坑から出土した土器も中期の住居跡と同様、加曽利Ｅ４式土器を主体としている。しかし、五代山街道Ⅱ遺跡の土坑から検出された土器片は阿玉台・焼町系の土器片を中心としており、

五代山街道Ⅰ遺跡とは様相を異にする。

五代山街道Ⅱ遺跡は、平成13年度の調査で焼町系の土器が大量に出土した五代伊勢宮Ⅳ遺跡と隣接しており、そちらの遺構群と一連のものになると考えられる。大量の良好な資料が得られた五代伊勢宮Ⅳ遺跡に比べ、五代山街道Ⅱ遺跡の土坑数は極端に少なく、遺物も破片のみで数も少ない。また、五代山街道Ⅱ遺跡で検出された土坑は五代伊勢宮Ⅳ遺跡寄りの調査区南側に集中して位置している。これらのことから、五代山街道Ⅱ遺跡は、五代伊勢宮Ⅳ遺跡とその南に隣接する五代伊勢宮Ⅵ遺跡を中心とする遺構群の北端に位置しているものと考えられる。

ここで、平成12年度から続く五代南部工業団地造成に伴う発掘調査で検出された縄文時代の遺構の傾向について、簡単に概観を述べてみたい。

縄文時代の遺構は標高124m付近より高い、五代伊勢宮Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡、五代竹花Ⅰ・Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ・Ⅱ遺跡、五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡から検出されている。これらの遺跡は開析谷に削られた細長い台地上に位置しており、五代中原Ⅰ・Ⅱ遺跡以外は同じ台地上に乗っている。標高124m～127mあたりには中期後葉の加曽利Ｅ２式期の住居跡が多い。標高128m～135mあたりには、中期中葉の焼町系の土器を大量に出土する土坑群が密集している。そして標高136m～142mのあたりには比較的前期の住居跡が多く、中期の住居跡からは中葉の加曽利Ｅ４式期の土器が検出されている。このように出土土器や遺構の傾向から、造成予定地内の縄文時代の遺構群は、高緯度・中緯度・低緯度の３つの区域におおまかに区分することができようか。遺構数・遺物数共に突出しているのは中緯度の中期中葉の一群である。同じ赤城山の西麓に所在する三原田遺跡や房谷戸遺跡・道訓前遺跡と出土土器が近似しており、深い関係があったものと思われる。また、低緯度の中期の一群に曽利系の土器が含まれることや、中緯度の一群に焼町系のものが多く見られることから、長野方面との活発な交流がうかがわれる。全時期を通じ、長野方面のみならず南関東系や北陸系の土器も多く見られ、多様な地域との交流を持つこの地域の様相が浮かび上がってくる。

今後、五代南部工業団地造成予定地の発掘がすべて終了し、周辺遺跡との関連を詳しく考えていくことで当該地域の縄文時代の様相が明らかになるものと思われる。

(2) 奈良・平安時代

五代山街道Ⅰ・Ⅱ遺跡を通じて検出された土師器を伴う住居跡は３軒で、すべて五代山街道Ⅰ遺跡からの検出であった。

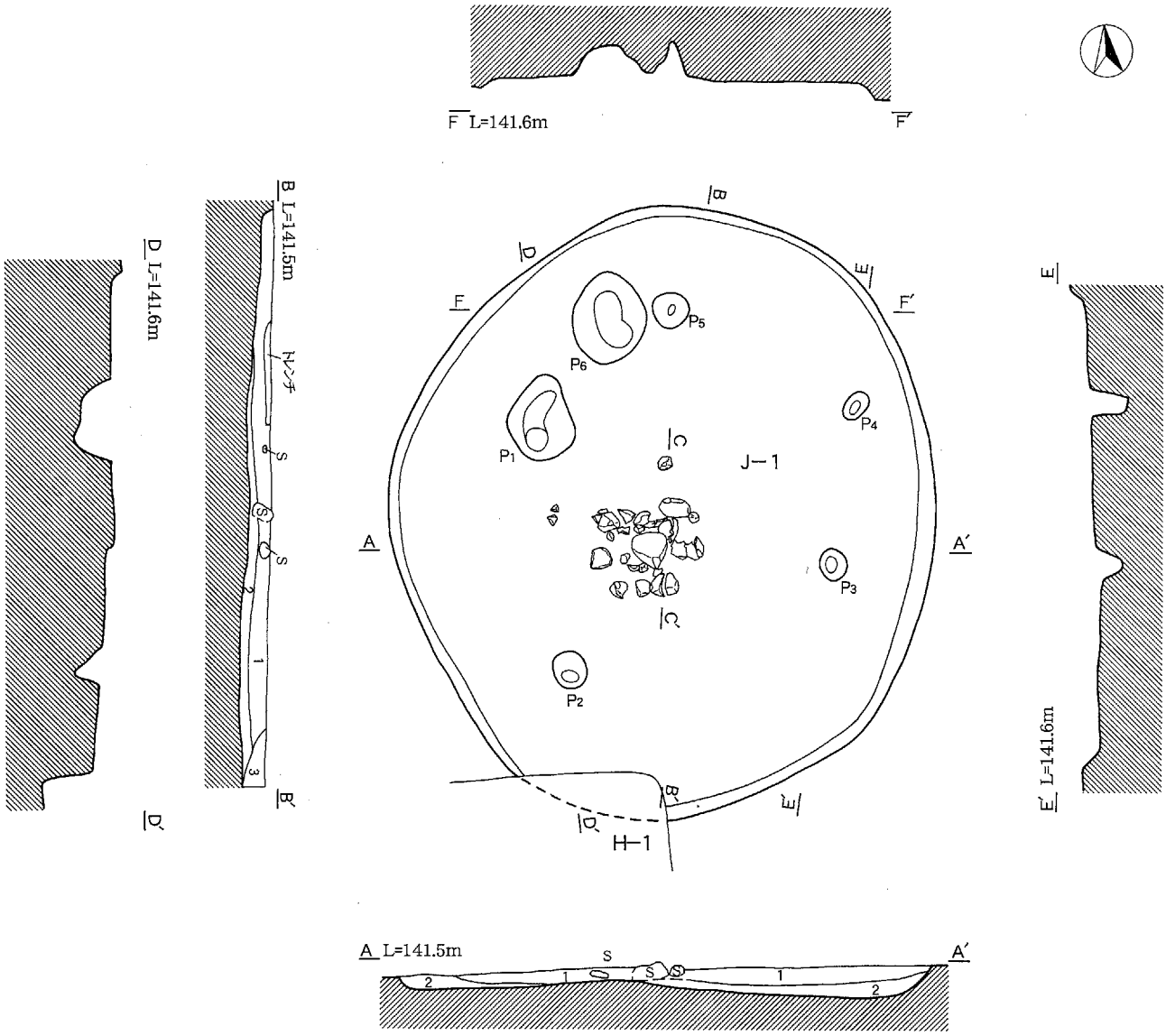
Ｈ－１号住居跡は床面まで60cm以上の深さがあり、竈も残りがよかったが、遺物が非常に少なく、土器片が数片と、紡錘車１点、砥石１点しか出土しなかった。埋土に土層の乱れはなく、住居廃絶時に意識的に土器類を持ち去ったものと考えられる。住居跡の形状や埋土から古墳時代後期の遺構と考えられる。

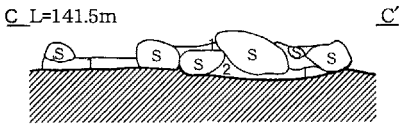
Ｈ－２号住居跡は台地の縁辺に位置しており、竈付近から出土した土器から９世紀代の遺構と考えられる。Ｈ－３号住居跡は、住居跡の半分が調査区外となり竈は検出されなかったが、遺物からやはり９世紀代の遺構と考えられる。

これら３軒の住居は比較的離れた位置に点在している。五代南部工業団地造成予定地内の各遺跡や、北に隣接する芳賀東部団地遺跡からは同時期の住居跡が多数検出されている。本遺跡の古墳・平安時代の住居跡は周辺遺跡から検出されている集落の一部に属し、集落の広がりの末端にあたるものと推測される。

【五代中原III遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道II遺跡　引用参考文献】

佐原真「特論―縄文施文法入門」『縄文土器大成』3　講談社　1981年
飯塚惠子・田口一郎編『元島名将軍塚古墳』　高崎市教育委員会　1981年3月
中澤充裕・唐澤保之編『芳賀団地遺跡群』第1巻　前橋市教育委員会　1984年3月
藤巻幸男編『荒砥前原遺跡・赤石城址』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1985年3月
赤塚次郎「S字甕について」『第3回東海埋蔵文化財研究会　欠山式土器とその前後』　愛知考古学談話会　1986年11月
小野和之編『三原田城遺跡・八崎城址・八崎塚・上青梨子古墳』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987年3月
林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第2巻　前橋市教育委員会　1988年3月
桜岡正信「土器の分類と時期設定」『国分僧寺・尼寺中間地域』(2)　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988年3月
小島純一編『堤頭遺跡』　粕川村教育委員会　1988年3月
佐藤明人編『新保遺跡II』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998年3月
飯塚卓二他編『下佐野遺跡』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989年2月
前原豊・都所敬尚編『熊野谷遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989年3月
園部守央・加部二生編『内堀遺跡群II』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第3巻　前橋市教育委員会　1990年3月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編1　群馬県　1990年3月
赤塚次郎「考察」『廻間遺跡』　愛知県埋蔵文化財センター　1990年3月
若狭徹「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳』1　群馬県土器観会　1990年4月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2　群馬県　1991年5月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第4巻　前橋市教育委員会　1991年3月
前原豊・伊藤良編『内堀遺跡群IV』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991年3月
赤山容造・佐藤明人・小宮俊久編『三原田遺跡』第3巻　1992年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第5巻　前橋市教育委員会　1994年3月
書上元博編『稲荷台遺跡』　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1994年3月
小島敦子編『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1995年3月
原田幹「S字甕の分布と地域型」『鍋と甕そのデザイン　第4回東海考古学フォーラム』　東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会1996年9月
深沢敦仁「上野における土器の交流と画期」『庄内式土器研究』XVI　1998年7月
坂口好孝・眞塩明雄編『鳥取福蔵寺遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『芳賀東部団地遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『山王若宮遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
かみつけの里博物館編『第2回特別展　人が動く・土器も動く』　1998年7月
林信也・福田貫之編『鳥取福蔵寺遺跡』II　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年3月
長谷川福次編『箱田遺跡群（上原・三角遺跡）・真壁諏訪遺跡』　北橘村教育委員会　1999年3月
林信也・平野岳志編『内堀遺跡群』XII　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年3月
齋木一敏・山口宗男・吉沢貴編『前田V遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年3月
田口一郎「北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着」『S字甕を考える　第7回東海考古学フォーラム三重大会』東海考古学フォーラム三重大会実行委員会　2001年1月
齋木一敏・須藤友子編『五代江戸屋敷遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
山武考古学研究所編『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代木福II遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
長谷川福次編『道訓前遺跡』　北橘村教育委員会　2001年2月
高橋一彦・倉品敦子編『五代伊勢宮II遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮III遺跡・五代深堀II遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮IV遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年3月
近藤雅順編『五代伊勢宮V遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮VI遺跡・五代中原II遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年3月
関口巧一編『中屋敷Ⅰ遺跡・明神山遺跡・伊勢山遺跡・中島遺跡・西裏遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003年3月
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「五代中原II・III遺跡発掘調査の概要」『ぐんま地域文化』第21号　㈶群馬地域文化振興会　2003年11月





J－1号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△× 白色粒。炭化物極少。
2	褐色細砂層	△△ ローム多量。白色粒。炭化物極少。
3	黒褐色細砂層	△× Hr-FP 軽石多量。

J－1号住居跡　炉セクション

1	褐色細砂層	×△
2	黄褐色細砂層	△△ ローム主体。焼土粒極少。

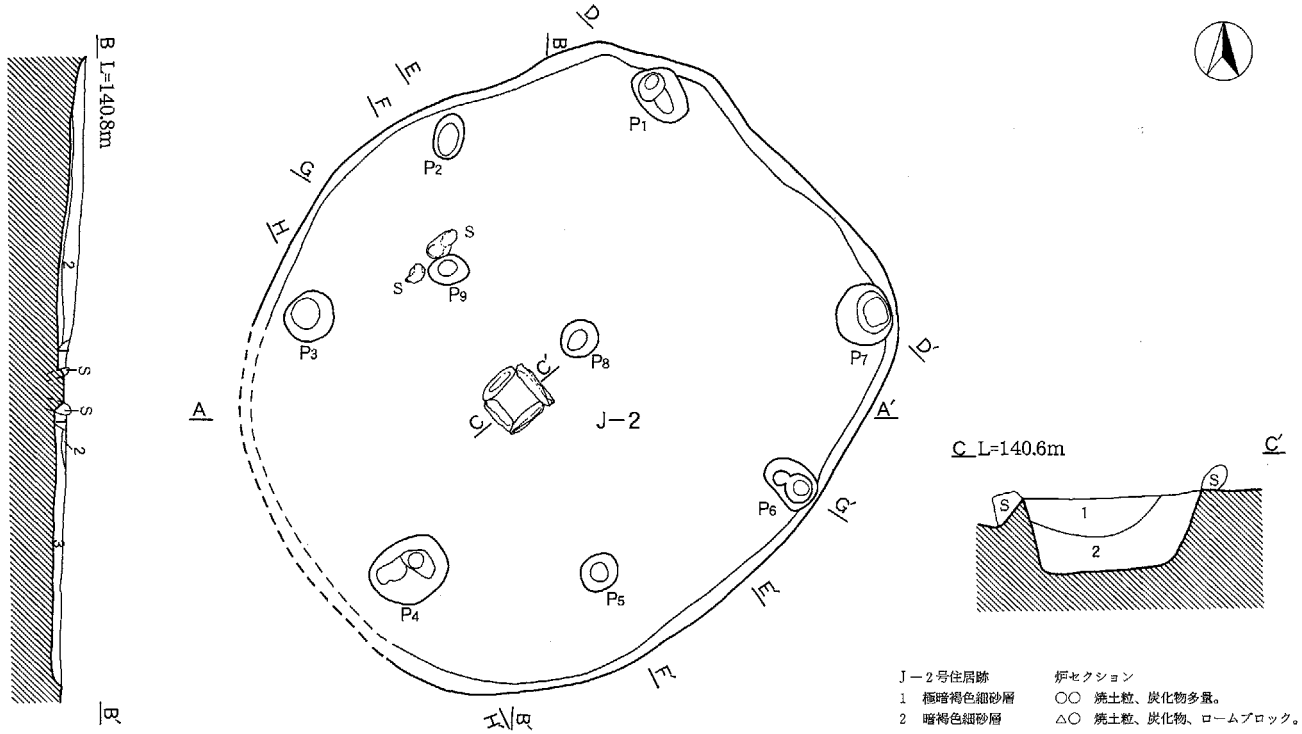
J－1号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	不整形	73	38	33	
P_2	円　形	32	32	26	
P_3	円　形	28	23	23.5	
P_4	楕円形	25	18	33.5	
P_5	円　形	32	30	32.5	
P_6	楕円形	82	68	27	

0　1：30　1m

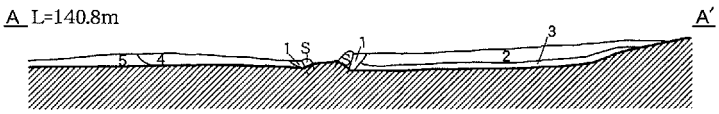
0　1：60　2m

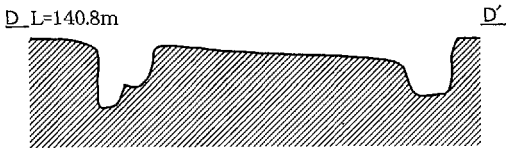
Fig.56　J－1号住居跡



J－2号住居跡
1　極暗褐色細砂層
2　暗褐色細砂層

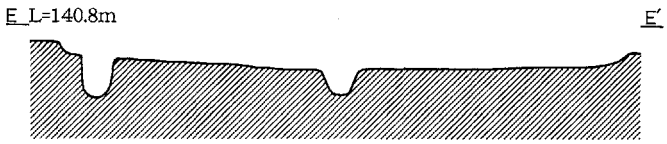
炉セクション
○○　焼土粒、炭化物多量。
△○　焼土粒、炭化物、ロームブロック。

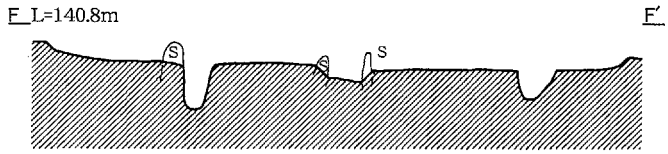




J－2号住居跡
1　暗褐色細砂層
2　褐色細砂層
3　黄褐色細砂層
4　暗褐色細砂層
5　黄褐色細砂層

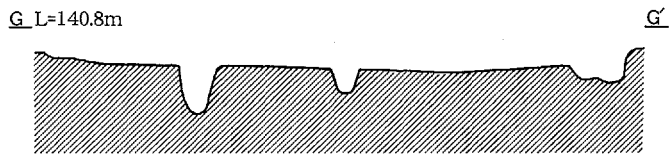
ベルトセクション
△×　焼土粒、炭化物少量。
××　炭化物少量。
××　ロームブロック。炭化物少量。
△×　ロームブロック、炭化物。
×△　ローム主体。

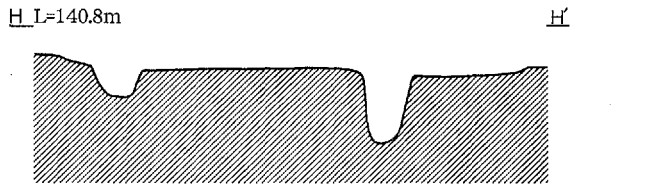




J－2号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	50	37	50	
P_2	楕円形	34	25	35	
P_3	楕円形	43	38	22	
P_4	楕円形	62	49	55	
P_5	楕円形	35	28	24.5	
P_6	楕円形	48	30	25	
P_7	楕円形	50	44	39.5	
P_8	円　形	32	29	22.5	
P_9	楕円形	31	23	39.5	





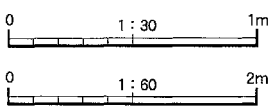
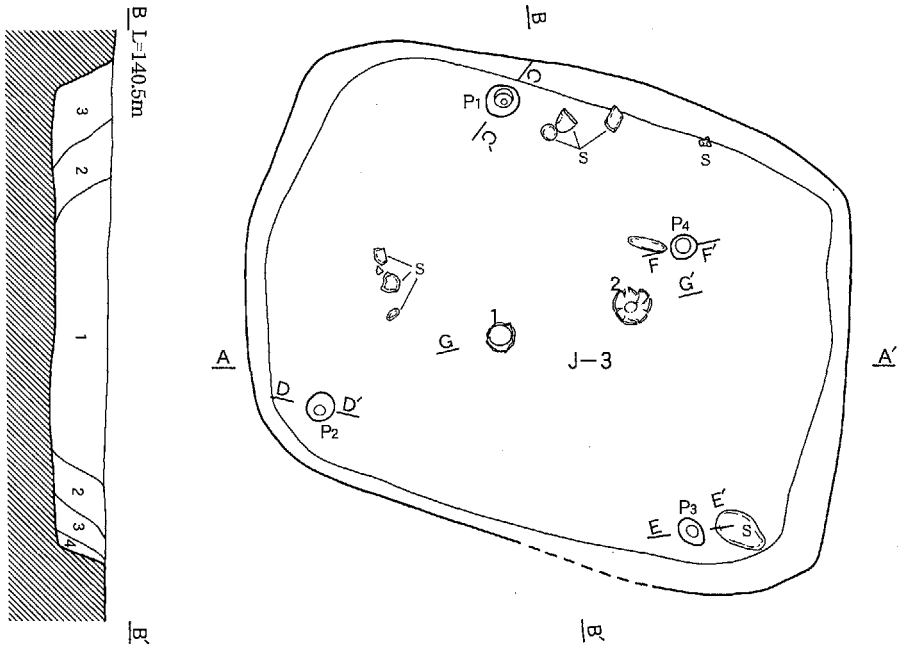


Fig.57　J－2号住居跡



J－3号住居跡　埋甕（遺物No.1）セクション

1	褐色細砂層	○○　ローム粒、炭化物。
2	黄褐色細砂層	○○　ロームブロック。
3	暗褐色細砂層	△○　焼土粒、炭化物。
4	褐色細砂層	△○　ロームブロック。

J－3号住居跡　埋甕（遺物No.2）セクション

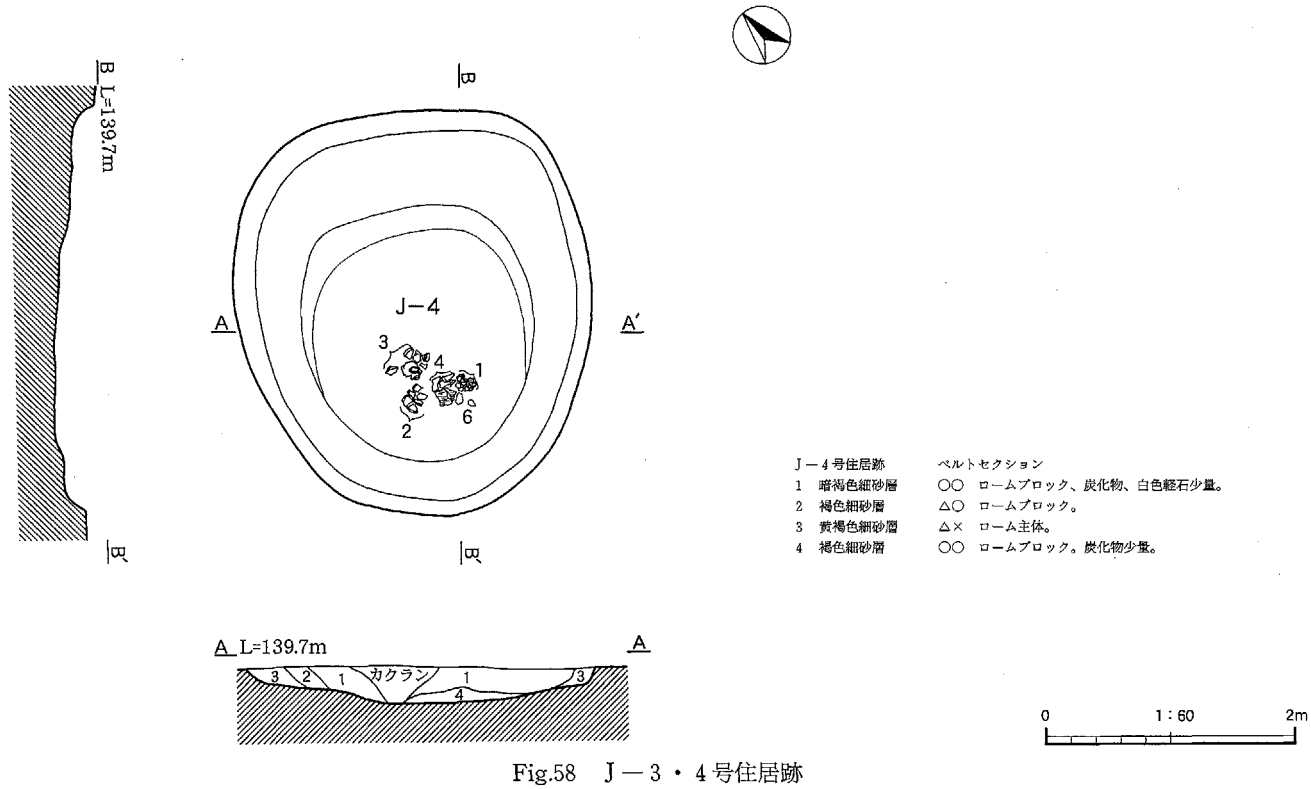
1	褐色細砂層	○○　ローム粒。炭化物、焼土粒少量。
2	黄褐色細砂層	○○　ローム主体。
3	暗褐色細砂層	△○　炭化物、焼土粒、ローム粒。
4	極暗褐色細砂層	△○　炭化物、焼土粒。
5	褐色細砂層	△○　ロームブロック。

J－3号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	◎△　ローム粒、白色粒少量。
2	褐色細砂層	◎○　ローム粒、白色粒、炭化物。焼土粒極少。
3	黄褐色細砂層	◎△　ローム粒、白色粒、炭化物。焼土粒極少。
4	暗褐色細砂層	◎○　炭化物ブロック、白色粒、ローム粒。

J－3号住居跡柱穴計測表

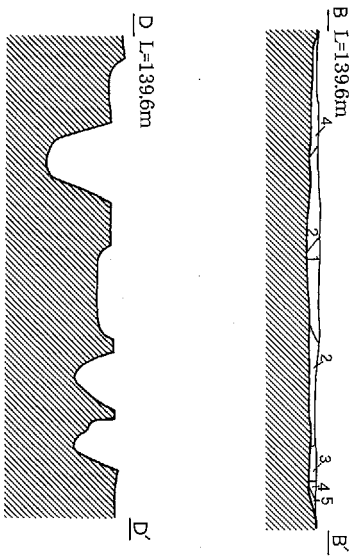
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	27	25	45.5	
P_2	円　形	22	22	33	
P_3	楕円形	24	17	23	
P_4	円　形	20	18	31	

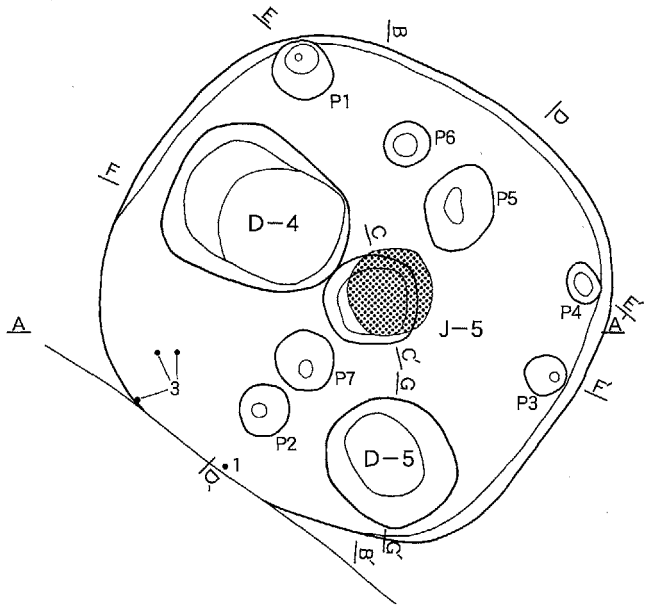


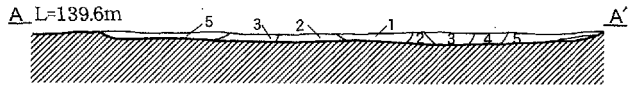
J－4号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○○　ロームブロック、炭化物、白色軽石少量。
2	褐色細砂層	△○　ロームブロック。
3	黄褐色細砂層	△×　ローム主体。
4	褐色細砂層	○○　ロームブロック。炭化物少量。

Fig.58　J－3・4号住居跡

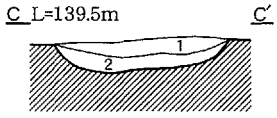






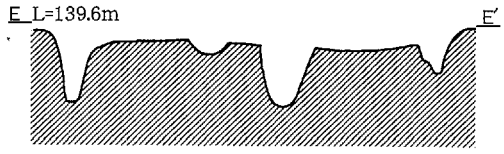
J－5号住居跡　ベルトセクション

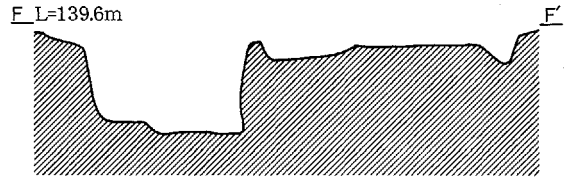
1	褐色細砂層	○○　炭化物ブロック少量。
2	褐色細砂層	○○　ローム粒極少。
3	暗褐色細砂層	○◎　ローム土少量。炭化物極少。
4	褐色細砂層	○○　ローム土少量。
5	黄褐色細砂層	○○　ロームブロック少量。



J－5号住居跡　炉セクション

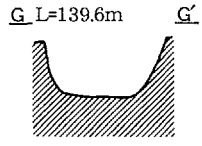
1	褐色細砂層	○○　焼土ブロック、炭化物。
2	明褐色細砂層	○○　炭化物。





J－5号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	48	45	15	
P_2	円　形	43	41	32.5	
P_3	円　形	33	32	23	
P_4	楕円形	32	28	16	
P_5	楕円形	70	57	52	
P_6	円　形	38	37	13.5	
P_7	円　形	48	48	31.5	



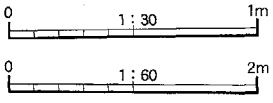


Fig.59　J－5号住居跡、D－4・5号土坑

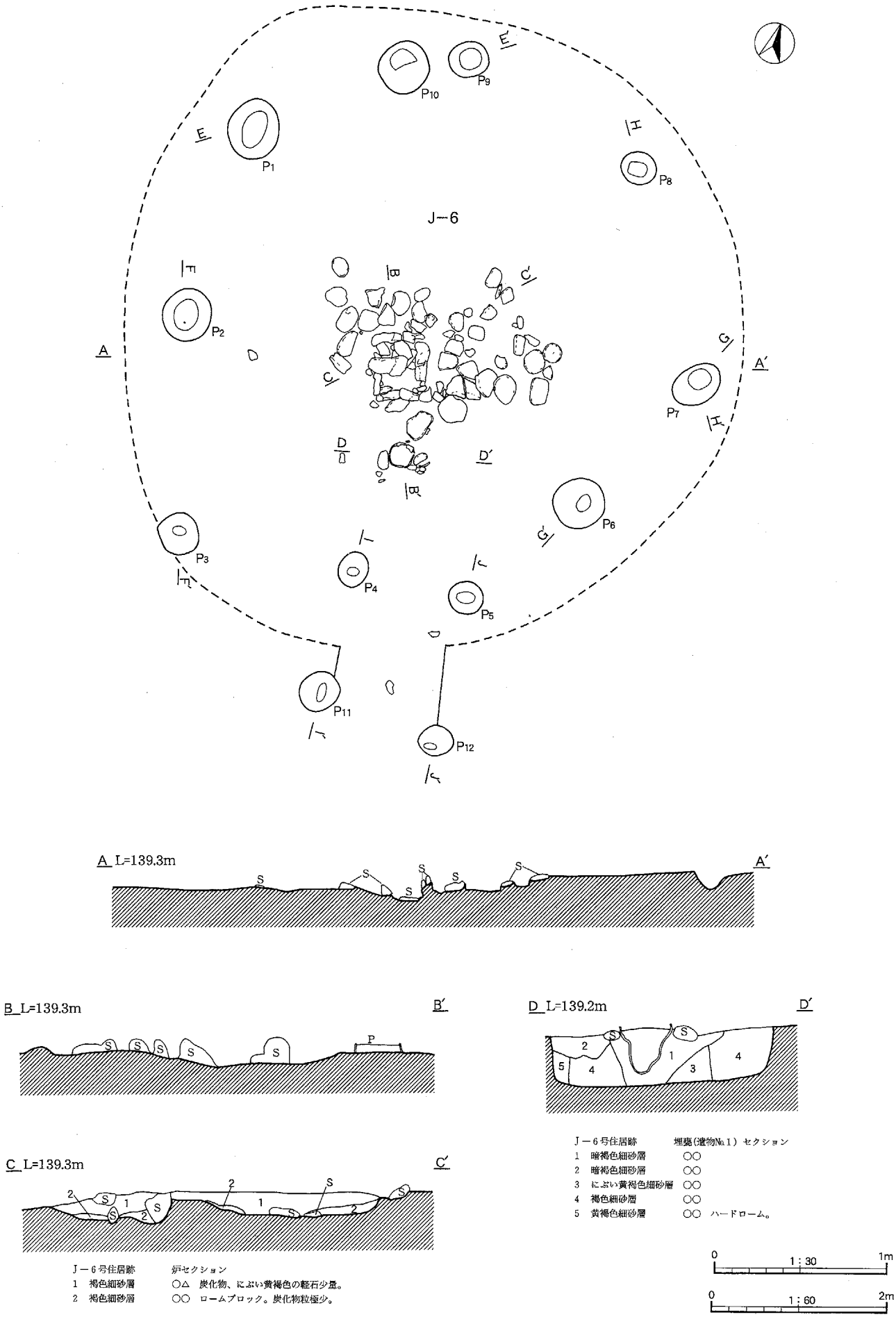
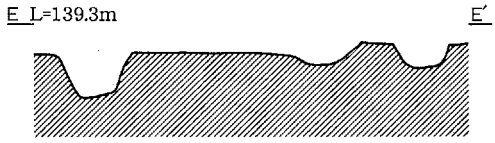
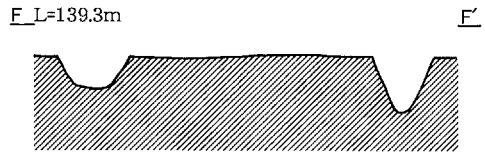
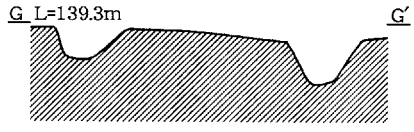
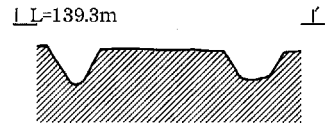


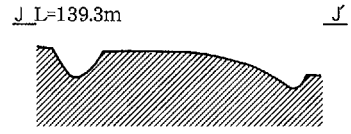
Fig.60　J－6号住居跡





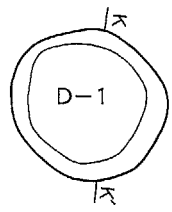


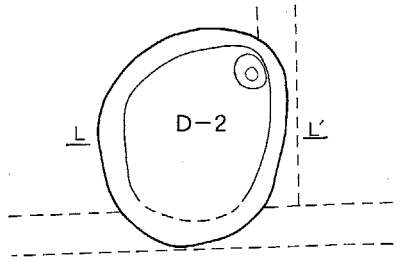


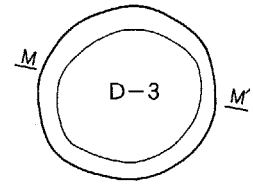


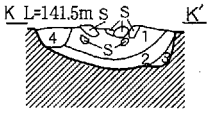
J－6号住居跡柱穴計測表

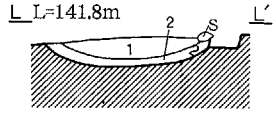
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	70	58	31.5	
P_2	楕円形	60	56	26	
P_3	円　形	48	43	42	
P_4	楕円形	40	34	29.5	
P_5	円　形	42	37	23	
P_6	円　形	60	56	35.5	
P_7	楕円形	60	40	25	
P_8	円　形	40	37	19	
P_9	楕円形	47	38	19	
P_{10}	円　形	58	57	24.5	
P_{11}	楕円形	47	40	22	
P_{12}	楕円形	40	33	16.5	

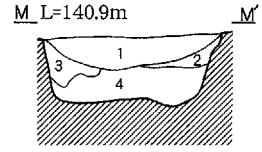






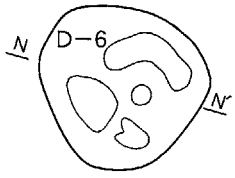


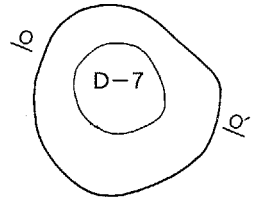


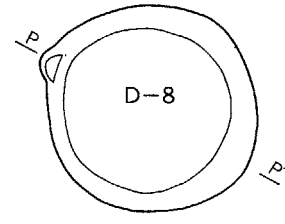


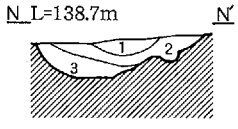
D－1号土坑　　セクション
1　黒褐色細砂層　　△△　As-C軽石、ローム粒。FP軽石、焼土粒少量。
2　暗褐色細砂層　　△○　As-C軽石多量。ローム粒。
3　褐色細砂層　　△○　As-C軽石多量。ローム粒。
4　にぶい黄褐色細砂層　△×　ロームブロック、ローム粒。As-C軽石極少。

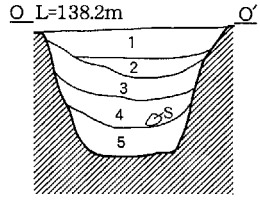
D－2号土坑　　セクション、
1　褐色細砂層　　△○　白色粒。炭化物少量。
2　黄褐色細砂層　　△○　ロームブロック、白色粒。炭化物極少。

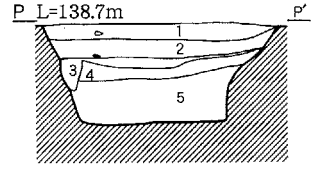












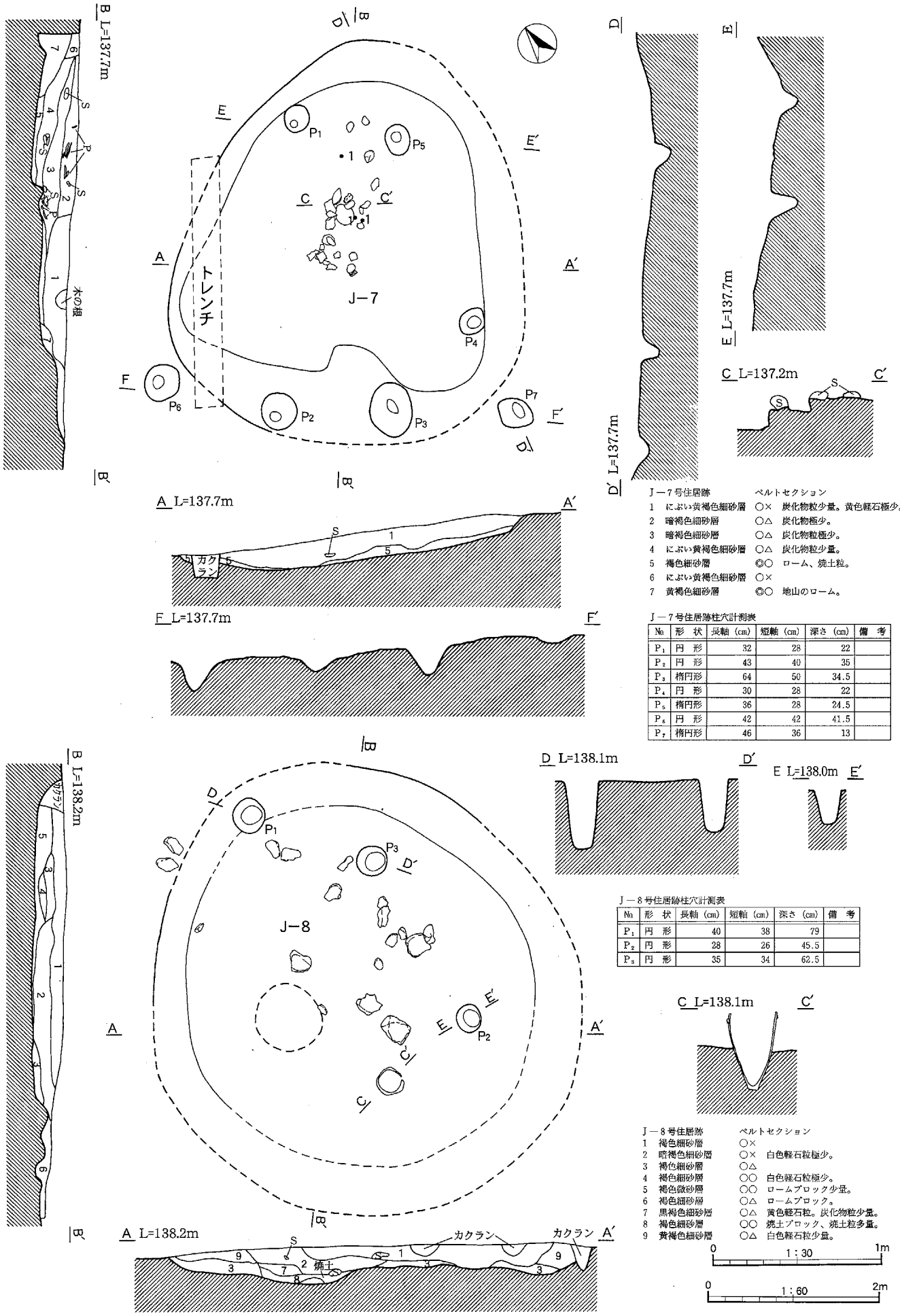
D－6号土坑　　セクション
1　黄褐色細砂層　　△×　白色軽石極少。
2　黄褐色細砂層　　△×　ローム主体。ロームブロック多量。
3　黄褐色細砂層　　××

D－7号土坑　　セクション
1　暗褐色細砂層　　○△　炭化物、赤土。
2　暗褐色細砂層　　○△　炭化物。
3　暗褐色細砂層　　○△　炭化物。
4　黄褐色細砂層　　○△　炭化物。
5　黄褐色細砂層　　××　砂、炭化物。

D－8号土坑　　セクション
1　暗褐色細砂層　　△○　焼土。炭化物、白色軽石粒少量。
2　暗褐色細砂層　　○△　焼土、炭化物。
3　暗褐色細砂層　　◎△　焼土、炭化物。
4　黄褐色細砂層　　○△　ローム粒。
5　黄褐色細砂層　　△○

0　1：60　2m

Fig.61　J－6号住居跡、山街道Ⅰ遺跡D－1～3・6～8号土坑



J−7号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	炭化物粒少量。黄色軽石極少。
2	暗褐色細砂層	○△	炭化物極少。
3	暗褐色細砂層	○△	炭化物粒極少。
4	にぶい黄褐色細砂層	○△	炭化物粒少量。
5	褐色細砂層	◎○	ローム、焼土粒。
6	にぶい黄褐色細砂層	○×	
7	黄褐色細砂層	◎○	地山のローム。

J−7号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	32	28	22	
P_2	円　形	43	40	35	
P_3	楕円形	64	50	34.5	
P_4	円　形	30	28	22	
P_5	楕円形	36	28	24.5	
P_6	円　形	42	42	41.5	
P_7	楕円形	46	36	13	

J−8号住居跡柱穴計測表

No	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	40	38	79	
P_2	円　形	28	26	45.5	
P_3	円　形	35	34	62.5	

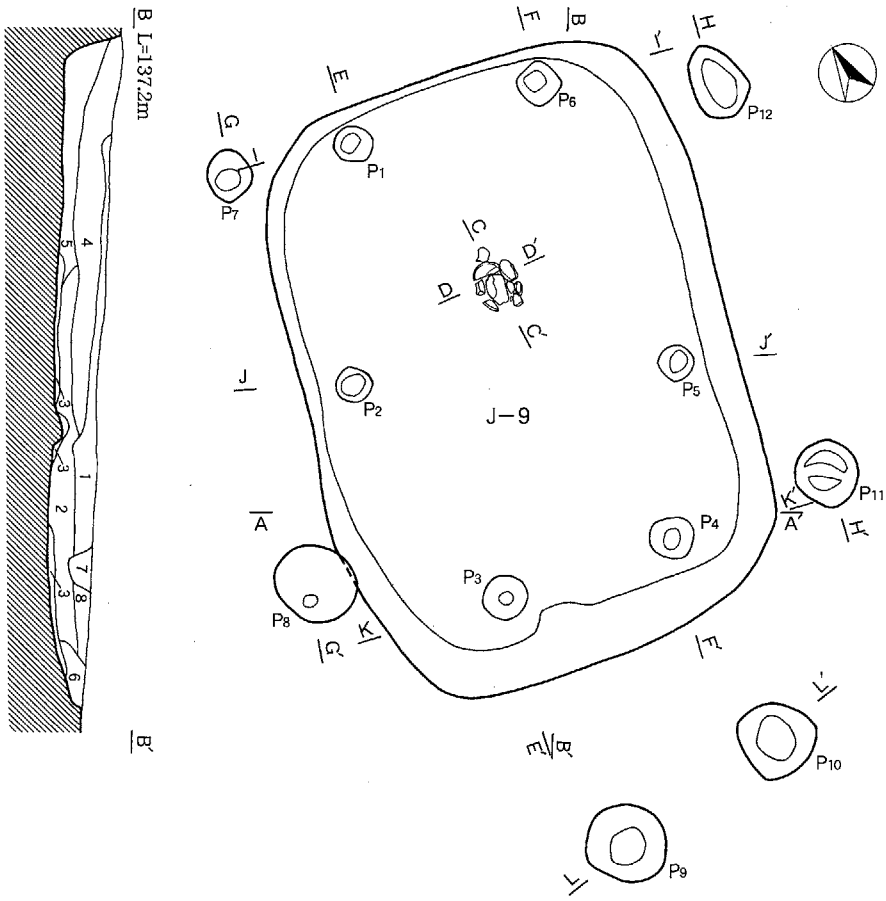
J−8号住居跡　ベルトセクション

1	褐色細砂層	○×	
2	暗褐色細砂層	○×	白色軽石粒極少。
3	褐色細砂層	○△	
4	褐色細砂層	○○	白色軽石粒極少。
5	褐色微砂層	○○	ロームブロック少量。
6	褐色細砂層	○△	ロームブロック。
7	黒褐色細砂層	○△	黄色軽石粒。炭化物粒少量。
8	褐色細砂層	○○	焼土ブロック、焼土粒多量。
9	黄褐色細砂層	○△	白色軽石粒少量。

0　1：30　1m

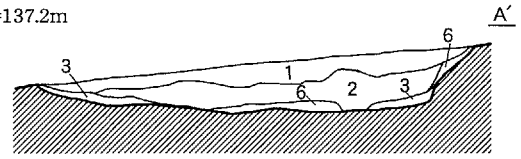
0　1：60　2m

Fig.62　J−7・8号住居跡



J−9号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	32	28	35.5	
P_2	円　形	28	26	23.5	
P_3	円　形	33	32	27	
P_4	円　形	34	34	44.5	
P_5	円　形	28	28	55	
P_6	正方形	31	31	41.5	
P_7	楕円形	42	38	32	
P_8	楕円形	68	58	44	
P_9	楕円形	66	58	24	
P_{10}	楕円形	64	60	28.5	
P_{11}	円　形	52	50	18.5	
P_{12}	楕円形	60	40	15	



J−9号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	炭化物粒極少。
2	黒色細砂層	◎△	炭化物、ローム粒、白色及び黄色軽石。
3	褐色細砂層	◎△	ローム。
4	黒褐色細砂層	○△	白色軽石。炭化物粒少量。
5	黒褐色細砂層	○△	白色軽石少量。
6	暗褐色細砂層	○△	ローム。白色軽石極少。
7	黒褐色細砂層	×△	
8	黒褐色細砂層	○△	ロームブロック多量。炭化物粒少量。

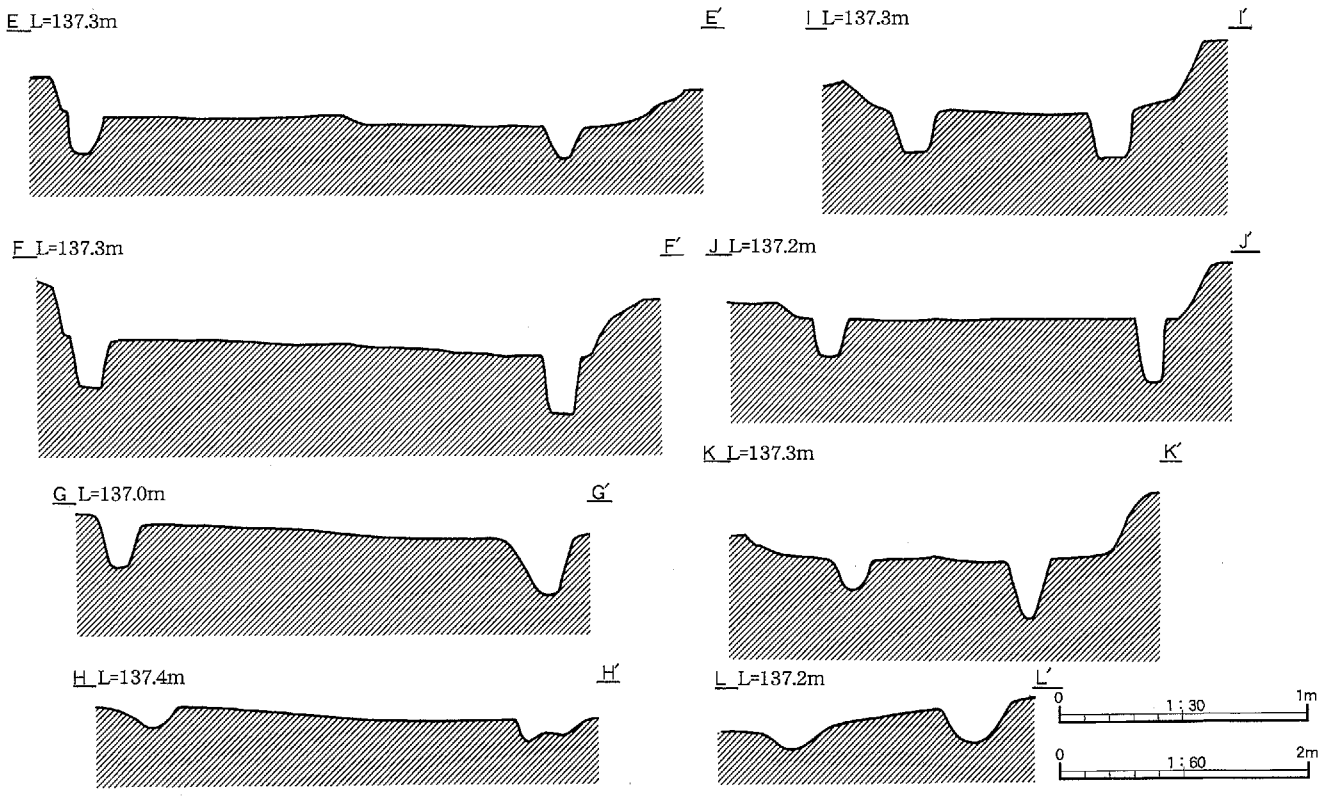
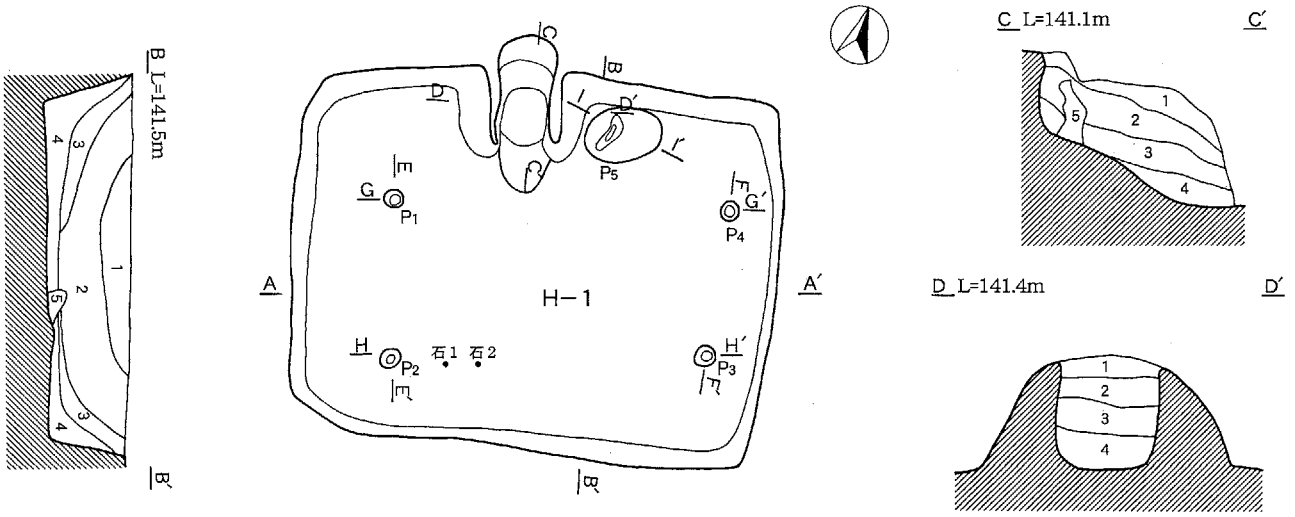


Fig.63　J−9号住居跡

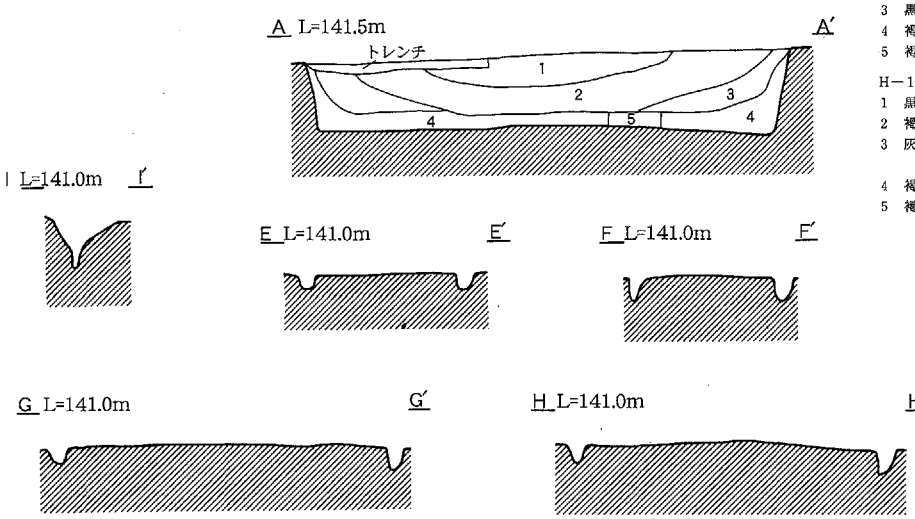


H−1号住居跡　ベルトセクション

1　黒色細砂層　○○　As-C軽石多量。
2　黒褐色細砂層　△○　As-C軽石。Hr-FP軽石少量。
3　黒褐色細砂層　△○　Hr-FP軽石少量。
4　褐色細砂層　△○　ローム粒多量。炭化物少量。
5　褐灰色細砂層　○○　灰の塊。

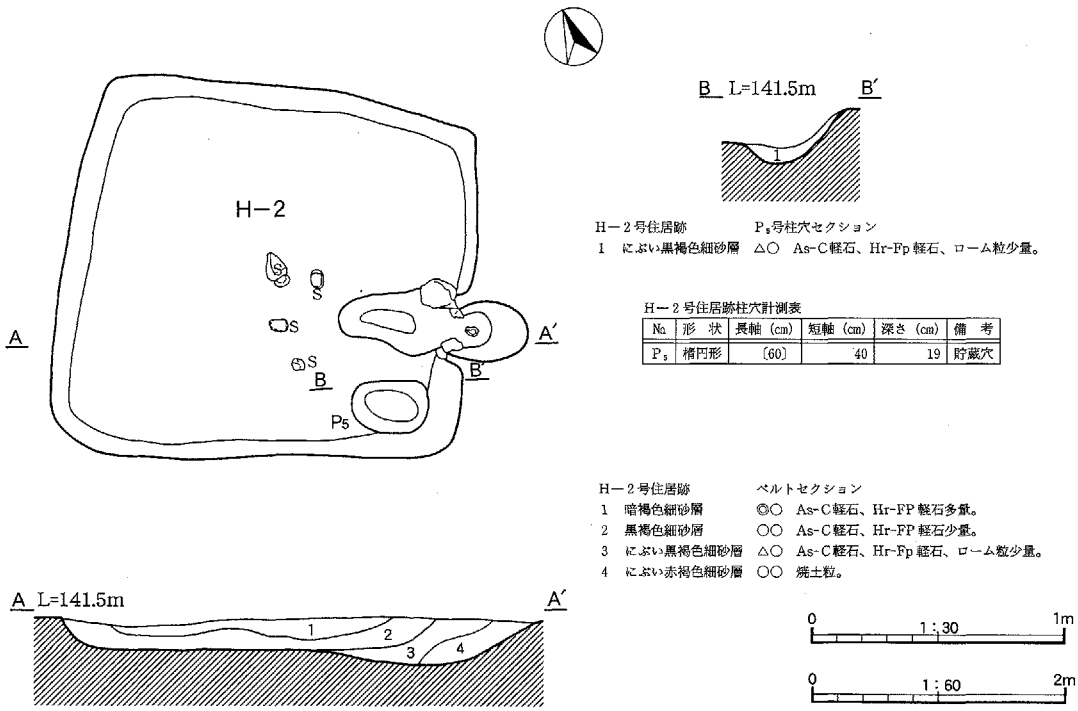
H−1号住居跡　竈セクション

1　黒褐色細砂層　○○　軽石。ローム粒少量。
2　褐色細砂層　◎◎　軽石、ローム粒、焼土粒、粘土。
3　灰褐色細砂層　◎◎　粘土主体。粘土ブロック。ロームブロック、焼土ブロック少量。
4　褐色細砂層　◎◎　粘土主体。焼土ブロック多量。
5　褐灰色細砂層　○○　灰の塊。



H−1号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	18	15	11.5	
P_2	円　形	18	14	14	
P_3	円　形	18	15	21	
P_4	円　形	16	12	17.5	
P_5	楕円形	63	44	41.5	貯蔵穴



H−2号住居跡　P_5号柱穴セクション

1　にぶい黒褐色細砂層　△○　As-C軽石、Hr-Fp軽石、ローム粒少量。

H−2号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_5	楕円形	〔60〕	40	19	貯蔵穴

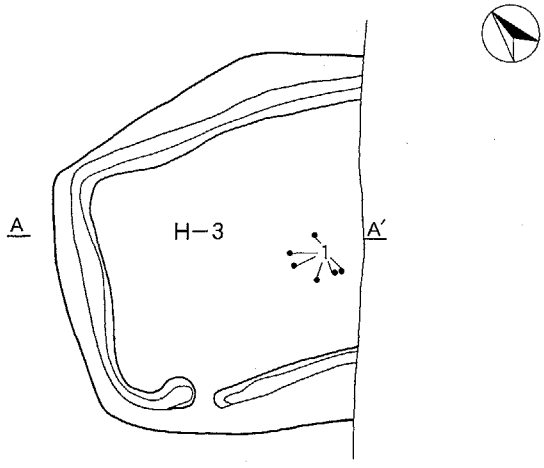
H−2号住居跡　ベルトセクション

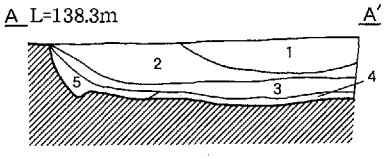
1　暗褐色細砂層　◎○　As-C軽石、Hr-FP軽石多量。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C軽石、Hr-FP軽石少量。
3　にぶい黒褐色細砂層　△○　As-C軽石、Hr-Fp軽石、ローム粒少量。
4　にぶい赤褐色細砂層　○○　焼土粒。

0　1：30　1m

0　1：60　2m

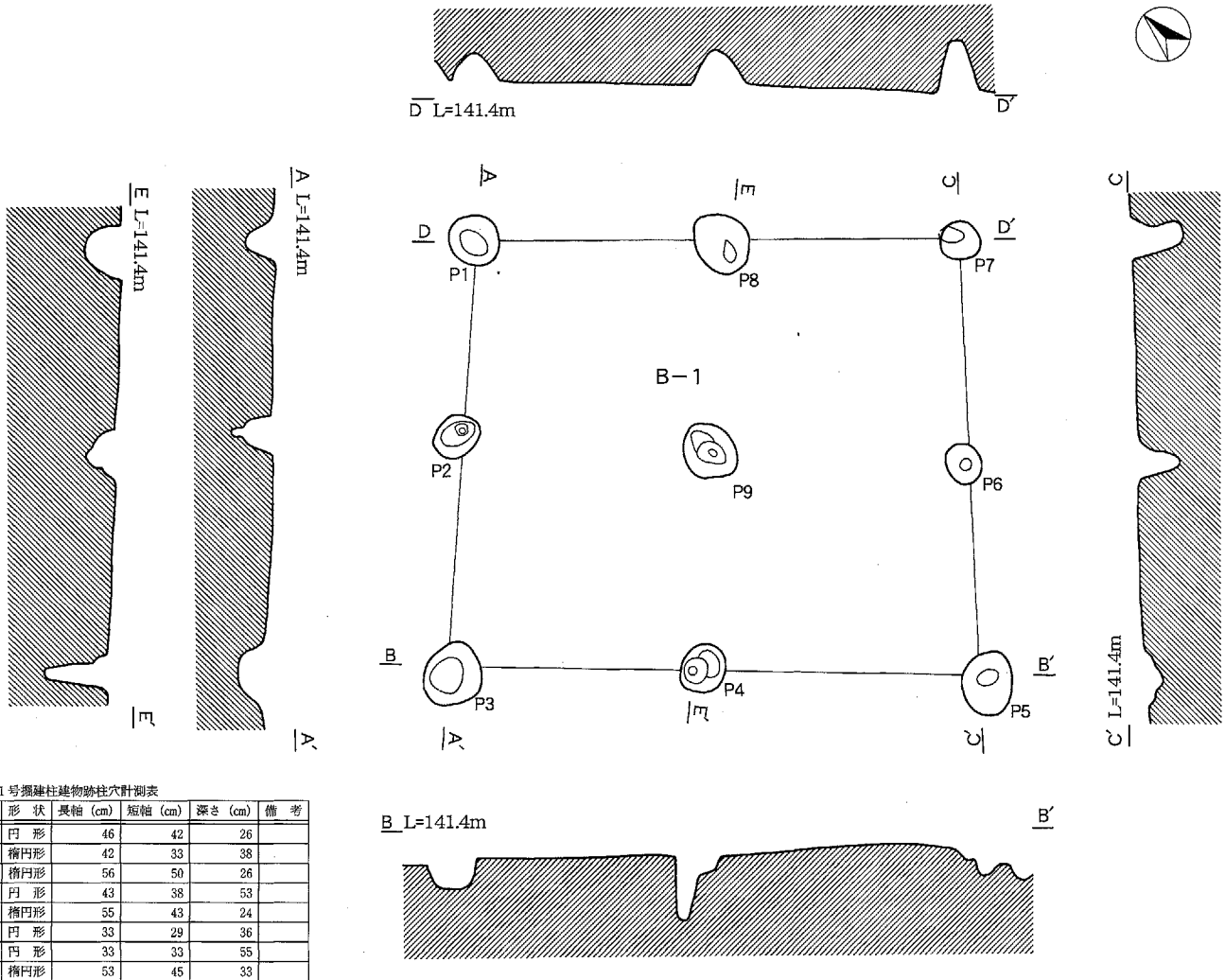
Fig.64　H−1・2号住居





H−3号住居跡　　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	△△	As-C軽石、Hr-FP軽石少量。
2	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C軽石、Hr-FP軽石。ローム粒少量。炭化物極少。
3	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C軽石極少。
4	黄褐色細砂層	△○	ロームブロック。
5	黒褐色細砂層	△△	ローム粒、白色軽石。



B−1号掘建柱建物跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	46	42	26	
P_2	楕円形	42	33	38	
P_3	楕円形	56	50	26	
P_4	円　形	43	38	53	
P_5	楕円形	55	43	24	
P_6	円　形	33	29	36	
P_7	円　形	33	33	55	
P_8	楕円形	53	45	33	
P_9	楕円形	52	43	25	

1　1：60　2m

Fig.65　H−3号住居跡、B−1号掘立柱建物跡

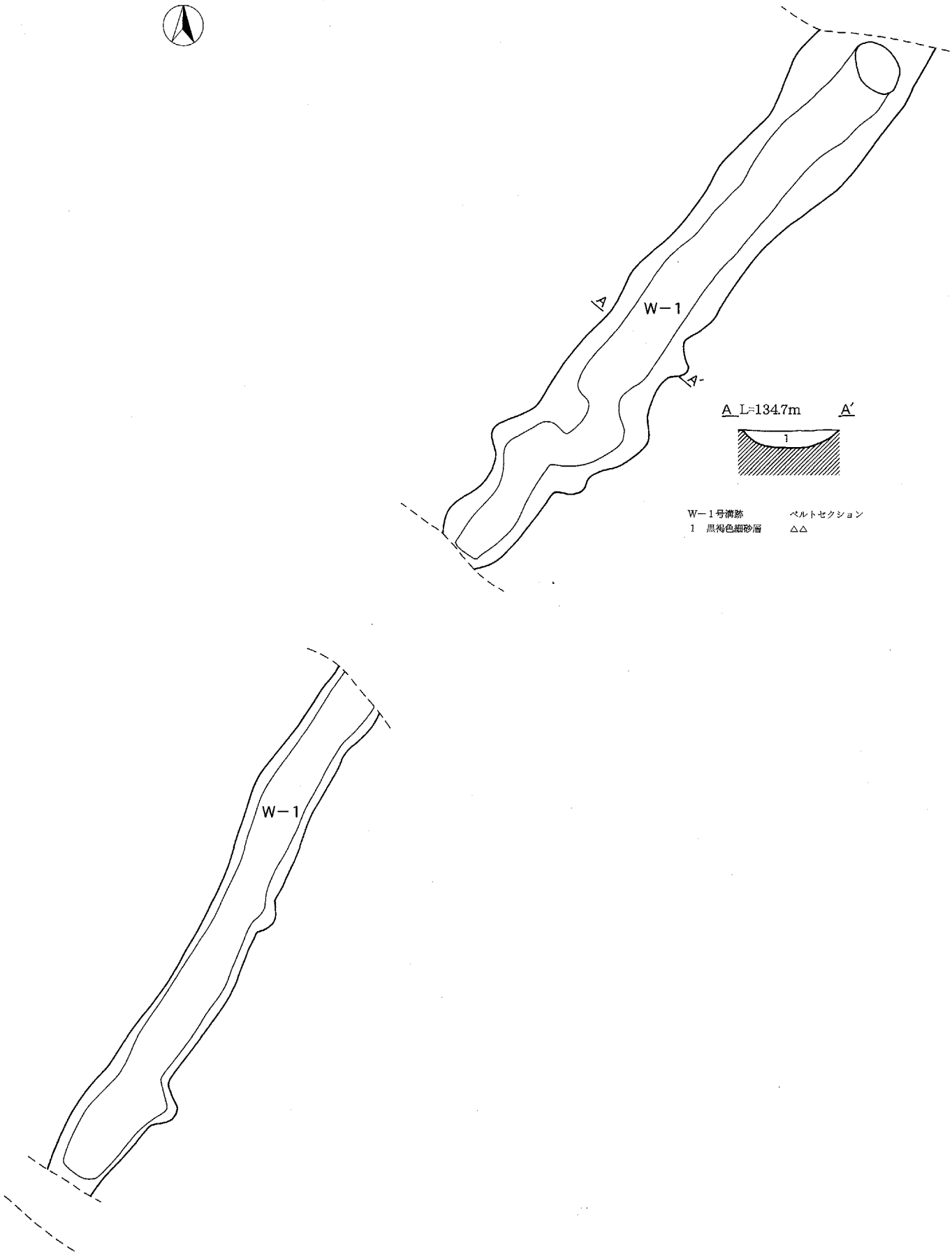
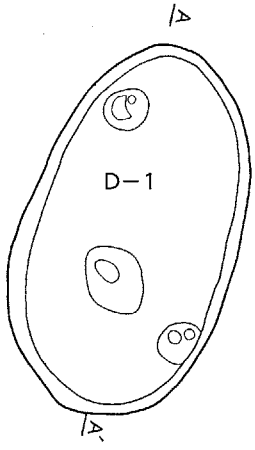
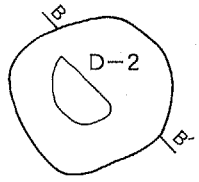
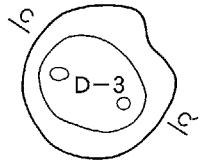
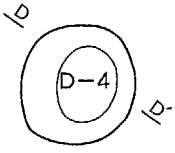


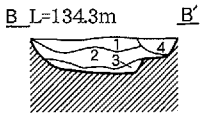
Fig.66　山街道II遺跡W－1号溝跡

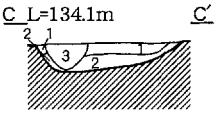


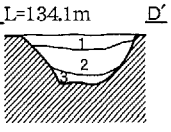


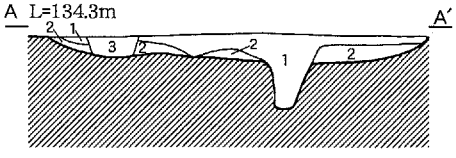










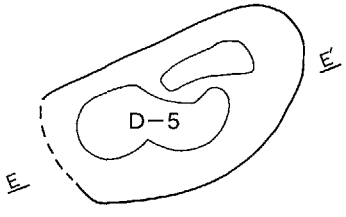


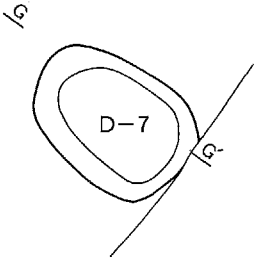
D−2号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。
4 黒褐色細砂層 ○×

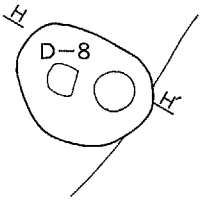
D−3号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 灰黄褐色細砂層 ○×

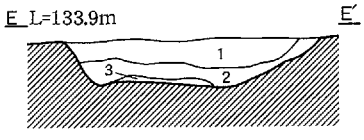
D−4号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。

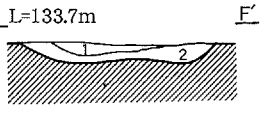
D−1号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黒褐色細砂層 ○×

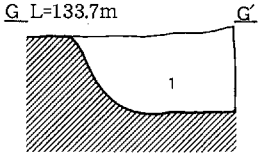


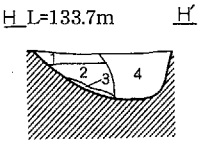










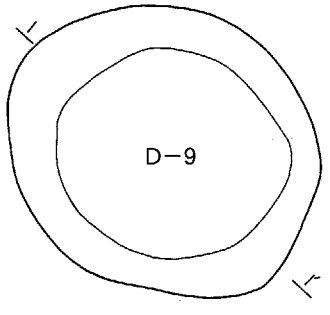


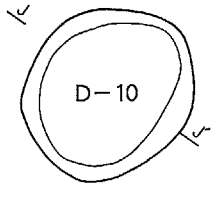
D−5号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。

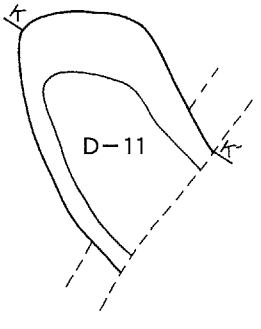
D−6号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。

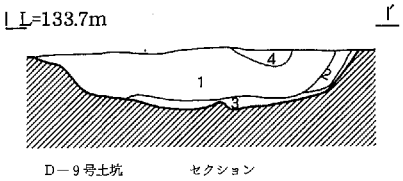
D−7号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。

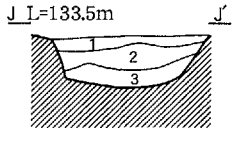
D−8号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。
4 暗褐色細砂層 ○×

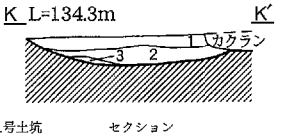












D−9号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。
4 黒褐色細砂層 ○×

D−10号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黒褐色細砂層 ○△ 白色軽石粒極少。

D−11号土坑
1 暗褐色細砂層 ○× As-C軽石。
2 褐色細砂層 ○△ As-C軽石。ロームブロック。
3 黄褐色細砂層 ○△ ハードローム主体。

0 1:60 2m

Fig.67 山街道II遺跡D−1〜11号土坑

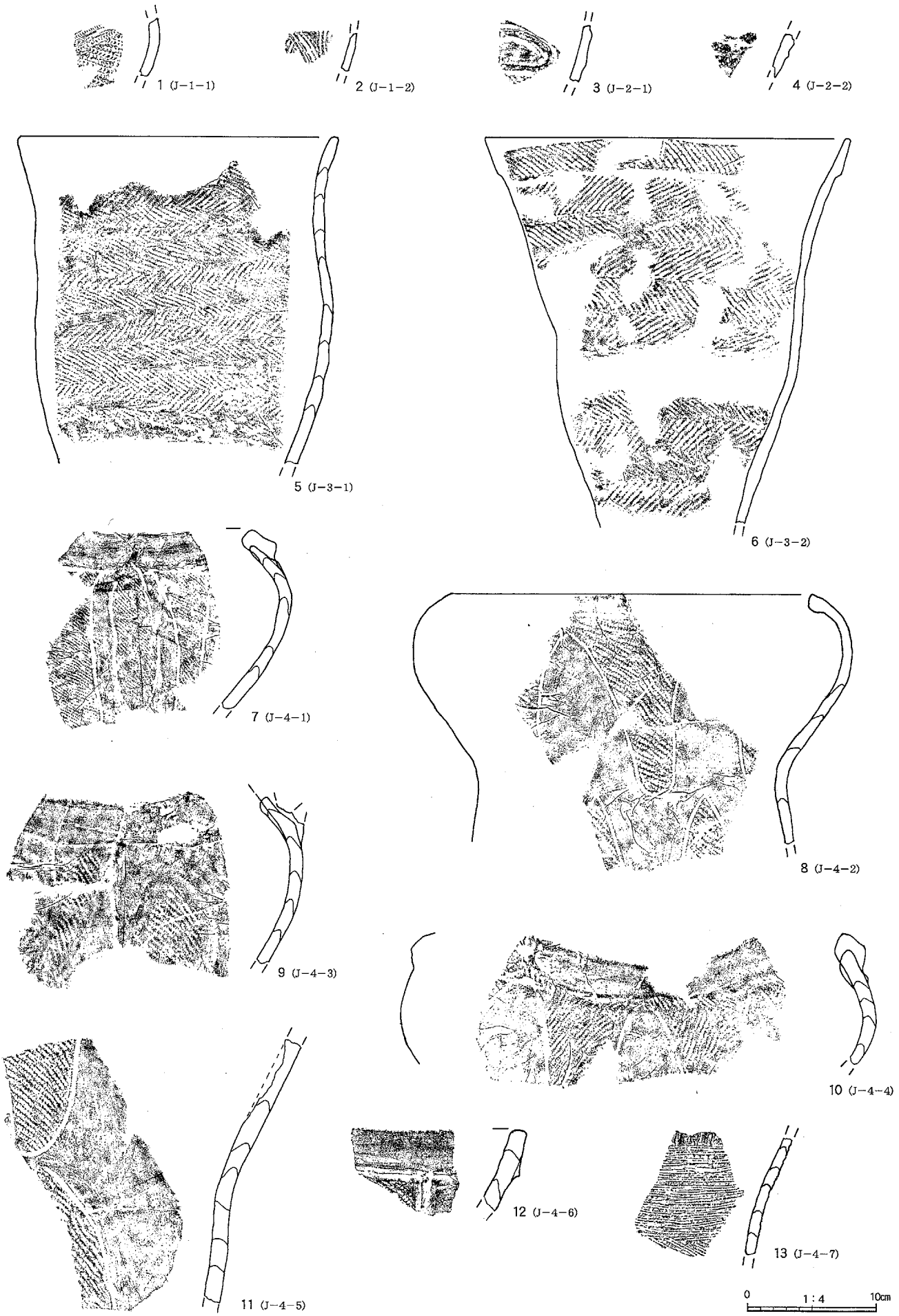


Fig.68　J－1～4号住居跡出土遺物

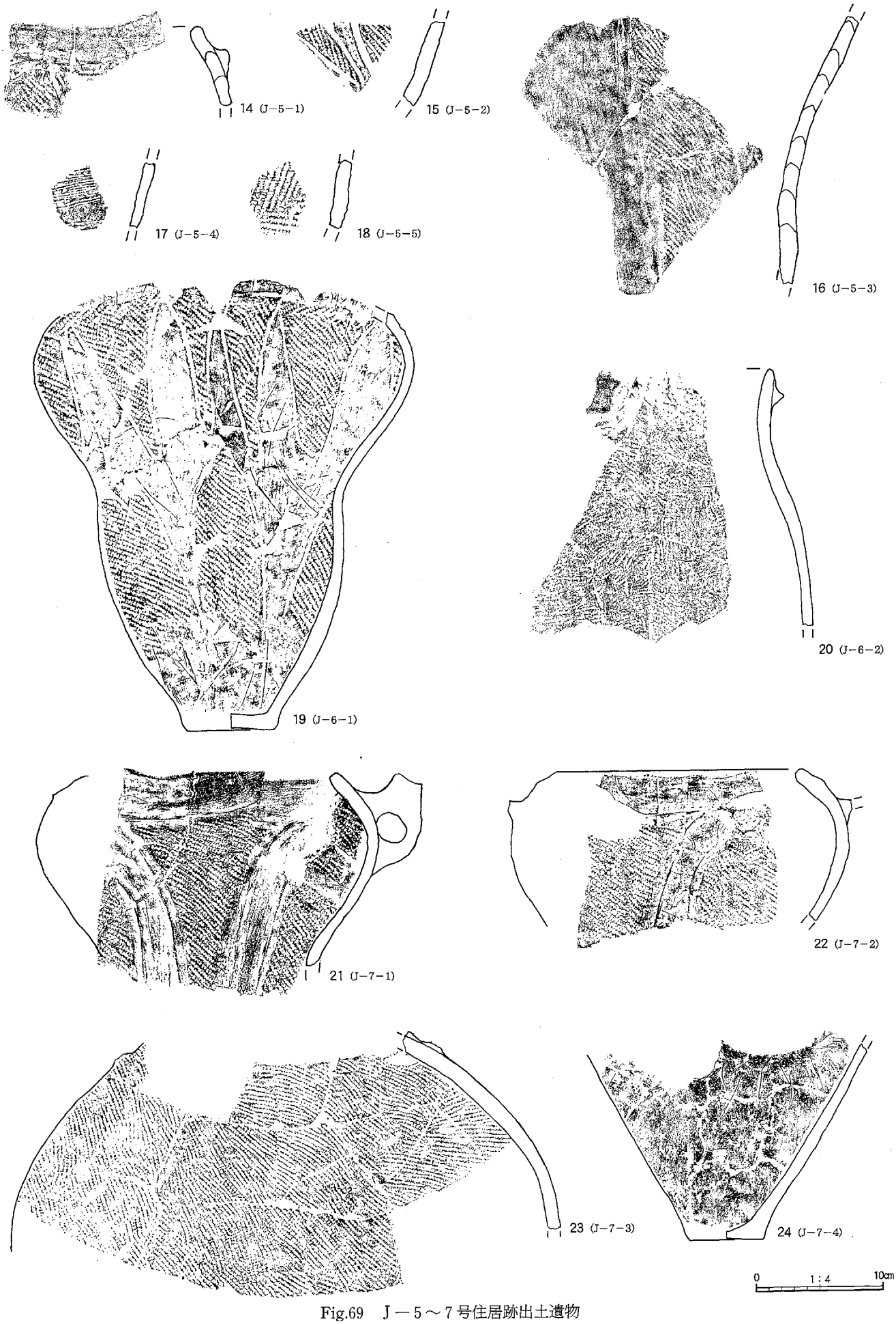


Fig.69　J－5～7号住居跡出土遺物

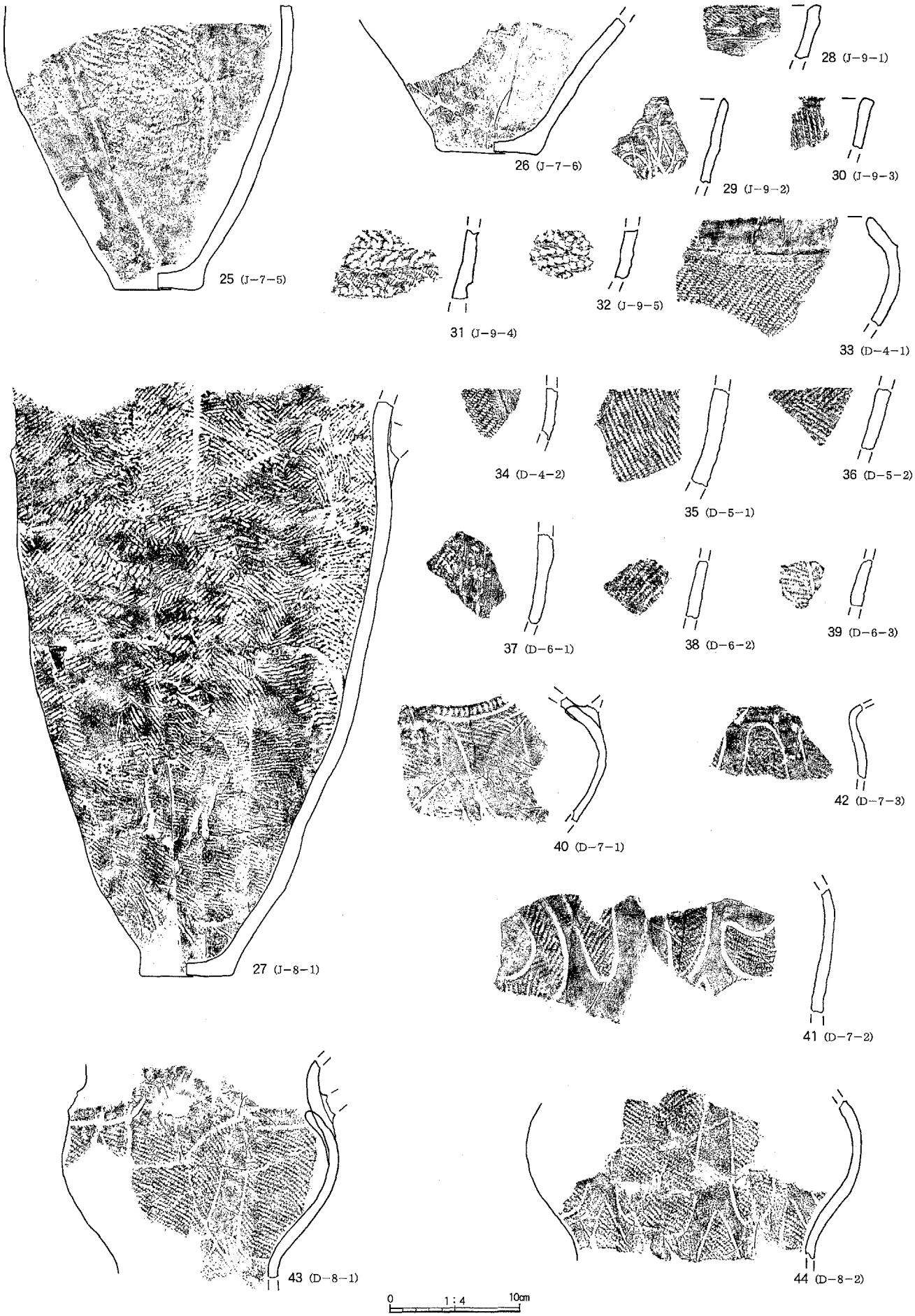


Fig.70　J－7～9号住居跡、D－4～8号土坑出土遺物

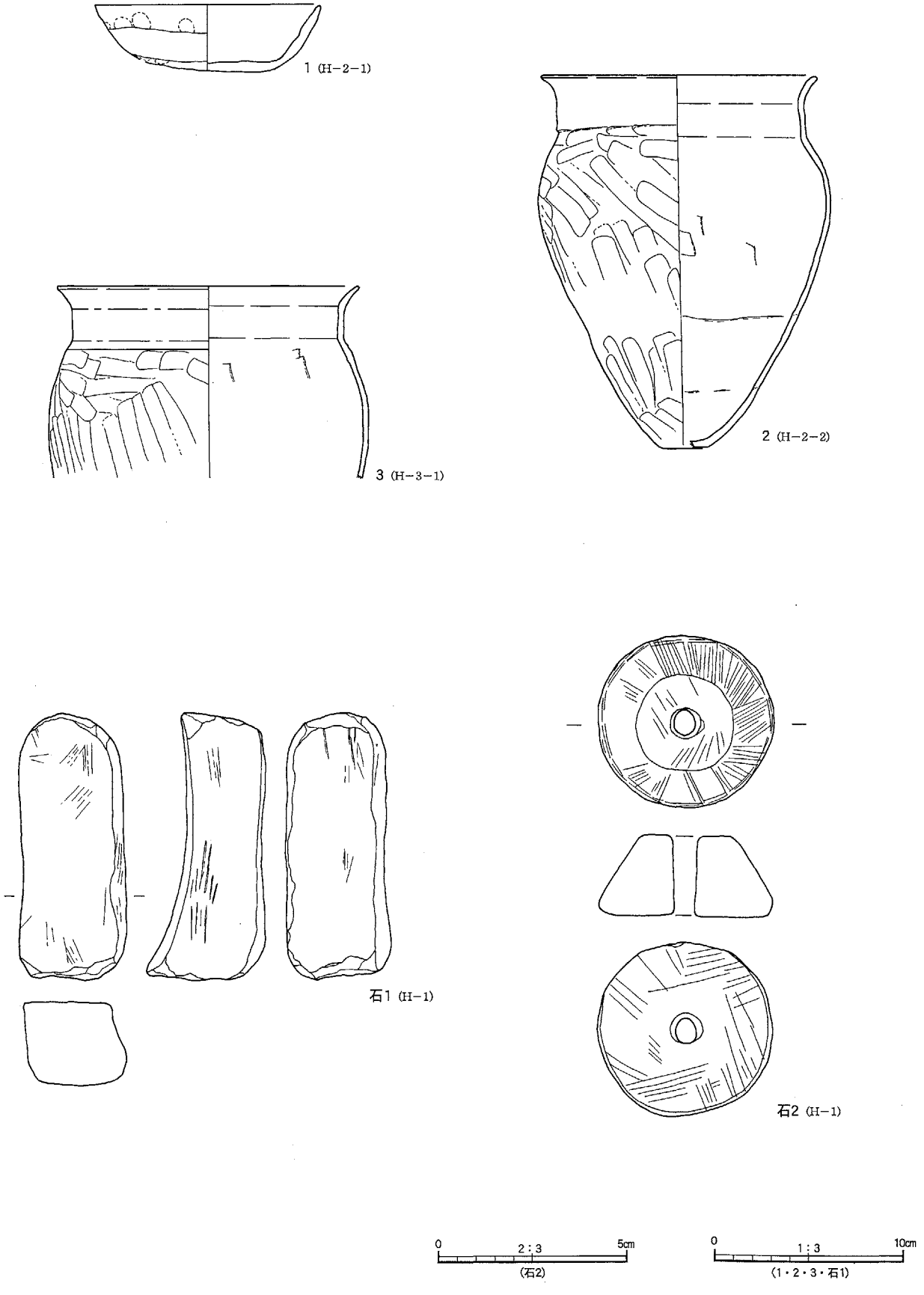


Fig.71　H－1～3号住居跡出土遺物

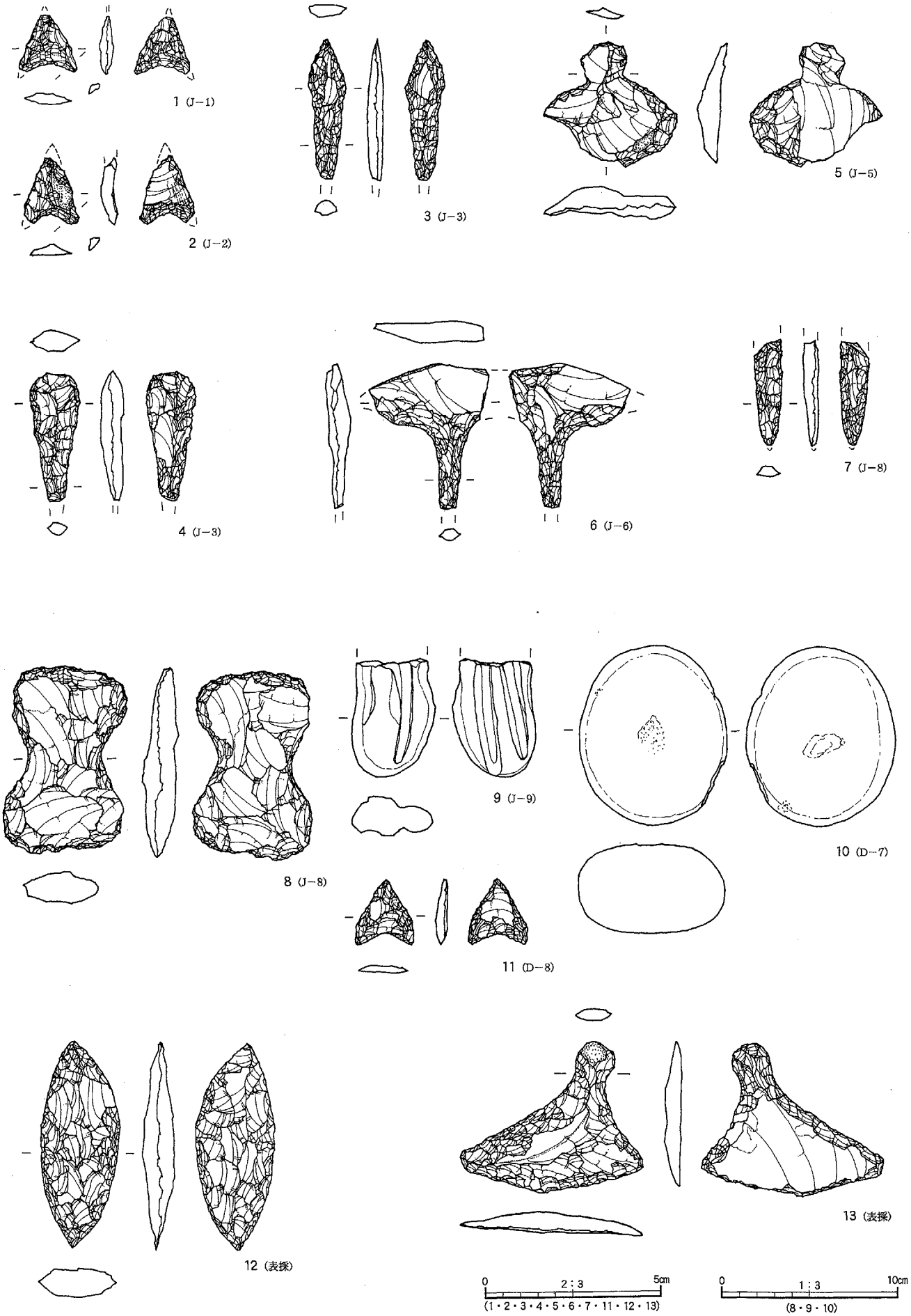


Fig.72　J－1～3・5・6・8・9号住居跡、D－7・8号土坑、表採出土遺物

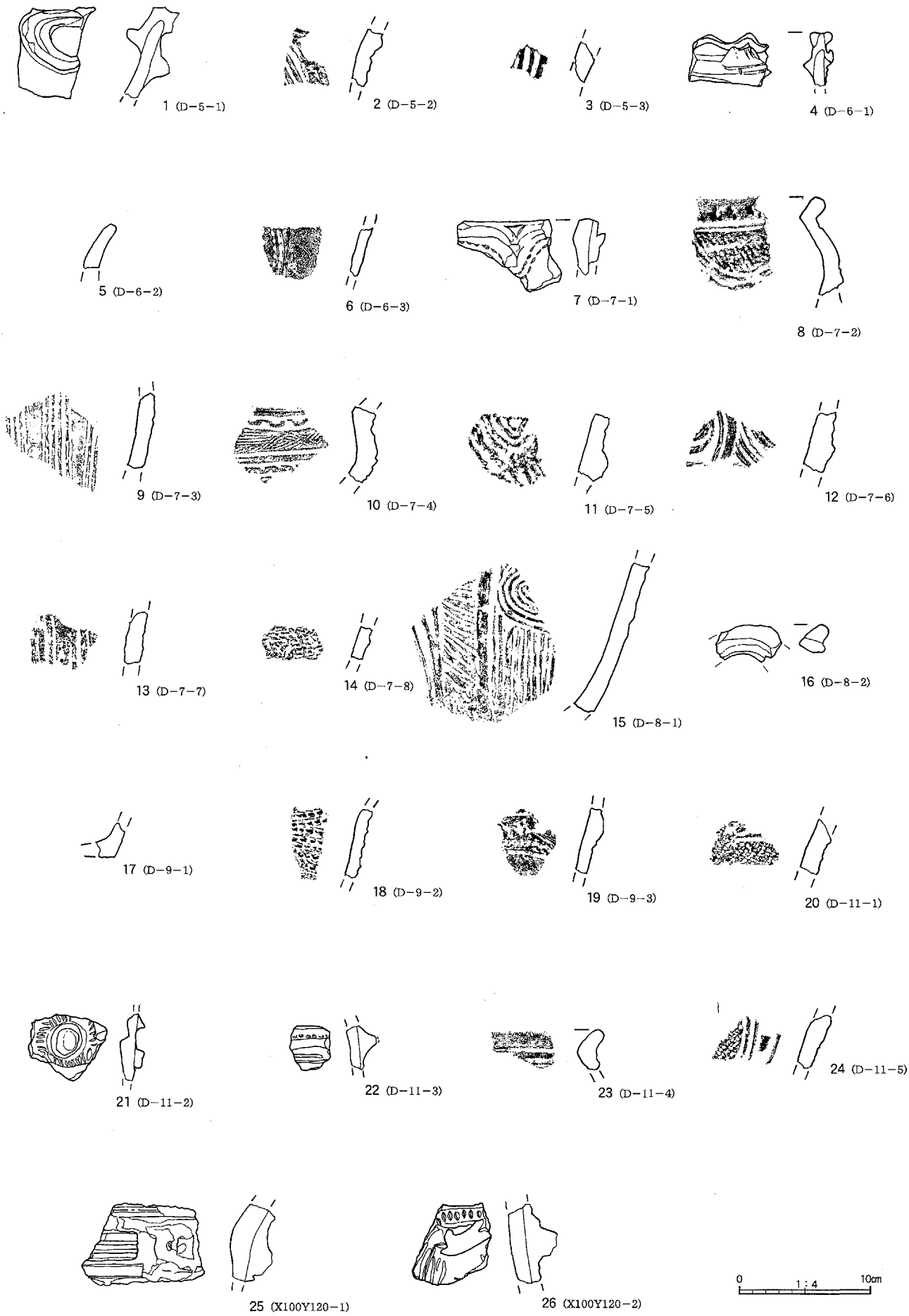


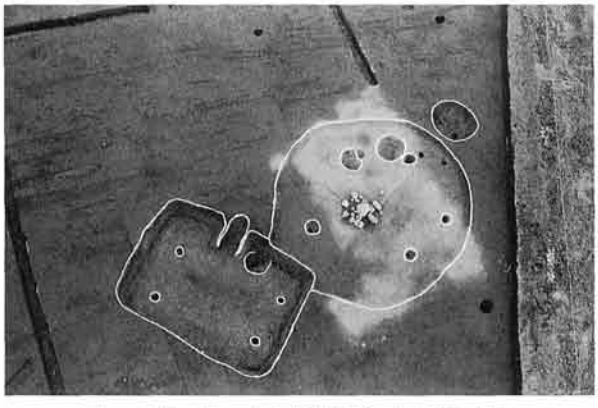
Fig.73　山街道Ⅱ遺跡D－5～9・11号土坑、グリッド出土遺物

五代山街道Ⅰ遺跡調査区　北半分　全景（左が北）

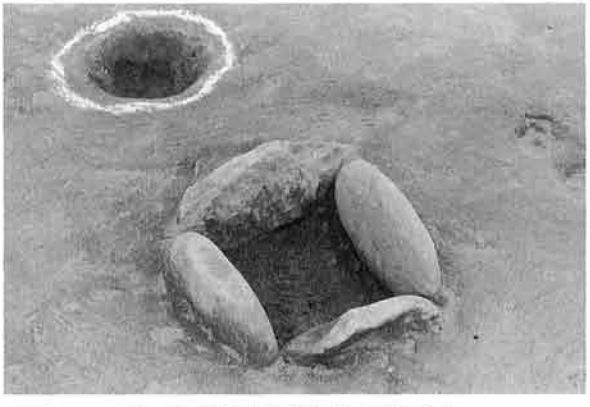
五代山街道Ⅰ遺跡調査区　南半分　全景（上が北）

J－1号住居跡全景（西から）

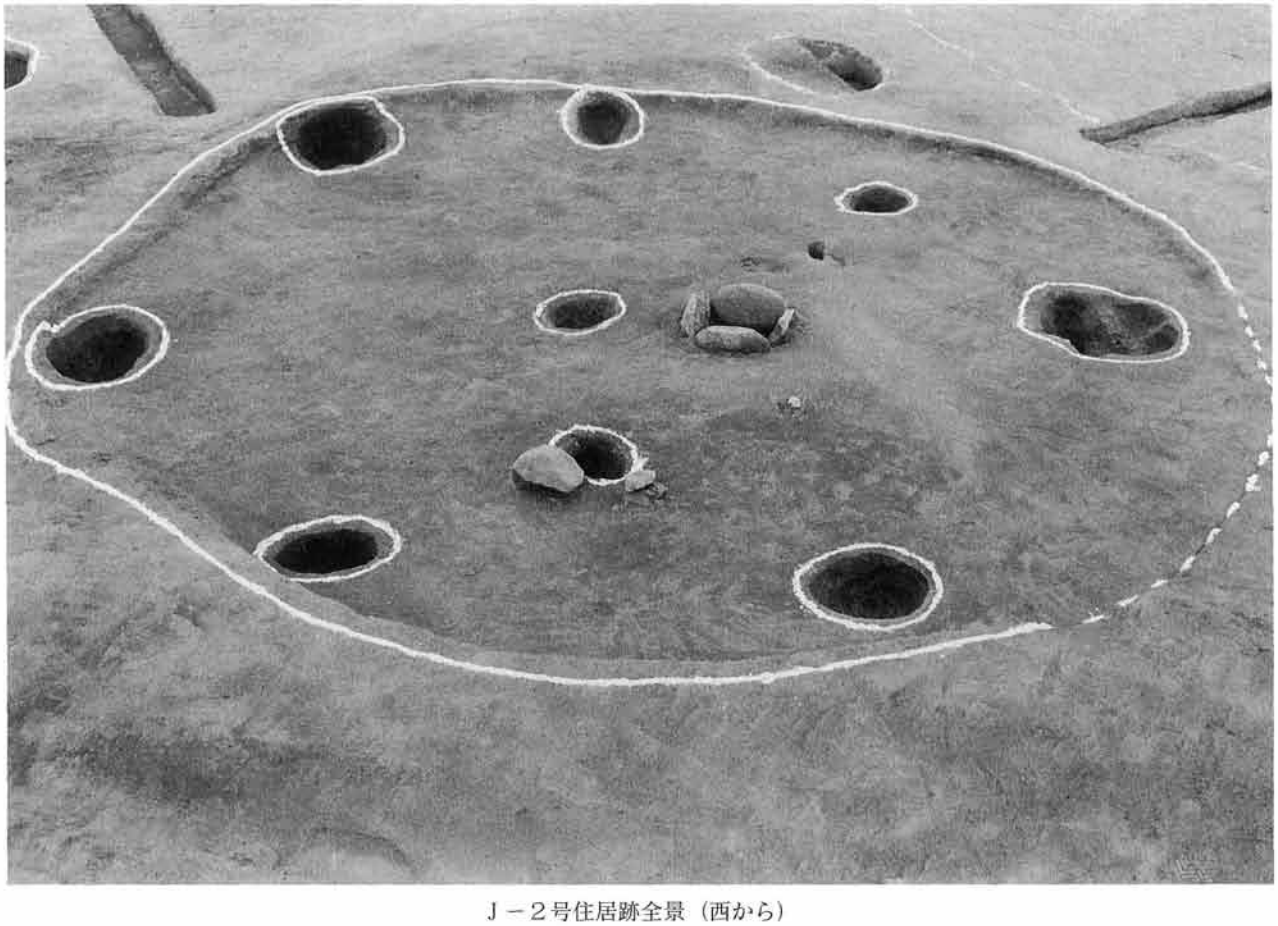
J－1号住居跡炉全景（西から）



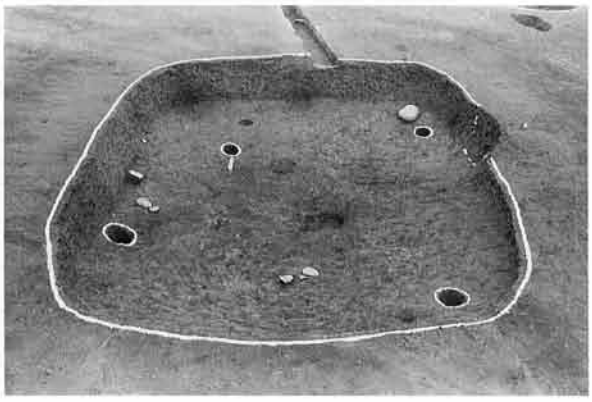
H－1号・J－1号住居跡全景（南から）



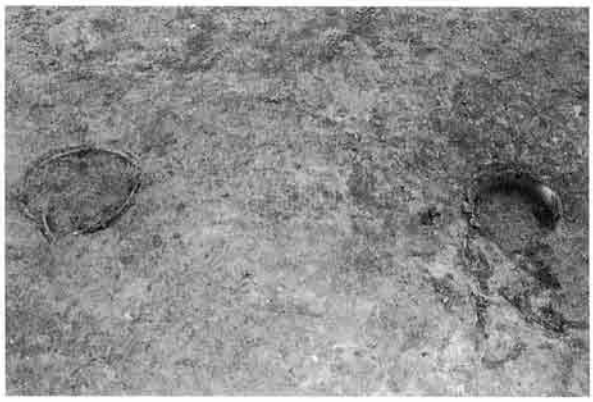
J－2号住居跡炉全景（西から）



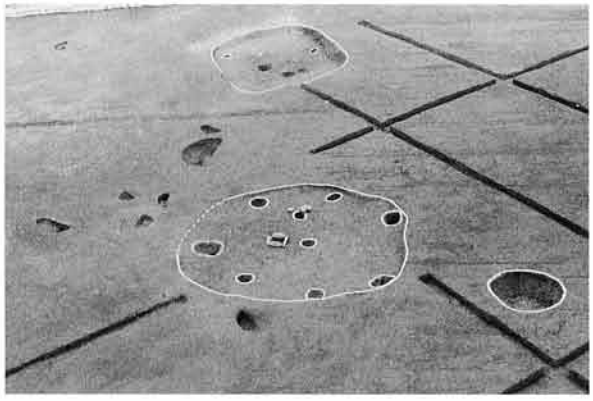
J－2号住居跡全景（西から）



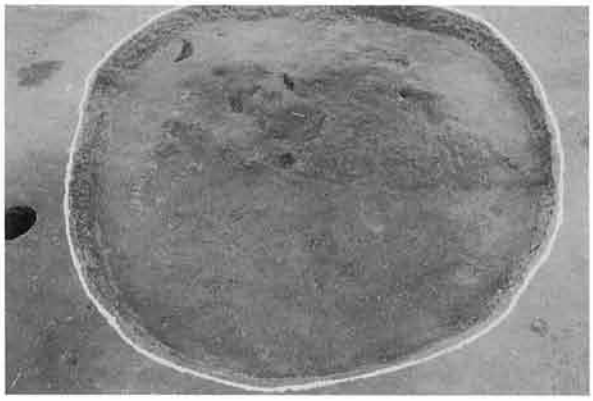
Ｊ－３号住居跡全景（東から）



Ｊ－３号住居跡埋設土器（北から）

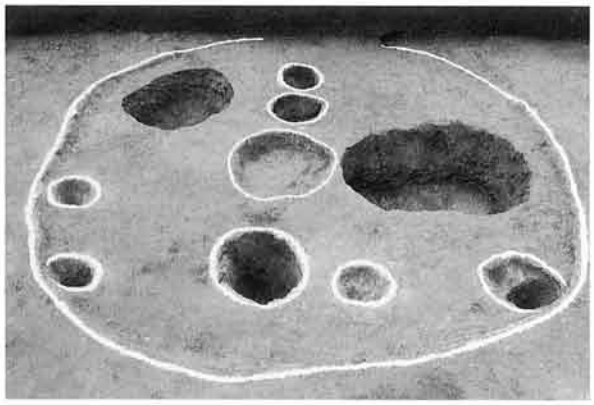


Ｊ－２･３号住居跡全景（東から）



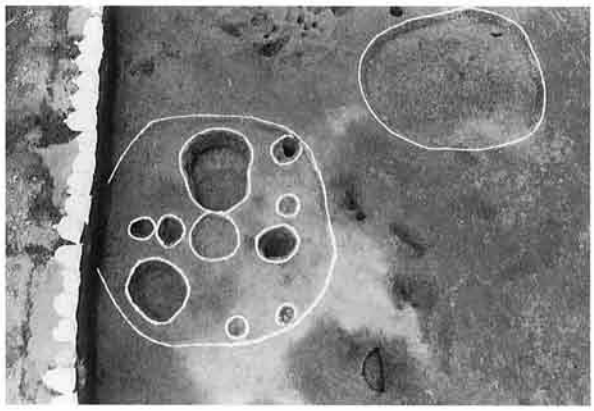
Ｊ－４号住居跡全景（南から）

Ｊ－４号住居跡遺物出土状態（西から）



Ｊ－５号住居跡全景（北から）

Ｊ－５号住居跡炉全景（北から）



Ｊ－４･５号住居跡全景　Ｄ－４･５号土坑全景（東から）

Ｊ－６号住居跡全景（南から）

Ｊ－６号住居跡炉全景（南西から）

Ｊ－６号住居跡埋設土器（南から）

Ｊ－６号住居跡埋設土器　セクション（南から）

Ｊ－７号住居跡全景（西から）

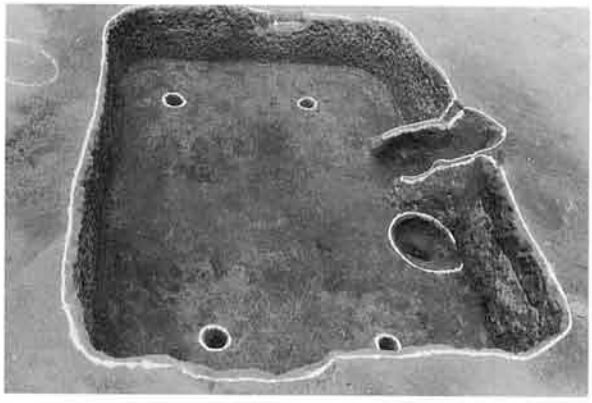
Ｊ－７号住居跡遺物出土状態（南から）

Ｊ－８号住居跡全景（南から）

Ｊ－８号住居跡埋設土器（南から）

J－9号住居跡全景（南から）

J－9号住居跡炉全景（南から）

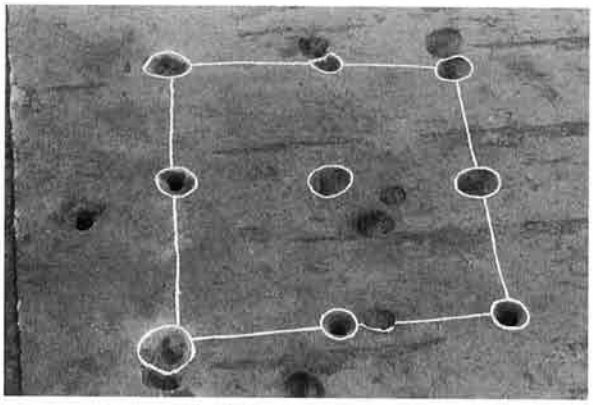


H－1号住居跡全景（東から）

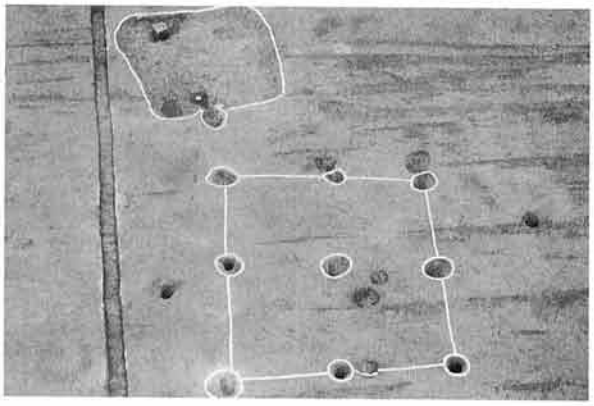
H－1号住居跡竈全景（東から）

H－2号住居跡全景（西から）

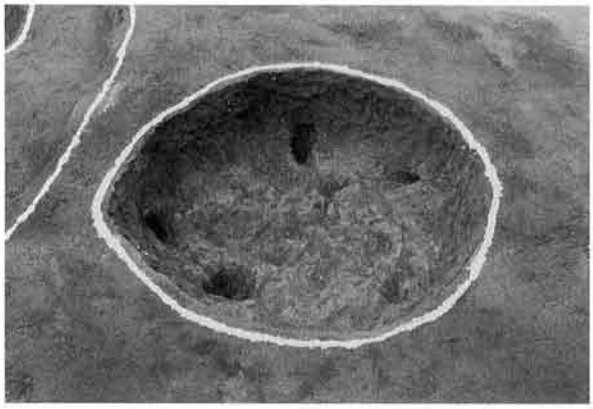
H－3号住居跡全景（北から）



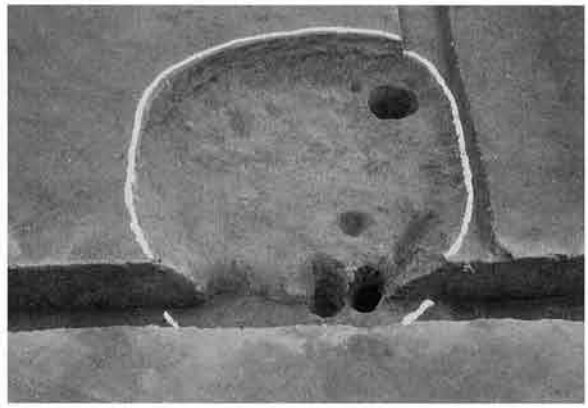
B－1号掘立柱建物跡全景（東から）



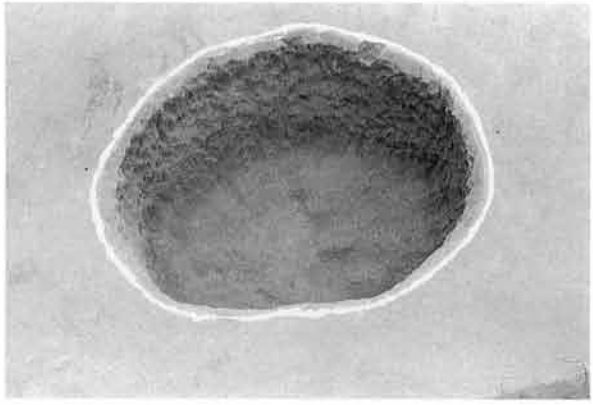
B－1号掘立柱建物跡・H－2号住居跡全景（東から）



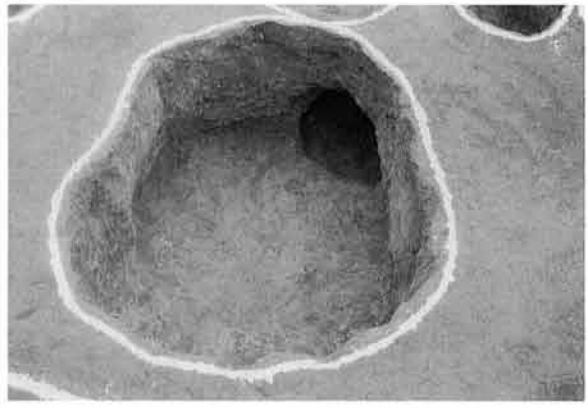
D－１号土坑全景（東から）



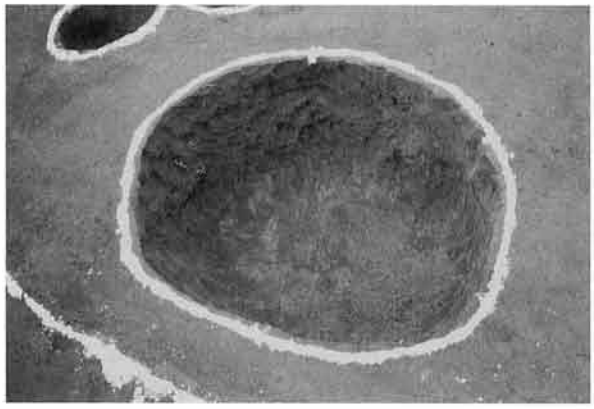
D－２号土坑全景（南から）



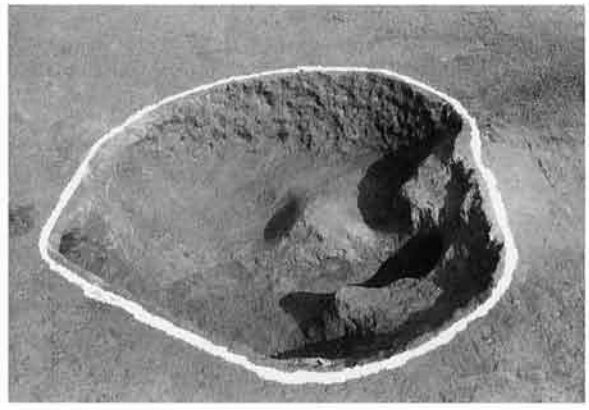
D－３号土坑全景（南から）



D－４号土坑全景（西から）

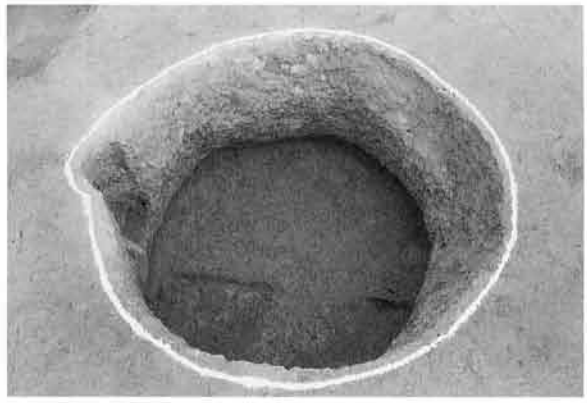


D－５号土坑全景（東から）



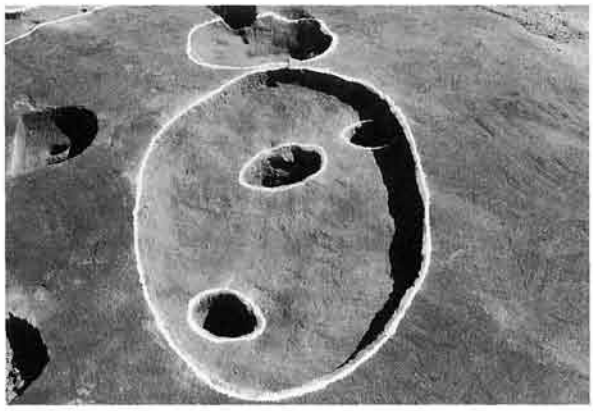
D－６号土坑全景（南から）

D－７号土坑全景（南から）



D－８号土坑全景（南から）

五代山街道Ⅱ遺跡調査区全景（北から）

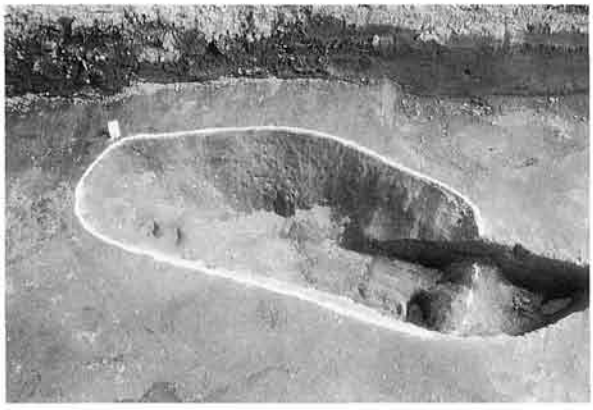


D－1号土坑全景（北から）

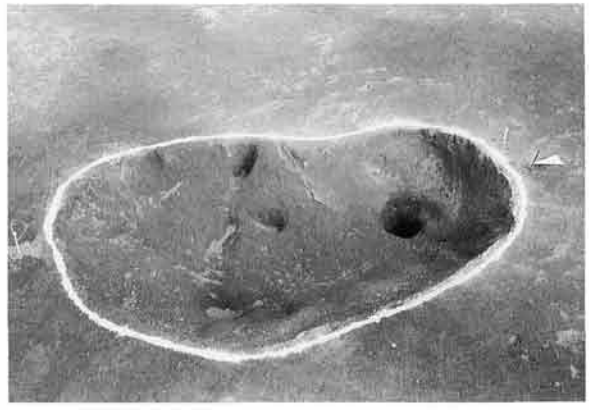
D－2号土坑全景（西から）

D－3号土坑全景（西から）

D－4号土坑全景（西から）



D－5号土坑全景（西から）



D－6号土坑全景（南から）

D－7号土坑全景（西から）

D－8号土坑全景（西から）

D－9号土坑全景（南から）

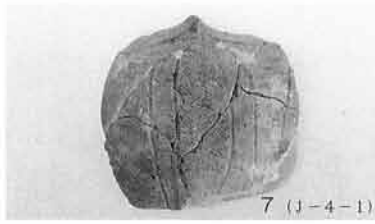
D－10号土坑全景（西から）

D－11号土坑全景（南から）

W－1号溝跡全景（南から）

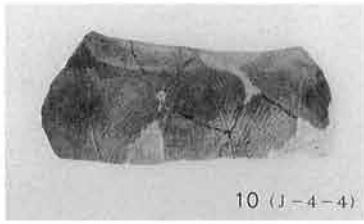
5 (J-3-1)

6 (J-3-2)


7 (J-4-1)

8 (J-4-2)

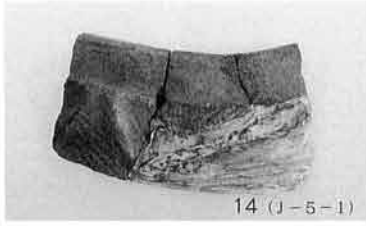
9 (J-4-3)

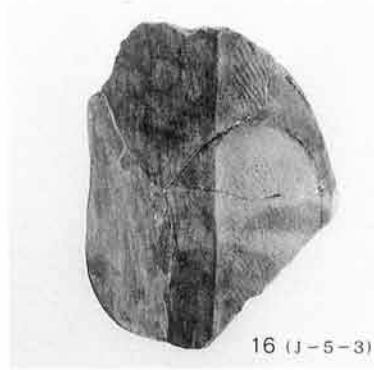

10 (J-4-4)

11 (J-4-5)

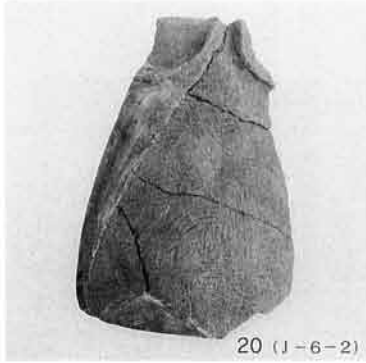
12 (J-4-6)

13 (J-4-7)

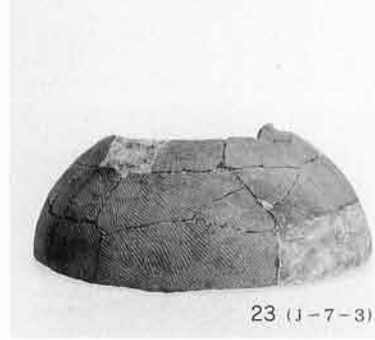

14 (J-5-1)


16 (J-5-3)

19 (J-6-1)


20 (J-6-2)

22 (J-7-2)

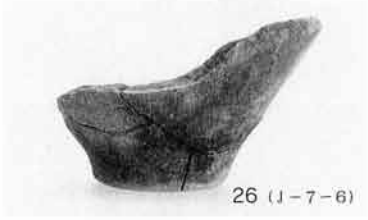

23 (J-7-3)

21 (J-7-1)

24 (J-7-4)

25 (J-7-5)

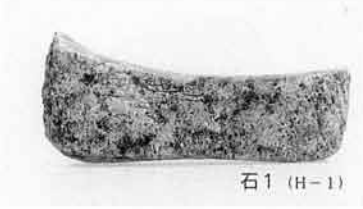
33 (D-4-1)


26 (J-7-6)

27 (J-8-1)

40 (D-7-1)

41 (D-7-2)


石1 (H-1)

43 (D-8-1)

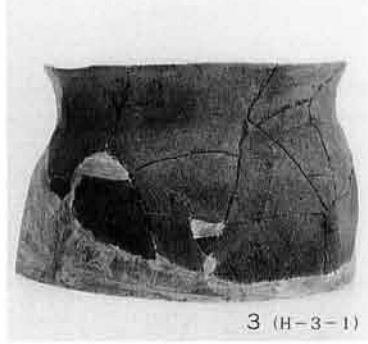
44 (D-8-2)

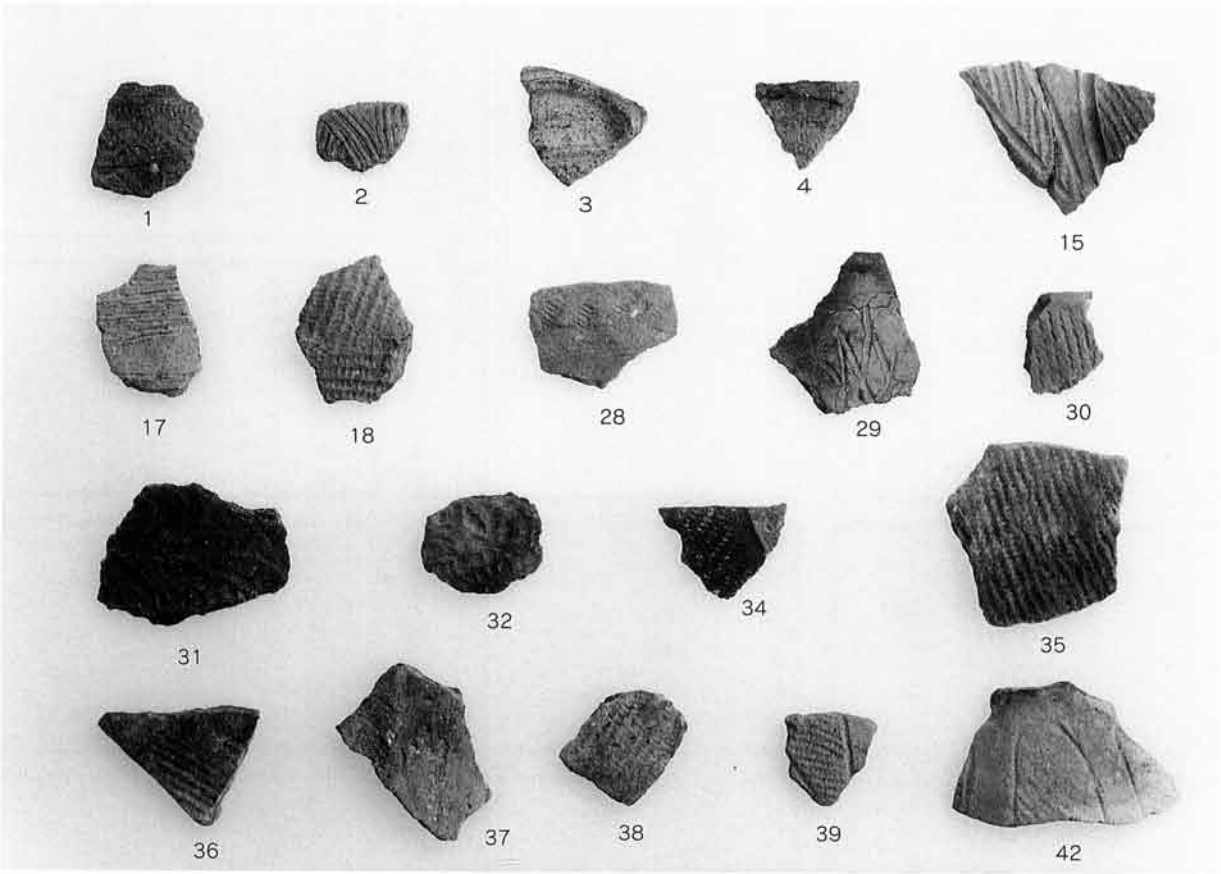
石2 (H-1)

2 (H-2-2)

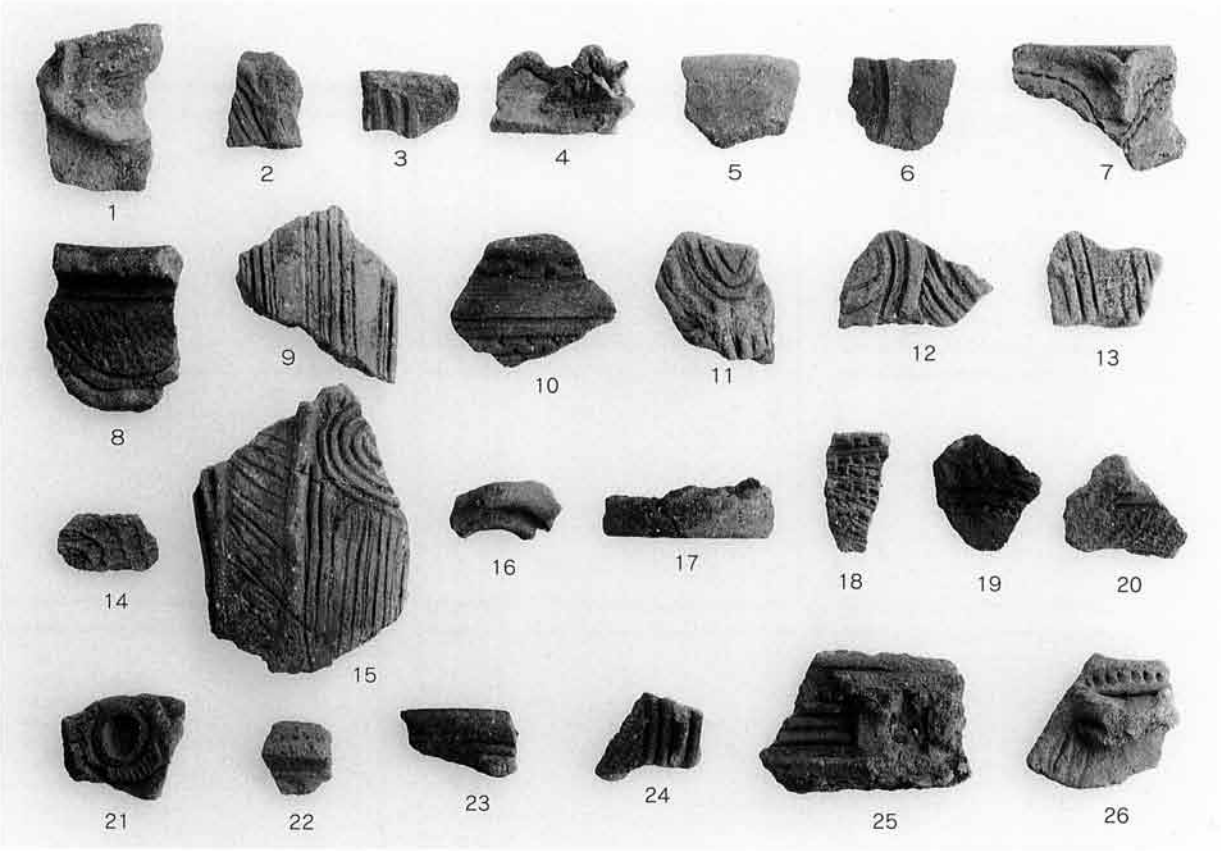
1 (H-2-1)

石2 (H-1)

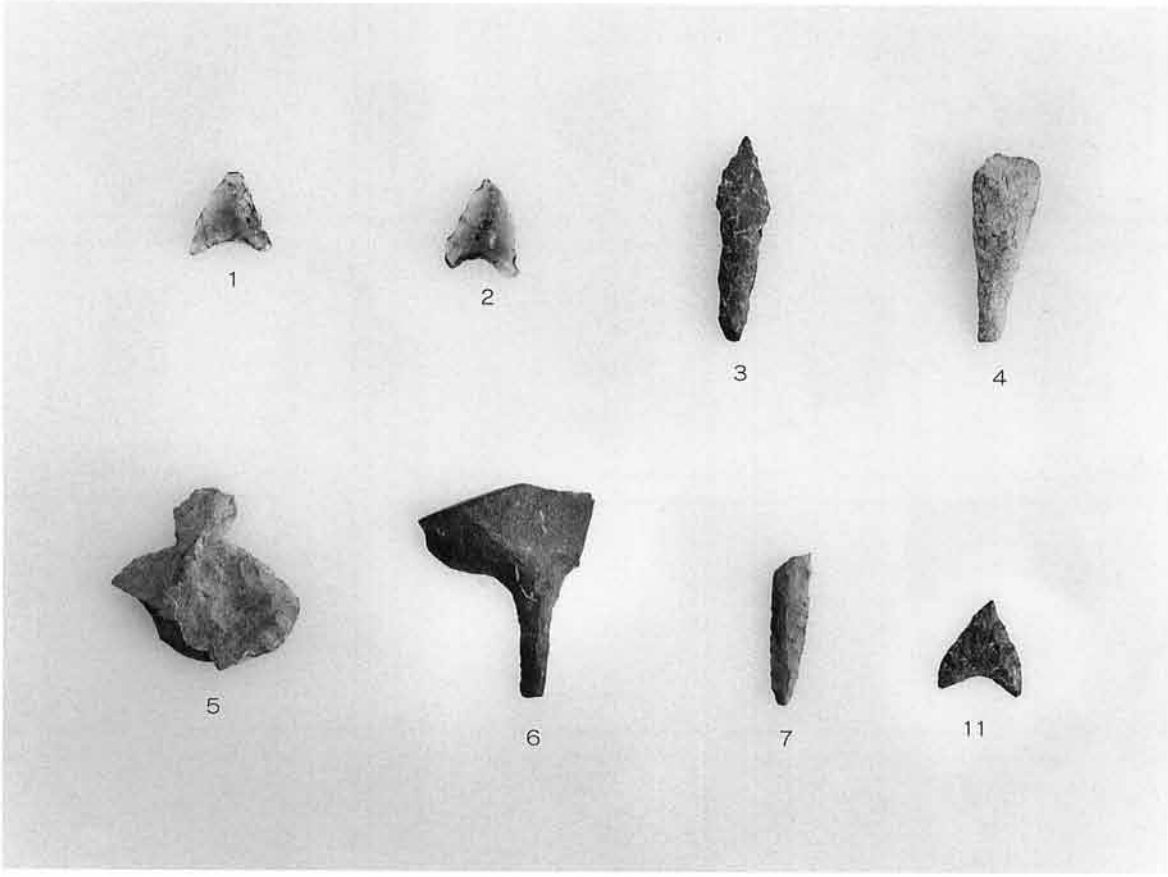

3 (H-3-1)



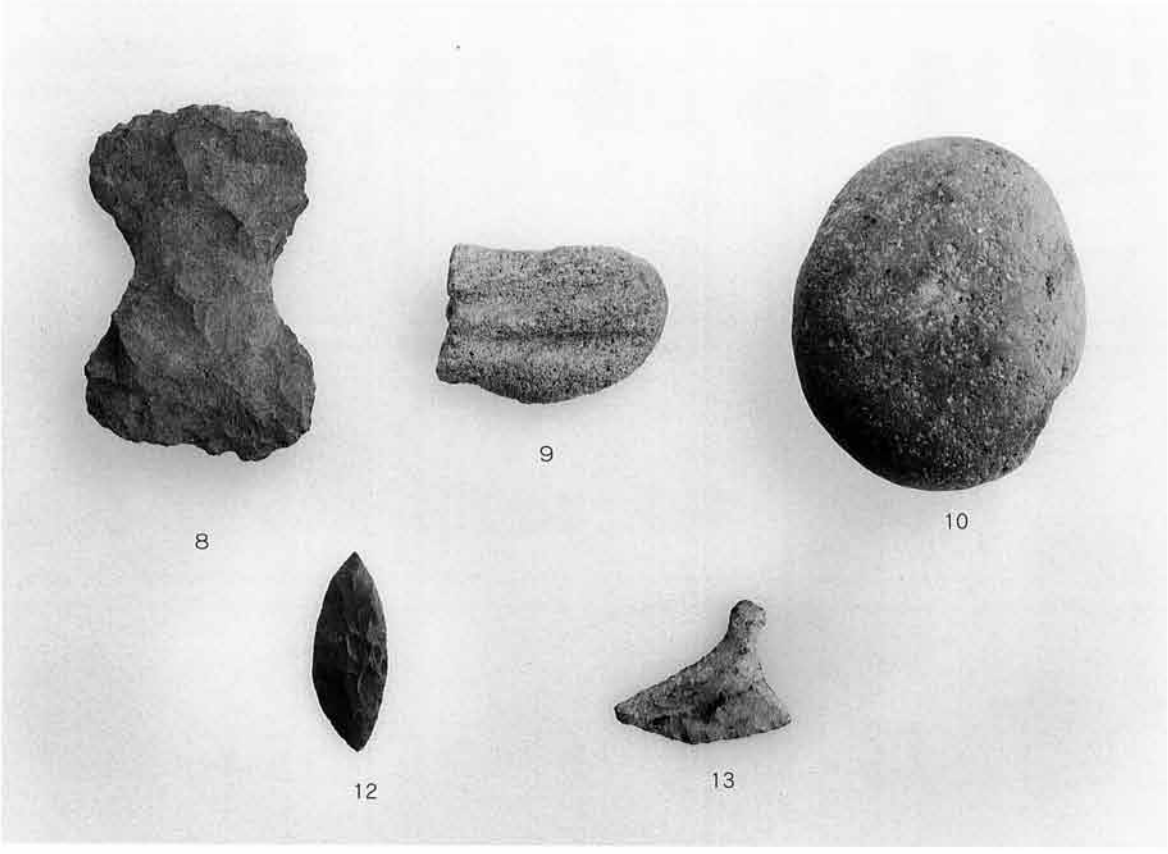
五代山街道Ⅰ遺跡　縄文土器



五代山街道Ⅱ遺跡　縄文土器



石鏃・石錐・石匙



打製石斧・砥石・敲石・尖頭器・石匙

抄　　録

フリガナ	ゴダイナカハラサンイセキ・ゴダイヤマカイドウイチイセキ・ゴダイヤマカイドウニイセキ
書名	五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡
副書名	五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	倉品　敦子・髙橋　亨・小林　和美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371―0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10―2
発行年月日	西暦2004年3月18日

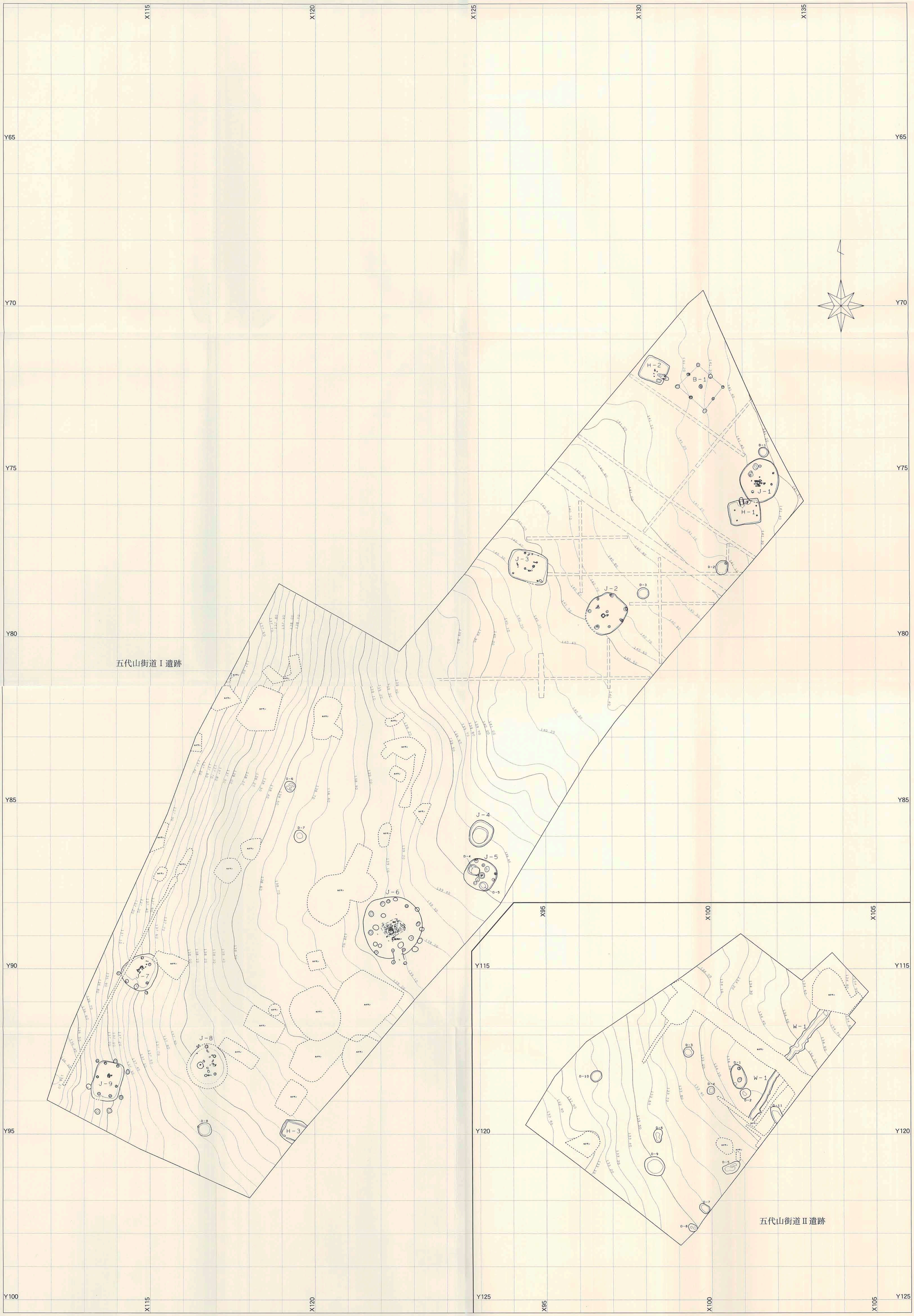
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ゴダイナカハラサンイセキ 五代中原Ⅲ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	15C30	36°24'44"	139°06'56"	20030519 20031201	2,462m²	五代南部工業団地造成事業
ゴダイヤマカイドウイチイセキ 五代山街道Ⅰ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	15C34	36°24'40"	139°07'01"		5,195.3m²	
ゴダイヤマカドウニイセキ 五代山街道Ⅱ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	15C35	36°24'37"	139°06'51"		1,000m²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代中原Ⅲ遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡45軒、土坑55基 柱穴57基	土師器、土製品、石製模造品等	なし
五代山街道Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡9軒、土坑8基	縄文土器、石器	なし
		古墳時代	竪穴住居跡1軒	土師器・砥石・紡錘車	
		平安時代	竪穴住居跡2軒、掘立柱建物1棟	土師器	
五代山街道Ⅱ遺跡		縄文時代	土坑11基	縄文土器、石器	なし
		不明	溝1条		

五代中原Ⅲ遺跡
五代山街道Ⅰ遺跡
五代山街道Ⅱ遺跡

平成16年3月10日　印刷
平成16年3月18日　発行
発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
印刷所　朝日印刷工業株式会社

付図１　五代中原Ⅲ遺跡　全体図（1：200）



付図２　五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡　全体図（1：200）